

たきさと
滝里遺跡群 VII

芦別市滝里 9 遺跡・滝里19遺跡

—石狩川水系滝里ダム建設事業用地内埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成 8 年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター

たきさと
滝里遺跡群 VII

芦別市滝里 9 遺跡・滝里19遺跡

——石狩川水系滝里ダム建設事業用地内埋蔵文化財発掘調査報告書——

平成 8 年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター



遺跡全景 (滝里9遺跡)

例 言

1. 本書は、北海道開発局石狩川開発建設部が行なう石狩川水系滝里ダム建設工事に伴い、財団法人北海道埋蔵文化財センターが平成8年度に実施した芦別市滝里9遺跡・滝里19遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 調査は第1調査部第2調査課が担当した。
3. 本書の作成にあたっては主に滝里9遺跡の遺構、遺物を遠藤香澄・愛場和人・酒井秀治が、滝里19遺跡を村田 大・影浦 寛が分担執筆し、全体の編集は遠藤香澄が行った。文責は文末に記載してある。
4. 黒曜石原産地同定及び黒曜石の水和層年代測定は京都大学の薬科哲男氏に依頼した。
5. 石材の鑑定は、資料調査課の花岡正光が行なった。
6. 現地の写真撮影は各遺跡担当の調査員、遺物の撮影は村田 大・愛場和人が行なった。
7. 土器 石器の実測・トレースは小林晴美・三浦千晴・米道靖子・高橋敦美・山陰真美・中川道恵・松木千奈枝・河崎まなみが行なった。
8. 遺跡全体の測量、地形図作成、遺物分布図作成は翰シン技術コンサルに委託した。
9. 出土資料は調査終了後芦別市教育委員会にて保管する。
10. 調査にあたっては下記の機関および人々のご協力、ご助言をいただいた。
芦別市教育委員会、芦別市星の降る里百年記念館 堀田和雄・長谷山隆博、深川市教育委員会 葛西智義、富良野市郷土館 杉浦重信、旭川市教育委員会 斎藤 傑・瀬川拓郎・友田哲弘・岩橋義之、帯広百年記念館 北沢 実・山原敏朗、釧路市埋蔵文化財調査センター 西 幸隆・松田 猛・石川 朗、幕別町教育委員会 大矢義明、名寄市教育委員会 鈴木邦輝・吉田清人、常呂町教育委員会 武田 修、平取町教育委員会 森岡健治、北海道開拓記念館 野村 崇、七飯町教育委員会 横山英介、静修女子大学 吉崎昌一、芦別滝里会、芦別市 安井幸雄・中村栄治・小西忠夫・合田正義、青木・岩田・中山特定建設工事共同企業体

凡 例

1. 本文中及び図、表中では、次の記号を使って確認順に番号を付した。

P：土壌 F：焼土 S：集石

2. 掲載した実測図等の縮尺は、原則として以下のとおりである。

遺 構 1：40 遺物出土状況 1：20

復元土器および器形を復元した土器拓本 1：3

土器拓本 1：2 土・石製品 1：2

剥片石器 1：2 石斧とその関連の石器 1：2

台石・石皿以外の礫石器 1：3 台石・石皿 1：4

3. 遺構の規模については次の要領で示した。なお一部破壊されているものは現存の長さを、()で示した。

確認面での長軸の長さ×短軸の長さ／底面での長軸の長さ×短軸の長さ／最大の深さ（単位m）

4. 遺構図中の方位は真北を、細数字は標高（単位m）を示している。

目 次

口絵カラー

例 言

凡 例

目 次

挿図目次

表目次

写真図版目次

I 調査の概要

1 調査要項	1
2 調査体制	1
3 調査にいたる経緯	1
4 調査の概要	2

II 遺跡の位置と環境

1 位置と環境	5
2 滝里町…開拓入植のころ	5
3 周辺の遺跡	9

III 調査の方法

1 発掘区の設定	21
2 発掘調査の方法	22
3 整理の方法	23
1) 土器	23
2) 石器	23
4 遺物の分類	24
1) 土器	24
2) 石器等	24

IV 滝里9遺跡の調査

1 調査の概要	29
2 基本土層	34
3 遺構と遺構出土の遺物	34
1) 土壇	34
2) 集石	38
4 包含層出土の遺物	44
1) 土器	44
2) 石器等	84

一覧表

写真図版

V	滝里19遺跡の調査	
1	調査の概要	165
2	基本土層	169
3	遺構と遺構出土の遺物	172
1)	土壌	172
2)	焼土	172
4	包含層出土の遺物	174
1)	土器	174
2)	石器等	183
	一覧表	195
	写真図版	199
VI	自然科学的分析	
1	滝里9遺跡出土の黒曜石の原材産地分析および黒曜石製遺物の非破壊分析による水和層の測定 (藁科哲男)	213
2	滝里19遺跡出土の黒曜石製遺物の原材産地分析 (藁科哲男)	222
VII	まとめ	231
	引用・参考文献	233
	報告書抄録	235

挿 図 目 次

II 位置と環境

図II-1	滝里遺跡群の位置図	6
図II-2	明治43年の滝里周辺	8
図II-3	滝里周辺の遺跡配置図 (1)	9
図II-4	滝里周辺の遺跡配置図 (2)	10
図II-5	滝里周辺の遺跡分布図 (1)	11
図II-6	滝里周辺の遺跡分布図 (2)	12
図II-7	滝里周辺の遺跡分布図 (3)	13
図II-8	滝里周辺の遺跡分布図 (4)	14

III 調査の方法

図III-1	発掘区設定図	21
--------	--------	----

IV 滝里9遺跡の調査

図IV-1	遺跡の位置図	30
図IV-2	発掘区設定図	31
図IV-3	最終面の地形と遺構位置図	32
図IV-4	調査の方法	33
図IV-5	土層断面図 (1)	35
図IV-6	土層断面図 (2)	36
図IV-7	P-1・2・4・5と出土遺物	39
図IV-8	P-3と出土遺物	40
図IV-9	P-6と出土遺物 (1)	41
図IV-10	P-6と出土遺物 (2)、P-7と出土遺物	42
図IV-11	S-1と出土遺物	43
図IV-12	包含層出土の遺物分布	45
図IV-13	土器の分布 (1)	46
図IV-14	土器の分布 (2) II群b類・III群	47
図IV-15	土器の分布 (3) IV群・V群	48
図IV-16	土器の分布 (4) IV群b類・IV群c類	49
図IV-17	包含層出土のII群b類土器 (1)	54
図IV-18	包含層出土のII群b類土器 (2)	55
図IV-19	包含層出土のII群b類土器 (3)	56
図IV-20	II群b類土器の分布	56

図IV-21	包含層出土のIII群土器 (1)	57
図IV-22	包含層出土のIII群土器 (2)	58
図IV-23	包含層出土のIII群土器 (3)・IV群a類土器(2)	59
図IV-24	IV群a類土器の分布	59
図IV-25	包含層出土のIV群a類土器 (2)	60
図IV-26	包含層出土のIV群a類土器 (3)	61
図IV-27	包含層出土のIV群b類土器 (1)	62
図IV-28	包含層出土のIV群b類土器 (2)	63
図IV-29	包含層出土のIV群b類土器 (3)	64
図IV-30	包含層出土のIV群b類土器 (4)	65
図IV-31	包含層出土のIV群b類土器 (5)	66
図IV-32	包含層出土のIV群b類土器 (6)	67
図IV-33	包含層出土のIV群c類土器 (1)	68
図IV-34	包含層出土のIV群c類土器 (2)	69
図IV-35	包含層出土のV群土器 (1)	74
図IV-36	包含層出土のV群土器 (2)	75
図IV-37	包含層出土のV群・IV群土器 (3)	76
図IV-38	包含層出土のV群土器 (4)	77
図IV-39	包含層出土のV群土器 (5)	78
図IV-40	包含層出土のV群土器 (6)	79
図IV-41	包含層出土のV群土器 (7)	80
図IV-42	包含層出土のV群土器 (8)	81
図IV-43	包含層出土のV群土器 (9)	82
図IV-44	包含層出土のV群・IV群土器 (10)	83
図IV-45	石器の分布 (1)	85
図IV-46	石器の分布 (2)	86
図IV-47	石器の分布 (3)	87
図IV-48	石器の分布 (4)	88
図IV-49	石器の分布 (5)	89
図IV-50	包含層出土の石器 (1)	93
図IV-51	包含層出土の石器 (2)	94
図IV-52	包含層出土の石器 (3)	95
図IV-53	包含層出土の石器 (4)	96
図IV-54	包含層出土の石器 (5)	97

図Ⅳ-55	包含層出土の石器 (6)	98
図Ⅳ-56	包含層出土の石器等 (7)	99
図Ⅳ-57	包含層出土の石器 (8)	100
図Ⅳ-58	包含層出土の石器 (9)	101
図Ⅳ-59	包含層出土の石器 (10)	102
図Ⅳ-60	包含層出土の石器 (11)	103
図Ⅳ-61	包含層出土の石器 (12)	104

V 滝里19遺跡の調査

図Ⅴ-1	遺跡の位置図	166
図Ⅴ-2	発掘区設定図	167
図Ⅴ-3	最終面の地形と遺構位置図	168
図Ⅴ-4	土層断面図 (1)	170
図Ⅴ-5	土層断面図 (2)	171
図Ⅴ-6	P-1・2、F-1と出土遺物	173
図Ⅴ-7	包含層出土の遺物分布	174
図Ⅴ-8	石器の分布 (1)	175
図Ⅴ-9	石器の分布 (2)	176

図Ⅴ-10	I群・II群・III群土器の分布	178
図Ⅴ-11	V群土器の分布	179
図Ⅴ-12	包含層出土のI群・II群・III群・VI群土器	180
図Ⅴ-13	包含層出土のV群土器 (1)	181
図Ⅴ-14	包含層出土のV群土器 (2)	182
図Ⅴ-15	石器の分布 (1)	184
図Ⅴ-16	石器の分布 (2)	185
図Ⅴ-17	石器の分布 (3)	186
図Ⅴ-18	包含層出土の石器 (1)	188
図Ⅴ-19	包含層出土の石器 (2)	189
図Ⅴ-20	包含層出土の石器等 (3)	190
図Ⅴ-21	包含層出土の石器 (4)	192
図Ⅴ-22	包含層出土の石器 (5)	193
図Ⅴ-23	包含層出土の石器等 (6)	194

VI 自然科学的分析

図Ⅵ-1	黒曜石原産地	226
------	--------	-----

表 目 次

I 調査の概要

表 I-1	遺跡名・所在地・調査面積一覧	1
表 I-2	滝里ダム建設工事にかかる埋蔵文化財包蔵地と年次別調査面積一覧	2
表 I-3	滝里9遺跡出土の遺物	4
表 I-4	滝里19遺跡出土の遺物	4

II 位置と環境

表 II-1	芦別市内の遺跡 (1)	15
表 II-2	芦別市内の遺跡 (2)	16
表 II-3	富良野市内の遺跡 (1)	17
表 II-4	富良野市内の遺跡 (2)	18
表 II-5	富良野市内の遺跡 (3)	19
表 II-6	上富良野町内の遺跡	19
表 II-7	中富良野町内の遺跡	20
表 II-8	南富良野町内の遺跡	20

IV 滝里9遺跡の調査

表 IV-1	出土遺物一覧	29
表 IV-2	遺構規模一覧	105
表 IV-3	遺構出土遺物一覧	105
表 IV-4	遺構出土掲載土器一覧	105
表 IV-5	遺構出土掲載石器一覧	105
表 IV-6	包含層出土の石器等一覧	106
表 IV-7	包含層出土の掲載土器一覧 II群	106
表 IV-8	包含層出土の掲載土器一覧 III群	107
表 IV-9	包含層出土の掲載土器一覧 IV群	107
表 IV-10	包含層出土の掲載土器一覧 V群	109
表 IV-11	包含層出土の掲載石器等一覧	111

V 滝里19遺跡の調査

表 V-1	出土遺物一覧	165
表 V-2	遺構規模一覧	195
表 V-3	遺構出土遺物一覧	195
表 V-4	包含層出土土器一覧	195
表 V-5	包含層出土石器等一覧	195
表 V-6	包含層出土掲載土器一覧	196
表 V-7	包含層出土掲載石器等一覧	197

VI 自然科学的分析

表 VI-1	滝里9遺跡・出土黒曜石製遺物の元素比分析結果	217
表 VI-2	滝里9遺跡・出土の黒曜石製遺物の原産地推定結果(1)	218

表VI-3	滝里9遺跡・出土の黒曜石製遺物の原材産地推定結果(2)	219
表VI-4	滝里9遺跡・出土の黒曜石製遺物の原材産地推定結果	220
表VI-5	滝里9遺跡・出土層位別黒曜石製遺物の原産地別頻度分布	220
表VI-6	滝里19遺跡・出土黒曜石製遺物の元素比分析結果	224
表VI-7	滝里19遺跡・出土の黒曜石製遺物の原材産地推定結果	225
表VI-8	滝里19遺跡・出土の黒曜石製遺物の原産地別頻度分布	224
表VI-9	各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値(1)	227
表VI-10	各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値(2)	228
表VI-11	各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値(3)	229

図 版 目 次

【遺跡の位置と環境】

図版II-1 滝里町「望郷之碑」

(右上：碑文、右下：移転された神社) …………… 7

【滝里9遺跡の調査】

図版IV-1 遺跡遠景 ……………115

- 1 遺跡遠景 (航空写真)
- 2 遺跡遠景 (空知川対岸から望む)

図版IV-2 調査状況 ……………116

- 1 調査状況 (S→N)
- 2 調査状況 (SE→NW)

図版IV-3 土層堆積状況 ……………117

- 1 土層堆積状況 (SW→NE)
- 2 土層堆積状況 (SE→NW)

図版IV-4 P-1・2の調査 ……………118

- 1 P-1のセクション (S→N)
- 2 P-1 (N→S)
- 3 P-1の遺物
- 4 P-2のセクション (S→N)
- 5 P-2 (N→S)
- 6 P-2の遺物

図版IV-5 P-3・4の調査 ……………119

- 1 P-3のセクション (S→N)
- 2 P-3 (S→N)
- 3 P-3の遺物 (土器)
- 4 P-3の遺物 (石器)

5 P-4のセクション (S→N)

6 P-4 (S→N)

図版IV-6 P-6の調査 ……………120

- 1 P-6の遺物出土状況 (E→W)
- 2 P-6のセクション (S→N)
- 3 P-3の遺物

図版IV-7 P-5・7の調査 ……………121

- 1 P-5のセクション (S→N)
- 2 P-5の遺物出土状況 (S→N)
- 3 P-7のセクション (S→N)
- 4 P-7 (S→N)
- 5 P-7の遺物 (土器)
- 6 P-7の遺物 (石器)

図版IV-8 S-1の調査 ……………122

- 1 S-1の遺物出土状況 (E→W)
- 2 S-1の遺物

図版IV-9 遺物出土状況 ……………123

- 1 包含層の遺物出土状況 (S→N)
- 2 玉出土状況 (N→S)
- 3 土器出土状況 (E→W)
- 4 復元土器 (図IV-27-34)

図版IV-10 完掘状況 ……………124

- 1 完掘状況 (S→N)
- 2 完掘状況 (W→E)

図版IV-11 包含層の復元土器 ……………125

- 1 包含層の復元土器 (図IV-27-35)

2 包含層の復元土器 (図Ⅳ-33-2)	1 包含層の土器
3 包含層の復元土器 (図Ⅳ-35-1)	図版Ⅳ-29 包含層のⅤ群土器 ……………143
4 包含層の復元土器 (図Ⅳ-35-2)	1 包含層の土器
5 包含層の復元土器 (図Ⅳ-35-3)	図版Ⅳ-30 包含層のⅤ・Ⅵ群土器 ……………144
6 包含層の復元土器 (図Ⅳ-35-4)	1 包含層の土器
7 6の同一個体破片 (図Ⅳ-35-5・6)	図版Ⅳ-31 包含層のⅤ群土器 ……………145
図版Ⅳ-12 包含層の復元土器 ……………126	1 包含層の土器
1 包含層のⅣ群復元土器	図版Ⅳ-32 包含層のⅤ群土器 ……………146
2 包含層のⅤ群復元土器	1 包含層の土器
図版Ⅳ-13 包含層のⅡ群土器 ……………127	図版Ⅳ-33 包含層のⅤ・Ⅵ群土器 ……………147
1 包含層の土器	1 包含層の土器
図版Ⅳ-14 包含層のⅡ群土器 ……………128	図版Ⅳ-34 包含層のⅤ群土器 ……………148
1 包含層の土器	1 包含層の土器
図版Ⅳ-15 包含層のⅡ・Ⅲ群土器 ……………129	図版Ⅳ-35 包含層のⅤ群土器 ……………149
1 包含層の土器	1 包含層の土器
図版Ⅳ-16 包含層のⅢ群土器 ……………130	図版Ⅳ-36 包含層のⅤ群土器 ……………150
1 包含層の土器	1 包含層の土器
図版Ⅳ-17 包含層のⅢ群土器 ……………131	図版Ⅳ-37 包含層のⅤ・Ⅵ群土器 ……………151
1 包含層の土器	1 包含層の土器
図版Ⅳ-18 包含層のⅣ群土器 ……………132	図版Ⅳ-38 Ⅱ群b類土器の文様 ……………152
1 包含層の土器	1 滑石混入土器
図版Ⅳ-19 包含層のⅣ群土器 ……………133	2 刺突文
1 包含層の土器	3 刺突文
図版Ⅳ-20 包含層のⅣ群土器 ……………134	4 刺突文
1 包含層の土器	5 刺突文
図版Ⅳ-21 包含層のⅣ群土器 ……………135	6 短刻線文
1 包含層の土器	7 短刻線文
図版Ⅳ-22 包含層のⅣ群土器 ……………136	8 押型文 (矢羽根状)
1 包含層の土器	9 押型文 (矢羽根状)
図版Ⅳ-23 包含層のⅣ群土器 ……………137	10 押型文 (斜格子目+押しき文)
1 包含層の土器	11 押しき文
図版Ⅳ-24 包含層のⅣ群土器 ……………138	12 押しき文
1 包含層の土器	図版Ⅳ-39 包含層の石器 (1) ……………153
図版Ⅳ-25 包含層のⅣ群土器 ……………139	1 包含層の石器 (石鏃)
1 包含層の土器	図版Ⅳ-40 包含層の石器 (2) ……………154
図版Ⅳ-26 包含層のⅣ群土器 ……………140	1 包含層の石器 (石槍・石鏃)
1 包含層の土器	図版Ⅳ-41 包含層の石器 (3) ……………155
図版Ⅳ-27 包含層のⅣ群土器 ……………141	1 包含層の石器 (つまみ付きナイフ)
1 包含層の土器	図版Ⅳ-42 包含層の石器 (4) ……………156
図版Ⅳ-28 包含層のⅣ群土器 ……………142	1 包含層の石器 (ナイフ・ナイフ類)

図版Ⅳ-43 包含層の石器 (5) ……………157	1 P-1 遺物出土状況 (南から)
1 包含層の石器 (スクレイパー 1)	2 P-1 出土の遺物
図版Ⅳ-44 包含層の石器 (6) ……………158	3 P-2 遺物出土状況 (南から)
1 包含層の石器 (スクレイパー 2)	4 P-2 出土の遺物
図版Ⅳ-45 包含層の石器 (7) ……………159	5 F-1 検出 (南から)
1 包含層の石器等 (スクレイパー 3・石核・異形石器・玉)	6 F-1 セクション (南から)
図版Ⅳ-46 包含層の石器 (8) ……………160	図版Ⅴ-5 包含層のⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ群土器 ……………203
1 包含層の石器 (石斧)	1 包含層のⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ群土器
図版Ⅳ-47 包含層の石器 (9) ……………161	図版Ⅴ-6 包含層のⅤ群土器 (1) ……………204
1 包含層の石器 (たたき石・すり石)	1 包含層のⅤ群土器 (深鉢、口縁部破片)
図版Ⅳ-48 包含層の石器 (10) ……………162	図版Ⅴ-7 包含層のⅤ群土器 (2) ……………205
1 包含層の石器 (砥石)	1 包含層のⅤ群土器 (浅鉢、胴部・底部破片)
図版Ⅳ-49 包含層の石器 (11) ……………163	図版Ⅴ-8 包含層の石器 (1) ……………206
1 包含層の石器 (石皿・台石)	1 包含層の石器 (石鏃、石槍、石錐)
[滝里19遺跡の調査]	図版Ⅴ-9 包含層の石器 (2) ……………207
図版Ⅴ-1 遺跡遠景、調査状況 ……………199	1 包含層の石器 (つまみ付きナイフ、スクレイパー)
1 遺跡遠景 (北東から)	図版Ⅴ-10 包含層の石器 (3)と石製品 ……208
2 土層確認トレンチ設定状況 (北から)	1 包含層の石器 (スクレイパー、玉類、異形石器、石斧)
3 トレンチ調査状況 (1)	図版Ⅴ-11 包含層の石器 (4) ……………209
4 トレンチ調査状況 (2)	1 包含層の石器 (石斧、たたき石)
図版Ⅴ-2 調査状況、基本土層 ……………200	図版Ⅴ-12 包含層の石器 (5) ……………210
1 25%調査状況 (北から)	1 包含層の石器 (北海道式石冠、砥石)
2 基本土層	図版Ⅴ-13 包含層の石器 (6) ……………211
3 遺物出土状況 (南から)	1 包含層の石器等 (加工痕のある礫・棒状原石)
図版Ⅴ-3 遺物出土状況、完掘 ……………201	1 包含層の石器 (石皿)
1 土器出土状況 (南西から)	1 包含層の石器 (石皿)
2 玉類出土状況 (東から)	
3 調査状況 (北から)	
4 完掘 (北から)	
図版Ⅴ-4 遺構の調査 ……………202	

I 調査の概要

1 調査要項

事業名：石狩川水系滝里ダム建設事業用地内埋蔵文化財発掘調査

事業委託者：北海道開発局石狩川開発建設部

事業受託者：財団法人北海道埋蔵文化財センター

調査期間：平成8年4月17日～平成9年3月25日（発掘期間平成8年5月6日～10月26日）

表I-1 遺跡名・所在地・調査面積

遺跡名	道教委遺跡登録番号	所在地	調査面積
滝里9遺跡	E-04-12	芦別市滝里町277-8	11,950m ²
滝里19遺跡	E-04-67	芦別市滝里町453-4	2,250m ²

2 調査体制

財団法人北海道埋蔵文化財センター

理事長 伊藤 一夫

専務理事 佐藤 哲人

常務理事 柴田 忠昭

常務理事 木村 尚俊

業務部長 山内 清志

第1調査部長 畑 宏明

第2調査課長 佐藤 和雄

主 査 遠藤 香澄（滝里9遺跡・滝里19遺跡発掘担当者）

文化財保護主事 村田 大（滝里19遺跡発掘担当者）

文化財保護主事 愛場 和人（滝里9遺跡発掘担当者）

文化財保護主事 影浦 寛

文化財保護主事 酒井 秀治

3 調査にいたる経緯

滝里ダムは北海道のほぼ中央に位置する芦別市および富良野市を流れる石狩川水系空知川に建設省直轄の多目的ダムとして建設中のもので、石狩川総合開発の一環をなすものである。ダム建設にかかる滝里地点の現地調査は昭和47年に開始され、同51年からの地元住民との話し合いの結果、3年後に覚書が取り交わされ、昭和54年実施計画調査段階へ移行となった。着工の内示は昭和59年で、工事は同年のJR根室本線（野花南～島の下間）および一般国道38号の付替え等の補償工事から開始され、平成2年10月からはダム本体工事に着手している。JRの付替線は平成3年10月に開通、また国道の付替え工事は平成7年10月一部工事が終了し、野花南大橋から富良野方面へ向かって約300mの地点から、滝里遺跡群*中最も上流に位置する滝里26遺跡付近までの約7,920m²が開通している。旧国道下には未調査の包蔵地が6ヶ所（合計16,800m²）あり、来年度から順次調査を進める予定である。

4 調査の概要

ダム建設で貯水区域となり水没するのは富良野市との境界の富岡・泉・島の下地区までおよび。昭和53年10月、北海道開発局の委託を受けた北海道開発協協会が野村崇氏らを担当者として、これらの地域の埋蔵文化財包蔵地調査を実施した。既にあった調査資料と現地調査に基づいた調査の結果、滝里地区に26ヶ所、泉地区に2ヶ所、富岡地区3ヶ所の計31ヶ所の遺跡が確認された。

北海道教育委員会は北海道開発局石狩川開発建設部の事前協議を受け、昭和61年5月および7月に所在確認調査を行い、周知の9遺跡に新発見の41ヶ所を加えた計50ヶ所の包蔵地を確認した。芦別市内が24ヶ所、富良野市内が6ヶ所である。芦別市内の遺跡のうち発掘調査、遺構確認調査を必要とする遺跡は22ヶ所、工事立会の必要な遺跡は6ヶ所である。平成元年度から北海道埋蔵文化財センターが調査を担当し平成8年度まで14遺跡111,000m²について調査が終了している。うち2遺跡は継続調査中である。今年度は第8年次に当たる。

4 調査の概要

今年度調査を行ったのは滝里9・滝里19・滝里安井・滝里18遺跡の計4ヶ所である。滝里9・滝里安井遺跡は滝里橋の下流側に、滝里18・滝里19遺跡は前2遺跡から4kmほど上流側にあり、富良野市との境界近くに位置する。上流側の遺跡は空知川に注ぐ支流であるベンケテシマナイ川と奈江川の間にある。空知川の右岸、2つ支流に挟まれた1.5kmほどの間には遺跡が13ヶ所所在している。このうち調査の必要な遺跡は6ヶ所で今年度初めてこの流域の調査を開始することとなった。滝里安井・18遺跡は来年度も継続して調査を行なうため本書では滝里9・滝里19遺跡の報告を行い、2遺跡については調査結果の概要を簡単に述べることにする。

滝里9遺跡

滝里橋の1km程下流側にある。標高152mの急な崖とそれに続く146m～137mの緩やかに傾斜する低位の段丘面上に立地し、空知川に流れ込む沢からの土砂に覆われた沖積層が発達している。地形は水田造成等の結果大きく改変されており、北西部は旧水田で3段の段状地形となっている。また調査区を縦断するように仮設の工事用道路がある。北側半分はほぼ全面が削平されている。このため包含層

表 I-2 滝里ダム建設工事にかかる埋蔵文化財発掘遺跡と年次別調査面積一覽

登録番号	遺跡名	当初面積 (m ²)	変更面積 (m ²)	調査年度 (m ²)								備 考	
				H. 1	H. 2	H. 3	H. 4	H. 5	H. 6	H. 7	H. 8		
2	滝里2遺跡	2,300	2,300										
3	滝里3遺跡	2,600	2,600										
6	滝里4遺跡	29,500	31,025							16,575	9,700		旧国道下未了
9	滝里7遺跡	3,700	3,700			3,700							
11	滝里安井遺跡	12,600	12,600									4,820	平成9継続調査。旧国道下未了
12	滝里9遺跡	11,950	14,350									11,950	旧国道下未了
13	滝里10遺跡	9,200	9,920							9,920			
14	滝里11遺跡	7,000	11,000				1,300	6,700					
60	滝里12遺跡	12,000	13,400										
64	滝里16遺跡	4,100	4,100										
65	滝里17遺跡	3,000	3,000										
66	滝里18遺跡	14,500	14,530									5,700	平成9継続調査
67	滝里19遺跡	2,700	2,250									2,250	
68	滝里20遺跡	3,400	3,400										
74	滝里26遺跡	4,400	4,400										
77	滝里29遺跡	6,600	6,600										
79	滝里31遺跡	9,740	7,496							7,496			
80	滝里32遺跡	14,850	16,739				9,929	4,060					
81	滝里33遺跡	7,400	7,400					7,400					
86	滝里23遺跡	1,400	1,400	1,400									
87	滝里26遺跡	4,500	4,500	900	3,600								
89	滝里39遺跡	3,600	3,600	3,600									
	合 計	171,040	180,460	5,900	7,300	9,929	12,760	24,116	16,575	9,700	24,720		

であるII層、III層が残存する範囲以外は主に人力と重機を併用する調査と重機による遺構確認調査を行うこととした。また調査区南東側では古い沢により侵食された旧地形が現われた。滝里33遺跡(平成4年度調査)で検出された旧沢地形に連続するもので、この部分には遺物を多量に包含する暗褐色土(III層)が凹みに沿って堆積していた。

検出された遺構は土壇(P)7基、集石(S)1ヶ所である。P-1~3、P-7は調査区南側の平坦面で検出された。P-1、3、7は長径が1.2m前後の楕円形、P-2は円形である。いずれも掘込み面はさらに上位とみられる。P-1からは太い柄部のあるナイフが、P-3からは石鏃の未製品、ナイフ、スクレーパー等の剥片石器と珪岩、黒曜石の多量の剥片・砕片が、またP-7からはナイフ、石斧が出土している。P-4~6は調査区北西部の旧水田面から検出され、P-4・5はほぼ同じ大きさの円形を呈している。P-6は北側の標高約146mの一番高い水田面で検出され、黒曜石の大型剥片が12点出土した。うち4点は原産地同定、水和層年代測定を依頼中である。土壇はいずれも晩期のもものとみられ、P-1・3・6・7は墓墳の可能性がある。S-1は南東側の旧沢地形のIII層から検出された。熱を受け割れた礫と周辺には炭化物を含む小砂利混じりの土が検出され、火を使用した跡と考えられる。近接した地点のほぼ同じレベルで、後期中葉(IV群b類)の一個体分の土器が出土している。F-1はこの時期に属する可能性がある。

遺物は遺構、包含層合わせて土器片が28,465点、石器等71,075点、合計99,540点出土した。土器は縄文時代早期を除く各時期と統縄文時代に属するものが出土している。土器片は磨滅が著しく復元できたものは少ない。主体は晩期末葉(V群c類)のもので90%近くを占める。次いで後期(IV群)のものが多い。前葉(a類)の入江式、白坂3式相当のもの、中葉(b類)の手箱式、甕淵式に相当する資料が比較的まとまっている。中期(III群)のものには円筒土器上層式(a類)、柏木川式(b類)相当のものがあがり、北筒式(トコロ6類)が数点ある。また前期(II群)のものにはごく少数ではあるが、胎土に“滑石”が混入している無文、縄文の土器がある。前期の後半頃とみられ、分布をほぼ同じく出土した刺突文、押型文、押引き文土器との相互関係が注意される。石器等はその97%が黒曜石、頁岩等の剥片である。剥片石器の占める割合が多く礫石器は極めて少ない。石鏃が最も多く、形状のわかるものでは無茎鏃の量が有茎のものを上回る。スクレーパーも多く、ナイフ類、つまみ付きナイフ、石槍がこれに次ぐ。礫石器にはたたき石、すり石、台石、石斧等がある。砥石とした中にはスコリア製の矢柄研磨器様の石器があり使用痕の無いものを含めこの種のものは17点ある。このほかカンラン岩製の垂飾がある。

滝里19遺跡

空知川右岸の標高約146mの平坦な自然堤防上に立地する。南側は滝里18遺跡と隣接している。当初の調査予定面積は2,700m²であったが、川に面した部分が侵食により流失しており最終的な調査面積は2,250m²となった。調査区のほぼ中央を排水溝が南北に縦断しまた東側が水田、西側が畑作地であったためほぼ全面が削平されていた。遺物包含層であるII層は調査区のほぼ中央部に部分的に残っていた。攪乱が著しいm₃ラインより北側は重機併用の遺構確認調査範囲とした。

遺構は土壇が2基と焼土(F)が1ヶ所である。土壇はいずれも楕円形で偏平礫、台石が出土している。周辺の遺物出土状況から縄文時代晩期に属するとみられる。遺物は土器片が5,820点、石器等が17,285点、合計23,105点出土した。土器は晩期のもので主体で次いで中期の円筒土器上層式、柏木川式、北筒式(トコロ6類)相当のものがある。ごく少量ではあるが早期(I群)に属する東剣路IV式、前期の押型文、押引き文土器も出土している。石器等の組成は滝里9遺跡と同様で、石鏃、スクレーパー、石槍、ナイフ等の剥片石器が多いが黒曜石の剥片が大部分を占める。石鏃は有茎鏃が無茎鏃の

4 調査の概要

2倍以上の量出土している。礫石器では早期の土器との対応関係が推定される擦り切り痕のある泥岩の研磨石材、石鏝が出土している。またカンラン岩製の勾玉状の石製品がある。

滝里安井遺跡

空知川の支流ポンルベシュベ川右岸の標高135~140mの沖積錐上の緩斜面に立地する。今年度は4,820m²について調査が終了している。①縄文時代晩期~統縄文、②中期~晩期、③前期末~中期の3層の包含層が確認された。遺構は土壌26基、焼土9ヶ所である。土壌は①の包含層を調査中に検出された。石鏝、大型剥片を多量に副葬するなど、墓塚の可能性があるものも含め伴出する遺物が多様である。また3,500点を超えるおびただしい量の琥珀製の平玉が出土した。墳底面から何連にも重なった状態で検出されたもので、滝里遺跡群では2例目である。遺物は上位2層からの出土が多く、土器と石器等を合わせて約7万点出土した。土器は早期を除く各時期のものがあり、晩期と統縄文の可能性のあるものが9割ほどを占める。下層からは刺突文、押型文土器が出土している。黒曜石の剥片を含め、石鏝、スクレイパー等の剥片石器が多い。礫石器では大型の台石、石皿類が比較的多い。

滝里18遺跡

平坦な自然堤防上に立地する。滝里19遺跡に隣接する地区と南側に50m離れた地区の2ヶ所からなる。今年度は5,900m²について調査が終了している。当初は人力による発掘調査を予定していたが、包含層がほとんど削平されていたため重機併用の遺構確認調査を行った。遺物は非常に少なく縄文晩期頃の土器片と石鏝、スクレイパー等の石器が少量出土した。(遠藤香澄)

表I-3 滝里9遺跡出土の遺物

時期	分類	点 数		分類	点 数		分類	点 数	
		遺構	包含層		遺構	包含層		遺構	包含層
縄文前期	II群 b類		260	石 鏝	6	646	砥石・石鏝		12
縄文中期	III群 a類		44	石 槍		40	礫・礫片	110	326
	b類		642	石 鏝		17	原 石		5
小計			686	つまみ付ナイフ		47	石 核	1	129
縄文後期	IV群 a類		93	ナイフ・ナイフ類	3	158	剥片・R剥片	492	68,334
	b類		2,141	スクレイパー	2	517	異形石器		5
	c類		96	石斧・石のみ等	1	131	石製品等		18
小計			2,330	たたき石	1	44			
縄文晩期	V群	59	25,124	すり石		13			
統縄文	VI群		6	台石・石皿	1	16			
合 計		59	28,406	合 計				617	70,458
		28,465						71,075	

表I-4 滝里19遺跡出土の遺物

時期	分類	点 数		分類	点 数		分類	点 数	
		遺構	包含層		遺構	包含層		遺構	包含層
縄文早期	I群		69	石 鏝		373	台石・石皿	1	14
縄文前期	II群		37	石 槍		77	砥石・石鏝		8
縄文中期	III群		307	石 鏝		11	石 鏝		7
縄文後期	IV群		30	つまみ付ナイフ		59	礫・礫片	1	8
縄文晩期	V類		5,355	ナイフ・ナイフ類		24	原 石		6
不明			22	スクレイパー		293	石 核		28
				模形石器		1	異形石器		2
				石斧・石のみ等・石片関連		177	剥片・R剥片		16,142
				たたき石		48	その他		1
				すり石		4	土製品・焼粘土		4
							石製品		1
合 計			5,820	合 計				2	17,288
		5,820						17,290	

II 遺跡の位置と環境

1 位置と環境

芦別市は北海道の中央部空知管内の東部に位置する。約865km²の面積を有し、その約89%を森林が占め、全面積の約84%が標高700m～1,700mの山岳地帯である。この間を空知川が東南から北西に流れている。空知川は日高山脈の狩振岳（高さ1,323m）にその源を発し西流し、南富良野町の幾寅から流れを北に変える。富良野盆地を貫流してから夕張山地の北西部で横谷をつくり、芦別市域で数段の河岸段丘を、赤平付近では沖積平野を形成しながら滝川近郊の空知太で石狩川に合流する。流路延長172.7km、流域面積2,573km²の石狩川水系最大の支流である。

滝里町は空知川の兩岸に開けた山峡に位置する。芦別市の南東部、市街地から15kmほど内陸寄りの位置にある。空知川は滝里付近を東南から北西にゆったりと蛇行して流れ、建設中の滝里ダムサイト付近からは急激な流れとなり「空知大滝」の雄大な景観を作っている。右岸は沢地帯で平坦な地形が続くが、左岸は急峻な山が迫っている。東北部は那英山（819m）、中山（679m）、高峰（626m）が連なり分水嶺によって中富良野町と、南東部は野花南岳（905m）、尻岸馬内山（772m）を挟んで富良野市と境を接している。

「滝里遺跡群」は芦別、富良野両市にまたがり、遺跡は主に空知川及びその支流によって形成された河岸段丘面や自然堤防上と山地斜面に立地する。滝里地区に限ってみると最も上流部にはトプトエウシュナイ川下流部左岸の平坦面に滝里1遺跡が、下流部には空知大滝北側（空知川右岸）に滝里40遺跡がある。この間約6kmの流域に43ヵ所の遺跡が点在している。右岸に37ヶ所を数え、とくに奈江川とパンケテシマナイ川の間およびボンルベシュベ川の兩岸に集中する。段丘面上の遺跡では滝里9・安井遺跡にみられるように、支流河川が運んだ土砂の堆積により形成された沖積錐に覆われているところがある。遺跡群のある一帯はダム工事用地になる以前は水田、畑作地であり、とくに昭和30年代から40年代にかけての新規造田工事により地形が改変されている遺跡が多い。

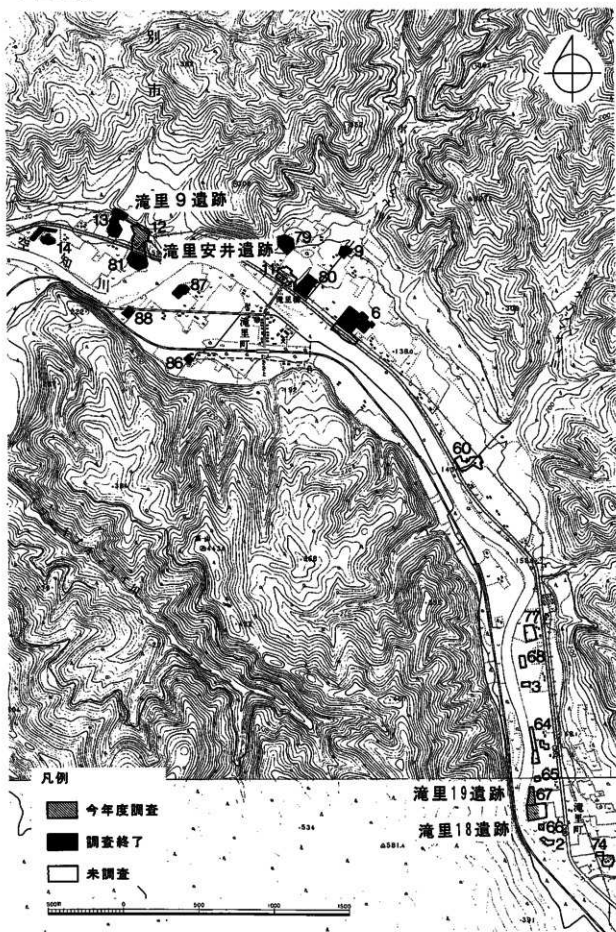
2 滝里町…開拓入植のころ

平成8年（1996年）8月27日、滝里町の旧市街地を望む小高い丘に元住民が集い滝里ダム記念碑の除幕式が行われた。ダム建設に伴う移転から10年、閉町を期に設立された「芦別滝里会」が10周年を迎えたことから、あわせて建立されたものである。建立場所は移設された滝里神社の境内である。黒御影石製高さ3メートルの碑の正面には「望郷之碑」、裏面には元住民の手になる「空知川せき止むほどに滝里の八十年をいまより返りつ」と故郷を想う句が刻まれている。

字名ボンモシリと称されていた滝里の開拓は明治36年4月（1903年）の富山県西砺波郡出身の高田芳太郎ほか2名の移住により始まる。殖民区画が行われた翌年にあたり入植地は空知川右岸、滝里大橋の下流約500mの地点である。今年度調査した滝里9遺跡と安井遺跡のほぼ中ほどの位置にあたる。開拓のはじめは旧市街地付近と空知川下流河岸一帯で、その後御料地や共有地へも入植している。隣接する野花南地区に8年遅れる。そのためか初期の頃の団体入植とは異なり滝里地区は単独入植者で占められ、また富山県民が圧倒的に多い。芳太郎は「滝里開拓の祖」とされる長男与太郎と共に開拓に励み滝里の発展の基礎を築いた。

図II-2に示したのは「陸地測量部」発行明治29年製版、同43年改版の「仮製五万分之一地形図」

1 位置と環境



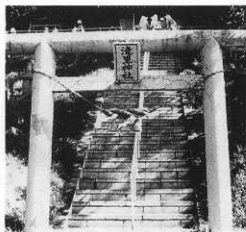
図II-1 滝里遺跡群の位置図

「富良野」である。入植翌年には早くも開拓基地としての官設駅通所が設置され、また「空知川瀧の上簡易教育所」も開校されている。手許にある明治29年製の「同」『フラヌイ川』と見比べると入植により開拓が著しく進んだ様子が読みとれる。「瀧の上」は空知大滝の上流に位置するというだけで長い間使用されていた俗称である。空知川左岸に見える道路は明治36年から翌37年にかけて開かれたもので仮定県道とは名ばかり、泥水で膝まで抜かるところが各所にある状態だったという。地図には上流側の富岡に「後藤渡船場」が記されているが、現在の滝里橋下流約100mの地点とさらに1kmほど下流の地点の2ヶ所にも渡船場があり昭和8年の架橋まで住民の足となっていた。根室本線が開通し弁茂駅駅として開業したのは大正2年のことである。この鉄道(現 JR 線)も平成3年付け替えられ西側の野花南、島の下駅間の山間部をトンネルで結んでいる。ちなみに滝里によく開墾の勳が入った明治36年冬、芦別ゆかりの作家・葛西善蔵は現在の新城地区の山中に入り鉄道枕木の伐採作業に従事し、下山途中の幻想的体験を後に小説『雪をんな』として発表している。

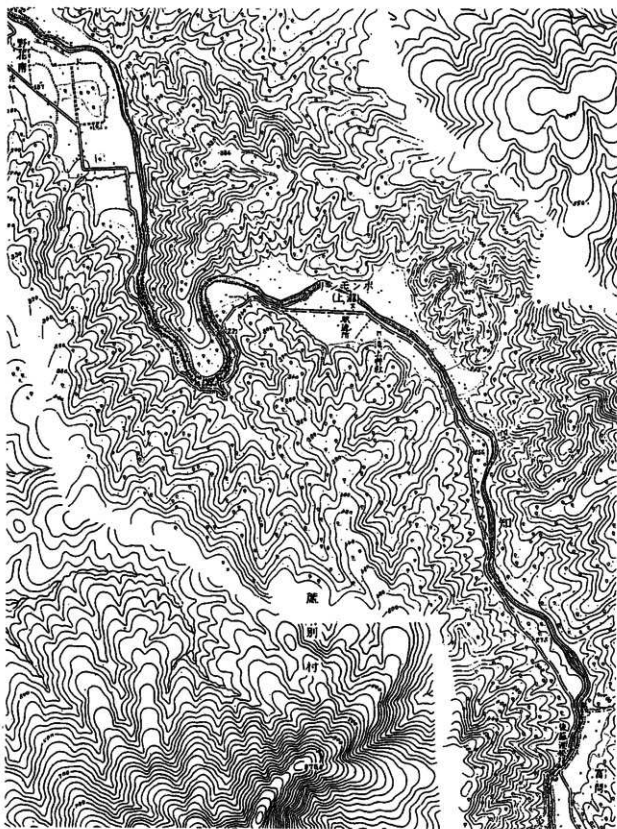
併設された碑文にも刻まれているように滝里は林業と農業で発展した町である。すでに明治期から製紙の原料として木材が搬出され、戦後は営林署の事務所が設置され森林の皆伐、造林事業が継続して行われていた。水稲耕作は明治44年の脇島信次らの試作に始まる。その後造田が進められ、大正7年頃から本格的耕作が行われた。また芦別メロン発祥の地としても知られる。昭和30年代後半の最盛期には戸数180戸、人口941人を数えた。

記念碑の建つ高台はかつての故郷を見渡せる丘で、「滝里記念の森」として滝里神社の社殿その他石碑等と共に戸隠神社、馬頭観音も移転保存されている。

(遠藤香澄)



図版II-1 滝里町「望郷之碑」(右上; 碑文、右下; 移転された神社)

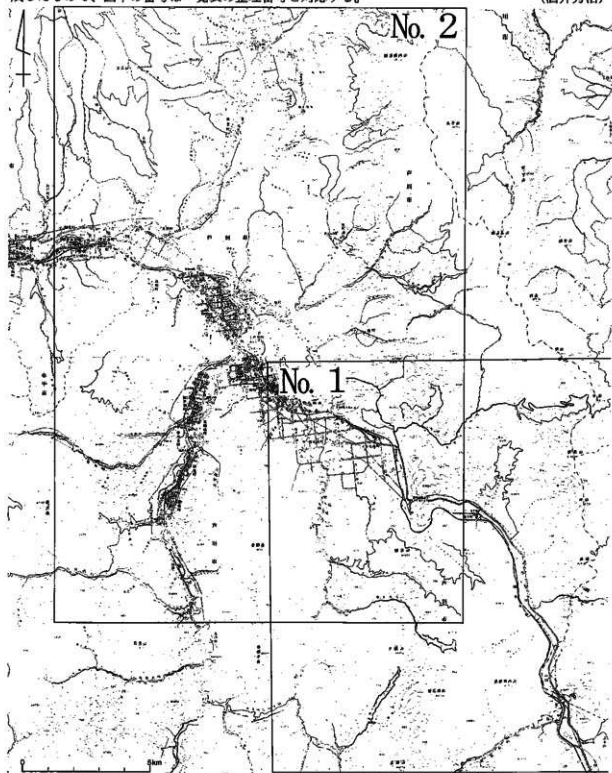


図II-2 明治43年の滝里周辺

(この図は明治29年製版同42年部分修正測図、同43年改版、仮製五万分の一地形図「富良野」の複製図を使用したものである)

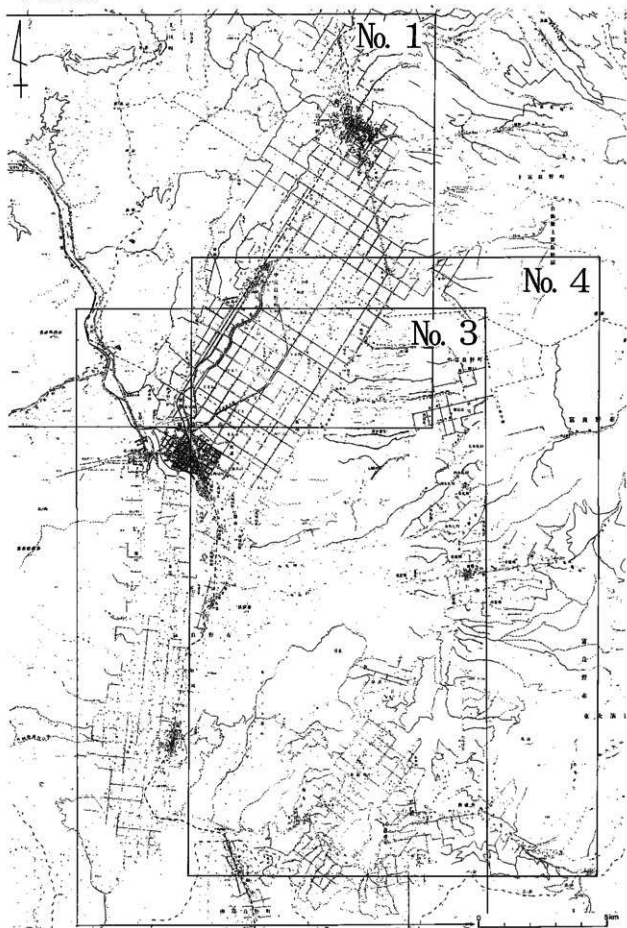
3 周辺の遺跡

現在、芦別市には93ヶ所、富良野市には219ヶ所、上富良野町には37ヶ所、中富良野町には34ヶ所、南富良野町には24ヶ所の遺跡が確認されている。ここでは芦別市、富良野市、中富良野町の全遺跡と上富良野町の29ヶ所、南富良野町の5ヶ所を掲載した。これらの図は5万分の1の地形図をもとに作成したもので、図中の番号は一覧表の整理番号と対応する。(酒井秀治)



図II-3 滝里周辺の遺跡配置図1

(この図は国土地理院発行5万分の1地形図「赤平」「美瑛」「上芦別」「富良野」を複製縮小したものである)



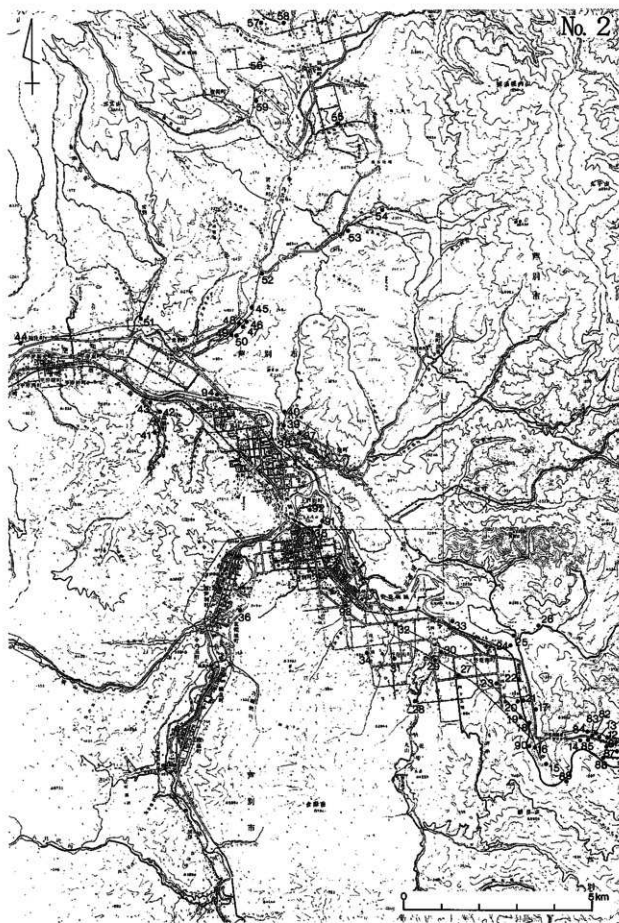
図II-4 滝里周辺の遺跡配置図2

(この図は国土地理院発行5万分の1地形図「富良野」「十勝岳」「山部」「西津布」を複製縮小したものである)



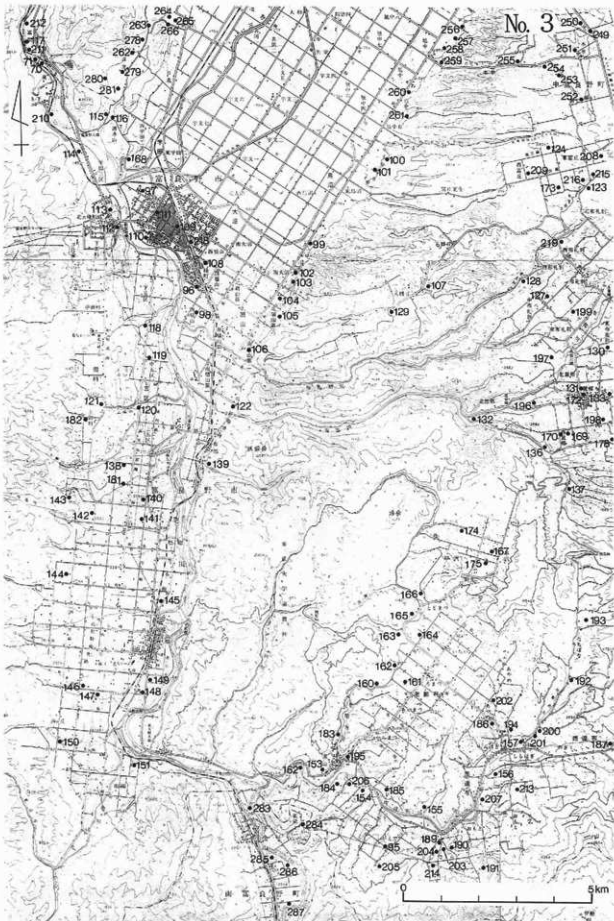
図II-5 湘南周辺の遺跡分布図1

(この図は国土地理院発行5万分の1地形図「赤平」「美英」「上芦原」「富良野」を複製縮小したものである)



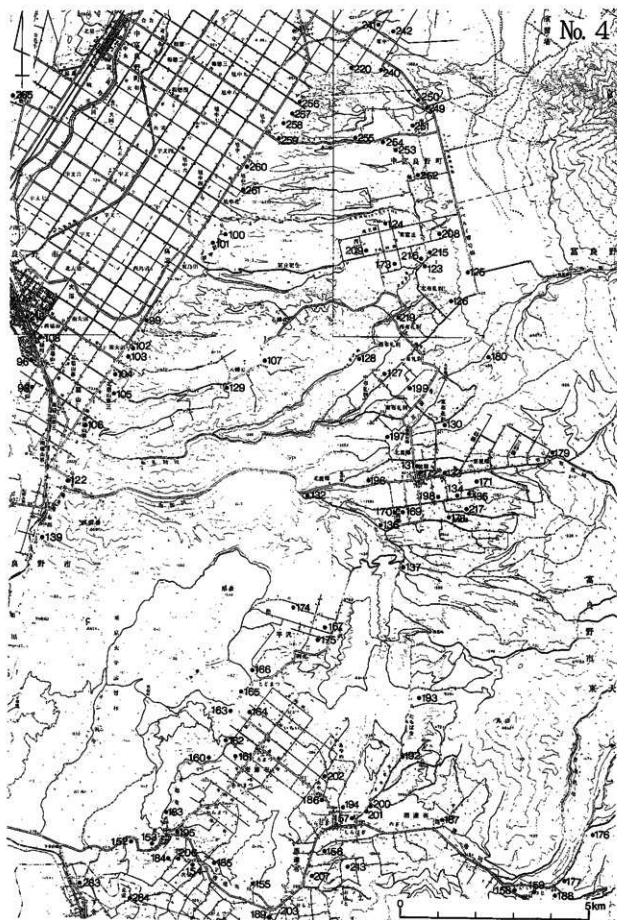
図II-6 滝里周辺の遺跡分布図2

(この図は国土地理院発行5万分の1地形図「富良野」「十勝岳」「山部」「西濃布」を複製縮小したものである)



図II-7 滝里周辺の遺跡分布図3

(この図は国土地理院発行5万分の1地形図「富良野」「十勝岳」「山部」「西達布」を複製縮小したものである)



図II-8 滝里周辺の遺跡分布図4

(この図は国土地理院発行5万分の1地形図「富良野」「十勝岳」「山部」「西達布」を複製縮小したものである)

表II-1 芦別市内の遺跡(1)

番号	登録番号	種別	名称	所在地	時期	備考	図番号
1	E-04-1	遺物包含地	滝里1遺跡	滝里町181-1			1
2	E-04-2	#	滝里2遺跡	滝里町477-1他			1
3	E-04-3	#	滝里3遺跡	滝里町405-1他			1
4	E-04-4	#	滝里桜井遺跡	滝里町373-1他	続縄文	無朽石鏡	1
5	E-04-5	#	滝里中村遺跡	滝里町336-4他	縄文晩期末		1
6	E-04-6	#	滝里4遺跡	滝里町337-1	縄文早期	H 6・7 調査 疑穴位置不明	1
7	E-04-7	#	滝里5遺跡	滝里町327-2	縄文		1
8	E-04-8	#	滝里6遺跡	滝里町328-1	縄文		1
9	E-04-9	#	滝里7遺跡	滝里町297-1	旧石器・縄文中期・晩期	H 2 調査 晩期正住・有骨尖頭鏃等	1
10	E-04-10	#	滝里8遺跡	滝里町305-1	縄文		1
11	E-04-11	#	滝里安井遺跡	滝里町313	縄文前期～続縄文	H 8 調査 コハク製平玉3300点等	1
12	E-04-12	#	滝里9遺跡	滝里町277-8	縄文前期～晩期	H 9 調査 土器7種出土	1・2
13	E-04-13	#	滝里10遺跡	滝里町256-1	縄文中期～晩期	H 5 調査 晩期土器群24基	1・2
14	E-04-14	#	滝里11遺跡	滝里町235-2	縄文早期・前期・晩期	H 4・5 調査 丸形石鏃等	1・2
15	E-04-15	#	ボンモシリ1遺跡	滝里町	続縄文	大持部式	1・2
16	E-04-16	#	ボンモシリ2遺跡	滝里町	縄文		1・2
17	E-04-17	#	野花南1遺跡	野花南町1265-8	縄文	滑石製平玉・蛇紋岩製勾玉等	1・2
18	E-04-18	#	野花南2谷遺跡	野花南町3336	縄文後期～晩期 縄文・縄文		1・2
19	E-04-19	#	野花南3遺跡	野花南町1253	縄文		1・2
20	E-04-20	#	野花南矢野丸遺跡	野花南町1229	縄文後期～晩期	石製裝飾品	1・2
21	E-04-21	墳墓	野花南塚状土壘	野花南町1235	縄文後期末	S 29 野花南遺跡 S 37 野花南文化財	1・2
22	E-04-22	遺物包含地	野花南木村遺跡	野花南町1207-2		刀一振	1・2
23	E-04-23	#	野花南3遺跡	野花南町946他	縄文		1・2
24	E-04-24	#	野花南樺野遺跡	野花南町空知川河川敷	原土?		1・2
25	E-04-25	チャシ跡	野花南チノベチャシ	野花南町1282他		面崖式	1・2
26	E-04-26	遺物包含地	野花南チノベ遺跡	野花南町番外地	縄文中期	余市式?	1・2・4
27	E-04-27	#	野花南4遺跡	野花南町760他	縄文		1・2
28	E-04-28	#	野花南山下遺跡	野花南町402他	縄文		1・2
29	E-04-29	#	野花南5遺跡	野花南町582-4	縄文		1・2
30	E-04-30	#	野花南坂井遺跡	野花南町643他	縄文		1・2
31	E-04-31	#	野花南佐野遺跡	野花南町359	縄文		1・2
32	E-04-32	#	野花南6遺跡	野花南町335	縄文中期～晩期		1・2
33	E-04-33	チャシ跡	野花南金比羅神社チャシ	野花南町815		面崖式直状壇二条チャシ	1・2
34	E-04-34	遺物包含地	野花南7遺跡	野花南町110	縄文中期～晩期頃		1・2
35	E-04-35	#	上戸別なまこ山遺跡	上戸別町9-1	縄文中期～後期		2
36	E-04-36	#	東願城遺跡	東願城町908他	縄文中期	丸のみ形石斧	2
37	E-04-37	#	旭1遺跡	旭町28-11	縄文		2
38	E-04-38	#	旭2遺跡	旭町50-1他	縄文中期～晩期	H 6 調査	2
39	E-04-39	#	旭3遺跡	旭町11他	縄文早期～晩期	土器片・石槍等	2
40	E-04-40	#	旭4遺跡	無番地	縄文中期以降	北筒系	2
41	E-04-41	#	高根1遺跡	高根町38-2	縄文		2
42	E-04-42	#	高根2遺跡	高根町19	縄文		2
43	E-04-43	#	高根3遺跡	高根町3	縄文		2
44	E-04-44	#	福住遺跡	福住町104			2
45	E-04-45	#	常磐1遺跡	常磐町818-2	縄文		2
46	E-04-46	#	常磐2遺跡	常磐町796-6	縄文		2
47	E-04-47	#	常磐3遺跡	常磐町795-1他	縄文		2

3 周辺の遺跡

表II-2 芦別市内の遺跡(2)

番号	登録番号	種別	名称	所在地	時期	備考	図番号
48	E-04-48	遺物包含地	常磐4遺跡	常磐町780	縄文		2
49	E-04-49	〃	常磐5遺跡	常磐町773	縄文		2
50	E-04-50	〃	常磐6遺跡	常磐町774-1他	縄文		2
51	E-04-51	〃	常磐7遺跡	常磐町565	縄文		2
52	E-04-52	〃	黄金1遺跡	黄金町413-5	縄文中期～晩期		2
53	E-04-53	〃	黄金2遺跡	黄金町506-1			2
54	E-04-54	〃	黄金3遺跡	黄金町544他			2
55	E-04-55	〃	新城1遺跡	新城町55			2
56	E-04-56	〃	新城2遺跡	新城町207-1	縄文中期～後期		2
57	E-04-57	〃	新城3遺跡	新城町450-2	縄文		2
58	E-04-58	〃	新城4遺跡	新城町491-2	縄文後期頃	石検がまとめて出土	2
59	E-04-59	〃	豊岡遺跡	豊岡町133	縄文	石斧等	2
60	E-04-60	〃	滝里12遺跡	滝里町369-4他	縄文中期		1
61	E-04-61	〃	滝里13遺跡	滝里町370-3			1
63	E-04-62	〃	滝里15遺跡	滝里町429他		1個体分の土器片	1
64	E-04-63	〃	滝里16遺跡	滝里町423他			1
65	E-04-65	〃	滝里17遺跡	滝里町446-2他	縄文晩期		1
66	E-04-66	〃	滝里18遺跡	滝里町472-1他	縄文	H8調査	1
67	E-04-67	〃	滝里19遺跡	滝里町453-4先他	縄文早期～晩期	H8調査・カンラン岩製石製品など	1
68	E-04-68	〃	滝里20遺跡	滝里町400他			1
69	E-04-69	〃	滝里21遺跡	滝里町296-5他			1
70	E-04-70	〃	泉1遺跡	字泉4-3			1
71	E-04-71	〃	泉2遺跡	字泉3	縄文晩期		1
72	E-04-72	〃	滝里24遺跡	滝里町500他			1
73	E-04-73	〃	滝里25遺跡	滝里町230-2			1
74	E-04-74	〃	滝里26遺跡	滝里町482-1他			1
75	E-04-75	〃	滝里27遺跡	滝里町465-1他			1
76	E-04-76	〃	滝里28遺跡	滝里町411-1			1
77	E-04-77	〃	滝里29遺跡	滝里町385-6			1
78	E-04-78	〃	滝里30遺跡	滝里町386-7他			1
79	E-04-79	〃	滝里31遺跡	滝里町268-2	旧石器・縄文前期～晩期	H5調査・有舌尖頭器等	1
80	E-04-80	〃	滝里32遺跡	滝里町321他	縄文前期～晩期・ 縄文・縄文	H4調査・石紐斧	1
81	E-04-81	〃	滝里33遺跡	滝里町274-8他	縄文前期～晩期・縄文	H4調査・コハク製平玉等	1
82	E-04-82	〃	滝里34遺跡	滝里町256-1			1・2
83	E-04-83	〃	滝里35遺跡	滝里町240-1他			1・2
84	E-04-84	〃	滝里36遺跡	滝里町236-4			1・2
85	E-04-85	〃	滝里37遺跡	滝里町241-2他			1・2
86	E-04-86	〃	滝里23遺跡	滝里町88-1他	縄文晩期	H1調査	1
87	E-04-87	〃	滝里38遺跡	滝里町31-4	縄文前期	H1・2調査 前期後半の土壌群32基	1・2
88	E-04-88	〃	滝里39遺跡	滝里町16-1他	縄文中期～後期・縄文	H1調査・土器割いずなど検出	1・2
89	E-04-89	〃	滝里40遺跡	滝里町1-7他			1・2
90	E-04-90	〃	野花南集の沢遺跡	野花南町	縄文後期～晩期	配石遺構	1・2
91	E-04-91	〃	上声別1遺跡	上声別町9-1他	縄文前期	H7調査・縄文系土器等	2
92	E-04-92	〃	上声別2遺跡	上声別町9-2他			2
93	E-04-93	〃	上声別3遺跡	上声別町218他	縄文		1・2
94	E-04-94	〃	常磐8遺跡	常磐町492	縄文前期～晩期・縄文		2

表II-3 富良野市内の遺跡 (1)

番号	登録番号	種別	名称	所在地	時期	備考	図号
95	F-04-1	遺物包含地	東山遺跡	富良野市東山1035他	縄文早期	石刃鏃	3-4
96	F-04-2	〃	緑町遺跡	富良野市緑町206-17他	縄文晩期	爪形土器・石鏃など	3-4
97	F-04-3	〃	無須川遺跡	富良野市桂水町4391-2他	縄文前期～晩期 縄文	富良野市内最大級の遺跡 土器盛群	1-3-4
98	F-04-4	〃	西原山遺跡	富良野市扇山896他	縄文晩期	土器・石鏃・石斧	3-4
99	F-04-5	〃	鳥羽遺跡	富良野市鳥羽517他	縄文早期～晩期 縄文	富良野市内最大級の遺跡 数々にわたる調査が行われる。	3-4
100	F-04-6	〃	東9線1遺跡	富良野市鳥羽4他	縄文中期～晩期	土器・石鏃・石斧など	1-3-4
101	F-04-7	〃	東9線2遺跡	富良野市鳥羽404他	縄文	土器片・石鏃	1-3-4
102	F-04-8	〃	東9線3遺跡	富良野市大沼361-1他	縄文	砥石	3-4
103	F-04-9	〃	東9線4遺跡	富良野市大沼353他	縄文	石皿	3-4
104	F-04-10	〃	東9線5遺跡	富良野市扇山1139他	縄文中期～晩期	土器・石鏃・石冠など	3-4
105	F-04-11	〃	東9線6遺跡	富良野市扇山1154-1他	縄文中期～晩期	土器・石鏃・石冠など	3-4
106	F-04-12	〃	東9線7遺跡	富良野市扇山1595			3-4
107	F-04-13	〃	八幡丘1遺跡	富良野市1690-360	縄文	スクレイパー・石鏃	3-4
108	F-04-14	〃	扇橋公園遺跡	富良野市扇山1363他	縄文早期 中期～晩期	土器・石斧・石鏃	3-4
109	F-04-15	〃	栄町遺跡	富良野市栄町2-1他		石鏃・石槍	3-4
110	F-04-16	〃	弥生町遺跡	富良野市弥生町4518-1他	縄文晩期	土器・石斧・くぼみ石など	3-4
111	F-04-17	〃	本町遺跡	富良野市本町1733-1			3-4
112	F-04-18	〃	北の峰遺跡	富良野市北の峰町4791-1他	縄文後期	土器・環状石斧	3
113	F-04-19	〃	字田三区1遺跡	富良野市4758-1	縄文	土器・石斧	3
114	F-04-20	〃	字田三区2遺跡	富良野市4633他	縄文中期	土器・石斧・石槍など	1-3
115	F-04-21	〃	清水山1遺跡	富良野市1163-12	縄文	石皿	1-3
116	F-04-22	〃	清水山2遺跡	富良野市1163-1	縄文中期～晩期	土器・石斧・石槍	1-3
117	F-04-23	〃	富岡遺跡	富良野市信濃沢3701-19他	縄文前期・中期	土器・石斧・裝飾品など	1-3
118	F-04-24	〃	中五区1遺跡	富良野市2881	縄文	土器・石斧	3-4
119	F-04-25	〃	中五区2遺跡	富良野市7402-1他	縄文		3-4
120	F-04-26	〃	上御料1遺跡	富良野市2125-1他	縄文中期～晩期	土器・石鏃・石斧	3
121	F-04-27	〃	上御料2遺跡	富良野市2129-1他	縄文中期	石鏃・石斧・石冠	3
122	F-04-28	〃	南扇山遺跡	富良野市扇山8-1他	縄文中期～晩期	土器・石鏃	3-4
123	F-04-29	〃	東富丘1遺跡	富良野市下フラノ1067-64	縄文	石皿	3-4
124	F-04-30	〃	東富丘2遺跡	富良野市下フラノ1072-174			3-4
125	F-04-31	〃	ベベルイ遺跡	富良野市ベベルイ1654-1	縄文	石斧・石槍	4
126	F-04-32	〃	北布礼別遺跡	富良野市下富良野1067-21	縄文	スクレイパー、つまみ付ナイフ	4
127	F-04-33	〃	中布礼別遺跡	富良野市下フラノ1069-104			3-4
128	F-04-34	〃	西布礼別遺跡	富良野市下フラノ1069-11他	縄文中期	石槍・北海道式石冠など	3-4
129	F-04-35	〃	八幡丘2遺跡	富良野市1690-13他			3-4
130	F-04-36	〃	東布礼別遺跡	富良野市ボロナイ1410-42他	旧石器	グレイバー	3-4
131	F-04-37	〃	麓郷1遺跡	富良野市7128	縄文	石鏃・石斧・石槍	3-4
132	F-04-38	〃	西麓郷1遺跡	富良野市西麓郷(東大沼畔地)			3-4
133	F-04-39	〃	南麓郷1遺跡	富良野市6233-1			3-4
134	F-04-40	〃	南麓郷2遺跡	富良野市6264	縄文	石鏃	4
135	F-04-41	〃	南麓郷3遺跡	富良野市6211	旧石器	舟形石鏃	4
136	F-04-42	〃	西麓郷2遺跡	富良野市6644他	縄文	石斧	3-4
137	F-04-43	〃	西麓郷3遺跡	富良野市6502	縄文中期	北海道式石冠・石皿	3-4
138	F-04-44	〃	上五区1遺跡	富良野市11641-1	縄文	石鏃・石槍など	3
139	F-04-45	〃	布部遺跡	富良野市布部(東大沼畔地)			3-4
140	F-04-46	〃	山部町1遺跡	富良野市山部3378-6他			3-4
141	F-04-47	〃	山部町2遺跡	富良野市山部1959-1	縄文	石鏃	3-4
142	F-04-48	〃	山部町3遺跡	富良野市山部3370-11他	縄文	石鏃・石斧	3
143	F-04-49	〃	山部町4遺跡	富良野市山部2590他			3
144	F-04-50	〃	山部町5遺跡	富良野市山部3357-7他	縄文	石鏃・砥石など	3
145	F-04-51	〃	山部町6遺跡	富良野市山部3346-16	縄文	石斧	3-4

表Ⅱ-4 富良野市内の遺跡 (2)

番号	登録番号	種別	名称	所在地	時期	備考	図録号
146	F-04-52	遺物包含地	山部町7遺跡	富良野市山部3310-12他	縄文中期	土器・石斧・石冠など	3
147	F-04-53	〃	山部町8遺跡	富良野市山部3306-1			3
148	F-04-54	〃	山部町9遺跡	富良野市山部2345-5他	縄文		3-4
149	F-04-55	〃	山部町10遺跡	富良野市山部3314-4他			3-4
150	F-04-56	〃	山部町11遺跡	富良野市山部3296-7他			3
151	F-04-57	〃	山部町12遺跡	富良野市山部3293-22他			3
152	F-04-58	〃	東山2遺跡	富良野市東山4176	縄文	石冠・砥石など	3-4
153	F-04-59	〃	東山3遺跡	富良野市東山12他	縄文	土器・石鏃	3-4
154	F-04-60	〃	東山4遺跡	富良野市東山181他	縄文前期-中期	土器・石鏃・石冠など	3-4
155	F-04-61	〃	東山5遺跡	富良野市東山651他			3-4
156	F-04-62	〃	西邊布1遺跡	富良野市西邊布1947-1他	縄文晩期	土器	3-4
157	F-04-63	〃	西邊布2遺跡	富良野市西邊布2077他	縄文中期・中期・晩期	S63調査 石斧類・晩期中層全体	3-4
158	F-04-64	〃	三の山1遺跡	富良野市西邊布4274-1他	縄文後期-晩期	土器片・石鏃など出土	3-4
159	F-04-65	〃	三の山2遺跡	富良野市西邊布4247他	縄文晩期- 縄文前期	S60調査	4
160	F-04-66	〃	老節布1遺跡	富良野市老節布3285			3-4
161	F-04-67	〃	老節布2遺跡	富良野市老節布3240他	縄文		3-4
162	F-04-68	〃	老節布3遺跡	富良野市老節布3154他			3-4
163	F-04-69	〃	老節布4遺跡	富良野市老節布3605-3	縄文	スクレイパー	3-4
164	F-04-70	〃	老節布5遺跡	富良野市老節布3378他	縄文	石斧	3-4
165	F-04-71	〃	老節布6遺跡	富良野市老節布3626他	縄文	石槍・スクレイパー・石斧	3-4
166	F-04-72	〃	老節布7遺跡	富良野市老節布3731他	縄文中期	石鏃・石斧・北海道式石冠	3-4
167	F-04-73	〃	平沢1遺跡	富良野市平沢3822			3-4
168	F-04-74	〃	清水山3遺跡	富良野市下富良野1161-31	縄文晩期 縄文前期	土器・石鏃など	1-3
169	F-04-75	〃	西麓郷4遺跡	富良野市6724		石斧	3-4
170	F-04-76	〃	西麓郷5遺跡	富良野市6721-1、他	旧石器	彫製1点	3-4
171	F-04-77	〃	東麓郷1遺跡	富良野市6195他	旧石器・縄文中期・晩期	S61調査 骨角器類・黒曜石など出土	4
172	F-04-78	〃	麓郷2遺跡	富良野市2857他			3-4
173	F-04-79	〃	東富丘3遺跡	富良野市下フナノ1072-121		石鏃	3-4
174	F-04-80	〃	平沢2遺跡	富良野市平沢3854他	縄文晩期	土器・スクレイパー	3-4
175	F-04-81	〃	平沢3遺跡	富良野市平沢3793他		石鏃	3-4
176	F-04-82	〃	三の山3遺跡	富良野市西邊布4183他	縄文中期	土器片・石鏃・ナイフなど	4
177	F-04-83	〃	三の山4遺跡	富良野市西邊布4190-1他	縄文後期-晩期	北照片200点がまとまって出土 石鏃・石槍など	4
178	F-04-84	〃	南麓郷4遺跡	富良野市6318			3-4
179	F-04-85	〃	東麓郷2遺跡	富良野市5800	旧石器	彫製器具の小器の群集跡などが出	4
180	F-04-86	〃	東布礼別2遺跡	富良野市1611-3			4
181	F-04-87	〃	上五区2遺跡	富良野市3377-2			3
182	F-04-88	〃	上御料3遺跡	富良野市2261-1、他	縄文	石槍・石斧	3
183	F-04-89	〃	東山6遺跡	富良野市東山2	縄文中期・晩期 縄文	土器・縄状石器・石鏃など	3-4
184	F-04-90	〃	東山7遺跡	富良野市東山124	旧石器	片刃石斧・獲器・舟底形石槍	3-4
185	F-04-91	〃	東山8遺跡	富良野市東山546-1他			3-4
186	F-04-92	〃	西邊布3遺跡	富良野市西邊布2478-1	縄文	土器	3-4
187	F-04-93	〃	西邊布4遺跡	富良野市西邊布4721他	縄文中期	S63調査・北筒式主体	3-4
188	F-04-94	〃	三の山5遺跡	富良野市西邊布4955	縄文晩期	柳葉形の石槍など	4
189	F-04-95	〃	東山9遺跡	富良野市東山843	縄文	石鏃など	3-4
190	F-04-96	〃	東山10遺跡	富良野市東山319他	縄文	石鏃・石斧	3-4
191	F-04-97	〃	東山11遺跡	富良野市東山1422			3
192	F-04-98	〃	西邊布5遺跡	富良野市西邊布4773他	縄文中期	石槍・北海道式石冠	3-4
193	F-04-99	〃	西邊布6遺跡	富良野市西邊布4015他	縄文中期	北海道式石冠が多い。	3-4
194	F-04-100	〃	西邊布7遺跡	富良野市西邊布2147他			3-4
195	F-04-101	〃	東山12遺跡	富良野市東山478-1			3-4
196	F-04-102	〃	西麓郷6遺跡	富良野市6873			3-4

表II-5 富良野市内の遺跡 (3)

番号	登録番号	種別	名称	所在地	時期	備考	図番号
197	F-04-103	遺物包含地	北麓南遺跡	富良野市7023		スケレイバー	3-4
198	F-04-104	#	南麓町5遺跡	富良野市6248			3-4
199	F-04-105	#	中赤礼別2遺跡	富良野市1061-28		石鏃・石斧・ナイフ	3-4
200	F-04-106	#	西達布8遺跡	富良野市西達布4751	縄文	ナリ石2点	3-4
201	F-04-107	#	西達布9遺跡	富良野市西達布4749	縄文早期・中期 ～晩期・総縄文	柱穴群 北甕式主体・石鏃が圧倒的に多い	3-4
202	F-04-108	#	西達布10遺跡	富良野市西達布2619			3-4
203	F-04-109	#	東山13遺跡	富良野市東山1318他			3-4
204	F-04-110	#	東山14遺跡	富良野市東山1313他	旧石器・縄文	石刀・鏃・削器	3-4
205	F-04-111	#	東山15遺跡	富良野市東山1115			3
206	F-04-112	#	東山16遺跡	富良野市東山148			3-4
207	F-04-113	#	西達布11遺跡	富良野市西達布1877	縄文	石鏃・つまみ付ナイフ・石鏃	3-4
208	F-04-114	#	東富丘3遺跡	富良野市下フラノ1072-83他	縄文	土器片・スケレイバー	3-4
209	F-04-115	#	西富丘遺跡	富良野市下フラノ1072-279			1-3-4
210	F-04-116	#	島の下遺跡	富良野市島の下1239	縄文晩期	土器	1-3
211	F-04-117	#	富岡2遺跡	富良野市富岡沢3705-2	縄文中期		1-3
212	F-04-118	#	富岡3遺跡	富良野市富岡沢1288河川敷	縄文晩期		1-3
213	F-04-119	#	西達布12遺跡	富良野市西達布4668他			3-4
214	F-04-120	#	東山17遺跡	富良野市東山1262			3
215	F-04-121	#	東富丘4遺跡	富良野市下フラノ1072-400他	縄文早期・中期		3-4
216	F-04-122	#	東富丘5遺跡	富良野市下フラノ1072-126	縄文早期・中期		3-4
217	F-04-123	#	南麓町6遺跡	富良野市6273	縄文		4
218	F-04-124	#	春日町遺跡	富良野市春日町194-344他	縄文中期～晩期	柱穴群 後期と晩期末が主体	3-4
219	F-04-125	#	布礼別3遺跡	富良野市1067-76他			3-4

表II-6 上富良野町内の遺跡

番号	登録番号	種別	名称	所在地	時期	備考	図番号
220	F-13-1	遺物包含地	東中1遺跡	上富良野町1550-1他	縄文早期～晩期	北甕式土器・平床押型文系統の土器・器文土器片	1-3-4
221	F-13-2	#	東中2遺跡	上富良野町1361-4他	縄文晩期～総縄文	土器片・石斧・石槍など	1
222	F-13-3	#	ツェゴロピータ 上富良野キャンプ場跡	上富良野町3917-1他	縄文晩期～総縄文		1
223	F-13-5	#	日の出1遺跡	上富良野町1269-2	縄文晩期	土器片・石斧・石鏃	1
224	F-13-6	#	日の出2遺跡	上富良野町301-1他	縄文中期～晩期 ～総縄文	縄文中期～晩期 土器片・石鏃など	1
225	F-13-9	#	江花1遺跡	上富良野町2198-1			1
226	F-13-10	#	江花2遺跡	上富良野町2201-12	縄文晩期～総縄文	総糸任痕文の土器片など	1
227	F-13-11	#	江花3遺跡	上富良野町2624-1	縄文晩期～総縄文		1
228	F-13-12	#	江花4遺跡	上富良野町2198-9他	縄文	石鏃・石斧	1
229	F-13-13	#	島津1遺跡	上富良野町1960-1	縄文	石皿・石斧	1
230	F-13-14	#	島津2遺跡	上富良野町2561-1他	縄文		1
231	F-13-15	#	草分1遺跡	上富良野町617-2他			1
232	F-13-16	#	江鏡1遺跡	上富良野町2851-1先河川敷			1
233	F-13-17	#	江鏡2遺跡	上富良野町2257			1
234	F-13-21	#	日新3遺跡	上富良野町1834-59他	縄文		1
235	F-13-22	#	日新4遺跡	上富良野町1611-1			1
236	F-13-23	#	草分3遺跡	上富良野町835-1他	旧石器	円形石刃核	1
237	F-13-24	#	草分4遺跡	上富良野町3645-5, 無番地			1
238	F-13-25	#	日の出3遺跡	上富良野町1305-1他	旧石器・縄文中期～晩期 ～総縄文・アイタ	骨角尖頭鏃・石鏃・石槍など多数出土・アイタ層のカーブ	1
239	F-13-26	#	日の出4遺跡	上富良野町1105-1	縄文		1
240	F-13-27	#	東中3遺跡	上富良野町2584-1			3-4

3 周辺の遺跡

番号	登録番号	種別	名称	所在地	時期	備考	図番号
241	F-13-28	遺物包含地	東中4遺跡	上富良野町144-1			3・4
242	F-13-29	〃	東中5遺跡	上富良野町1765-1他	旧石器・縄文		3・4
243	F-13-30	〃	東中6遺跡	上富良野町304-1他	縄文	石鏃・石槍	1・3
244	F-13-31	〃	東中7遺跡	上富良野町3329-3他	縄文		1・3
245	F-13-32	〃	東中8遺跡	上富良野町3322-4他			1・3
246	F-13-33	〃	東中9遺跡	上富良野町	縄文	石斧	1
247	F-13-34	〃	日の出5遺跡	上富良野町1268-1他			1
248	F-13-37	墳墓	草分5遺跡	上富良野町1433-1	縄文晩期	土器片・石鏃・石斧 土器墓を構築	1

表II-7 中富良野町内の遺跡

番号	登録番号	種別	名称	所在地	時期	備考	図番号
249	F-14-1	集落跡	本幸1遺跡	中富良野町中富良野2212-6他	縄文早期・中期・縄文	S41・62調査 早期・中期の竪穴住居址各1軒	3・4
250	F-14-2	遺物包含地	本幸2遺跡	中富良野町中富良野2212-5他	縄文早期		3・4
251	F-14-3	〃	本幸3遺跡	中富良野町中富良野2212-3他	縄文	大型ナイフ様の剥片1点	3・4
252	F-14-4	〃	ポロビナイ川1遺跡	中富良野町富良野駅前185-13他	縄文	ナイフ	3・4
253	F-14-5	〃	ポロビナイ川2遺跡	中富良野町中富良野152-9他	縄文		3・4
254	F-14-6	〃	ポロビナイ川3遺跡	中富良野町中富良野152-7他	縄文		3・4
255	F-14-7	〃	ポロビナイ川4遺跡	中富良野町中富良野152-7他	縄文	ナイフ	1・3・4
256	F-14-8	〃	ベベルイ1遺跡	中富良野町中富良野636-4-5他	縄文中期～晩期	竪穴住居址跡と考えられ、石斧・石鏃等が出土	1・3・4
257	F-14-9	〃	ベベルイ2遺跡	中富良野町中富良野駅前154-1-2他	縄文中期～晩期		1・3・4
258	F-14-10	〃	ベベルイ3遺跡	中富良野町761-1他	縄文		1・3・4
259	F-14-11	〃	ベベルイ4遺跡	中富良野町中富良野山1-1-6他	縄文晩期	石槍	1・3・4
260	F-14-12	〃	ベベルイ5遺跡	中富良野町中富良野駅前49-1他	縄文中期	石鏃	1・3・4
261	F-14-13	〃	ベベルイ6遺跡	中富良野町中富良野462-2他	縄文		1・3・4
262	F-14-14	〃	吉井神社遺跡	中富良野町中富良野397-3他	縄文中期～晩期		1・3
263	F-14-15	〃	吉井1遺跡	中富良野町中富良野394-10他	縄文中期～晩期	石鏃・石槍など	1・3・4
264	F-14-16	〃	鹿討1遺跡	中富良野町中富良野3528-2他	縄文後期～晩期	竪穴・石鏃・石槍の玉器も検出 竪穴及び集落跡の可能性あり	1・3・4
265	F-14-17	〃	鹿討2遺跡	中富良野町中富良野3528-7他	縄文中期～晩期		1・3・4
266	F-14-18	〃	鹿討3遺跡	中富良野町中富良野3530-3-2他	縄文	石斧	1・3
267	F-14-19	〃	吉井2遺跡	中富良野町中富良野397-10他	縄文	石槍・石鏃	1・3・4
268	F-14-20	〃	吉井3遺跡	中富良野町中富良野397-5他			1・3・4
269	F-14-21	〃	吉井4遺跡	中富良野町中富良野397-1他	縄文	石斧	1・3
270	F-14-22	〃	吉井5遺跡	中富良野町中富良野397-19他	縄文	石鏃・ナイフ・大型土器	1・3・4
271	F-14-23	〃	シブケウシ1遺跡	中富良野町中富良野1423-33他	縄文	石槍・ナイフ	1・3
272	F-14-24	〃	シブケウシ2遺跡	中富良野町中富良野1423-26他	縄文	石鏃・ナイフ・土器片	1・3
273	F-14-25	〃	新田中1遺跡	中富良野町中富良野2356-79他	縄文	石槍・石鏃・ナイフ	1
274	F-14-26	〃	新田中2遺跡	中富良野町中富良野2356-24他	縄文	石槍・石鏃・ナイフ・土器片	1
275	F-14-27	〃	新田中3遺跡	中富良野町中富良野2356-4他	縄文		1
276	F-14-28	〃	新田中4遺跡	中富良野町中富良野2359-3			1
277	F-14-29	〃	奈江遺跡	中富良野町中富良野347-7他	縄文	石斧未製品・石斧原石	1・3
278	F-14-30	〃	吉井6遺跡	中富良野町中富良野397-38他	縄文	石鏃・石槍・異形石器など	1・3・4
279	F-14-31	〃	吉井7遺跡	中富良野町中富良野397-10他	縄文	石斧・ナリ石・軟石製勾玉など	1・3
280	F-14-32	〃	吉井8遺跡	中富良野町中富良野397-4他	縄文	石鏃	1・2
281	F-14-33	〃	吉井9遺跡	中富良野町中富良野397-1他	縄文	石斧	1・3
282	F-14-34	〃	奈江2遺跡	中富良野町中富良野1423-39他	縄文		1・3

表II-8 南富良野町内の遺跡

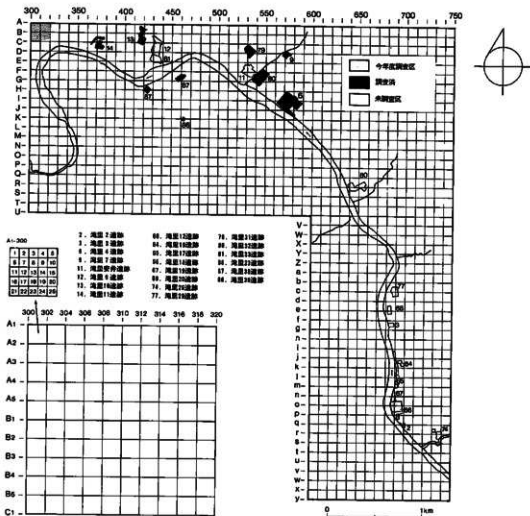
番号	登録番号	種別	名称	所在地	時期	備考	図番号
283	F-15-5	遺物包含地	下金山1遺跡	南富良野町下金山1765-1-3他			3・4
284	F-15-6	〃	東栄遺跡	南富良野町下金山1229他	縄文早期	石刃鏃?	3・4
285	F-15-7	〃	下金山2遺跡	南富良野町下金山199-1-3他	縄文		3・4
286	F-15-8	〃	下金山3遺跡	南富良野町下金山1749他	縄文中期	土器片・石斧	3
287	F-15-9	〃	下金山4遺跡	南富良野町下金山165-1-3他	縄文	石斧	3

III 調査の方法

1 発掘区の設定

滝里ダムの建設にかかる埋蔵文化財の発掘調査が必要な遺跡は芦別市内で22ヶ所あり、空知川とその支流域に分布する。最も上流にある遺跡は富良野市との境界から1.5kmほど手前、奈江川が空知川と合流する地点に位置する滝里26遺跡(登載番号E-04-74)である。下流側は滝里橋から1.5kmほど芦別市より位置する滝里11遺跡(登載番号E-04-14)で、その間延長約7kmにおよんでいる。

発掘区の設定にあたっては、上記遺跡群の範囲をカバーする平面直角座標第XII系を使用した。その範囲は $X = -61000 \sim -66000$ 、 $Y = +3000 \sim 8000$ である。基線は東西軸を $X = -61000$ 、南北軸を $Y = +3000$ とした。



図III-1 発掘区設定図

2 発掘調査の方法

発掘区は大グリッド(20m×20m)と小グリッド(4m×4m)からなる。大グリッドは東西軸をアラビア数字(1～5)を付したアルファベット(A₁、a₁など)、南北軸は座標値の上3桁の数字で表示した(例えば、A₁-300など)。すなわち東西軸は基線(X=-61000)をA₁とし、南へ向かって20mごとにA₂、A₃……とした。アルファベットの大文字が一巡したX=-63500からはアルファベットの小文字でa₁、a₂、a₃……とした。南北軸は基線(Y=+3000)を300として、東へ向かって20mごとに302,304,306とした。

大グリッドは25個の小グリッドに分け、北西隅の小グリッドから東へ順にアラビア数字で1～25の番号を付した。グリッドの呼称は北西の交点とした(A₁-300-7など)。

(遠藤香澄)

2 発掘調査の方法

滝里9遺跡

発掘調査に先行し対象地区の柳などの雑木の伐開を行いその後重機により水田の客土、畑の耕作土および攪乱層の除去作業を行った。調査区を北西から南東方向に向けてダム工専用の道路があったため、この部分と明らかに遺物包含層が削平されている範囲を除き、大グリッドの交点に基準杭を打設した。包含層が比較的残っていると推測された範囲を中心に10%程度の調査を行った。この結果道路の東側では、調査区のほぼ中央部の430ラインと432ラインに囲まれた範囲と南東部の旧沢地形部分に遺物包含層があることがわかった。道路の西側では南西端のごく狭い範囲、約20グリッドに遺物包含層が残っていた。またC₁ラインより北側は水田耕作により大きく改変されていた。北西側の崖下は3段の段状地形となっており、この部分は包含層がほとんど残っていない状態であった。このため遺物が耕作土(I層)中にどの程度残っているかを確認するため、大グリッド(20m×20m)に4グリッドの割合で人力による調査を行った。この結果遺物の出土がきわめて少ないことが分った。このような状況から遺物の稀薄な範囲と削平部分は重機を併用する遺構確認調査範囲とし、人力による調査対象範囲を当初予定よりも縮小する結果となった。また調査区南側に、沖積錐を形成する層(V層)下位の遺物包含層の有無を確認する目的で、重機によるトレンチ調査を行った。3mほど掘り下げたが包含層は存在しなかった。

遺物包含層であるII層、III層の遺物についてはほぼ全点、人力により位置と標高を計測して取り上げを行った。その後業者に委託しパソコンに入力し遺物分布図を作成した。

滝里19遺跡

滝里9遺跡同様に伐開および重機による表土層除去作業を行った。発掘調査計画段階では遺物包含層の残りが比較的良好と予想していた。小グリッドに基準杭を打設後、包含層の残存状態を確認するため調査区の東西と南北方向に直交するトレンチを設け調査を開始した。この結果、調査区のほぼ中央を縦断する排水溝を境に東側が水田造成、西側が畑の耕作で削平され予想に反して遺跡の状態が悪いことが分かった。また調査区北側の16グリッドほどの範囲も大きく攪乱をうけていた。さらに調査区全域に25%調査を行った結果、遺物包含層(II層)は調査区のほぼ中央部の狭い範囲に帯状に残っていたがそのほかの部分は大きく削平されている状態であった。しかし耕作土(I層)中にも遺物が多数認められたため、m₄ラインよりも南側は全面人力による調査範囲とした。調査区北側の攪乱部分は遺構確認調査範囲に留めることとした。II層出土の遺物はほぼ全点トータルステーションにより取り上げを行い遺物分布図を作成した。

(遠藤香澄)

3 整理の方法

1) 土器

現地では遺物取上げ後、水洗、大分類を行ない、遺物台帳、遺物カードを作成した。土器片は器面が磨滅して胎土の砂粒が浮きでているもの、表面が剝離する状態のものが多く、そのため充分乾燥させた後パラロイドB72の50%水溶液を塗布し表面を養生した。その後台帳整理が終了したものから注記を行なった。現地での整理と並行して札幌の事務所では一部搬送した資料の注記作業を行った。

札幌での二次整理では細分類を行い、II層、III層出土の遺物を中心に接合作業を進めた。接合資料については報告書に掲載しない遺物も含め、グリッド毎に接合関係カードを作成した。接合作業の段階では同一個体の破片を把握することに努めた。実測図では文様の復元可能なものについては細い線で表現した。断面は最も器形の特徴を表している部分を実測するために、90度あるいは180度回転させた位置で実測したものもある。

接合作業が終わった資料については、報告書掲載資料とその他の資料にわけた。その他の資料は遺構別、小グリッド別に分け収納した。また包含層の資料については口縁部、底部、それ以外の部位に分け収納した。
(遠藤香澄)

2) 石器

石器類は取り上げ後、水洗と注記を随時行いながら大分類した。また、並行して遺物台帳と遺物カードを作成した。注記は黒曜石製の遺物を除く全点を対象としたが、石製品や頁岩製の遺物の一部などには注記しなかったものもある。調査終了後、全点を札幌の整理場に搬入し、分類の再検討を行った。滝里19遺跡の石器類はこの細分類と並行して実測に取り掛かったが、滝里9遺跡の石器類については、調査中の段階から一次整理が終わった一部の石器を札幌に搬入、実測図の作成に入っていた。遺構出土の石器等については、ほぼ全点を実測、掲載している。包含層出土の石器等については完形品に近いものの中から、器種や形態等の特徴に偏りがないよう選び出して実測、掲載している。包含層出土の掲載石器等は、滝里9遺跡で189点、滝里19遺跡で100点ある。また、黒曜石製の石器・銅片の一部は産地同定および水和層年代測定の分析を依頼した。計測は掲載石器に限り、最大長、最大幅、最大厚、重量について行った。出土量の比較的多かった器種に関しては、分布図を作成した。分類整理後の石器等収納は報告書掲載のものと、それ以外のものに分けて行った。報告書に掲載したものについては、図版ごとに対応するよう1点ずつ収納し、それ以外のものについては、細分した器種ごとに出土グリッド別で分けて収納した。
(影浦 寛)

4 遺物の分類

1) 土器

縄文時代の土器は、早期から晩期までをそれぞれⅠ群からⅤ群とし、統縄文時代の土器はⅥ群、擦文時代の土器はⅦ群とした。この各群にアルファベットの小文字を組み合わせ、前半(a類)、後半(b類)あるいは前葉(a類)、中葉(b類)、後葉(c類)に分類した。また必要に応じて本文中に細分類を設けたものもある。文様の磨滅した破片、大きさの1cmにも満たないような小破片が多く、各群までの細分が困難なものも多くあった。出土遺物数の集計はできるかぎり各群までとしたが、Ⅴ群土器では大部分のものが磨滅が著しく、集計は各群ごととした。各群までの記載は文様等の明らかな資料に限ってそのつど述べることにした。

Ⅰ群 縄文時代早期の土器群

- a類：貝殻腹縁圧痕文、無文、条痕文、沈線文、貼付帯のある平底土器群
- b類：東劔路Ⅱ式、同Ⅲ式、コックロ式、中茶路式、東劔路Ⅳ式に相当する縄文、擦糸文、絡条体圧痕文等の施された土器群

Ⅱ群 縄文時代前期の土器群

- a類：縄文の施された円底、尖底を特色とする土器群
- b類：円筒土器下層式、植苗式に相当する土器群。またこの頃に相当するとみられる胎土に滑石が混入する無文あるいは縄文の施された土器、刺突文の施された土器、押型文土器、押し引き文の施された平底土器

Ⅲ群 縄文時代中期の土器群

- a類：円筒土器上層式に相当する土器群
- b類：萩ヶ岡4式、柏木川式、北筒式(トコロ6類)に相当する土器

Ⅳ群 縄文時代後期の土器群

- a類：余市式、北筒(Ⅳ式、Ⅴ式)式、入江式、白坂3式に相当する土器
- b類：ウサクマイC式、船泊上層式、手稲式、競潤式、エリモB式に相当する土器
- c類：堂林式に相当する土器

Ⅴ群 縄文時代晩期の土器

- a類：ママチ1類以前の土器
- b類：ママチ1類、2類に相当する土器
- c類：ママチ3類以降の土器

Ⅵ群 統縄文時代の土器

Ⅶ群 擦文時代の土器

(遠藤香澄)

2) 石器等

石器の分類は、基本的に従来からの滝里遺跡群の分類を踏襲した。定形的な石器をⅠ～Ⅶ群に、石核・剥片をⅧ群とし、加工痕のある剥片や礫などをⅩ群としている。楔形石器、異形石器についてはⅩA群の中で、それぞれ分類記号を冠したが、石製品については分類記号を用いなかった。未成品や、今後の検討を要する資料などについては全て「破片など」の中で数えている。また従前、たたき石・すり石の中で「円礫を素材とするもの」と分類されていたものについては、「歪円礫を素材とするもの」

という形で、若干の表現上の変更を行った。

I群 石鏃・石槍

- A類：石鏃
1. 石刃鏃
 2. 長身鏃
 3. 薄身鏃 a：柳葉形 b：五角形
 4. 三角鏃 a：平基 b：凹基
 5. 有茎鏃 a：平基 b：凹基 c：凸基
 6. 菱形鏃 a：正菱 b：偏菱
 7. 木葉鏃 a：尖基 b：円基
 8. 破片など
- B類：石槍または両面加工のナイフ
1. 有茎
 2. 菱形
 3. 木葉形
 8. 破片など

II群 石鏃

- A類：石鏃
1. 棒状のもの
 2. 全体に二次加工が施されたもの
 3. 素材の一部に機能部を作出したもの
 8. 破片など

III群 ナイフ・スクレイパー類

- A類：つまみ付ナイフ
1. 縦形で片面加工のもの
 2. 縦形で両面加工のもの
 3. 横形のもの
 8. 破片など
- B類：ナイフ類
1. ナイフ（柄部を持つもの）
 2. ナイフ類（両面調整加工により刃部を作出し、柄部を持たないもの）
 8. 破片など
- C類：スクレイパー
1. 石ペラと称されるもの
 2. 円形を呈し、周縁に刃部が設けられるもの
 3. 主に縦長で、下端部に刃部が設けられるもの
 4. 剥片の側縁もしくは両側縁に刃部が設けられるもの
 5. 下端に尖る部分を持つもの
 6. えぐり込みを持つもの
 7. 素材の形状を大きく変えていないもの
 8. 破片など

IV群 石斧

4 遺物の分類

- A類：磨製石斧
1. 撥形のもの
 2. 短冊形のもの
 3. 乳棒状のもの
 8. 破片など

B類：石のみ

- C類：石斧製作に関わるもの
1. 研磨石材
 2. 石斧原材
 3. 擦り切り残片
 8. 剥片（蛇紋岩、片岩、泥岩など）

V群 たたき石・台石類

- A類：たたき石
1. 棒状礫の一端、もしくは両端にたたき痕のあるもの
 2. 扁平礫の周縁にたたき痕があるもの
 3. 扁平礫の腹・背面にたたき痕があるもの
 4. 亜円礫を素材とするもの
 8. 破片など

- B類：台石
1. 礫の平坦面に使用痕があるもの
 8. 破片など

VI群 すり石・石皿

- A類：すり石
1. 断面が隅丸三角形の礫の稜をすったもの
 2. 扁平礫の側縁をすったもの
 3. 扁平礫を半円状に粗く打ち欠き、弦をすったもの
 4. 北海道式石冠と称されているもの
 5. 亜円礫を素材とするもの
 8. 破片など

- B類：石皿
1. 使用面が明瞭に凹んでいるもの
 2. 使用面が平坦なもの
 8. 破片など

VII群 石鋸・砥石

- A類：石鋸
1. 石鋸
 8. 破片など

- B類：砥石
1. 研磨面に溝があるもの（矢柄研磨器など）
 2. 板状のもの
 3. 角柱状のもの
 8. 破片など

VIII群 石錘

- A類：石錘

IX群 石核・剥片

- A類：石核・原石 1. 石核
2. 石器原石と考えられるもの

B類：剥石・碎片

X群 加工痕のある剥片や礫など

- A類：加工痕のみられる剥片 1. Rフレイク
2. 楔形石器
3. 異形石器
4. 器種不明の剥片・未成品

B類：意図の不明な加工痕のある礫

(影浦 寛)

IV 滝里 9 遺跡の調査

IV 滝里9遺跡の調査

1 調査の概要

滝里9遺跡は空知川右岸、低位段丘の緩斜面に位置している。遺跡の北側は山地形となっており、山から空知川に注ぐ沢の沖積錐が発達している。標高は137～152mである。ダム建設工事以前は遺跡の北側を水田、南側を畑、宅地として利用しており、北側は重機による大規模な水田造成のために、地形の改変がかなり進んでいる。またダム工事にかかわる工事用道路が遺跡を縦断して取り付けられており、遺跡の保存状態は良くなかった。

表土除去時点で調査区中央部、南西端部、南東端部に黒色土が堆積しているのが認められ、これをII層とした。黒色土は礫、小砂利を含んでおり、河川の影響がうかがわれる。削平が漸移層まで達していた部分を除き10%調査を行い、遺物の分布を確認した。遺物が非常に少ない範囲は、削平部と合わせ遺構確認調査範囲とし、重機併用の調査を行った(図IV-4)。また調査を進めるうち、遺跡東側に旧沢地形の凹みに暗褐色土が堆積していることが確認され、これをIII層とした。

検出された遺構は、土壌7基、集石1か所である。土壌の平面形は楕円形(P-1・3・7)と、小型の円形(P-2・4・5・6)とに大別できる。土壌に伴う遺物は両面調整のナイフ(P-1・7)、スクレイパー(P-2・3・7)、大型フリイク(P-6)などの黒曜石製の石器が多い。P-3は石鏃(未成品)が6点、フリイクが多量に出土した。石鏃はいずれも有茎で、白い頁岩製のものがある。P-6は標高147mの山崖の近くで検出された。大型の剥片が10点墳底から出土している。土壌はいずれも晩期のもと考えられる。集石はIII層で検出された。礫は被熱し、割れているものが多かった。また集石を中心に1.3m程の範囲で、炭化物を含む焼土が確認された。

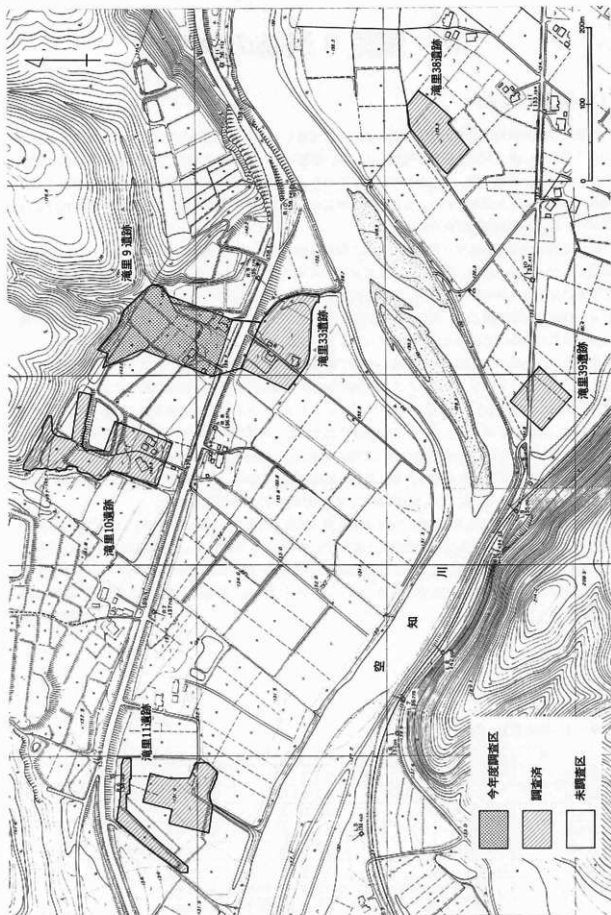
出土遺物の総点数は99,540点で、内訳は土器28,465点、石器等71,075点である。土器の主体は縄文時代晩期末のもので、少数ながら統縄文土器も出土している。そのほか、後期(白坂3式相当、手稲・蛇淵式相当、堂林式)、中期、前期末から中期初頭の刺突文、押型文、押し引き文が施された土器などが出土している。石器は剥片石器では石鏃、スクレイパーが多い。またスコリア製の矢柄研磨器椽の砥石が7点出土している。

(愛場和人)

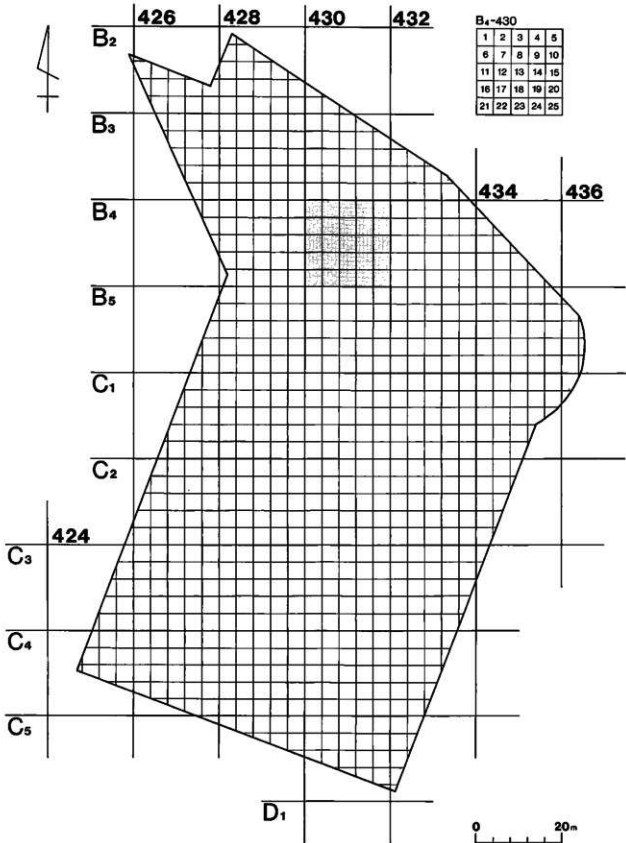
表IV-1 出土遺物一覧

名 称	点 数	名 称	点 数	名 称	点 数	名 称	点 数
II群土器	260	石 鏃	17	台 石	12	Rフリイク	220
III群土器	686	つまみ付ナイフ	47	すり石	13	石製品	1
IV群土器	2,330	ナイフ・ナイフ類	161	石 皿	5	スコリア	17
V群土器	25,183	スクレイパー	519	砥 石	12	異形石器	5
VI群土器	6	石 斧	127	石 核	130	礫・礫片	436
土器計	28,465	石のみ	2	原 石	5	合 計	71,075
石 鏃	652	石斧製作に関するもの	2	剥 片(黒曜石)	67,773		
石 槍	40	たたき石	45	剥 片(頁石・その他)	846		

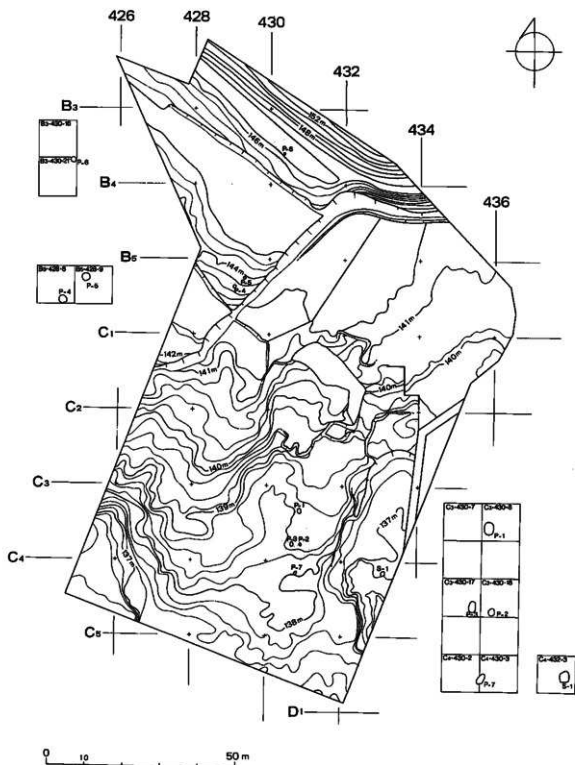
1 調査の概要



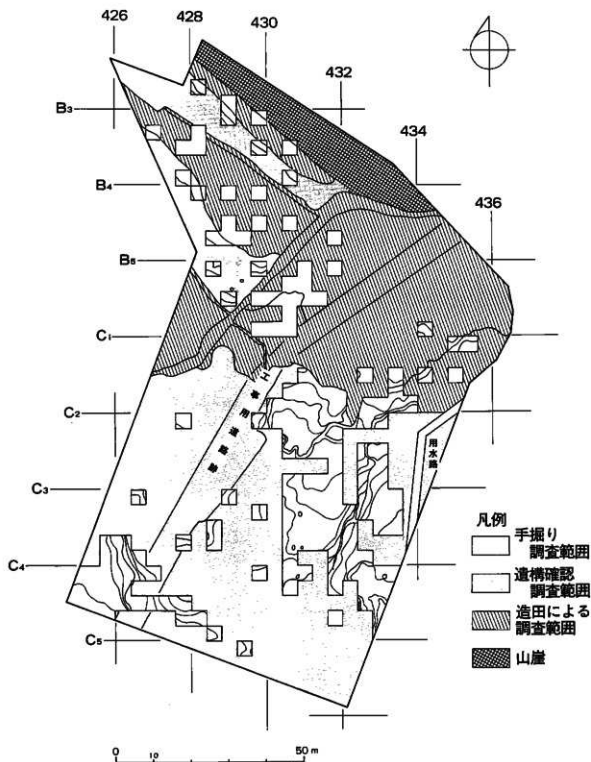
図IV-1 遺跡の位置区



図IV-2 発掘区設定図



図IV-3 最終面の地形と遺構位置図



図IV-4 調査の方法

2 基本土層

基本土層は以下の通りである。

I層：耕作土、盛土。礫、小砂利、V層の土が混じる。遺物は多い。

II層：黒色土もしくは黒褐色土。礫、小砂利が混じる。縄文時代前期から続縄文時代の遺物包含層である。遺跡中央部、南東部などに残るのみである。

III層：暗褐色粘土。遺跡南東部の旧河道部に堆積する。遺物包含層。

IV層：漸移層。

V層：黄褐色粘土層、砂礫層。沖積錐を形成する層と思われる。

II層には礫、小砂利が多く含まれる。また数か所にII層もしくはI層を侵食する砂礫層があることから、最近まで常に河川の影響を受けていた可能性がある。それに伴い遺物も広い範囲で移動していることが推測される。II層とIII層の包含する遺物にはあまり差異がないのは、このことが関係するのかもしれない。

滝里4遺跡において礫層下に縄文時代早期の包含層が確認された。このことから遺跡南端部の数か所で重機を使って、V層面より以下の深掘りを数か所行った。深部は黄褐色粘土と砂礫層が、3m程互層になって堆積しており、青色粘土層で深掘りを止めた。これによりV層以下には遺物包含層はないものと判断した。(愛場和人)

3 遺構と遺構出土の遺物

本遺跡で検出された遺構は土壌7基、集石1か所である。土壌は遺跡南側の平坦面(P-1・2・3・7)と北西部の標高143~146mの緩斜面(P-4・5・6)に位置するものに分かれる。遺跡から100m程西に位置する滝里10遺跡(平成5年度調査)では、標高144~147mの斜面に土壌が20基検出されている。斜面に分布する土壌は、相互に関連するものかもしれない。集石は遺跡南東部の旧河道に堆積するIII層から検出した。焼土を伴う。

1) 土壌

P-1 (図IV-7 図版IV-4-1~3)

位置：C₃-430-8 規模：1.32×1.00/1.20×0.88/0.18m

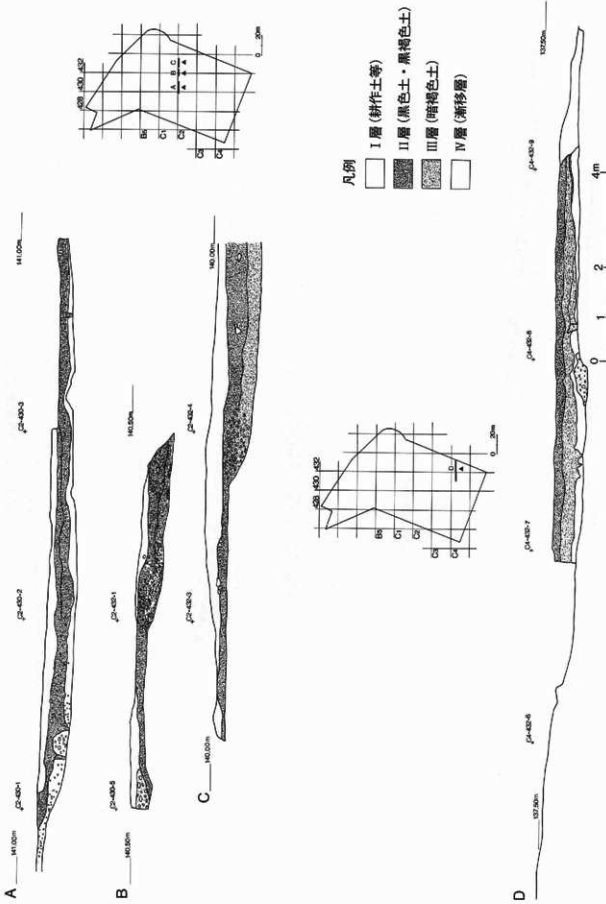
平面形：楕円形 長軸方向：N-6°-W

出土遺物：晩期の土器片5点、ナイフ1点

調査区南側の平坦面で黒色土の落ち込みとして確認された土壌である。IV層を掘り込んでおり、底面は平坦で皿状を呈する。覆土は黄褐色土粒子と小礫を含む黒色土で、かたくしまっている。埋め戻しと思われる。掘り込み面は削平によって失われている。遺物はすべて底面近くの覆土中から出土した。土器片は胎土等から判断して縄文時代晩期(V群)のものと思われるが磨減が著しい。ナイフは小さな球顆の混じる黒曜石製で太い柄部がある。両面に調整が施されており、刃部先端が丸くなっている。類似のものが滝里32遺跡(北埋文1993)で出土している。縄文時代晩期の土壌墓の可能性がある。(酒井秀治)

P-2 (図IV-7 図版IV-4-4~6)

位置：C₃-430-18 規模：0.98×0.68/0.68×0.54/0.14m



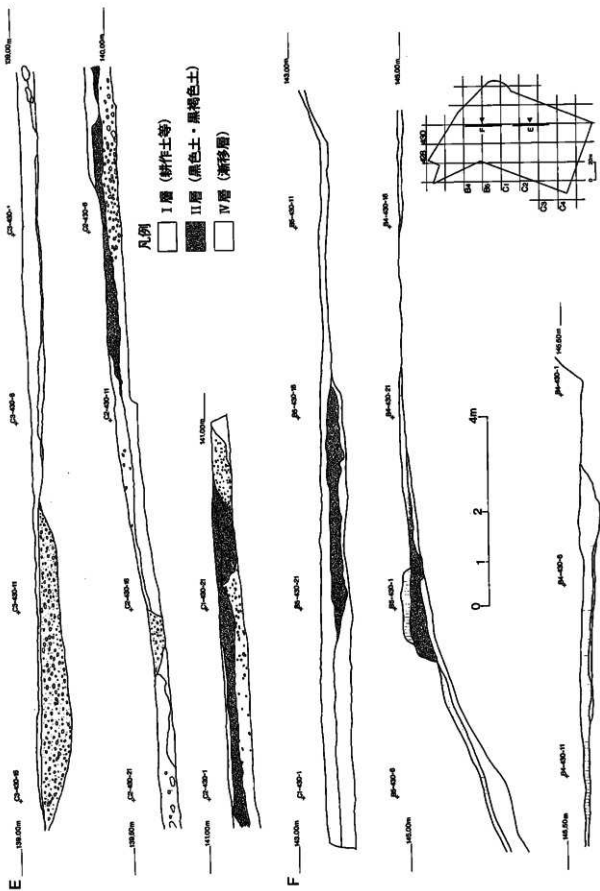


圖 IV-6 土層断面圖 (2)

平面形：ほぼ円形

出土遺物：Rフレイク1点、黒曜石剥片11点

調査区南側の平坦面で黒褐色土の落ち込みとして確認された土墳である。底面は平坦で皿状を呈する。覆土は小礫が含まれ、分層は黄褐色土粒子の有無で行った。掘り込み面は削平によって失われている。遺物は全て覆土中の出土である。時期・性格とも不明。
(酒井秀治)

P-3 (図IV-8 図版IV-5)

位置：C₃-430-17 規模：1.12×0.79/1.03×0.71/0.23m

平面形：楕円形 長軸方向：N-2°-E

出土遺物：V群土器片40点、石鏃6点、ナイフ類1点、スクレイパー2点、石核1点、Rフレイク11点、フレイク440点

遺跡南側の平坦面に位置する。1m程東側にP-2がある。小礫を多く含むIV層面での確認で、上部は削平されている。平面形は楕円形で、長軸はほぼ南北方向である。覆土は黒褐色土で、小砂利を多く含み、固くしめる。出土遺物は他の土墳に比して多く、特にフレイクが多い。土器片、フレイクは非常に細かく、多くは黒曜石で、被熱したものがほとんどである。珪質頁岩のフレイクも出土している。石鏃が有茎のみであることも特徴的である。遺物はすべて覆土中からの出土で北側に集中する。また大型の礫が北側壁近くに3点固まって出土している。1~6はV群C類土器。1は横走する沈線が施され、斜め下方からの刺突文が施文される。6は口縁部内面に縄文痕が縦に施されている。7はいわゆる花十勝。8は先端から調整の剝離が入り、ねじれ湾曲がある。9は被熱により表面に光沢がない。10は珪質頁岩製。表面は磨滅している。11はナイフ片。刃部には微細剝離痕がみられる。基部には原石面が残る。12・13は1側縁に刃部をもつスクレイパー。図示はしなかったが小形の石核、ノッチのあるRフレイクがある。

土墳は出土遺物からみて晩期の土墳墓の可能性がある。
(愛場和人)

P-4 (図IV-7 図版IV-5-5・6)

位置：B₂-428-8 規模：0.87×0.82/0.52×0.57/0.17m

平面形：円形

出土遺物：土器片2、黒曜石剥片2、礫2

調査区北東側の遺構確認区で暗褐色土の落ち込みがあり、確認された。IV層を掘り込んでおり、墳底面は平坦で皿状を呈する。覆土は地山の黄色土が混じる暗褐色土で、かたくしまっている。遺物は覆土中に散見される程度で、土器片はV群のものである。
(村田 大)

P-5 (図IV-7 図版IV-7-1・2)

位置：B₂-428-9 規模：0.87×0.82/0.68×0.68/0.17m

平面形：円形

出土遺物：土器片3、剥片7、礫2

P-4と同様の浅い皿状の土墳で、覆土は地山の黄色土がブロック状に混入する暗褐色土。遺物は全て覆土中の出土で、土器片はV群のものである。性格は不明。
(村田 大)

P-6 (図IV-8・9 図版IV-6)

3 遺構と遺構出土の遺物

位置：B₃-430-8 規模：0.58×0.51/1.32×0.32/0.17m

平面形：円形

出土遺物：黒曜石剥片13、礫1

調査区北側の遺構確認区で暗褐色土の落ち込みがあり、確認された土壌である。

IV層を掘り込んで構築され、墳底面は平坦で皿状を呈す。覆土は小礫が混じる暗褐色土でしまりがあふ。遺物は黒曜石の大型剥片と石斧の形をした片岩製の自然礫が墳底面から出土した。大型剥片は剝離の稜線が磨滅している。周辺からフレイク・チップの出土がなく、その場で剝離されたものではなく、持ちこまれたものと思われる。時期は土器の出土がなく不明であるが、周辺からはV群の土器片が出土している。(村田 大)

P-7 (図IV-10 図版IV-7)

位置：C₄-430-2・3 規模：1.26×0.65/1.19×0.51/0.14m

平面形：不整形円形 長軸方向：N-32°-E

出土遺物：晩期の土器片8点、ナイフ1点、石斧1点、たたき石片1点、フレイク9点

遺跡南側の平坦面に位置する。小礫を多く含むIV層面での確認で、上部は削平されている。平面形は長軸を北北東-南南西にとる不整形円形である。覆土は小砂利を多量に含み、固くしまる。底面は比較的平坦で、立上りは西側では垂直に近い。遺物はすべて覆土中からの検出である。フレイクは一部焼けている。1・2はV群土器。3は両面調整のナイフ。横長剥片素材を利用している。4は片岩製の石斧片。

土壌は出土遺物からみて晩期の土壌墓の可能性がある。

(愛場和人)

2) 集石

S-1 (図IV-11 図版IV-8)

位置：C₄-430-3 平面形：不整形円形

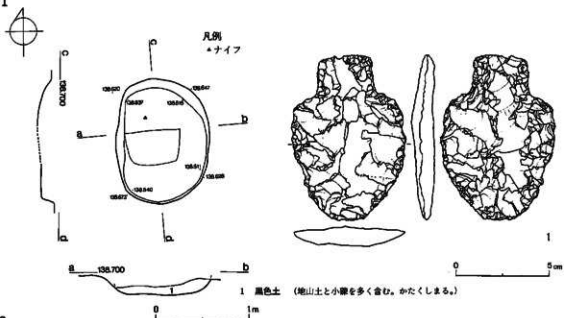
出土遺物：台石1点

礫の集中は遺跡南東端、旧沢地形部に堆積しているIII層で確認された。礫は10~20cmの亜円礫で、1m程の範囲に集中していた。多くは焼成によって赤色、黒色化している。石質は砂岩、安山岩、流紋岩、トロニウム岩などである。また割れている礫がみられたが、ほとんどが接合できた。熱を受け、割れたものと考えられる。礫を取り外すと、暗灰黄色の焼土が1.3m程の範囲に広がっていることが確認された。厚さは5cm程である。上面には小砂利が混じり、一部に炭化物が検出された。

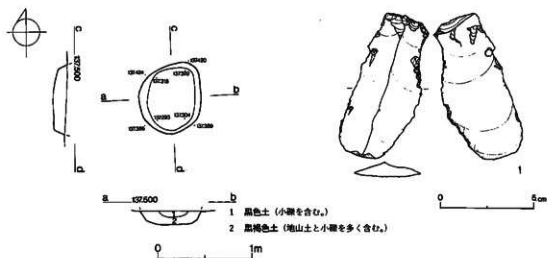
1は台石で、石質はトロニウム岩。焼成礫の中から検出された。被熱の有無ははっきりしない。たたき痕は表裏とも散発的で、人為的なものかはっきりしない。

時期は不明であるが、近接した地点の同レベルでIV群b類の土器が1個体出土している。この時期の可能性も考えられる。(愛場和人)

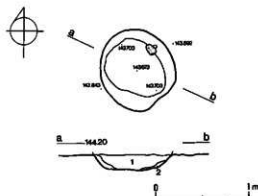
P-1



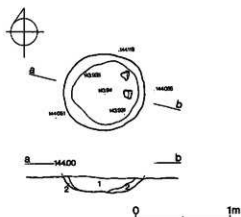
P-2



P-4



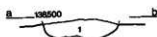
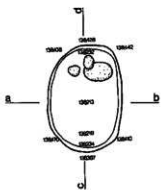
P-5



図IV-7 P-1・2・4・5と出土遺物

3 遺構と遺構出土の遺物

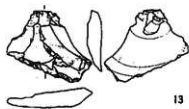
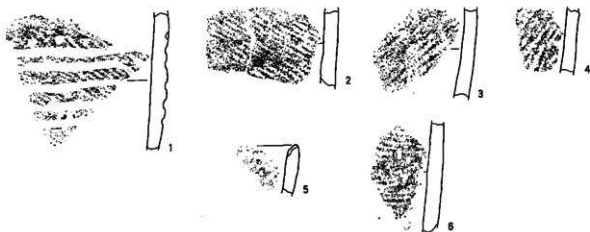
P-3



- 1 黒褐色土 (小砂利混じり)
- 2 暗褐色土 (ローム混じり)

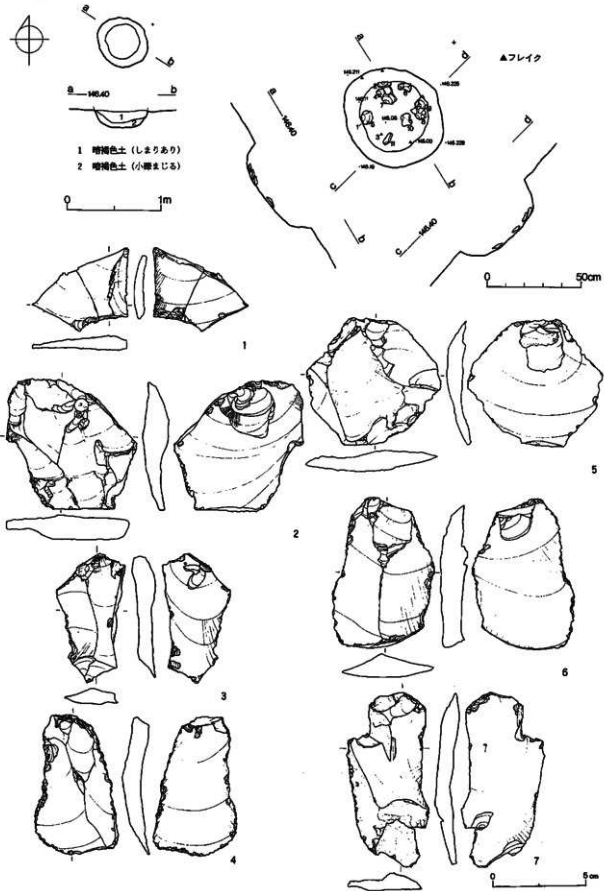


- 凡例
- 石鏃
 - ナイフ・スクレイパー
 - フレイク
 - 土器片



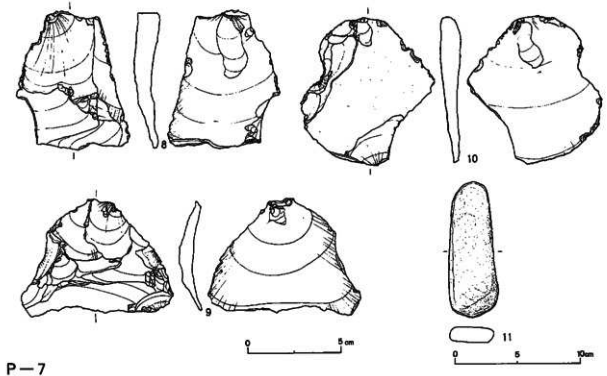
図IV-8 P-3と出土遺物

P-6

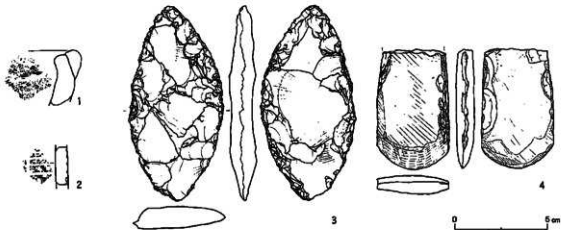
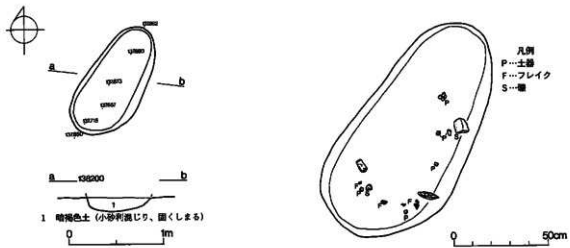


図IV-9 P-6と出土遺物 (1)

3 遺構と遺構出土の遺物

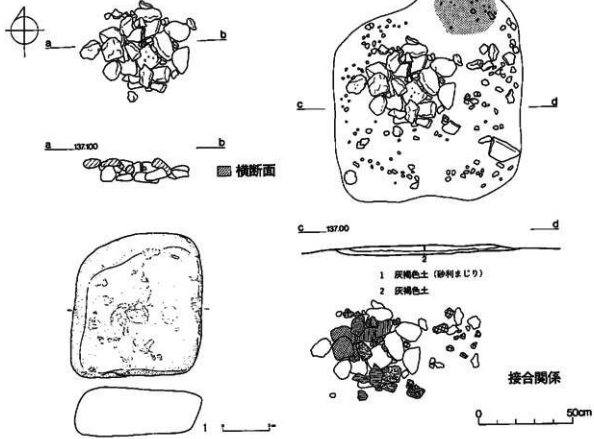


P-7



図IV-10 P-6と出土遺物 (2)、P-7と出土遺物

S-1



図IV-11 S-1と出土遺物

4 包含層出土の遺物 (図Ⅳ-12~61、図版Ⅳ-9、11~49)

包含層から土器が28,406点、石器等が70,458点、合計98,864点出土した。石器等のうち黒曜石の切片が67,773点を占める。遺跡の概要でも述べたとおり包含層が削平されている部分が多いため半数以上が耕作土（Ⅰ層）出土のものである。また包含層（Ⅱ、Ⅲ層）の遺物も流水の作用により動かされているものが見られた。このため遺物の分布は本来的なありかたを示しているとは言えないが、C₁ラインより北側の大きく削平されている範囲を除くと、調査区を南側から北東側に向かってある工事用道路よりも東側の地区が包含層の残存状態が良く遺物が集中する傾向が見られた。また432ラインより東側の古沢地形に侵食された凹みに沿って遺物を多く包含する黒褐色土（Ⅲ層）が堆積していた。とくにC₁-432-2区周辺では縄文後期および晩期の土器、多量の黒曜石のフレイクが出土している。また430ラインの南西側は傾斜地形になっておりC₁-424区の狭い範囲に部分的に包含層が残っていた。出土点数は少ないが前期の土器が出土している。

1) 土器 (図Ⅳ-12~44、図版Ⅳ-11~38)

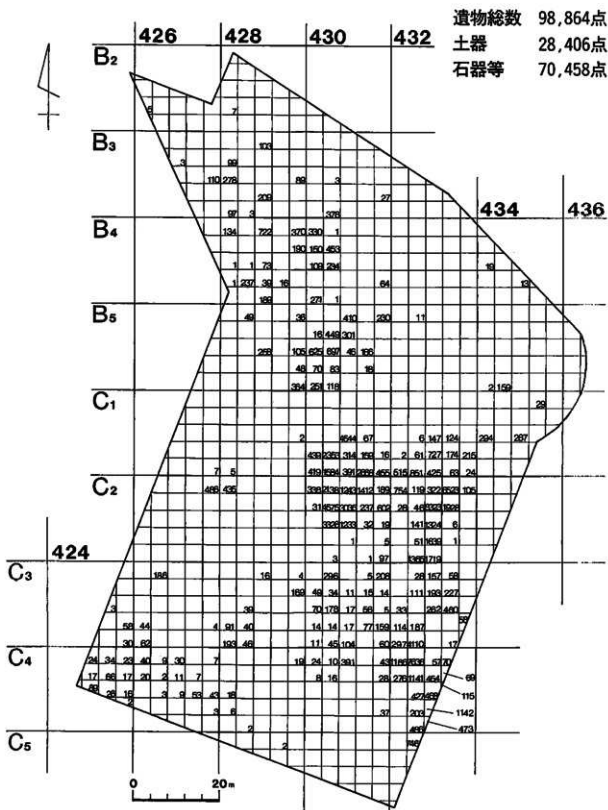
縄文時代前期（Ⅱ群）、中期（Ⅲ群）、後期（Ⅳ群）、晩期（Ⅴ群）、統縄文時代（Ⅵ群）に属するものがある。主体となるのは晩期の土器片で90%近くを占める。ついで後期の土器が多く、中期、前期の土器群もわずかながら出土している。また統縄文時代に属する土器が6点出土した。ごく一部のぞき、破片は小片で表面の磨滅が著しく胎土に含まれる石英等の鉱物や小砂利が露出している。

Ⅱ群土器 (図Ⅳ-17~20、図版Ⅳ-13~15、38)

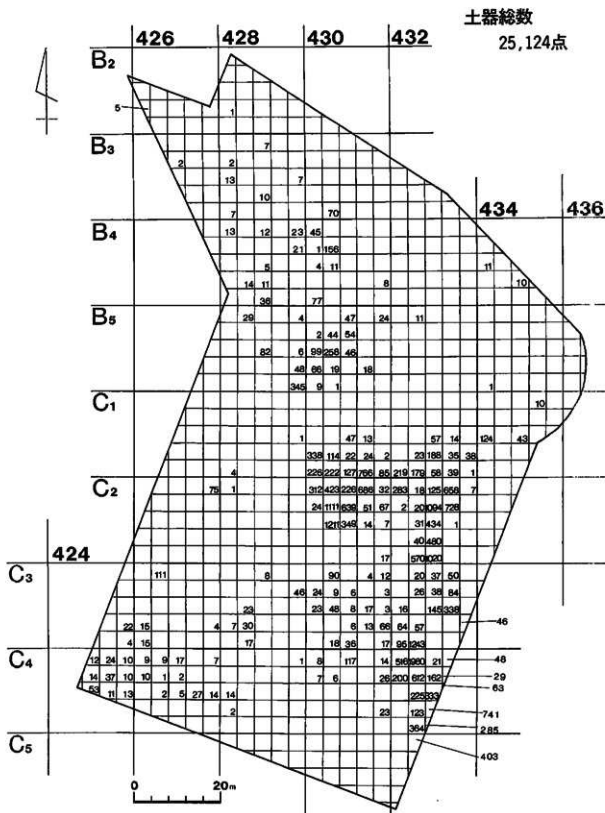
Ⅱ群b類に相当するものがⅠ層から156点、Ⅱ層、Ⅲ層から104点、合計260点出土した。文様、胎土からⅠ類~5類に分けられる。

1類(1~12)；36点出土した。胎土に数mmから5mmほどの大きさの滑石が混入しているもので、無文のもの(1~9、12)と縄文の施されたもの(10、11)がある。また径が1~2mmの小砂利も混じる。色調は表裏面ともにやや灰色がかかった黒色を呈するもの(1~6、10、12)と茶褐色、にぶい赤褐色を呈するもの(7~9、11)がある。前者は土器の内面まで黒色である。表面が剥げ落ち、混入している粒が器面に浮き出ている。後者では胎土に混入している滑石の粒が小さく、砕いた細片もみられる。また小砂利の混じる割合が前者よりも多い。いずれもしっとりした感触があり、見た目よりも軽い。調査区南東の旧沢地形部分、C₂ライン周辺のⅡ層から出土した。1~4は口縁部の破片。1、2は同一個体とみられる。粘土の剥落部分とは様子が異なり器面に指でつまんで成形したかのような凹凸がある。厚さも不均一である。口縁は不規則に波打つ。口唇は丸みを帯びている。推定口径は20cm前後とみられる。3は口唇は角形で縄あるいは棒状工具でつけたと見られる浅い圧痕がある。4は口縁部下位2cmほどの位置に断面が三角形の隆帯を巡らせている。5、6は胴部の破片であるが粘土の剥落が著しい。7は滑石の混入がほかのものと比べて少ない。8、9、11と同一個体の可能性がある。10は口縁部を肥厚させその部分にRL原体による縄文を施している。器面が磨滅しているがLR原体による縄文が施文されている。12は粘土を貼り付けて盛り上がった部分がある。

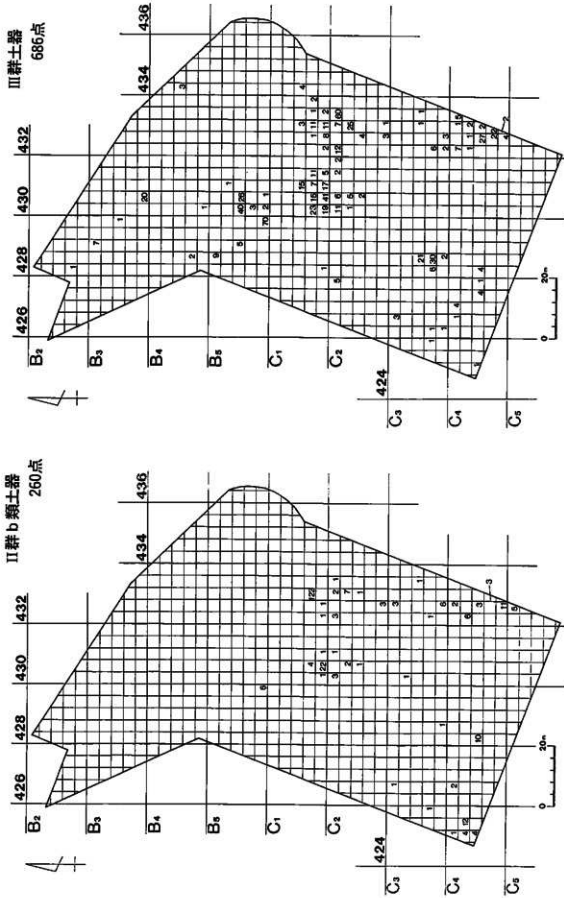
2類(13~16)；刺突文の施されているもの。調査区南西側から5点出土した。いずれも胎土に小砂利が多く混じる。13~15は細長い刺突文が施されている。13は色調は暗褐色で焼成は良い。厚さ11mmほどである。器面には幅2mmほどの先の丸い棒状施文で真横から細長い円形の刺突文を施している。上下で施文する位置を変えることで文様効果を高めている。口唇は表裏面角が丸みを帯びる角形で、同様に施文されている。14は色調が暗赤褐色を呈するもので、13と同様の施文で上から施文している。16は円形刺突文が施されている。



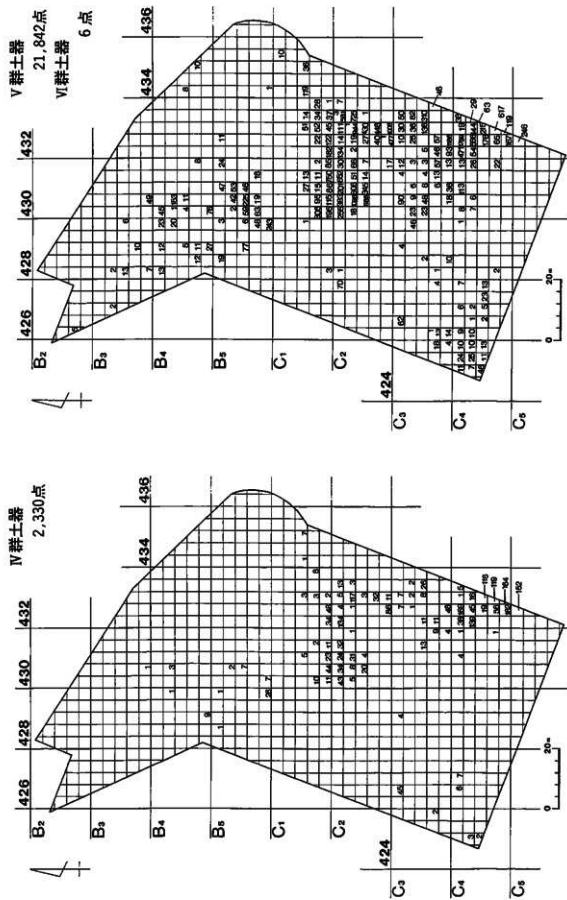
図IV-12 包含層出土の遺物分布



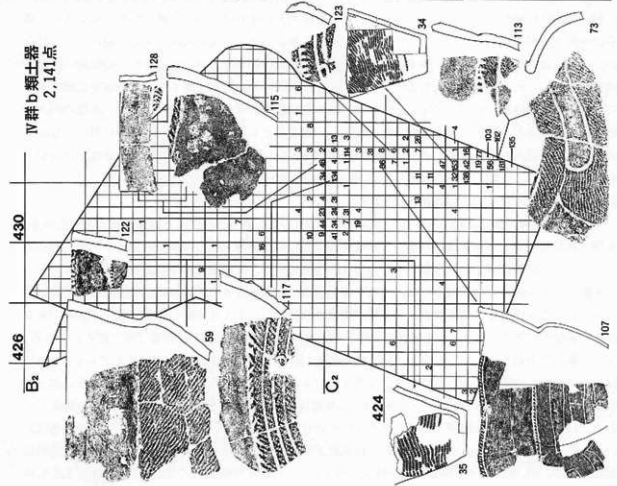
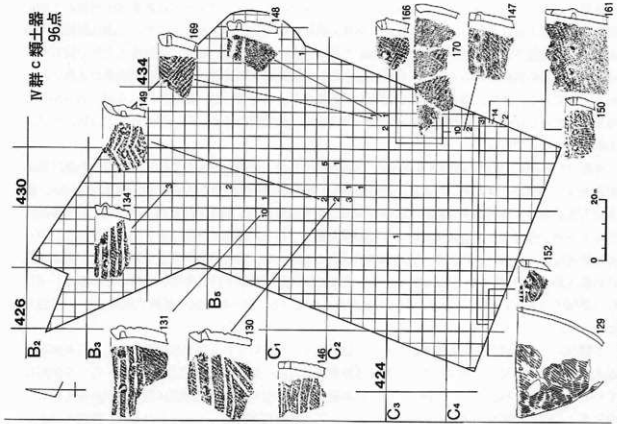
図IV-13 土器の分布 (1)



図IV-14 土器の分布 (2) II群b類・III群



図IV-15 土器の分布 (3) IV群・V群



図IV-16 土器の分布 (4) IV群b類・IV群c類

3類(17~27)；短刻線文による模様のあるもの。20点出土した。出土地点は調査区南西側の2類土器の分布範囲とほぼ重なる。17~21は同一個体の破片。胎土に砂粒が多く混じる。色調は黒褐色で内面は平滑に調整されている。口唇断面は角形で短い刻みがある(17)。器面には棒状施文具で縦方向に連続する山形の模様を刻んでいる。器面にはあらかじめ沈線文が横位に施され、文様帯が区画されているようである。また沈線の部分には刺突文がある(18)。また17、19、20にみられるが、あらかじめ焼成前にあけられた貫通孔が複数ある。22~27は山形、矢羽状のもの。24、25では一方の刻みが長めの刺突文となっている。

4類(28~62)；押型文の施されたもの。184点出土した。掲載したものでは2点を除き色調は暗赤褐色を呈し、胎土には石英、小砂利が比較的多い。29~39は矢羽状文のもの。29~34は同一個体。胎土に石英が多い。口唇断面は丸みを帯びた角形でやや肥厚させ、口唇上には刻みがある。上下で逆向きの矢羽状文様があり、羽状縄文のような効果を見せている。平底で外側にわずかに張り出す(34)。39は縦方向のもの。40~43、46~50は斜格子目文のもの。49、50は黒褐色を呈するもので、胎土に石英の混入が少ない。浅く施文されている。44、45は矢羽状文と斜格子目文を組み合わせている。51~61、62は斜格子目文と「逆3」の字状の押し引文が施されている。51~61は同一個体で風倒の跡から122点出土した。

5類(63~74)；押し引文の施されたもの。12点出土した。いずれも黒褐色を呈し胎土に石英が多く混入する。押し引文の原体は幅2cmに収まる箕状工具(62~69)と櫛歯状工具に(70~72)を使用しているとみられるが、器面が磨滅しているため断定はできない。63は口縁部に肥厚帯があるもので、内外面に「△」の頂部を突合せた様な文様がある。工具の両端が突出していると見られ、表面では上下の端が沈線文に裏面では刺突文状になっている。肥厚帯上の圧痕は楕円状で筋がかすかに見える。絡条体圧痕文の可能性もある。あるいは器面にみられる押し引き文の工具の施文角度の違いかもしれない。64~66は内外面に「逆3」の字状の文様がある。64は口縁部に近い部位のもの。65は薄い貼付帯が弧状に付けられその上にも施文されている。66は口縁部内面が湾曲するものでその部分に施文されている。67~69は63に類似の文様がある。70、71・72にはそれぞれ3個一単位、4個一単位の凹みがある。径3mmほどの棒状のものを櫛歯状に配列し、施文具としてしているとみられる。押し引いたものとみられるが、器面の磨滅が著しく引いた痕跡は明瞭ではない。73、74を含め刺突文と分類した方がよいかもしれない。4類、5類の土器片はC₂ライン周辺のII層から出土している。

III群土器(図IV-21~23、図版IV-15~17)

I層から303点、II、III層から383点、合計686点出土した。a類は少なくb類が9割以上を占める。b類では北筒式(トコロ6類)に相当する破片がある。分布は包含層のある範囲全域から散点的に出土している。口縁部が17点、底部5点であった。全体の器形、文様構成の分かるものはない。

a類；(1~20) 44点出土した。円筒土器上層式に相当するもの。胎土に石英はほとんど混入していない。1~16は貼付帯と刺突文で文様が構成されている。1~6は同一個体の破片。接合できなかったがほかに20点ほどある。焼成がよく薄手で色調は赤褐色を呈する。内面は丁寧に磨かれている。1は口縁部付近の破片。いずれも細い貼付帯が横位に施され、その間に刺突文が施されている。8~15はやや太めの貼付帯のあるもので半截竹管状工具による刺突文がある。8には撚りの異なる3本一組の縄線文と刺突文がつけられている。9、10はLR原体による縄文が施文されたもの。12には縄線文がある。14の胎土には小砂利が多く混入する。17~19はやや厚手のもの。17、18は同一個体の可能性がある。胎土に砂粒が多い。口縁は外反し口縁部直下幅3cmほどが無文帯でこの部分に貼付帯を波状に施している。RL原体による斜行縄文が施文されている。内面には横方向に条痕がある。20はLR原体

による縄文のもの。これらはサイベ沢Ⅳ式に相当するものとみられる。

b類；(21~60) 642点出土した。萩ヶ岡4式、柏木川式に相当するものである。胎土には石英が多く混じるものが多い。繊維の混じるものはない。21~32は口縁部、突起部の破片。21、22は口縁部に貼付帯が施文されている。21には胎土に石英がほとんど混入せず砂粒が非常に多い。口縁部に沿って貼付帯をめぐらせ刺突文を施している。刺突文の原体は縄端部の可能性がある。また口縁部内面から縦位に貼付帯を折り返し状に施し垂下させ突起部を形成している。貼付帯上には縄の圧痕が斜めにつけられている。器面には綾絡文が3条ある。結節の部分強く押しつけ施文しているため、地の縄文が破らである。22は胎土の石英が器面に浮き出ている。縦の貼付帯は剝落している。口唇断面角形で先の丸い棒状工具による刺突文がある。23~25、27の口唇断面はやや丸みを帯びた角形で口唇部あるいは器面に半載竹管状工具(24、25)や棒状工具(23、26)による刺突文がある。23、26はLR原体による縄文のもの。23は刺突文が縦に列をなす。24、25には口唇部に刺突文に加え先の尖った施文具で細い沈線が引かれている。26は口縁が外反する。器面は凹凸が著しく、やや太めのLR原体による縄文が施されている。口唇断面は丸みを帯び内側に刺突文がめぐる。28、29は粘土紐を貼り付け肥厚させた突起部。刺突文がつけられる。30は口唇上に縄文が施文されている。31はLR原体による縄文地に沈線文が施されている。32はRL原体による縄文のもの。

33~50は胴部の破片のうち特徴のある文様のもを一括した。33~37は貼付帯のあるもので、33~35、37、38にRL原体による縄文のものである。33、35、36、38には半載竹管状工具による刺突文のものである。34の貼付帯には棒状工具での刻みがある。36、37はやや幅広い貼付帯のもので、37には指頭による圧痕が連続してつけられている。39は押し引き文が施されている。40~50は縄文のみの破片。40は内面にも施文されている。41はRLR原体による複節のもの。42~45は綾絡文がある。46~50は結束羽状縄文のもの。46は無節のもので結束部分に変形している。48は太さの異なる原体を使用している。50~56は底部および底部に近い部位の破片。52は底面外側がやや張り出している。

57~60は北筒式(トコロ6類)に相当するもの。57は胎土に砂粒が混じるが、石英はほとんど混入しない。口唇内側角が丸みを帯び内面は丁寧に調整されている。器面には0段多条のLR原体による斜行縄文が施され、内面上部にも浅く施文されている。口縁部には縄線文が2条施されその下位にO・Iの円形刺突文がある。58は口唇断面はやや丸みを帯びた角形。器面は磨滅が著しいがLR原体による縄文がかすかに見られる。口縁部肥厚帯下に円形刺突文がめぐる。59、60は円形刺突文のある胴部の破片。

IV群土器(図Ⅳ-23~34、図版Ⅳ-9、11、12、17~28)

I層から587点、II、III層から1,743点、合計2,330点出土している。調査区南東側の旧沢地形のくぼみから多数出土した。このうちb類が2,141点ありa類とc類は少ない。a類には北筒Ⅳ式と見られるものが1点ある。b類では文様要素の違いで2類に大別できる。ただし胴部の小破片では細分できないものもあり、集計では一括した。器形のわかるものは多くない。

a類；(1~33) 93点出土した。1は北筒Ⅳ式に相当すると見られるもの。胎土に石英が比較的多い。口唇断面はやや丸みを帯びた角形でRL原体による縄文が口唇上にも施されている。径3mmほどの棒状工具による貫通孔がめぐっている。

2~33は入江式(大津式)の新しい段階あるいは白坂3式頃に相当するもの。いずれも口唇断面は角形で縄文が施文されているものがある。2~8は同一個体の破片。C₉-426-2区から大型の破片がまとまって出土した。色調は黒褐色を呈し磨滅しているが焼成は良い。胴部があまり張り出さず口縁部が直線的に開く深鉢形土器。口縁部の幅が広く、頸部には幅1.5cmほどの無文帯がある(2)。口唇断

面は角形で口唇上にも施文される(3)。口縁部の文様はLR斜行縄文地に部分的に屈曲する平行沈線文を複数施している。胴部の文様は大柄な磨消縄文による文様が施されている。あらかじめ沈線文で文様を描き、縄文を充填させる方法である。縄文地には沈線で「乙」字文が描かれている。9は「鉤の手」状の平行沈線文が施されている。口唇上にも施文がある。10~14は同一個体とみられる。厚さが約6mmと薄手である。器形は2と類似の深鉢形とみられる。胎土に1、2mmの小砂利が多い。口唇断面は角形で、口唇直下と頸部にそれぞれ1条太い沈線をめぐらせている。口縁部と体部にはRL原体による縄文地に磨消縄文により入組文に似る文様がある。15、17は緩やかな山形口縁のもの。口縁に沿って沈線を2条引いている。頸部には幅の狭い無文帯がある。LR原体による斜行縄文地に口縁の山形に沿って同心円状に沈線を施している。16、18~22の口縁部にはLR原体による斜行縄文地に沈線で連続する鋸歯状の文様が描かれているもの。16、18は同一個体とみられる。焼成がよく胎土に大きいものでは5mmほどの小砂利が混じる。緩やかな波状を呈し、口唇直下に1条沈線がひかれている。20、21は太い沈線で雑に施文されている。23~29は口縁部付近の部位のもの。23は同心円状の沈線文が、24~27には鋸歯状の文様がみられる。28は波頭状の文様がある胴部の破片。30~33は同一個体。薄手で口唇直下に1条沈線が引かれ、これを繋ぐ弧線の文様がある。

b類-1類；(34~106) 手榴式に相当するもの。b-2類の土器も含め本類の土器には、一部を除き胎土に数ミリ程の大きさの小砂利が混じる顕著な特徴がある。石英の混入はほかの群の土器よりも少ない。34はC₄-432-23区からほぼ完形の状態で出土したものの。口縁と胴部の一部を欠く。口径14cm、高さ12.5cm、平縁で体部にくびれの無い小型深鉢形土器。胎土には2~5mmの小砂利が顕著である。焼成はよく色調は茶褐色を呈する。器面は凹凸がありLR原体による横走気味の縄文が施され胴下半部から底部は無文となっている。内面には横位に条痕が認められる。35は胴下半部の2分の1ほどが残存する。34と類似の深鉢形のもの。やや太めの原体による横走気味の縄文のもの。

36~58は縄文地に沈線で文様のある口縁部、胴部の破片を一括した。地文の縄文は37、50のみがRL原体である。36~44は口縁部に平行沈線文が複数施されるもので平縁とみられる。口縁直下の狭い範囲が無文となっている。44は沈線間を弧線で繋いでいる。45は曲線を描く沈線文のもの。46~49は波状口縁のもの。46は山形の口縁で波頂部の断面はやや丸みを帯びている。横位の線を縦の線で繋ぐ文様がある。47は同一個体の可能性がある。49は口唇直下まで施文されている。50は平行沈線文を繋ぐ弧線がある。51~56、58には明瞭な深い沈線文が施されている。51は頸部がくびれる器形になるとみられる。口縁部付近から列点文を2条垂下させている。52、53は同一個体とみられ平行沈線文を斜めに区切る短い線がある。54の縄文は条の細いもので、入れ子状の鋸歯状文で文様が構成されている。55、56、58は2ないし3条の縦の平行線で区切られている。

59~71、82は口縁部に比較的幅の広い無文帯があるものである。59~62は同一個体の破片。頸部が段状にくびれる平縁の大型鉢形土器。焼成は非常によく色調は黄褐色を呈する。破片は大きく輪積みの位置で割れていた。口縁の無文部は丹念に磨かれている。64は小型であるが同様の器形のもの。56、57はくびれの無いもの。68は体部に平行沈線文が浅く施文されている。69~71は波状口縁のもの。70は非常に精製された胎土のものである。

72~75は壺型土器の破片。72は口縁の狭い範囲に沈線をめぐらせ縄文を施している。72~74は同一個体。精製された胎土のもので黒褐色を呈する。口縁部が「く」の字状に開くものであろう。大柄な磨消縄文による文様がある。76~79は注口形土器の破片。薄手で黒褐色を呈する。無文地に沈線で曲線文が描かれている。内面は凹凸が著しい。80、81は波頂部につけられる突起である。破片の大きさから推測して大形土器のものであろう。大きな山形を呈し三角形の窓が開けられている。80の正面左、

81の正面右には、割れ面の状態から小突起がある可能性がある。同一部位の破片はこのほか2点ある。

83～106は縄文の施された口縁部を一括した。83～101が平縁のもの、102～104は波状口縁のものである。地文はLR斜行縄文のものが多く、RL斜行縄文のもの(99～101、104)は少ない。102にはかすかに、2条の細い沈線文が見える。105、106は横走気味の縄文のものである。同一個体の可能性がある。

b-2類；(107～128) 鋸歯式に相当するもの。口縁部が外反するものがある。口縁部、頸部のくびれ部の上下を沈線で区切り刻み目が施されることでb-1類とは明瞭に区別できる。口唇断面はいずれも角形で平滑に調整されている。107、108、110、111は同一個体の破片。胎土は非常に精製されたもので、焼成もよく灰褐色を呈する。内外面ともに篋状工具で丁寧に調整されている。図上で器形を復元したもので、推定口径41cm、現存する高さ34cmの緩やかな波状口縁を呈する大形深鉢形土器。器高は40cm内外になると見られる。器面には沈線を施した後、長さ3cm位の短いLR原体を用い、磨消縄文で大柄な帯状の文様を描いている。厚さは口縁部では11mmほどであるが底部に向かい7mm程と薄くなる。109は口縁部の刻み目の方向を変えるものである。当初は焼成、胎土が類似するため同じものとしてあつたが別個体であろう。112は頸部に1条の沈線が引かれその下位に刻み目がある。113、114は同一個体の破片が20点ほどあつた。屈曲のほとんど無い器形である。非常に細い原体による縄文が施文されている。115～120は同一個体。輪襷みの位置で大きく割れていた。緩やかな波状口縁のもので、口縁部が大きく開く器形である。浅鉢形を呈するかもしれない。無文帯は幅広く、口縁部付近では厚手であるが胴部に向かい薄くなっている。平行沈線文とそれを繋ぐ短い弧線文があり文様帯を区画する太い沈線文は段状で、その部分に途中で方向を逆にする刻み目がある。焼成は良く内外面ともに丹念に調整されている。121～127は口縁部、胴部の破片である。122はくびれの無い器形のもの。124～126は精製された胎土のもので小砂利は混入しない。0段多条の細い原体を用いている。127は胴部に施された沈線文に刻み目列がある。128は口径12cmほどの壺型土器の口縁部。薄手の精製された胎土のもので黒褐色を呈し器面に光沢がある。

c類；(129～172) 96点出土した。堂林式に相当するものである。旧沢地形部分に比較的まとまっている。器形のわかるものは1個体のみである。129は口径14cm、現存する高さ14cmの小型深鉢形土器。薄手で焼成が良い。底部は欠損しているが全体の3分の2程が残存する。口縁部は外反し胴部にやや膨らみがある。口唇断面は切り出し形で、0段多条のLR原体による縄文を施文後突瘤文をめぐらせている。

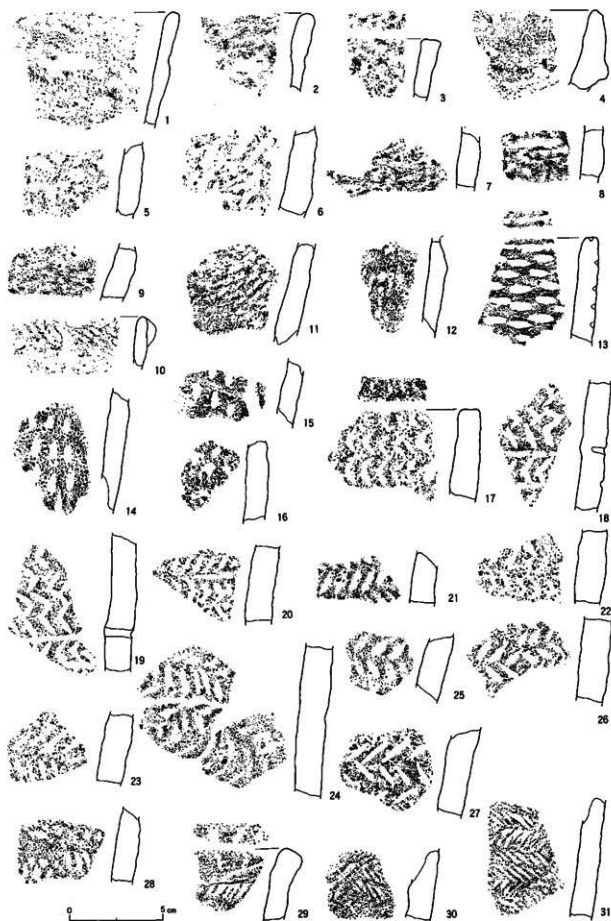
130～149は口縁部に横位の平行沈線文が施されるものである。複数施されているものが多く、141、143にみられる様な1条のものは少ない。135のように深く明瞭なものと同影図でしか判断できない擦痕状のものがある。口唇断面は切り出し形のものと同角形(133、139、146～143)のものがある。突瘤文は複数のもものでは上位の2本の沈線文間に施される。130は鋸歯状の文様が施されている。141、143には外側角に浅い刻み目がある。149は唯一確認できた波状口縁のもの。150～153、156～160は焼成が良い薄手の黒褐色を呈する土器である。口縁部に1条沈線が施され口唇角に刻み目がある。152、153、156の口縁部には曲線的な磨消縄文による文様がある。小破片のためはつきりとはしないが同一個体の可能性がある。口唇部に刻みのある土器は古い要素を持つものであろうか。

161～172は縄文のみが施されているもの。突瘤文のある土器と無い土器(170～172)がある。161～163は同一個体。口唇部を指頭で押すことで小波状口縁を形成している。166～169は羽状縄文のもの。170、171にはRL原体による縄文がある。

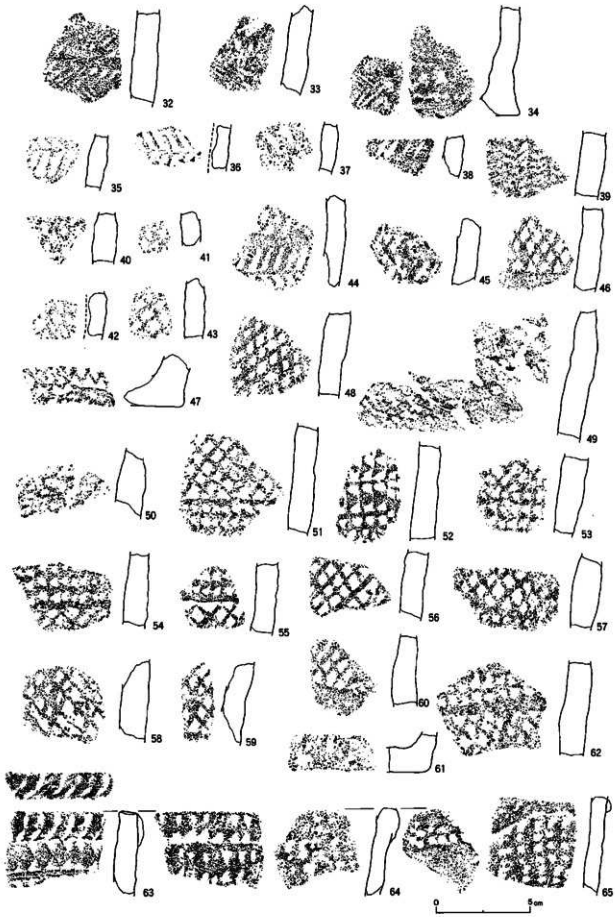
173～178はIV群土器の底部を一括した。破片は48点出土している。178には底面に指で成形した際の圧痕がある。

(遠藤香澄)

4 包含層出土の遺物

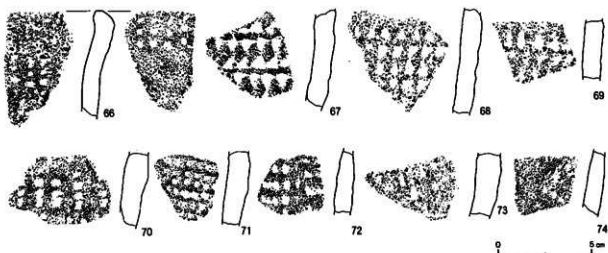


図IV-17 包含層出土のII群b類土器 (1)

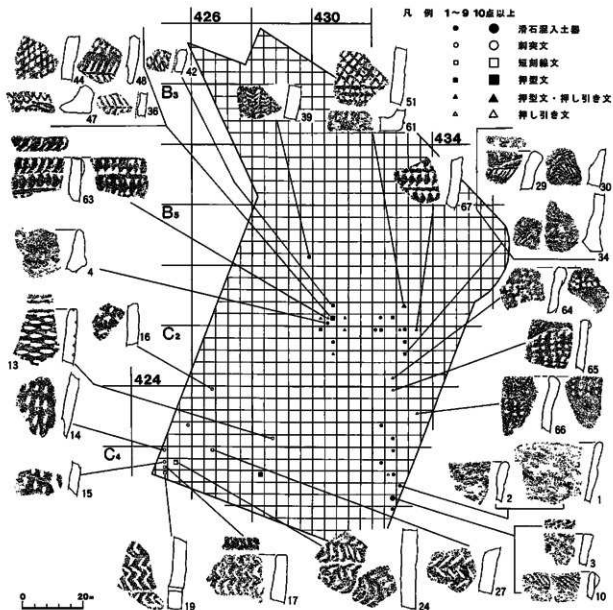


図IV-18 包含層出土のII群b類土器 (2)

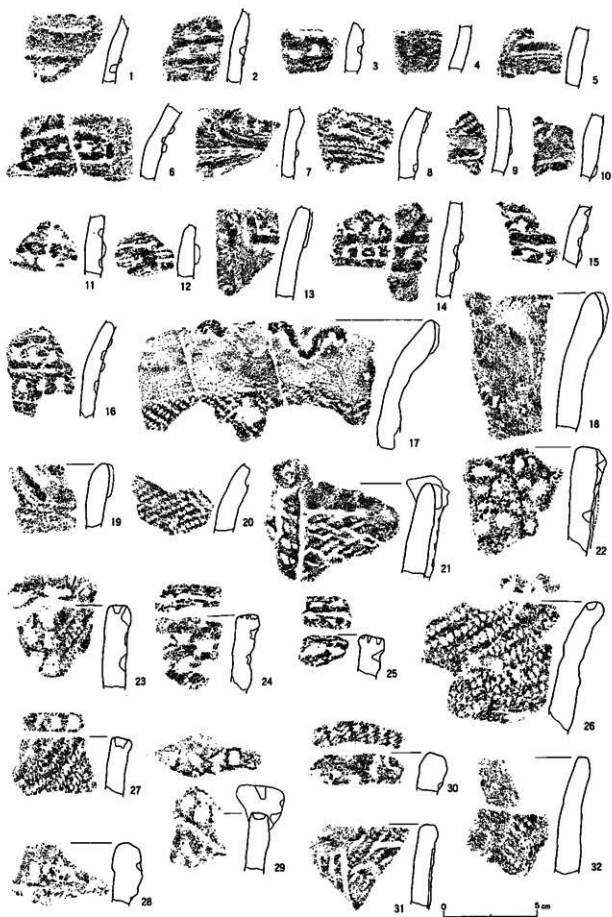
4 包含層出土の遺物



図IV-19 包含層出土のII群b類土器 (3)

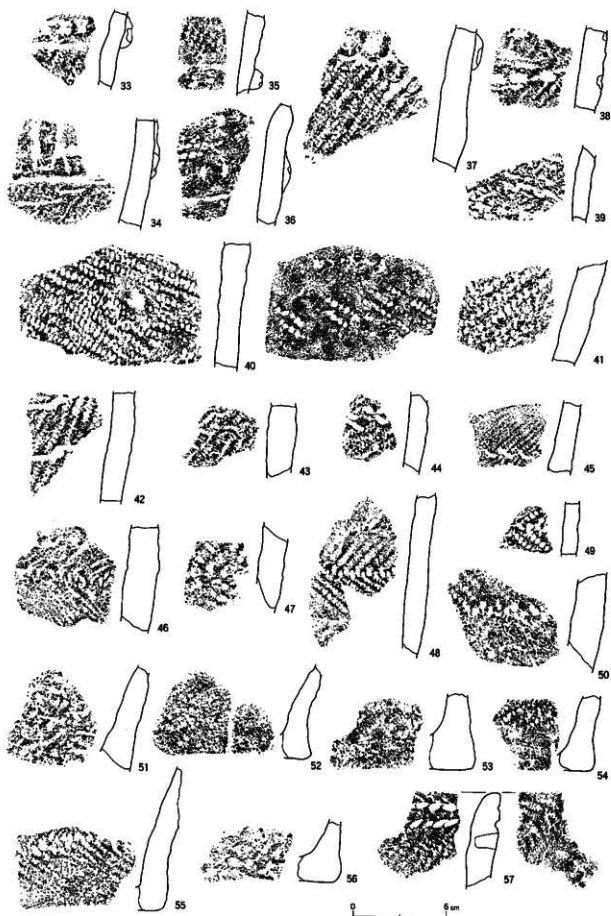


図IV-20 II群b類土器の分布

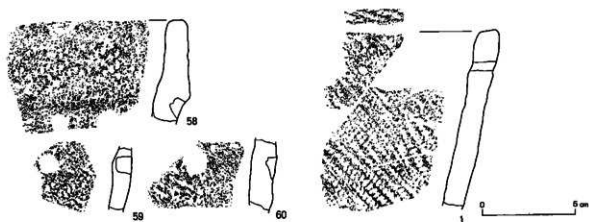


図IV-21 包含層出土のⅢ群土器 (1)

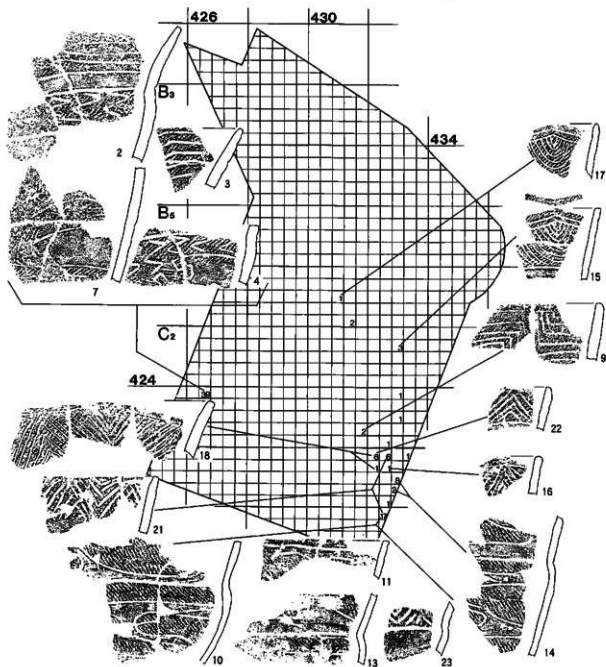
4 包含層出土の遺物



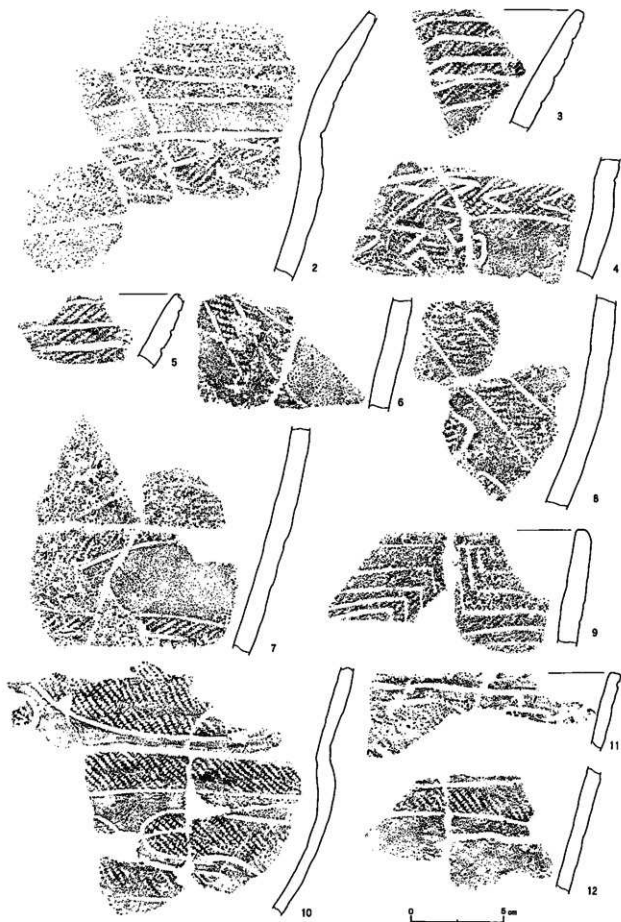
図IV-22 包含層出土のⅢ群土器 (2)



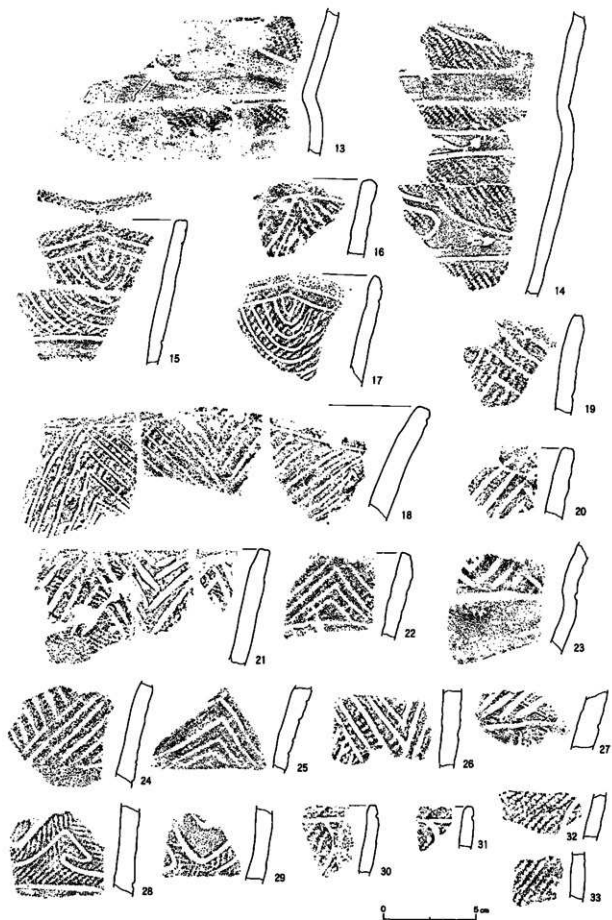
図IV-23 包含層出土のⅢ群土器 (3)・Ⅳ群a類土器 (1)



図IV-24 Ⅳ群a類土器の分布

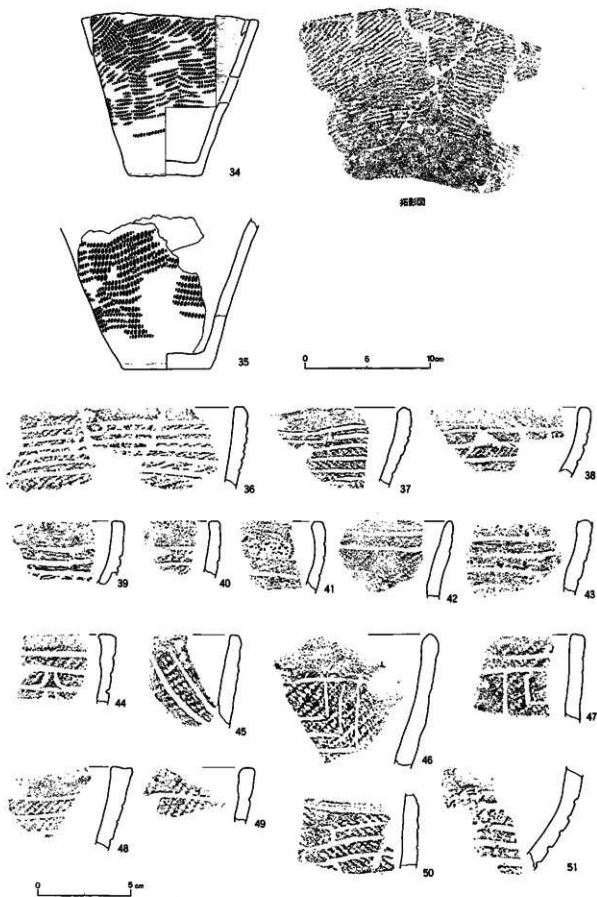


図IV-25 包含層出土のIV群a類土器 (2)



図IV-26 包含層出土のIV群a類土器 (3)

4 包含層出土の遺物

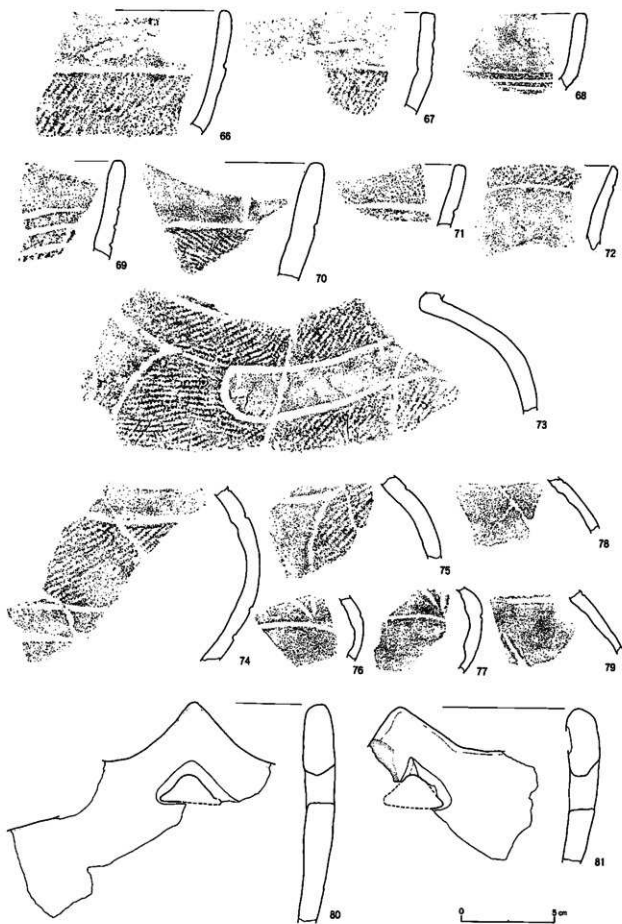


図IV-27 包含層出土のN群b類土器 (1)

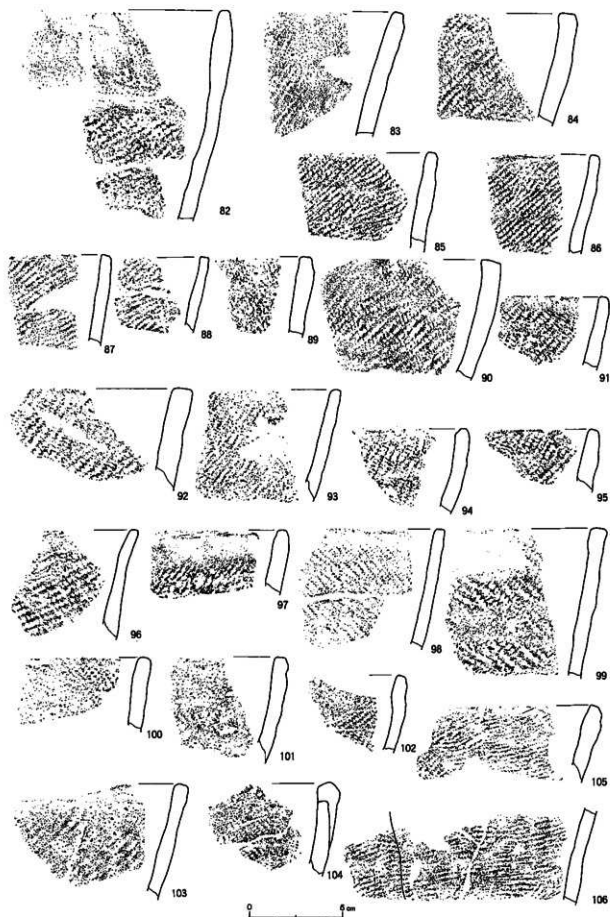


図IV-28 包含層出土のIV群b類土器 (2)

4 包含層出土の遺物

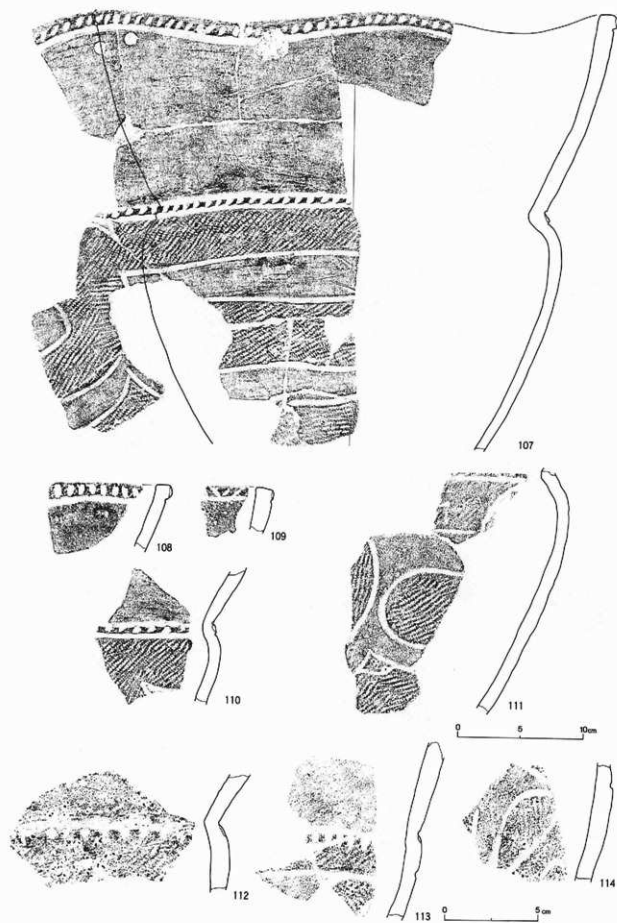


図IV-29 包含層出土のIV群b類土器 (3)

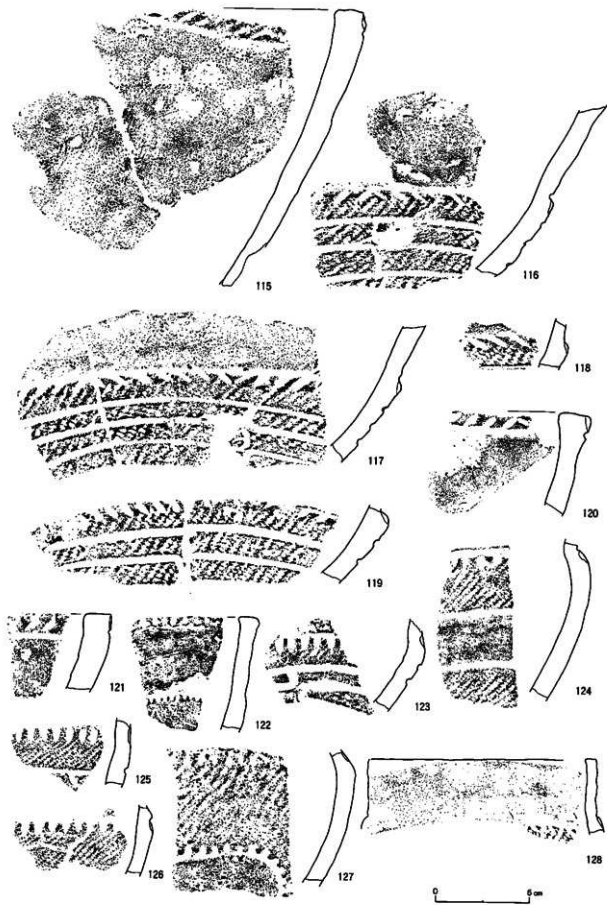


図IV-30 包含層出土のIV群b類土器 (4)

4 包含層出土の遺物

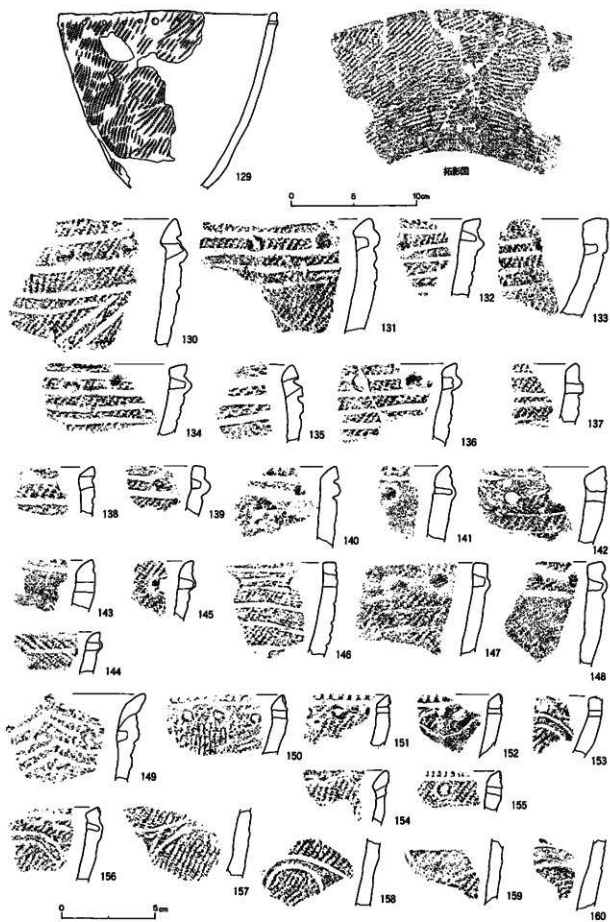


図IV-31 包含層出土のIV群b類土器 (5)

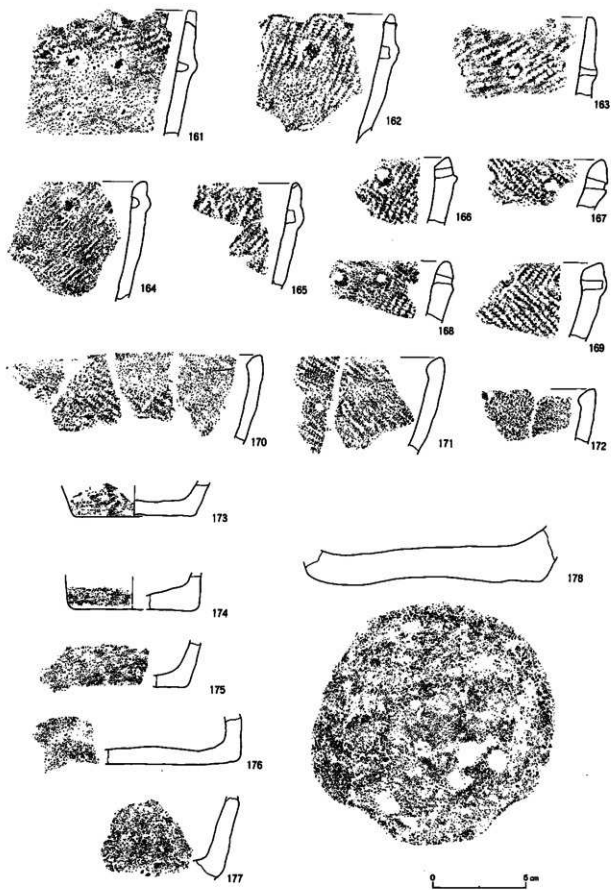


図IV-32 包含層出土のIV群b類土器 (6)

4 包含層出土の遺物



図IV-33 包含層出土のIV群C類土器 (1)



図IV-34 包含層出土のIV群C類土器 (2)

V群土器 (図IV-35~44 図版IV-11・29~37)

V群c類、特に晩期末の土器が多い。V群a類の土器はほとんど出土しておらず、V群b類の土器も少量みられる程度である。器種は壺形土器(7)、鉢もしくは深鉢形土器(1・2・8~168)、浅鉢(3・169~177)、舟形土器、もしくは胴部に張り出しのある鉢形土器(4・178~203)がある。壺形土器が極端に少なく、深鉢形土器、舟形と考えられる土器が多い。器面は摩耗し、胎土には砂粒、石英、長石等を含むものが多い。土器片は小さいため、全体の器形、文様構成の分かるものはなく、主に口縁部のみを図示した。以下復元土器、拓本土器の順に述べる。

復元土器 (1~4)

復元土器は4点である。いずれもV群c類と考えられる。胎土には砂粒、小砂礫、長石等がみられる。1は深鉢形土器。口縁部は直立し、口唇断面は切り出し形で、口唇には縄文が斜めに施される。口縁部には2か所に緩やかな波頂部があり、胴部はややふくらむ。底部は丸底で、やや楕円形である。文様はLR原体による斜行縄文で、底部にも施文される。内面には炭化物が付着する。2は小型の鉢形土器。口縁部は2対の波状となり、貫通孔が穿孔される。口唇断面は角形である。底部はくびれて張り出し、平底となる。孔は外側斜め下からあけられている。無文と思われる。3は浅鉢形土器。口唇上と口縁内面に2条のR原体の縄線が施文される。文様は斜行するRL縄文が施され、底部にも施文される。内面は磨かれている。4は胴部が「く」の字に張り出す鉢形土器で、舟形土器に近いものである。口縁部はやや内傾し、胴部中央で張り出し、丸底となる。同一個体と思われる破片(5・6)で推定すると、貼り付け部2対とその中間に2対の4つの波状突起をもつ器形となつてと思われる。4つの突起部にはすべて斜め下方から孔があけられている。張り出し部上部には地文の上から沈線で、角度の急な弧線文と緩やかな弧線文が描かれる。底部にも地文上から数条の円弧文が向き合った沈線が施される。

拓本土器 (5~206)

壺形土器(7)

7は壺形土器の頸部である。口唇断面は角形で、内面は磨かれる。

鉢もしくは深鉢形土器 (8~168)

口縁部は平縁で、口唇断面は角形、切り出し形のものが多い。口唇上には縄や棒状工具による刻みが入られる。口縁部は直立するものと、口縁部付近で開くものがみられる。文様は縄線文、曲線、弧線などの沈線文、縄文で構成される。縄文はLR縄文が斜行するものが多い。

・縄線文が施されるもの (8~39)

縄線文は口縁に平行に施文されるものが多いが、斜め(22・23・25・26・28)や縦(29~31)に施されるものもある。縄線文は14を除き、2条から6条の複数条で、無文部(18~23・27・31)もしくは縄文地に施される。縄文地に縄線文が施されるものも、縄線から口唇部間は軽く縄文を摩り消しているものがある(8・9・12)。口唇上には多くは縄による刻みが入られる。ほかに半截竹管状の工具(20)、ヘラ状工具による刻み(21・22)があるもの、無文(12・14・35)のものがみられる。

8は口唇断面が、つまみ出しにより薄く尖り、やや外反する。12は口唇断面が角形で、補修孔がある。14は口唇直下に縄線が押されることにより口唇は尖る。15~17は地文の縄文が縦行する。15は口縁下の無文帯に縄線文が施文される。16・17は同一個体で、口唇部直下には幅の狭い無文帯がある。

19・20はRL原体の縄線文が巡る。19は口唇断面は丸みを帯び、口縁部内外面に縦に縄圧痕が施文される。20は口唇部に半載竹管状の工具で斜めに刻みが入られる。23は内面に縄端のある縄線が斜めに施される。24は馬蹄形の貼り付けのあるもので、貼り付け中央より穿孔している。器形の上面観は楕円形で、丸みを帯びた器形になりそうである。25・26・28は同一個体である。斜めに縄線が施文される。胎土は焼成が良く、固くしまる。27は口唇部が指頭により押圧される。31は内面が指頭による整形による凹凸がみられる。32~34・36は細い縄線文が施されるもの。32はRL原体の縄線文が5条巡り、地文もRL原体の縦行縄文である。33は6条のL原体の縄線文が巡り、横走するRL縄文が施される。38は口縁部内外に縦に短い縄圧痕が刻まれる。口縁部は薄く、縄圧痕が表裏から交互に押されることにより、上面観は波状で、外反気味となる。39は縄端圧痕が口縁部に施される。口唇部には棒状の工具で刻みが入られる。地文はRL縄文である。

・縄線文と沈線が施文されるもの(40)

縄線文の間と縄線文上に沈線が部分的に引かれる。口縁内側には縄圧痕がみられる。

・沈線文が施文されるもの(41~113)

沈線は1条のもの(41~43)、数条の平行沈線(44~46)、鋸歯状もしくは斜位(53~67)、縦位(68~71)、変形工字文(74~85)、弧線文(86~106)などが特徴的に施文される。沈線文と刺突文が組み合わせられるもの(47~52・118)もある。

41~43は口唇断面が角形もしくは肥厚し張り出す。42は口唇部に非常に細い沈線が斜めに引かれる。44は太く浅い沈線が引かれる。口縁部外側から指頭により押圧され、口縁は波状となる。45は口唇断面が角形で、口唇部内側縁に縄圧痕が施文される。46は胴部が膨らみ、口縁部は緩やかな波状となるようである。口唇部には半載竹管状の工具で刻みが入られる。縦行するLR縄文の上に沈線が3条施される。

47は口縁直下から2条の沈線をはさみ3列に縄端圧痕が押される。沈線は太く、浅いものである。指頭によるものかもしれない。胎土には多量の砂粒が混じる。48は平行沈線と交互に、斜め下方から竹管状工具による刺突がある。口唇には3cm程の間隔で棒状工具により刻みが入られる。地文のRL縄文である。49は竹管状の工具で刺突される。50は尖った工具による沈線の上に縄端圧痕が押される。地文はRL縄文である。51は2条の沈線下に縄端圧痕が押される。52はL原体の縄線を縦位に施文後、沈線が引かれ、下方からの刺突が沈線間と沈線上に施される。

53は2条線の間には縄端圧痕が押され、その下に斜位に沈線が引かれる。54は平行沈線の上から鋸歯状の沈線が施される。口唇断面は切り出し形で、口唇部にはRの縄線が押される。55は斜めに指頭によると思われる幅広の沈線が引かれる。56・57は同様の文様構成をもつ。同一個体ではないが、砂粒、長石を含むなど胎土は同じである。沈線が口縁部直下の無文部から数条引かれ、その下に鋸歯状の沈線が施される。鋸歯状沈線の間には縄端による刺突が施される。地文の縄文はRLで、縦行する。平行沈線の上に縄文を施した部分もみられる。口唇断面は切り出し形で、口唇上は磨かれる。58~61は同一個体である。無文部に斜め、もしくは縦に明瞭な沈線が引かれる。口唇部は篋状工具で斜めに刻みを入れることで、波状に成形している。文様構成は3条を基本とした鋸歯状沈線を縦の沈線で区切るものと思われる。また器形は58で胴部に「く」の字の張り出しがみられることから、くびれをもつ鉢形となる可能性がある。62・63は斜めにやや曲線的な沈線が引かれる。64は外側から2つの貫通孔があげられる。66は沈線下に下方からの刺突文が施される。67は口唇部直下から長い斜めの沈線が引かれる。内面は磨かれ、口縁内側には炭化物が付着する。

69は3条の平行沈線と、それを区切る縦の沈線が施される。口唇部、口縁内部にLRの縄文が施文さ

れる。70は口唇部縁より縦に沈線が引かれる。口縁部は開き気味となる。71は口縁部から胴部の無文帯上に沈線が引かれ、沈線より下に縦行するLRの縄文が施文される。胴部は膨らみ、口縁部は直立する。口唇部には縄圧痕が施される。72・73は横走する沈線に交差する斜めの沈線が引かれるもの。72は半截竹管状の工具で蛇行する沈線が引かれ、その後太く、浅い沈線が斜めに施される。

74は渦巻き状の沈線の中央に、竹管状工具で刺突される。やや膨らむ器形となるようである。77・81は同一個体である。口縁部下の縄文地に深い沈線が引かれ、口唇部は指頭の圧痕が押される。81は沈線下は段がついた様に膨らみ、無文である。78・79は刺突文が施される。78は口唇部に棒状工具による刻みが入れられる。刺突が平行沈線の間に斜め横から施される。焼きは良い。79は竹管状の工具で刺突される。84は砂粒を多く含み、口唇部には縄圧痕が施される。内面は指頭により調整され、凹凸がある。

86は口唇断面が切り出し形で、口唇部には縄文が施される。また内面には炭化物が付着している。87は比較的細い沈線で施文される。内面は良く磨かれ、縄線が2条施される。89は内面に横位に1条、縄線文が施された後、磨かれてる。90・91は沈線のほかに縄線がみられる。90は土器最上部に縄線が押される。91の上から1条目の沈線は縄線文上から引かれている可能性がある。92は赤色顔料が付着する。熱を受け、左半分は内外面とも黒色化している。胎土は砂粒、石英等を含む。94は先端の尖った工具により沈線が施される。竹管状の工具により、押し引き状の刺突文が施される。95は内面に1条、横位に縄線文が押され、磨かれている。98は口縁部に近い部分と思われる。内面は凹凸がある。99は口縁部が直立し、胴部付近でやや膨らむようである。100は口縁部が外反する。101は無文部に沈線が引かれる。100・101とも地文はRL縄文で、縦位に施される。104～106は同一個体である。口縁部より弧線文が引かれ、その下に竹管状の工具により、押し引き状の刺突文が施される。107～113は細い沈線が施されるものである。107は角型の口唇断面で、口唇部はなでられている。109は細い沈線の上から円弧文が施される。沈線上部に斜め横からの刺突が巡る。V群b類と思われる。111は沈線を引いた工具で、刺突が入れられる。112は変形工字文が沈線により施される。117・119・120は刺突が施されたもの。胎土は焼成がよく、固くしまる。

・貼り付けがみられるもの (114・116・121～125)

114は刺突部から上下にL原体の縄線が施される。117・119は竹管状の工具で施文される。121・122はそれぞれ三角形、楕円形の貼り付けのあるもので、いずれも貼り付け部にはLの縄線文が施文される。122には下方より縄端による圧痕が施される。123は比較的短い貼り付けのもので、貼り付け右側は指でならされるが、左側は縄により押され、貫通孔があげられている。縄文は縦位に施される。124・125は貼り付け中央を凹ませて円形にしている。125には貼り付けに刻みが入れられる。

・縄文のみが施されるもの (126～164)

多くはLR原体の縄文である。口唇部のきざみはほとんど縄が使用される。内面に縄線文・沈線文が施されるものがある(126～137)。このうち131・132・135を除きLRの縄線文が1条から4条施される。

129は内面がよく磨かれている。131・132はR原体、135はL原体の縄線文が施される。136・137は内面に沈線文がある。136は棒状工具を内側から外側に刺突し、さらに横に押し抜いている。137は口唇部を指頭によりつまみ出すことによって、波状になる。外面の縄文はL原体を施文している。140は内面に炭化物が厚く付着する。142の器形は斜めに開き、口縁部付近で直立する。RL原体による縄文が施文される。148・149・151は成形時に内側から貫通孔が穿たれる。151は貫通孔が巡る。152・154は同一個体である。口唇部断面は切り出し気味となる。口縁部外側からやや斜めに穿孔される。内面は横位に磨かれ、炭化物が付着する。153も外側から穿孔される。貫通孔上部の口唇は指頭により押圧

される。155・156は口縁部付近が無文部となる。158は突起右側の口唇部にそった縄線文、左側に口唇を刻む縄線が施される。159・160は縦位に縄文が施文される。159は口縁部が外反する。160は口縁部がややくびれる。161はL原体により施文される。162は不規則な方向に縄文が施文される。波頂部に棒状の工具で刻みが入れられる。164の胎土には繊維が混じる。縄文は確認できない。

・鉢もしくは深鉢形土器の底部 (165~168)

165はやや丸底で張り出し気味となる。底部中央部は厚くなる。166は丸底で、段がつく。縄端による刺突が2条、張り出し上部に巡る。167は平底。縄端による刺突が縁の一部に施される。底にも縄文が施文される。168はあげ底。器面にはRL原体の縄文が縦行する。

浅鉢形土器 (169~177)

判別できた数は少ない。文様は縄文のみの簡素なもの、底部はやや丸みを帯びた平底が多い。突起があるタイプはV群b類と考えられる。

169~172は突起をもつもの。169は内面にボタン状の貼り付けがあり、口唇部、内面に縄端部による刺突列が施される。170~172の胎土は焼成は良いが、砂粒が混じる。170・171は突起部口唇に、細い縄線による刻みが入る。172は突起部外面に縄端圧痕が施される。173は口縁部内面に、薄い貼り付け帯が巡り、貼り付け帯に2条の縄線文、それを区切る縦の沈線が施される。

舟形土器、もしくは胴部に張り出しのある鉢形土器 (178~203)

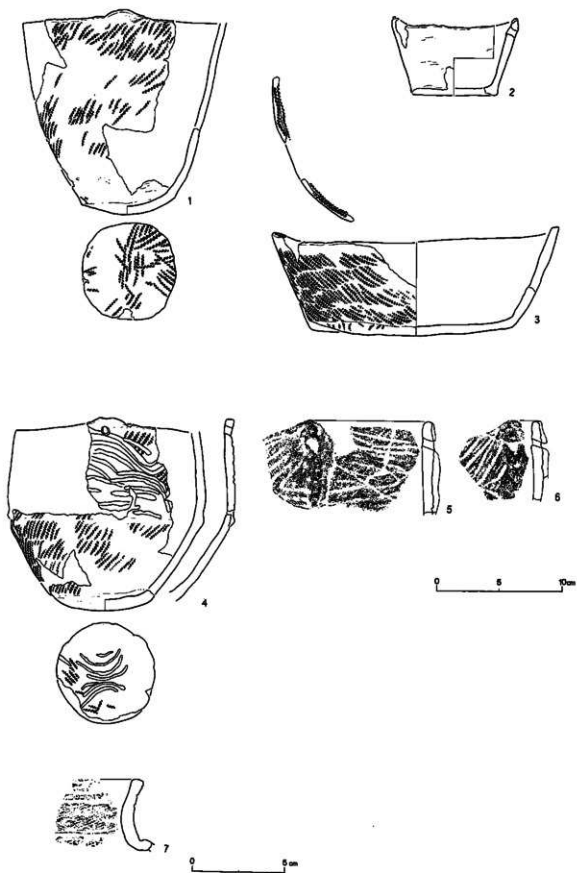
貼り付けは指頭により抓んで成形される。口唇部には縄による刻みが施され、内面は磨かれているものが多い。胎土は砂粒、石英等を含む。

178・179は同一個体である。また180・181とも同一個体の可能性がある。178・179は口唇部に刻みがあり、波状となる。貼り付け左側は指で撫でつけているが、右側は縄圧痕が押される。沈線文は太い。張り出しの上下1cm程に無文部が設けられるようである。胎土の色調は橙色。細かく白い粒が混じる。184・185・187は貼り付け部の横に貫通孔がみられる。187は貼り付け側面に縄圧痕文が施される。また弧線状の縄線文が施文される。188は貼り付け上から穿孔される。190は貼り付け下部が指で押され、ボタン状となる。貼り付け側面には縄圧痕が施される。191は張り出し上部が無文部となる。192・195は同一個体である。194は口縁部直下以外、すべて縄文が施される。200・202は張り出しが明確でない。201は張り出し頂部に縄圧痕がみられる。203は長円形になると思われる平底の底部。

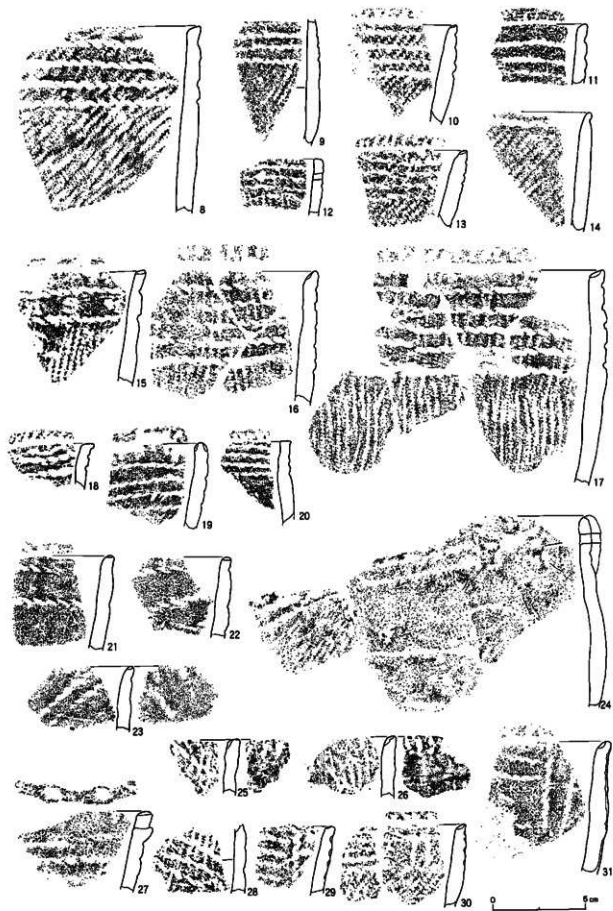
VI群土器 (図IV-37-35・37・IV-40-115・IV-44-204~206 図版IV-30・33・37)

すべて深鉢形と思われる。35・37は宇津内II群a類式に類するものである。35は貼り付けの上部に刻みが入れられる。37の内面は指頭による調整により、凹凸がある。115は宇津内II群b類式に類するもの。薄く、細い貼り付けの上から縄端が押され、口縁部には棒状工具による刺突が巡る。204~206は後北A式相当のものである。 (愛場和人)

4 包含層出土の遺物

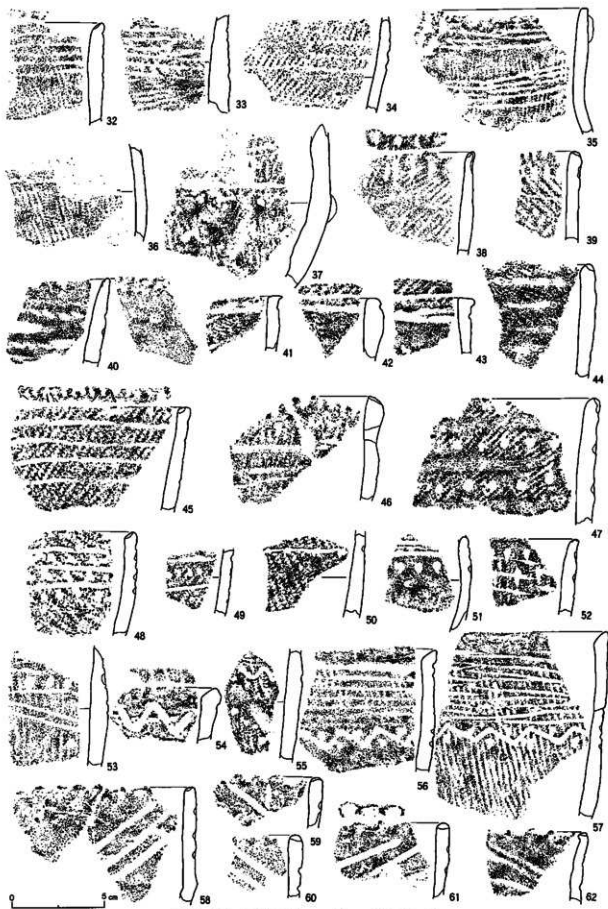


図IV—35 包含層出土のV群土器 (1)

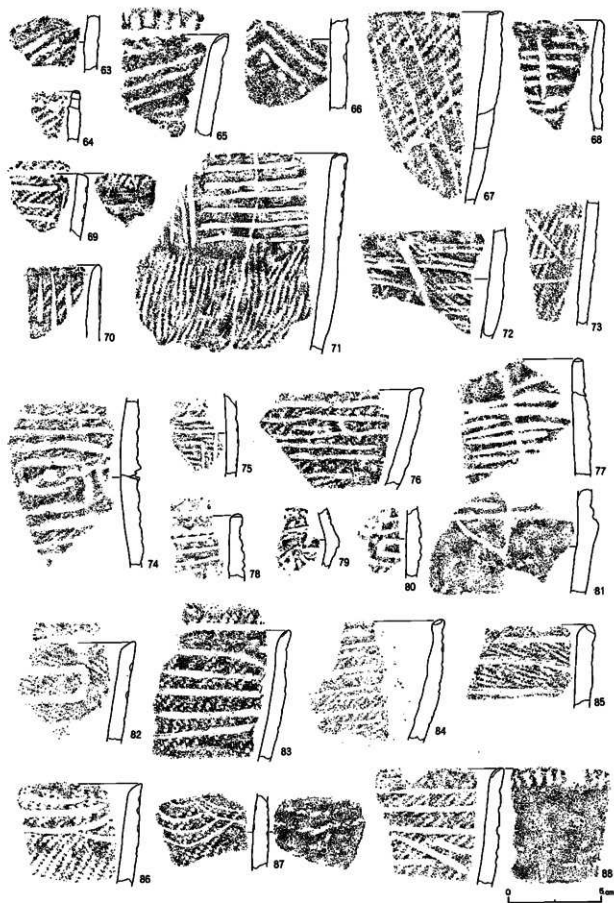


図IV-36 包含層出土のV群土器 (2)

4 包含層出土の遺物

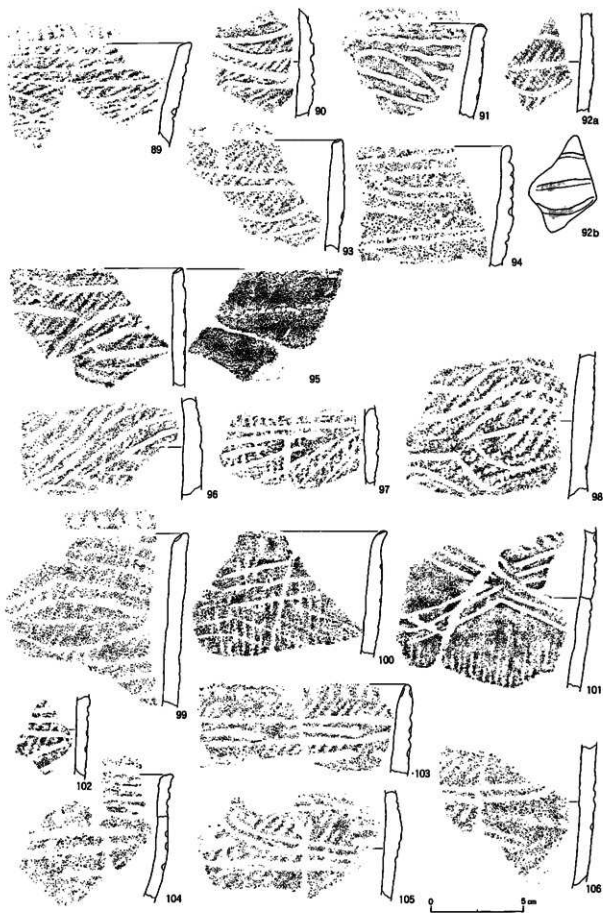


図IV-37 包含層出土のV群・IV群土器 (3)

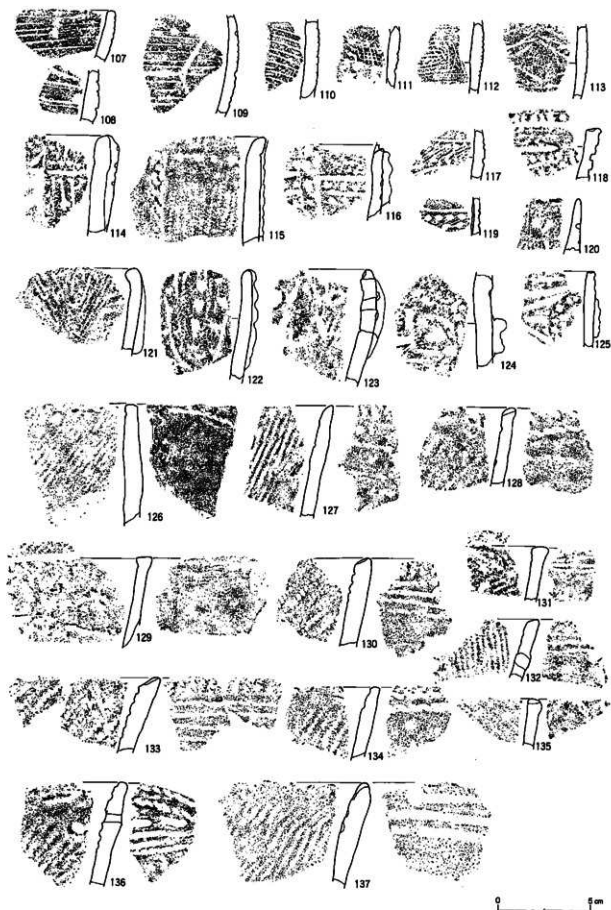


図IV-38 包含層出土のV群土器 (4)

4 包含層出土の遺物

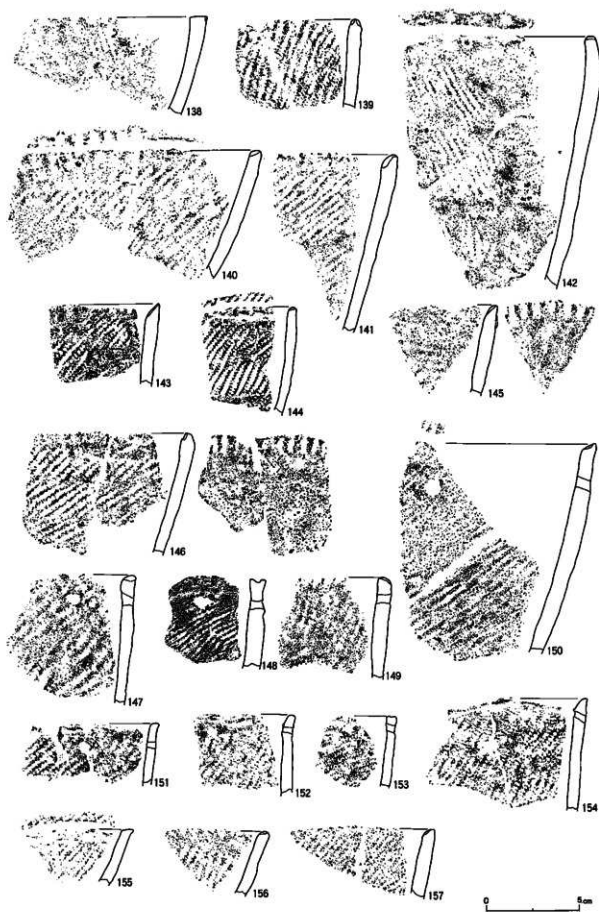


図IV-39 包含層出土のY群土器 (5)

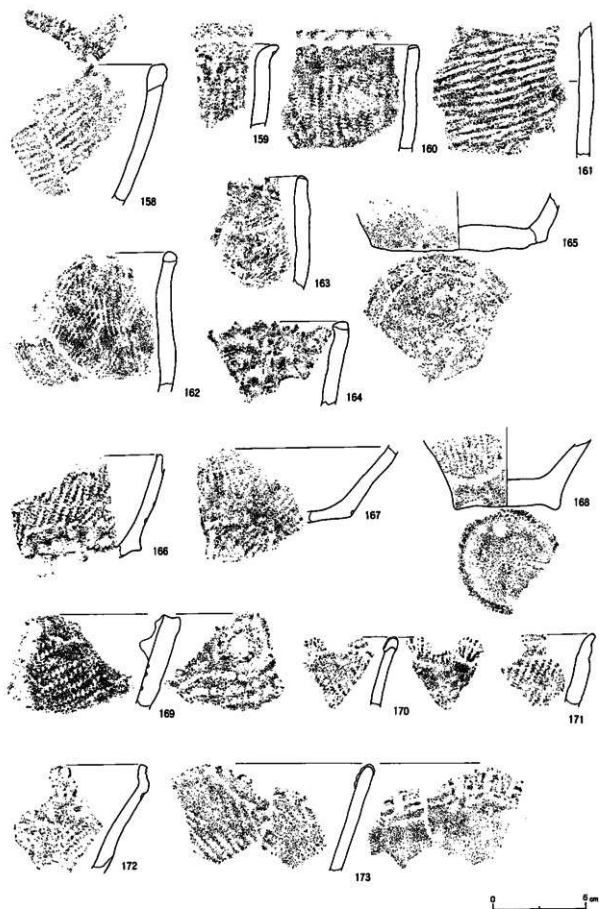


図IV-40 包含層出土のV群土器 (6)

4 包含層出土の遺物

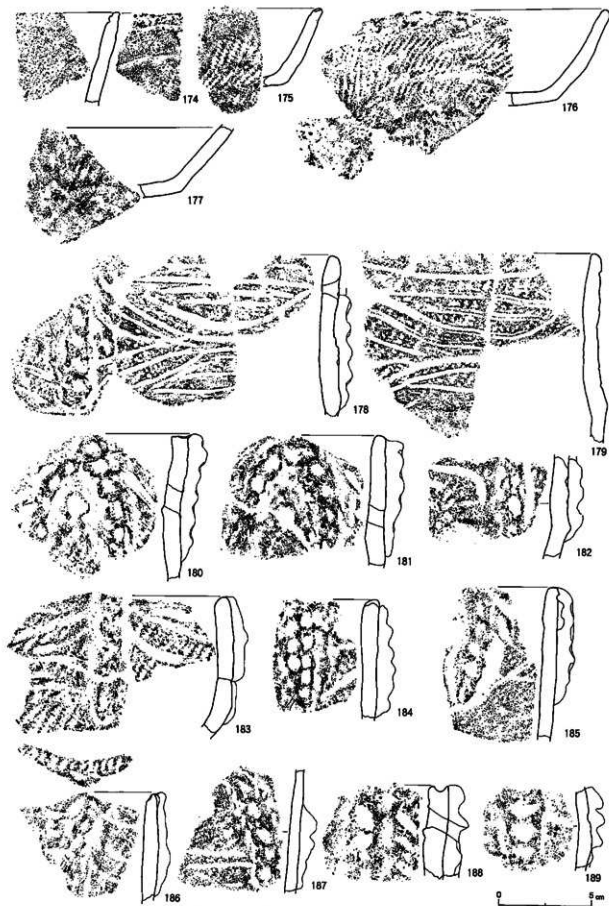


図IV-41 包含層出土のV群土器 (7)

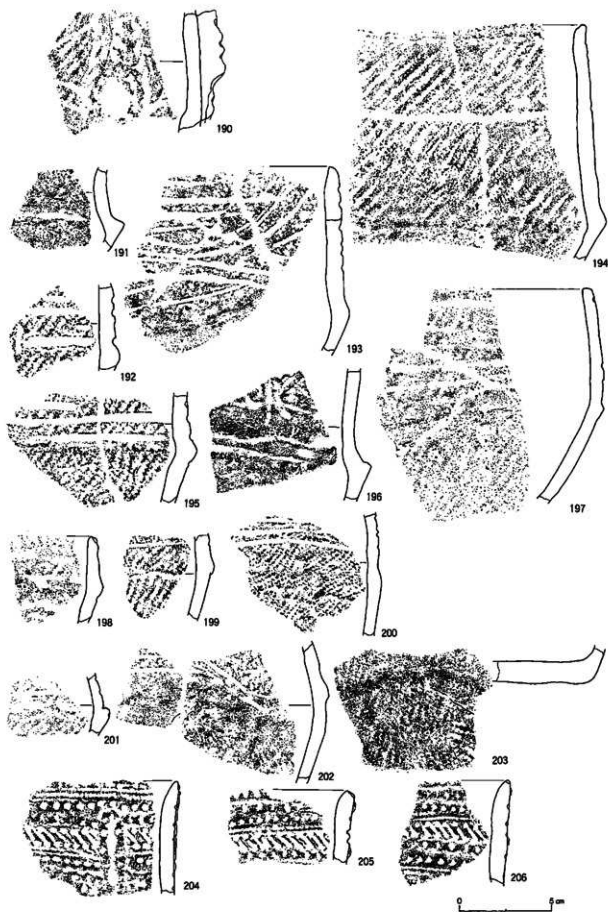


図IV-42 包含層出土のY群土器 (8)

4 包含層出土の遺物



図IV-43 包含層出土のY群土器 (9)



図IV-44 包含層出土のV群・IV群土器 (10)

2) 石器等 (図Ⅳ-50~61・図Ⅳ-39~49)

包含層出土の石器等は、石器・石製品2,005点、フレイク・チップなど68,453点、総計70,458点である。このうち、剥片石器類は1,637点、礫石器類は216点、石核・原石・石製品は152点である。石鏃、スクレイパー、ナイフ類が多く出土したのに比べて、石皿・台石といった礫石器類の出土は少ない。各掲載石器の細分類に関しては表に掲載し、必要に応じて文中に記した。

石鏃 (1~39)

石鏃は破片も含めて646点出土している。三角形鏃 (ⅠA 4) が260点で最も多く、有茎鏃 (ⅠA 5) 154点、木葉形鏃 (ⅠA 7) 24点、菱形鏃 (ⅠA 6) 19点、の順に多く出土している。このほか破片、未製品が189点出土している。有茎鏃は最も小型のもの (19) で長さ16mm・重さ0.3g、最も大きいもの (30) で長さ45mm・重さ4.1gでありバラエティーに富む。石材はすべて黒曜石である。

1~18は三角形鏃で、平基 (1~7) と凸基 (8~18) がある。1・2は直角三角形形状である。1・2・5は側縁が内湾する。8はいわゆる花十勝と呼ばれるものを素材としている。12・13は裏面に主剝離面を残し、周縁部のみを加工している。19~30は有茎鏃で、かえしの部分が平基のもの (19~26) と凸基のもの (27~30) がある。23は尖頭部と基部の長さがほぼ等しい。24は側縁が外湾する。26は尖頭部下部の両側縁にえぐりが入る。27は最大幅が先端部から1/2ほどのところにあり、基部の形状は方形である。29は細身で厚みがあり、基部が長い。30は最も大きいものである。31~33は菱形で、最大幅が中ほどにあるもの (31) と下部にあるもの (32・33) である。31・32は周縁部のみを加工している。34~39は木葉形で、基部が尖基のもの (34・35) と円基のもの (36~39) である。34は周縁部のみを加工している。36は上部が欠損しているが薄身であり柳葉形鏃 (ⅠA 3 a) の可能性がある。37は細身で厚手である。35・36・38・39は濁った透明感のない黒曜石を使用している。

石槍 (40~51)

石槍は破片も含めて40点出土した。石槍は石鏃の出土点数に比べて非常に少ない。有茎のもの (ⅠB 1) が14点、菱形のもの (ⅠB 2) が6点、その他破片、未製品が (ⅠB 8) が20点である。石材はすべて黒曜石である。

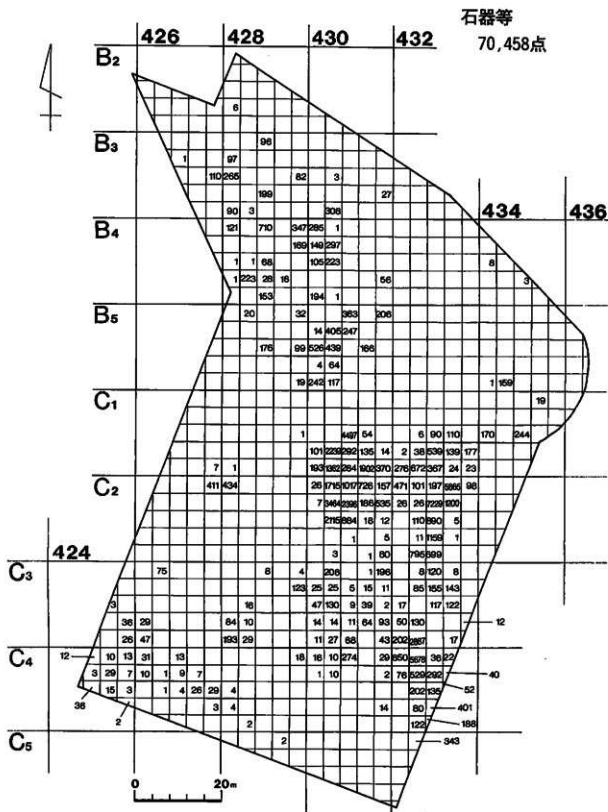
40~47は有茎のものである。42は左右非対称である。左のかえしははつきりしているが、右は不明瞭である。基部の側縁にはつぼし状の加工がされている。45は基部下端が欠損しているが、基部下部の側縁が外へ広がり、スベード状になる。46は基部の下部につまみ状のえぐりが入る。45や46と同じ形態のものは滝里33遺跡、滝里11遺跡、滝里4遺跡で出土している。48~51は菱形としたが、下端部は尖らない。49はかえしの部分が不明瞭である。50・51は基部下端に原石面が残る。

石鏃 (52~57)

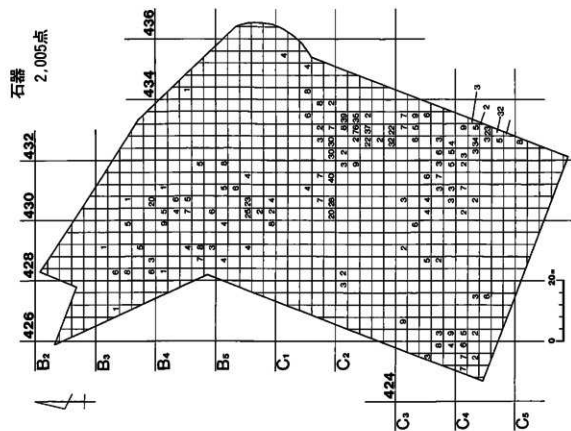
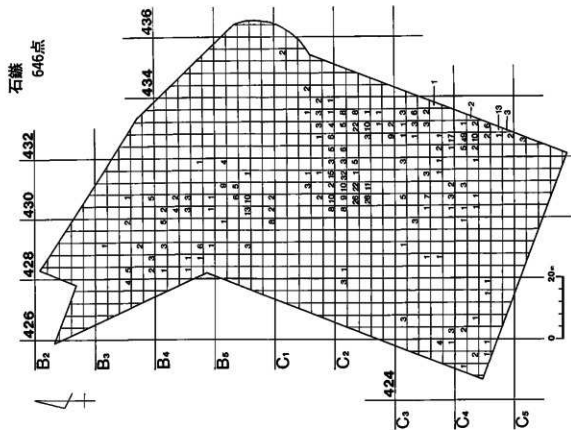
石鏃は17点出土した。棒状のもの (ⅡA 1) が1点、全体に2次加工が施されたもの (ⅡA 2) が8点、素材の一部に機能部を作出したもの (ⅡA 3) が8点である。石材はすべて黒曜石である。53・54・57は小さい球顆の入った黒曜石である。

52は棒状原石の先端部に機能部を作り出したもので、原石面を多く残している。53・54は全体に2次加工を施して棒状に作出しているのでⅡA 2とした。53は先端部にすりガラス状の摩耗痕が観察される。機能部の断面は四角形である。54は上部が欠損しているが、機能部の全体を細く作り出している。稜線部分には摩耗痕が見られる。機能部の断面は三角形である。55は剥片のおもて面全体に2次加工を施し三角形の機能部を作り出している。56はおもて面の周縁を加工して機能部を作出している。57は機能部のみを両面加工によって作出している。

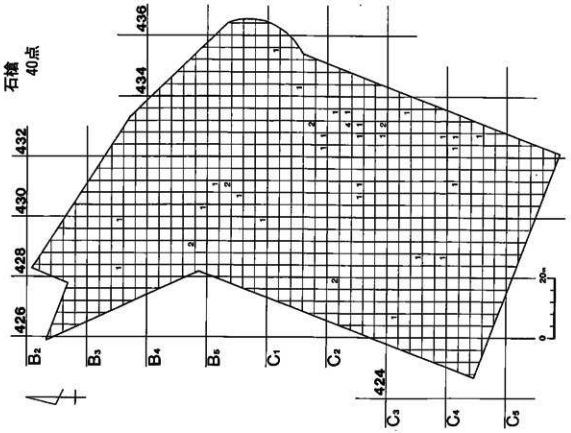
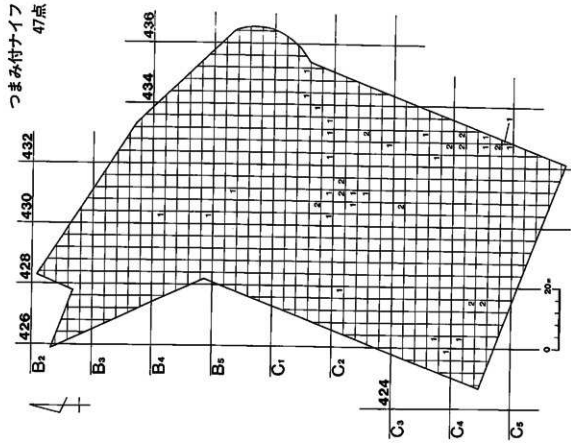
つまみ付きナイフ (58~81)



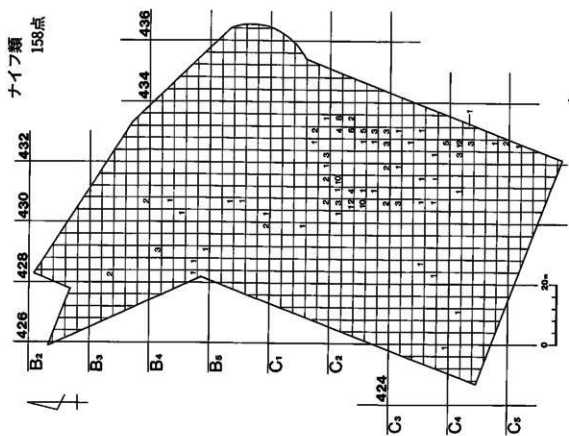
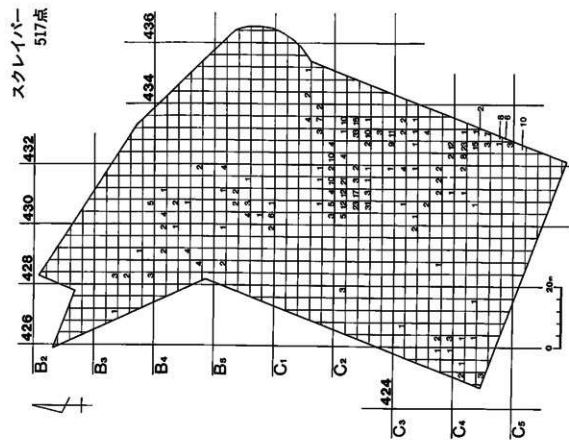
図Ⅳ-45 石器の分布 (1)



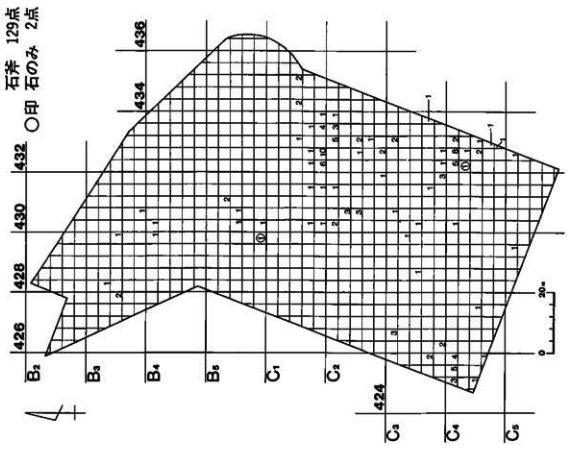
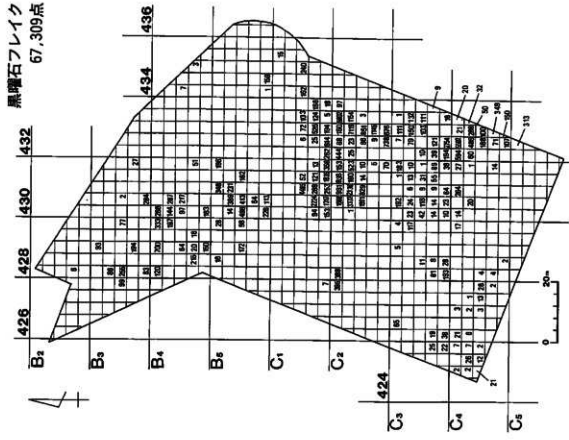
図IV-46 石器の分布 (2)



図W-47 石器の分布 (3)



図IV-48 石器の分布 (4)



図IV-49 石器の分布 (5)

4 包含層出土の遺物

つまみ付きナイフは破片も含めて47点出土した。縦形のもが37点、横形のもが(ⅢA3)2点である。縦形のもでは片面加工のもの(ⅢA1)31点、両面加工のもの(ⅢA2)6点である。破片や未製品は8点である。縦形で片面加工のものが圧倒的に多く、約8割を占めている。石材は頁岩類が27点、黒曜石が20点であるが、形の整っているものはほとんどが頁岩製である。58~72は頁岩製、73~81は黒曜石製である。

58~77は縦形のものである。58・60・61・62・69・75は周縁部を片面加工したものである。61は幅広のものである。69・75はつまみ部が明瞭ではない。59・63・65~68・70・71・73は片面を全面加工したものである。68は下端部に両面加工によって石錐の機能部と見られるものが作出されており、石錐としての機能を合わせ持っていたと考えられる。64・76・77は周縁を両面加工したものである。64は幅広で、薄身に作られている。76は錯向剝離によって刃部を作り出しているものである。72は両面を全面加工したものである。下端部が欠損しているため明瞭ではないが、つまみ状のえぐりのある菱形の石槍の可能性はある。78は横形のもので片面を全面加工したものである。刃部は円弧状を呈する。79~81はつまみ部が作出されているが、刃部の作出がされていないことから、未製品と考えられる。

ナイフ類 (82~100)

ナイフ類は破片も含めて158点出土した。柄部のあるもの(ⅢB1)が21点、柄部のないもの(ⅢB2)が24点、破片等(ⅢB8)は113点である。石材はほとんどが黒曜石であるが頁岩のものが数点ある。82~98は黒曜石製のもの、99・100は頁岩製のものである。

82・83は下部の方形に加工された部分が丁寧に調整されており、この部分が刃部であろう。82は周縁部のみを両面から加工して刃部を作出している。85は柄部の片方の作り出しが明瞭ではない。86は両面加工の柄部があるが、先端部は片面加工である。87は錯向剝離によって刃部を作出しているため、先端部がねじれたような形状をしている。88は左右非対象である。90は長さ104mmで本遺跡出土のナイフでは最長のもの。91は長方形の形状をしており、各辺に刃部が作出されている。92は三角形の形状のもの。93~95は楕円形の形状をしており、両面調整により薄い刃部を作り出している。95は粗い調整によって作られており、刃部は両側縁に作出されている。96は上部が欠損している。左側縁が外湾、右側縁は内湾しており、小さなえぐりがある。99はつまみ付きナイフの未製品の可能性がある。

スクレイパー (101~144)

スクレイパーは破片も含めて517点出土した。素材の形状を大きくかえていないもの(ⅢC7)が最も多く163点、剥片の一侧縁もしくは両側縁に刃部が設けられているもの(ⅢC4)125点、下端にとがる部分を持つもの(ⅢC5)25点、円形を呈するもの(ⅢC2)24点、下端部に刃部が設けられているもの(ⅢC3)21点、えぐり込みを持つもの(ⅢC6)7点の順に出土している。また、破片など(ⅢC8)は152点である。石材のほとんどは黒曜石であるが、頁岩類やメノウ、玄武岩といったものも使われている。

101・103は円形、102・104・105は楕円形を呈する。全周もしくは一部分に刃部がある。106~110は下端部に急角度の刃部が作出されている。109は上部が欠損しているが、形状からつまみ付きナイフの破片の可能性はある。111~126は側縁部に刃部があるもの。113はメノウ頁岩製、116はメノウ製、118は珪質頁岩製、122・123は玄武岩製である。120・121は明確なつまみ部が作出されていないが、つまみ付きナイフの可能性はある。127は周縁部に急角度の刃部が作出され、下端部が尖頭形に作出されている。球顆の入った黒曜石製である。128~132は外湾する刃部があるもの。133は扁平な棒状原石の両側縁に数か所のえぐりを作り出している。134~142はⅢC7である。原石面の残るものが多く、剥片の周縁の一部を刃部として加工している。134・135は棒状原石の側縁に刃部を作り出している。143・

144は刃部が作出されておらず未製品と考えられる。

石核 (145~149) (IX A 1)

石核は129点出土した。すべて黒曜石である。149は原石面を残している。いわゆる花十勝の転鑿を素材としている。

異形石器 (150~154) (X A 3)

異形石器は5点出土し、そのすべてを掲載した。石材はすべて黒曜石である。

150は三日月状の形状をしたものである。滝里32遺跡において同様のものが出土している。151・152は中央部でくびれる瓢箪形をしたものである。153は図では欠損部を下端としたが、尖頭部の両側縁に大きなえぐりのある異形の有茎石鏃の可能性もある。いわゆる花十勝を石材としている。154は下部を欠損しているが、下端部の側縁の形状から定型的な石鏃とは考えられない。大きなえぐりを錯向剝離によって両側縁に作出している。

石製品等 (155)

石製品等は18点出土した。カンラン岩製の玉類が1点、スコリア塊が17点である。スコリア塊は矢柄研磨器様の石材と同じものであり、砥石の原料となる可能性がある。

155は扁平で中央に両面から穿孔されている垂飾と思われる玉類である。両面と左側縁には擦痕が観察され、研磨によって丁寧に調整されている。図の下側にはV字状の擦り痕が2条ある。図の右側は欠損している。また、欠損部には裏側から穿孔途中の痕があり、表面に穿孔の形跡が見られないことから、穿孔作業の途中で破損したものではないかと思われる。

石斧 (156~167)

石斧は破片も含めて127点出土した。楡形のもの(IV A 1)が17点、短冊形のもの(IV A 2)が58点、乳棒状のもの(IV A 3)が2点、破片など(IV A 8)が50点である。破片を除くと8割弱が短冊形のものである。大きさは長さ80mm重さ約57gのものから、長さ235mm重さ1,640gまでかなりの幅がある。石材は片岩が多く、泥岩、カンラン岩と思われるものも使われている。

156~159は楡形のもの。すべて片岩製である。156は刃部付近のみを研磨によって作り出している。刃部は欠けている。157は裏面の鋸が明瞭である。刃部は円刃であり、鋭く作出されている。158は打ち欠きによって整形されており、刃部を研磨によって鋭く作出されている。159は刃部が横方向の研磨によって作出され、刃部先端に使用痕とみられる縦方向の細かい擦痕が観察される。160~167は短冊形のもの。160・166・167は周縁部を敲打によって整形し、刃部周辺を研磨によって作出している。刃部は使用によって欠損している。いずれもカンラン岩と思われる素材を使用している。ほかの石材の石斧と比べて非常に重くて大きい。161~163は全面を研磨によって整形している。いずれも使用痕とみられる縦方向の擦痕が刃部下端に観察される。161は円刃、162は直刃で片岩製である。163は円刃で緑色泥岩製である。表面に15mm四方程の敲打痕が観察される。164は片岩製で打ち欠きによって整形し、刃部周辺を研磨している。直刃である。165は泥岩の扁平礫の下端のみ研磨して直刃を作出している。刃部以外は整形されず素材の形状を残している。

石のみ (168) (IV B)

2点出土した。168は薄身に作られており刃部の周りだけを研磨している。刃部の裏側がへこむような形になっている。片岩製である。

擦り切り残片 (169) (IV C 3)

2点出土している。169は両面から擦り切られている。裏面の擦り切りはすり面が重なりあっている。石材は片岩である。

4 包含層出土の遺物

たたき石 (170~174)

たたき石は破片も含めて44点出土している。棒状礫の一端もしくは両端にたたき痕があるもの(VA1)12点、偏平礫の周縁にたたき痕があるもの(VA2)21点、偏平礫の腹・背面にたたき痕があるもの(VA3)8点、亜円礫を素材とするもの(VA4)1点、破片など(VA8)2点である。石材はすべて砂岩である。細分類上の特徴を複数有するものが多く、特徴の顕著なものに細分類した。

170は偏平礫の両端とおもて面にたたき痕がある。171は偏平礫の両端と両面にたたき痕がある。両面には深さ1cm程の明瞭にくぼんだたたき痕がある。172は棒状礫の両端と側縁部、両面にたたき痕がある。173は棒状の偏平礫の両端と両側縁、おもて面にたたき痕が見られる。174は上端部と裏面にたたき痕が見られる。おもて面に長径4cm短径2cm程の黒ずんだ部分が観察される。

すり石 (175~179)

すり石は13点出土している。偏平礫を半円状に粗く打ち欠き、弦をすったもの(VIA3)が1点、北海道式石冠と称されるもの(VIA4)が12点である。石材はほとんどが砂岩である。

175は擦り面の周縁を打ち欠きによって加工している。泥岩製である。176~179は北海道式石冠である。すべて砂岩製である。176は敲打によってすり面の整形が行われ、把握部は打ち欠きがされている。使用された形跡がないが形状から未製品の可能性がある。177~179は把握部が敲打によって作り出されている。177はすり面が短軸方向に湾曲している。178は全面を敲打によって整形している。すり面にも敲打痕があることからたたき石としても使用した可能性がある。179はすり面が使用によって長軸・短軸両方向に湾曲している。

砥石 (180~186)

12点出土している。研磨面に溝があるもの(VIB1)7点、板状のもの(VIB2)2点、その他未分類のもの(VIB8)3点である。

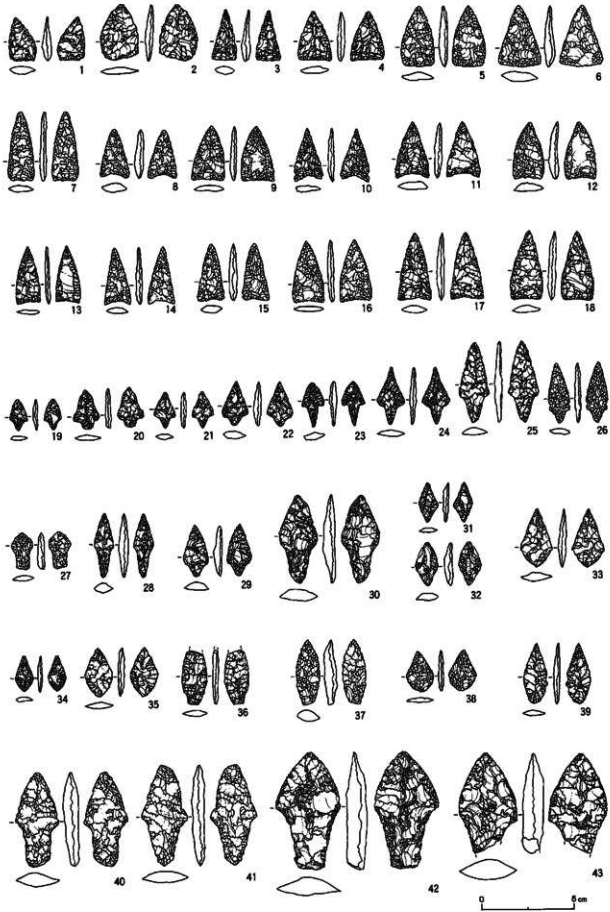
180~183は細い溝状の研磨面が2~6条あるスコリア製の矢柄研磨器様のものである。180・182はV字状の深い研磨面がある。181は幅1cm程のU字状の研磨面がある。183はV字状とU字状の研磨面がある。184~186は大型のもの。研磨面は中央部でへこむような形状をしている。184はかなりの部分が破損しているが、残存部分には両面に使用痕が見られる。185は表面を敲打によって調整している。両面を使用しており、研磨面は楕円形をしている。面は3つの使用面を観察できる。186は破損しているが、楕円形状で幅5cm程の使用面がある。表面右上の研磨面には細い溝状の研磨痕が数条ある。184・185は砂岩製、186は泥岩製である。

台石 (187)

台石は破片も含めて11点出土した。使用痕があるもの(VB1)が6点、破片(VB8)が5点である。187は周縁部の一部に使用痕が見られる。砂岩製である。

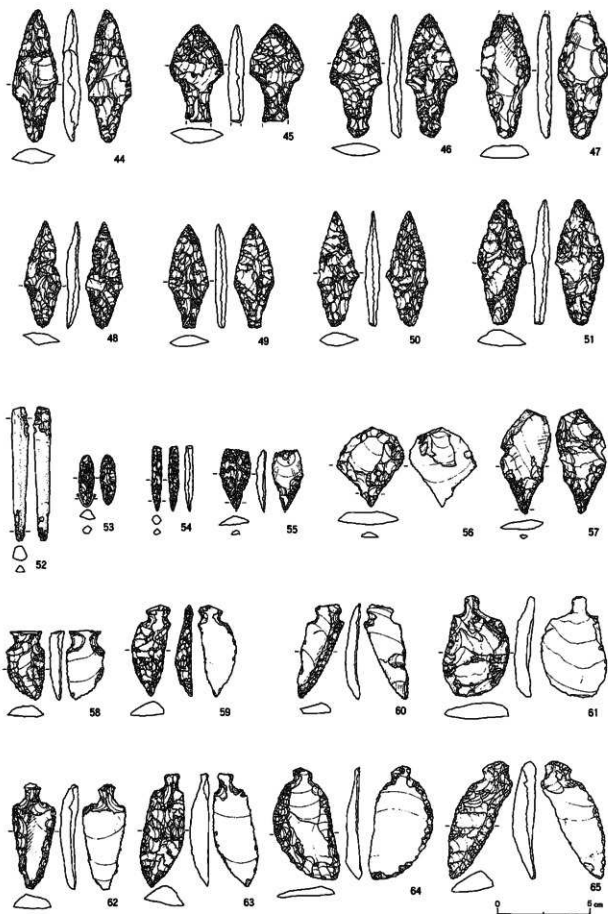
石皿 (188・189)

石皿は5点出土した。使用面がへこんでいるもの(VIB1)3点、使用面が平坦なもの(VIB2)2点である。188は図では右側が欠損している。側縁を打ち欠きによって整形している。使用面はへこんでおり、中央部付近に敲打によるへこみがある。側縁部にもすり面が観察される。トロニエム岩製である。189は使用面が平坦である。図面下部には幅10cm長さ5cm程の敲打痕があり、台石としても使われたと思われる。砂岩製である。
(酒井秀治)

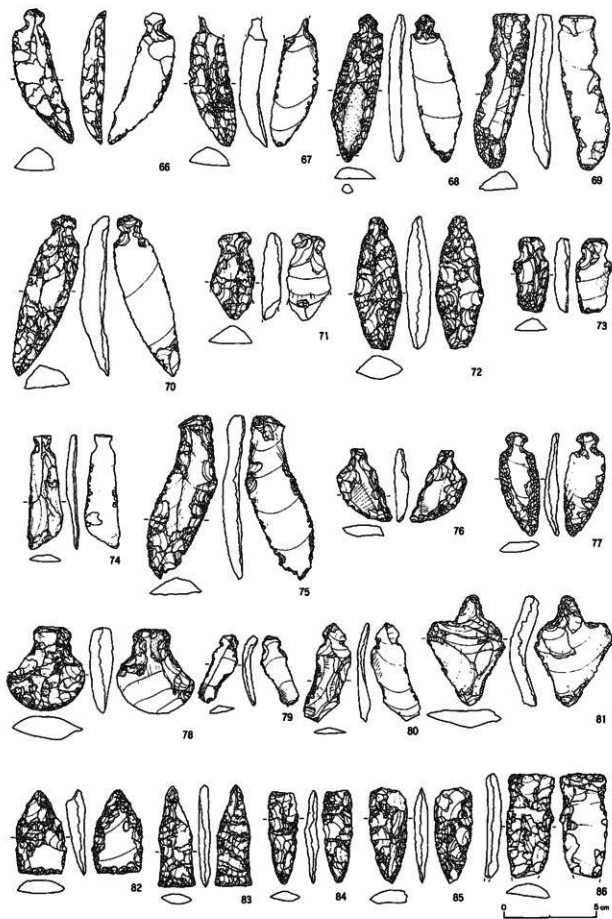


図IV-50 包含層出土の石器 (1)

4 包含層出土の遺物

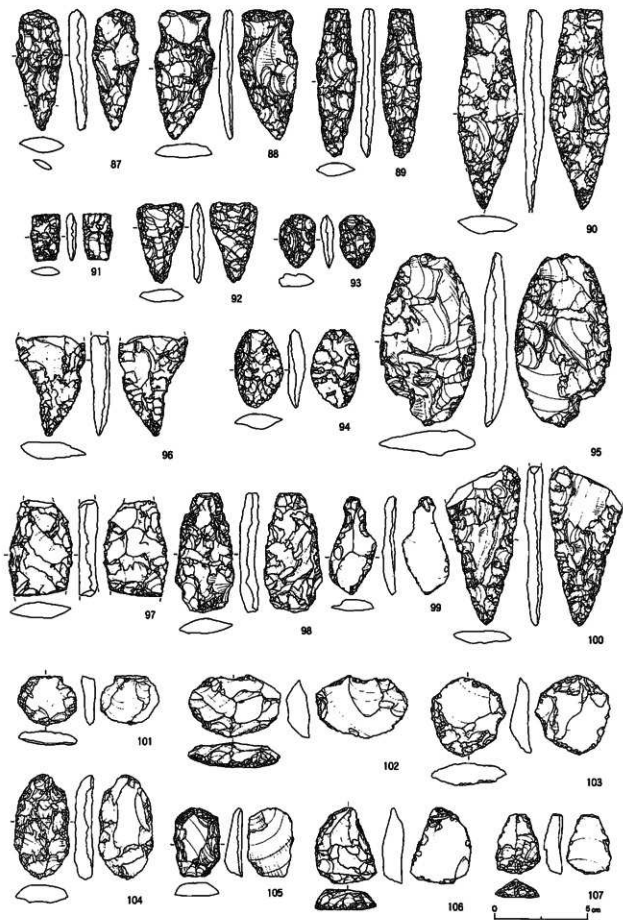


図IV-51 包含層出土の石器 (2)

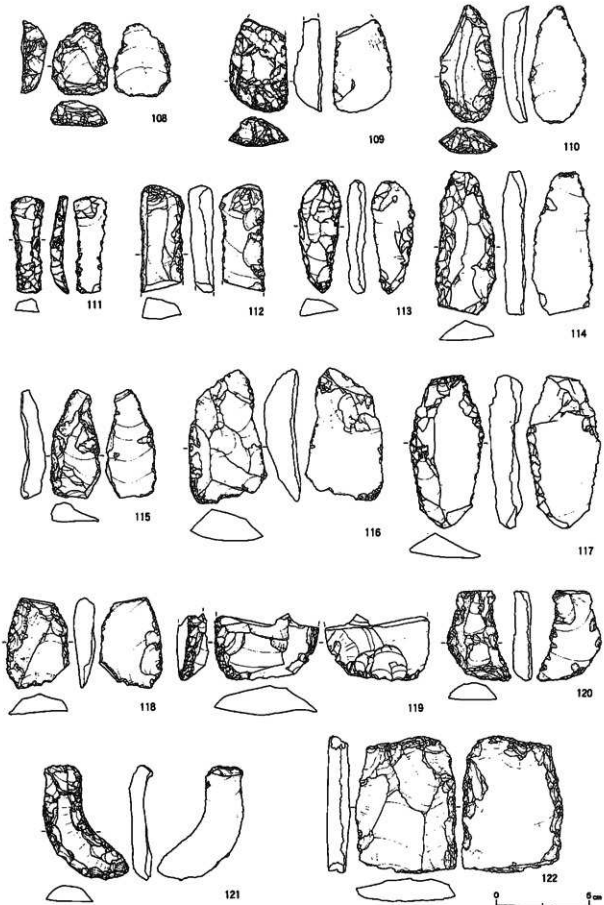


図IV-52 包含層出土の石器 (3)

4 包含層出土の遺物

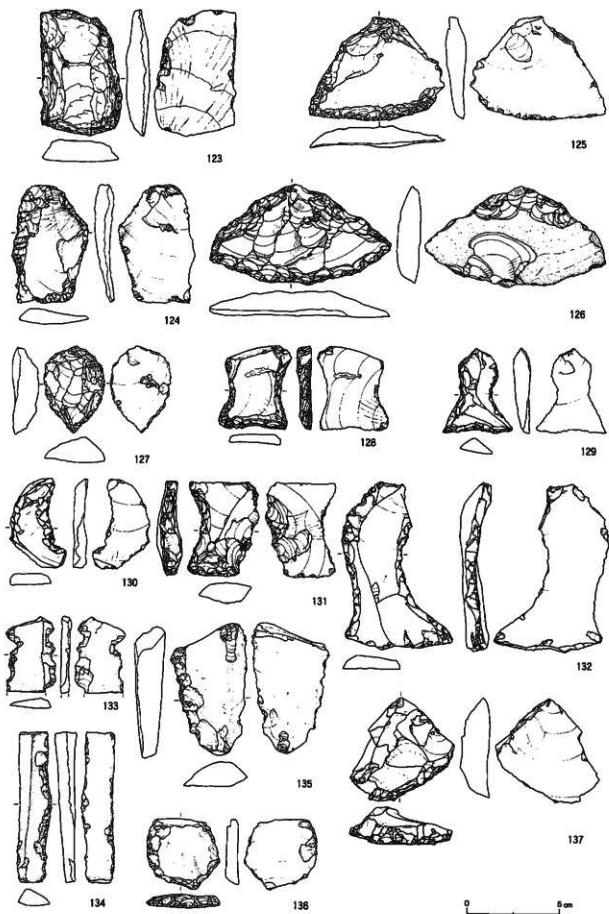


図IV-53 包含層出土の石器 (4)

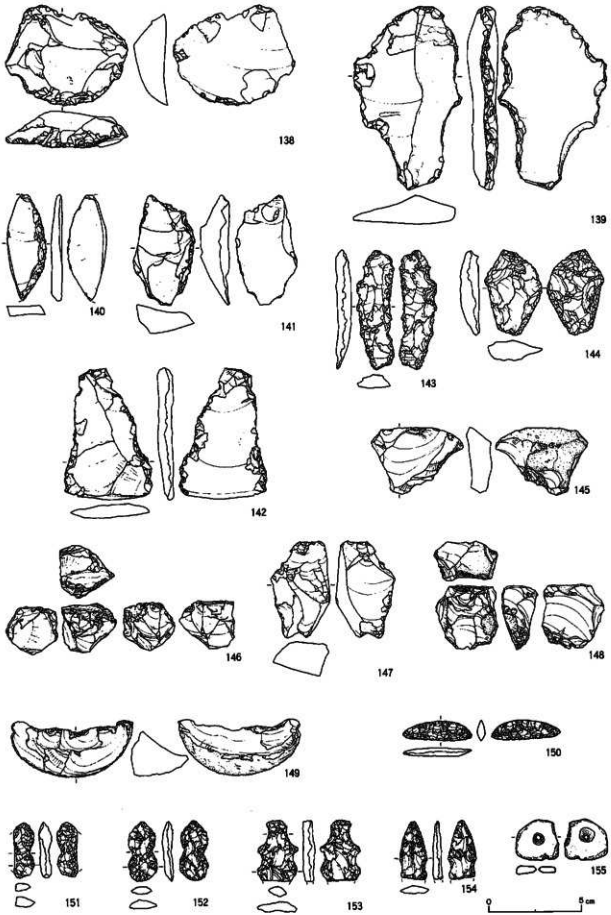


図IV-54 包含層出土の石器 (5)

4 包含層出土の遺物

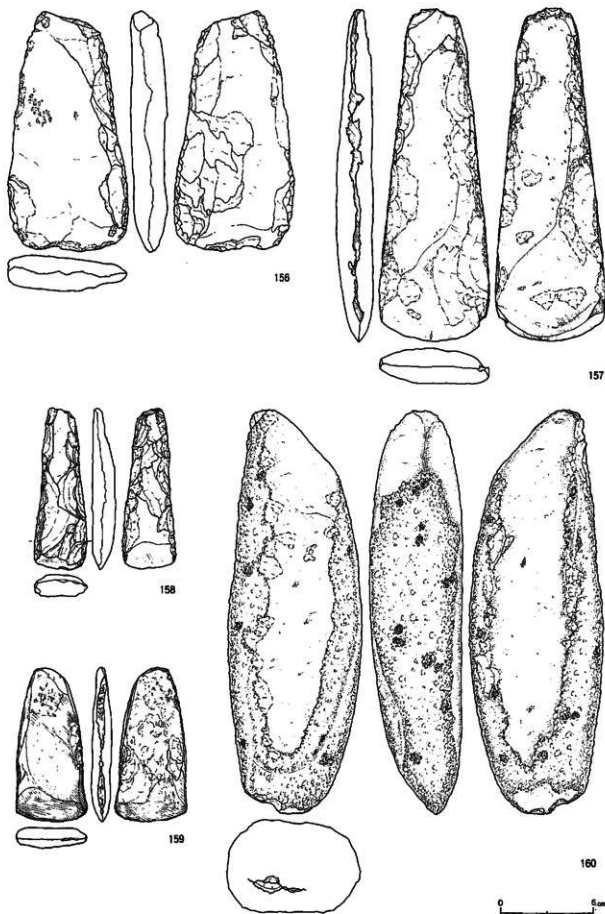


図IV-55 包含層出土の石器 (6)

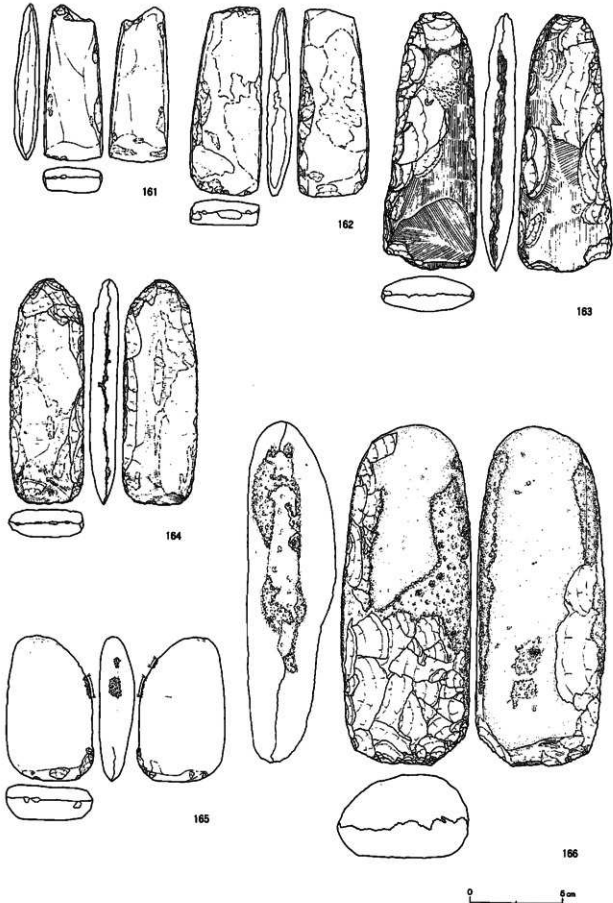


図IV-56 包含層出土の石器等 (7)

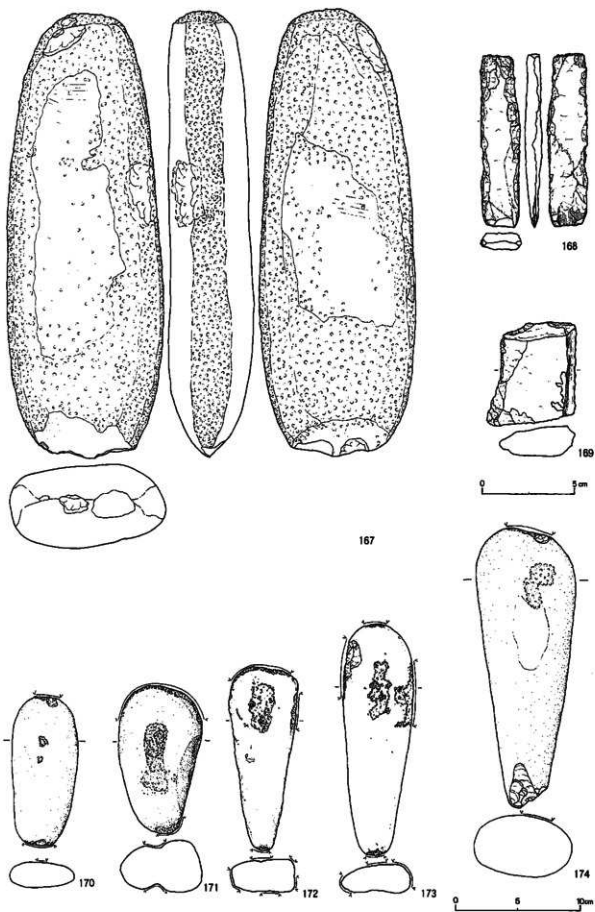
4 包含層出土の遺物



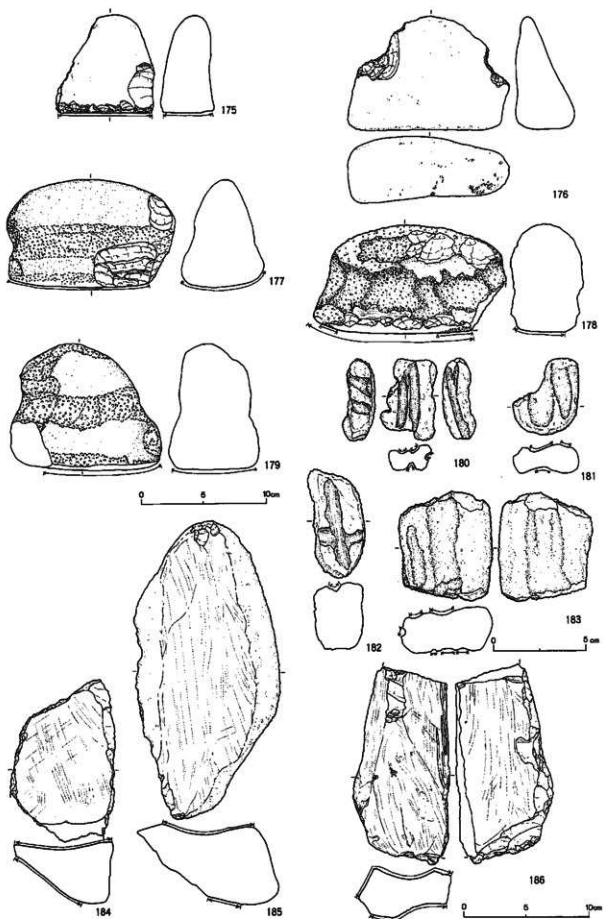
図IV-57 包含層出土の石器 (8)



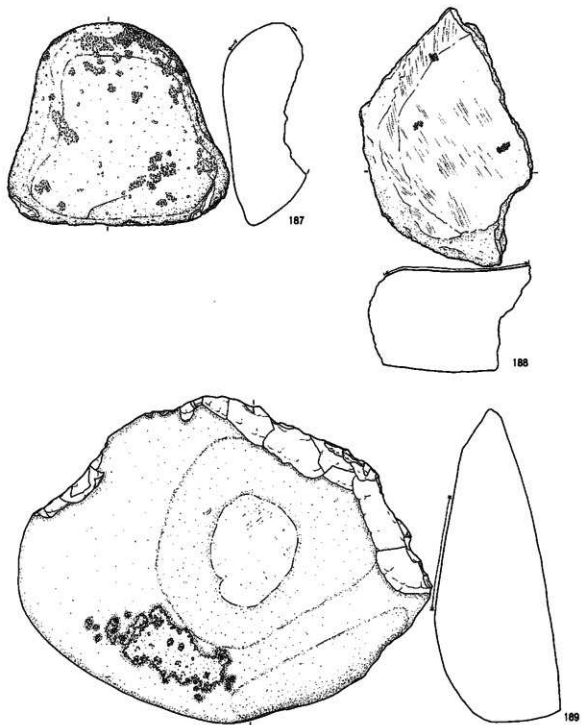
図IV-58 包含層出土の石器 (9)



図IV-59 包含層出土の石器 (Ⅱ)



図IV-60 包含層出土の石器 (1)



図IV-61 包含層出土の石器 (2)

0 5 10cm

表IV-2 遺構規模一覧

遺構名	位置	規模(横口:長軸×短軸/横底:長軸×短軸/深さ)m	平面形	長軸方向	確認面の 標高(m)
P-1	C ₁ -430-8	1.32×1.00/1.20×0.88/0.18	楕円形	N-6'-W	138.642
P-2	C ₁ -430-18	0.98×0.68/0.68×0.54/0.14	ほぼ円形		137.405
P-3	C ₁ -430-17	1.12×0.79/1.03×0.71/0.23	楕円形	N-2'-E	138.348
P-4	B ₁ -428-8	0.87×0.82/0.52×0.57/0.17	円形		143.868
P-5	B ₁ -428-9	0.87×0.82/0.68×0.68/0.17	円形		144.079
P-6	B ₁ -430-16	0.58×0.51/0.32×0.32/0.17	円形		146.214
P-7	C ₁ -430-2-3	1.26×0.65/1.19×0.51/0.14	楕円形	N-32'-E	137.741
S-1 (礎土範囲)	C ₁ -430-3	1.30×1.13/—/—/0.05			136.921

表IV-3 遺構出土遺物一覧

遺物 土層	土器片 V群	石					器				銅片類(フレイク)		鏢	合計
		石 鏢	ナイフ類	スライバー	石 核	フレイク	石 斧	たばね	台 石	黒曜石	その他			
P-1	5		1											6
P-2						1						11		12
P-3	40	6	1	2	1	11					410	27	3	501
P-4	2										2		2	6
P-5	3										7		2	12
P-6											13		1	14
P-7	8		1				1	1	1		10			22
S-1										1			102	103
合計	58	6	3	2	1	13	1	1	1	1	453	27	110	676

表IV-4 遺構出土土壌器一覧

図番号	遺構	遺物番号	出土層位	分類	図版番号	備考	図番号	遺構	遺物番号	出土層位	分類	図版番号	備考
N-8-1	P-3	84	礎土1	Vc	N-5-3		N-8-5	P-3	27	礎土1	Vc	N-5-3	
2	〃	28	〃	〃	〃		〃	〃	140	〃	〃	〃	
3	〃	62	〃	〃	〃		N-10-1	P-7	7	礎土1	V	N-7-5	
4	〃	5	〃	〃	〃		2	〃	18	〃	〃	〃	

表IV-5 遺構出土土壌石器一覧

図番号	遺構名	遺物番号	器種名	分類	層位	長さ(mm)×幅(mm)×厚さ(mm)	重量(g)	石材	図版	備考
N-7-1	P-1	1	ナイフ	ⅢB1	礎土1	86.2×59.0×10.0	53.5	黒曜石	N-4-3	
-1	P-2	5	フレイク	XA	〃	77.8×35.0×11.0	21.8	黒曜石	N-4-6	
N-8-7	P-3	113	石 鏢	IA5C	〃	(16.0)×8.8×2.5	(0.3)	黒曜石	N-5-4	
-8	〃	42A	石 鏢	IA8	〃	23.7×14.5×4.0	1.3	黒曜石	〃	
-9	〃	116	石 鏢	IA8	〃	27.4×10.0×3.6	1.0	黒曜石	〃	
-10	〃	46	石 鏢	IA8	〃	23.6×11.9×5.0	1.1	頁 岩	〃	
-11	〃	47	ナイフ	ⅢB2	〃	(28.0)×(39.0)×9.0	(9.5)	黒曜石	〃	
-12	〃	51A	スライバー	ⅢC7	〃	37.7×47.5×10.9	18.5	黒曜石	〃	
-13	〃	18	スライバー	ⅢC4	〃	30.5×43.5×7.0	7.9	黒曜石	〃	
N-9-1	P-6	1	フレイク	ⅢB	〃	(35.7)×(49.5)×6.9	(9.5)	黒曜石	N-6-3	
-2	〃	5	フレイク	ⅢB	〃	66.6×70.9×10.0	36.2	黒曜石	〃	
-3	〃	8	フレイク	ⅢB	〃	68.4×68.1×13.3	45.5	黒曜石	〃	
-4	〃	7	フレイク	ⅢB	〃	79.0×51.6×13.4	44.0	黒曜石	〃	
-5	〃	6	フレイク	ⅢB	〃	67.9×34.3×11.2	18.5	黒曜石	〃	
-6	〃	9	フレイク	ⅢB	〃	73.6×42.6×9.5	30.1	黒曜石	〃	
-7	〃	10	フレイク	ⅢB	〃	92.5×39.0×7.5	34.1	黒曜石	〃	
N-10-8	〃	12	フレイク	ⅢB	〃	73.2×52.2×11.5	42.8	黒曜石	〃	
-9	〃	11	フレイク	ⅢB	〃	77.8×65.2×10.2	41.6	黒曜石	〃	
-10	〃	13	フレイク	ⅢB	〃	58.6×80.1×7.4	31.1	黒曜石	〃	
-11	〃	2	鏢	〃	〃	71.3×25.4×7.4	96.9	片 岩	〃	
N-10-3	P-7	15	ナイフ	ⅢB2	〃	103.0×47.8×12.7	60.7	黒曜石	N-7-6	
-4	〃	13	石 斧	ⅢA2	〃	(62.6)×37.8×9.0	(45.0)	片 岩	〃	
N-11-1	S-1	27	台 石	ⅢB	〃	74.8×68.5×25.7	1822.0	頁 岩	N-8-2	

4 包含層出土の遺物

表N-6 包含層出土の石器等一覧

器種	分類記号	点数	器種	分類記号	点数	器種	分類記号	点数
石 鏃	I A 4 a	78	ナイフ・ナイフ類	Ⅲ B 1	21	石 核	VA 4	1
石 鏃	I A 4 b	182	石 鏃	Ⅲ B 2	27	石 核	VA 8	2
石 鏃	I A 5 a	99	石 鏃	Ⅲ B 8	110	台 石	VB 1	6
石 鏃	I A 5 c	55	スクレイパー	Ⅲ C 2	24	石 鏃	VB 8	5
石 鏃	I A 6 a	10	石 鏃	Ⅲ C 3	21	すり 石	VA 3	1
石 鏃	I A 6 b	9	石 鏃	Ⅲ C 4	125	石 鏃	VA 4	12
石 鏃	I A 7 a	14	石 鏃	Ⅲ C 5	25	石 皿	VB 1	3
石 鏃	I A 7 b	10	石 鏃	Ⅲ C 6	7	石 皿	VB 2	2
石 鏃	I A 8	189	石 鏃	Ⅲ C 7	165	砥 石	VB 1	7
石 槍	I B 1	14	石 鏃	Ⅲ C 8	150	石 皿	VB 2	2
石 槍	I B 2	6	石 弁	WA 1	17	石 皿	VB 8	3
石 槍	I B 8	20	石 弁	WA 2	58	石 核	KA 1	129
石 鏃	Ⅱ A 1	1	石 弁	WA 3	2	原 石	KA 2	5
石 鏃	Ⅱ A 2	8	石 弁	WA 8	50	フ レ イ ク	KB	68,127
石 鏃	Ⅱ A 3	8	石 の み	WB	2	R フ レ イ ク	XA	207
つまみ付ナイフ	Ⅲ A 1	32	石 磨 石 等	VC 3	2	石 磨 石 等		18
石 鏃	Ⅲ A 2	5	た た き 石	VA 1	12	異 形 石 磨		5
石 鏃	Ⅲ A 3	2	石 磨 石 等	VA 2	21	磨 ・ 礫 片		326
石 鏃	Ⅲ A 8	8	石 磨 石 等	VA 3	8	合 計		70,458

表N-7 包含層出土の掲載土器一覧 II群

図番号	発掘区	遺物番号	出土層位	図版番号	備 考	図番号	発掘区	遺物番号	出土層位	図版番号	備 考
N-17-1	C ₁ -432-18	219	Ⅱ	図版N-13	同一個体	38	Ⅱ	7B	Ⅱ	Ⅱ	同一個体
2	Ⅱ	181B	Ⅱ	Ⅱ		39	B ₂ -428-25	43	I	Ⅱ	
3	C ₁ -432-22	131A	Ⅱ	Ⅱ		40	C ₁ -432-22	150B	Ⅱ	Ⅱ	
4	C ₁ -430-22	82	Ⅱ	Ⅱ	同一個体	41	C ₁ -430-22	91A	Ⅱ	Ⅱ	
5	C ₁ -432-22	295	Ⅱ	Ⅱ		42	C ₁ -430-17	21A	Ⅱ	Ⅱ	
6	C ₁ -430-7	47	Ⅱ	Ⅱ		N-18-43	C ₁ -432-3	34	Ⅱ	Ⅱ	
7	C ₁ -432-3	1	I	Ⅱ		44	C ₁ -430-22	7A	Ⅱ	Ⅱ	
8	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ		45	C ₁ -430-1	407	Ⅱ	Ⅱ	
9	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ		46	C ₁ -430-22	84	Ⅱ	Ⅱ	
10	C ₁ -432-22	155	Ⅱ	Ⅱ		47	Ⅱ	203A	Ⅱ	Ⅱ	
11	C ₁ -432-3	1	I	Ⅱ		48	Ⅱ	83	Ⅱ	Ⅱ	
12	C ₁ -432-22	297	Ⅱ	Ⅱ		49	C ₁ -428-11	5B	Ⅱ	Ⅱ	
13	C ₁ -428-22	8	I	Ⅱ		50	Ⅱ	2	Ⅱ	Ⅱ	
14	C ₁ -424-3	3A	Ⅱ	Ⅱ	51	C ₁ -432-18	1	I	Ⅱ		
15	C ₁ -424-8	12	I	Ⅱ	52	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ		
16	C ₁ -426-2	33A	Ⅱ	Ⅱ	53	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ		
17	C ₁ -424-8	3	Ⅱ	Ⅱ	54	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ		
18	C ₁ -424-13	3	Ⅱ	Ⅱ	55	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ		
19	Ⅱ	37	Ⅱ	Ⅱ	56	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ		
20	Ⅱ	25A	Ⅱ	Ⅱ	57	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ		
21	Ⅱ	40	Ⅱ	Ⅱ	58	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ		
22	C ₁ -424-8	5	Ⅱ	Ⅱ	59	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ		
23	C ₁ -424-9	8	I	Ⅱ	60	C ₁ -432-18	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ		
24	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	61	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ		
25	Ⅱ	6	Ⅱ	Ⅱ	62	C ₁ -432-3	45	Ⅱ	Ⅱ		
26	C ₁ -424-8	13	磨孔	Ⅱ	63	C ₁ -430-22	136	Ⅱ	Ⅱ		
27	C ₁ -426-2	1	Ⅱ	Ⅱ	64	C ₁ -432-22	157	Ⅱ	Ⅱ		
28	C ₁ -430-22	17	Ⅱ	Ⅱ	65	C ₁ -432-2	9	Ⅱ	Ⅱ		
29	C ₁ -432-8	15D	Ⅱ	Ⅱ	N-19-66	C ₁ -432-14	12	Ⅱ	図版N-15		
30	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	67	C ₁ -432-4	187	Ⅱ	Ⅱ		
31	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	68	C ₁ -430-21	120	磨孔	Ⅱ		
N-18-32	C ₁ -432-13	3B	I	図版N-14	69	C2-430-3	81A	I	Ⅱ		
33	C ₁ -432-8	78C	Ⅲ	Ⅱ	70	C2-432-22	160	Ⅱ	Ⅱ		
34	Ⅱ	15D 76C	Ⅲ	Ⅱ	71	C2-430-12	138	Ⅱ	Ⅱ		
35	C ₁ -430-22	90A	Ⅱ	Ⅱ	72	C2-432-22	141	Ⅱ	Ⅱ		
36	Ⅱ	203B	Ⅱ	Ⅱ	73	C4-432-22	86	Ⅱ	Ⅱ		
37	Ⅱ	41A	Ⅱ	Ⅱ	74	C3-432-2	9	Ⅱ	Ⅱ		

表IV-8 包含層出土の掲載土器一覽 III群

図番号	発掘区	遺物番号	出土層位	図版番号	備考	図番号	発掘区	遺物番号	出土層位	図版番号	備考	
N-21-1	C ₁ -430-22	28	II	図版N-15	同一個体	31	C ₁ -430-18	14	II			
2	#	34	#				32	C ₁ -432-8	174	#		
3	#	11B	#				N-22-33	C ₁ -430-22	183	#		
4	#	91B	#				34	B ₁ -430-11		I		
5	#	108	#				35	C ₁ -430-16	20A	II		
6	#	179-18A	#				36	#	17A	#		
7	#	220	I				37	C ₁ -432-4	31	#		
8	C ₁ -432-8	2A	II				38	C ₁ -430-16	24	#		
9	C ₁ -430-22	180	#				39	C ₁ -424-8	6	#		
10	C ₁ -430-16	17B	#				40	C ₁ -432-4	203	#		
11	C ₁ -432-18	4	I		16と同一個体	41	C ₁ -432-19	80	#			
12	C ₁ -432-20	34	#				42	B ₁ -434-11	4	I	図版N-17	
13	C ₁ -430-22	86A	II				43	C ₁ -430-16	37	II		
14	C ₁ -430-17	2	#				44	#	24	#		
	C ₁ -430-2	194	#				45	C ₁ -430-22	166	#		
15	C ₁ -432-20	29	I				46	C ₁ -430-1	383	#		
16	C ₁ -430-1	97	II				47	C ₁ -432-22		#		
17	C ₁ -432-1	84	#				48	C ₁ -432-22	200	#		
18	C ₁ -432-22	147	#				49	C ₁ -430-1	384	#		
19	C ₁ -432-3	36	#				50	不明				
20	C ₁ -432-1	171	#			51	C ₁ -428-21	3	I			
21	C ₁ -430-16	3	#	図版N-16		52	B ₁ -428-3	1	攪乱			
22	C ₁ -430-7	55	I			53	C ₁ -430-19	35	I			
23	B ₁ -430-12	55	#			54	B ₁ -428-25	17	#			
24	C ₁ -432-8	26A	II			55	C ₁ -432-4	18	II			
25	B ₁ -430-12	54	I			56	C ₁ -430-22	5	#			
26	C ₁ -432-13	1	#			57	C ₁ -432-21	37	I			
27	B ₁ -428-25	17	#			N-23-58	B ₁ -430-22	19	攪乱			
28	C ₁ -432-21	26	#			59	C ₁ -434-11	4B	I			
29	B ₁ -428-25	17	#			60	C4-432-23	17A	II			
30	C ₁ -430-17	48	#									

表IV-9 包含層出土の掲載土器一覽 IV群

図番号	発掘区	遺物番号	出土層位	図版番号	備考	図番号	発掘区	遺物番号	出土層位	図版番号	備考	
N-23-1	C ₁ -428-16	2	II	図版N-17	同一個体 破片25点	19	C ₁ -432-3	2	I			
N-25-2	C ₁ -426-2	9-12 35	II I	図版N-18			20	C ₁ -432-2	232	II		
3	#	#	#				21	C ₁ -432-2	453	#		
4	#	#	#					C ₁ -432-3	2	I		
5	#	#	#				22	C ₁ -432-1	267	I		
6	#	23 35	II I				23	C ₁ -432-3	2	#		
7	#	18-19 35	II I				24	C ₁ -432-4	3	II	図版N-20	
8	#	#	#				25	C ₁ -432-18	225	#		
9	C ₁ -430-20	9	#				26	C ₁ -432-3	2	I		
10	C ₁ -432-3	2	#	図版N-19			27	C ₁ -432-1	246	II		
11	#	#	#		同一個体の 可能性	28	C ₁ -432-22	304	I			
12	#	#	#				29	C ₁ -432-13	3	#		
N-26-13	#	#	#				30	C ₁ -432-3	2	#		
14	C ₁ -432-13	222-232	II				31	#	#	#		同一個体 破片5点
	C ₁ -432-19	20	I				32	#	#	#		
15	C ₁ -432-8	165A 175A	III				33	#	#	#		
16	C ₁ -432-7	458	II				N-27-34	C ₁ -432-23	13	II	図版N-9	
17	C ₁ -430-13	13	#				35	C ₁ -432-1	138-144 145-146 147-148 204-216 211-224 226	#	図版N-11	
18	C ₁ -132-1	241-248	II					#	#	#	II	#
	C ₁ -432-6	82	#				36	C ₁ -432-6	28-30	#	図版N-20	
							C ₁ -432-19	20B	I			

4 包含層出土の遺物

図番号	発掘区	遺物番号	出土層位	図版番号	備考	図番号	発掘区	遺物番号	出土層位	図版番号	備考		
37	C ₁ -432-18	134	II		同一個体	83	C ₁ -432-22	304	#		同一個体		
38	C ₁ -432-3	2	I			84	C ₁ -432-1	19	II				
39	C ₁ -432-16	43	#			85	C ₁ -432-22	77	#				
40	C ₁ -432-18	133	II			86	#	#	#				
41	C ₁ -432-22	116	#			87	#	101	#				
42	C ₁ -432-23	111	II			88	C ₁ -432-18	178	#				
43	C ₁ -432-12	6	#			89	C ₁ -432-23	114	I				
44	C ₁ -432-23	114	I			90	C ₁ -432-2	11	#				
45	C ₁ -428-22	2	#			91	C ₁ -430-12	164A	II				
46	C ₁ -432-22	304	#			92	C ₁ -432-22	107	#				
47	C ₁ -432-1	12	II			93	C ₁ -432-2	631	#				
48	C ₁ -432-22	57A	#			94	C ₁ -430-2	87	#				
49	C ₁ -432-3	2	I			95	B ₁ -428-25	19	I				
50	C ₁ -434-11	6	#			96	C ₁ -432-22	114B	II				
51	C ₁ -432-22	67	II			97	C ₁ -432-23	114	I				
N-28-52	C ₁ -432-1	112	#	図版N-21			98	C ₁ -432-22	133	II			
53	#	122	#				C ₁ -432-23	75	#				
54	C ₁ -432-22	158	I			99	C ₁ -432-13	283	#				
55	C ₁ -432-23	25A-39	II			100	C ₁ -432-2	542	II				
	#	114	I			101	C ₁ -432-17	43	#				
56	C ₁ -432-22	92-95 138	II			102	C ₁ -432-18	5	I				
57	C ₁ -432-6	122	#			103	C ₁ -432-2	520	II				
58	C ₁ -432-22	94	I			104	C ₁ -432-17	20	#				
59	C ₁ -432-1	83-84 102-175 190-248	II			105	C ₁ -432-6	38-67	#				
60	#	200-201	#			106	C ₁ -432-22	77	#				
61	#	88-89	#	同一個体 破片49点								同一個体 破片3点	
62	#	185-222	#			N-31-107	C ₁ -432-22	76-111 114-116 124-130	#	図版N-24		同一個体 破片11点	
63	#	12	#										
64	#	232	#			108	C ₁ -432-18	183	I	図版N-25			
65	C ₁ -432-13	226	#			109	C ₁ -430-4	455	I				
N-29-66	C ₁ -432-23	102	#	図版N-22			110	C ₁ -432-22	156 195	II I			同一個体 破片1点
67	C ₁ -432-18	136	#										
	C ₁ -432-23	15A	#			111	C ₁ -432-2	10	#				
68	C ₁ -432-16	45B	#				C ₁ -432-3	2	#				
69	C ₁ -432-22	52A	#				C ₁ -432-9	13	II				
70	C ₁ -430-7	56	I			112	C ₁ -432-2	10	I				
71	C ₁ -432-22	60A	II			113	C ₁ -432-23	49-100	II				
N-29-72	C ₁ -432-2	4	攪乱			114	C ₁ -432-3	2	I				
73	C ₁ -432-23	40-74 95	II			N-32-115	C ₁ -432-22	215-231	II	図版N-26			
74	#	91A-94 103	#	同一個体			116	C ₁ -432-1	234-237 238	#			同一個体
75	C ₁ -432-22	149A	#				117	#	90-95 96	#			115-117と同一 個体の可能性
76	C ₁ -432-17	51	#				118	C ₁ -430-10	166	#			
77	#	44	#	同一個体			119	C ₁ -430-4	120A 362A	#			115-117と同一 個体
78	#	7B-30B	#				120	#	130	#			115-117と 同一個体
79	#	31	#				121	C ₁ -432-21	17	I			
80	C ₁ -432-18	205	#				122	C ₁ -432-1	123	II			
	C ₁ -432-22	95A-76	#				123	C ₁ -432-3	2	I			
	C ₁ -432-23	90	#	同一個体 破片1点			124	C ₁ -432-22	51	II			
81	C ₁ -432-13	224	#				125	C ₁ -432-22	79	#			同一個体
	C ₁ -432-23	59	#				126	#	108-124	#			
N-30-82	B ₁ -428-23	1	I	図版N-23			127	C ₁ -430-2	31	II			

図番号	発掘区	遺物番号	出土層位	図版番号	備考	図番号	発掘区	遺物番号	出土層位	図版番号	備考													
128	C ₁ -432-22	214-234	#		同一個体	154	C ₁ -430-6	9	#		同一個体													
N-33-129	C ₁ -432-13	223-237	#	図版N-12		155	C ₁ -430-1	301	#			同一個体												
130	C ₁ -430-1	10	#	図版N-27		156	C ₁ -432-18	118A	#				同一個体											
131	B ₁ -428-25	18	I			157	#	195	II	F				同一個体										
132	C ₁ -428-3	2	攪乱			158	C ₁ -432-13	262	II						同一個体									
133	B ₁ -428-25	38	I			159	C ₁ -432-18	200	II	F						同一個体								
134	B ₁ -430-7	1	#			160	#	191	#								同一個体							
135	C ₁ -430-4	275B	II			N-34-161	C ₁ -432-19	7	I	図版N-28								同一個体						
136	B ₁ -428-25	18	I			162	#	#	#										同一個体					
137	#	7	II			163	#	#	#											同一個体				
138	C ₁ -430-24	197	#			164	C ₁ -430-21	93	II												同一個体			
139	C ₁ -434-13	2	I			165	C ₁ -432-13	111	#													同一個体		
140	B ₁ -430-21	3	#			166	C ₁ -432-2	155	#														同一個体	
141	C ₁ -432-23	24B	II			167	C ₁ -432-22	172	I															同一個体
142	B ₁ -430-7	1	I			168	C ₁ -432-2	74	II															
143	C ₁ -432-23	37A	II		169	C ₁ -432-18	182	I		同一個体														
144	C ₁ -432-22	203	I		170	C ₁ -432-2	166-167E 168B-168E	II			同一個体													
145	C ₁ -430-24	240	II		171	#	271-511B	#				同一個体												
146	C ₁ -430-6	11	#		172	#	114	#					同一個体											
147	C ₁ -432-7	67	#		173	C ₁ -432-3	2	I						同一個体										
148	C ₁ -432-23	29B	I		174	C ₁ -432-18	196	II							同一個体									
149	C ₁ -430-21	59	II		175	C ₁ -432-22	320	I								同一個体								
150	C ₁ -432-18	197	#		176	C ₁ -432-17	43-50	II									同一個体							
151	C ₁ -432-13	250	#	同一個体の可能性	177	C ₁ -432-6	12	#										同一個体						
152	#	251	#		178	C ₁ -432-16	43	I											同一個体					
153	C ₁ -432-18	220	#																	同一個体				

表V-10 包含層出土の掲載土器一覽 V群

図番号	発掘区	遺物番号	出土層位	図版番号	備考	図番号	発掘区	遺物番号	出土層位	図版番号	備考													
N-35-1	C ₁ -432-9	176-181 203	II	図版N-11	同一個体	27	C ₁ -432-9	12	I		5分と同一個体													
2	C ₁ -432-22	63 321	I			28	C ₁ -432-4	15	II			5分と同一個体												
3	C ₁ -432-23	1-2-29	#			29	C ₁ -432-1	188	#				5分と同一個体											
4	C ₁ -432-8	158-168 167-169 208-217 219-236 237-246 270	III			30	C ₁ -432-22	210	#					5分と同一個体										
5	#	237-248 270-288	#			31	C ₁ -432-13	153	#						5分と同一個体									
6	#	204	#			N-37-32	C ₁ -424-9	1	I	図版N-30						5分と同一個体								
7	C ₁ -432-23	115	I	図版N-29		33	C ₁ -432-23	19	II								5分と同一個体							
N-36-8	C ₁ -430-2	221	#			34	C ₁ -430-4	247	#									5分と同一個体						
9	C ₁ -432-7	105	II			35	C ₁ -432-22	109	#										5分と同一個体					
10	C ₁ -432-22	190	#			36	C ₁ -432-8	127	III											5分と同一個体				
11	#	303	I			37	C ₁ -426-16	1	I												5分と同一個体			
12	C ₁ -432-8	216	II			38	C ₁ -430-4	375	II													5分と同一個体		
13	C ₁ -432-22	340	I			39	C ₁ -430-13	47	#														5分と同一個体	
14	C ₁ -432-8	6	II			40	C ₁ -432-22	321	I															5分と同一個体
15	C ₁ -430-8	26	I			41	C ₁ -430-4	160	II															
16	C ₁ -430-12	193-277 286	II		42	C ₁ -432-7	87	#		5分と同一個体														
17	#	200	#		43	C ₁ -432-23	1	I			5分と同一個体													
18	C ₁ -432-4	78	#		44	C ₁ -432-22	303	#				5分と同一個体												
19	C ₁ -430-8	26	I		45	C ₁ -432-2	205	II					5分と同一個体											
20	C ₁ -428-2	6	#		46	C ₁ -432-4	263	I						5分と同一個体										
21	C ₁ -432-22	45	II		47	C ₁ -432-23	1	#							5分と同一個体									
22	#	130A	#		48	B ₁ -430-12	48	#								5分と同一個体								
23	C ₁ -432-8	91B	III		49	C ₁ -430-5	7	#									5分と同一個体							
24	C ₁ -432-2	196-413 414	II		50	C ₁ -430-2	186	II										5分と同一個体						
25	C ₁ -432-4	74	#	同一個体	51	C ₁ -434-11	4	I											5分と同一個体					
26	#	119	#		52	C ₁ -430-8	1	#												5分と同一個体				
					53	C ₁ -432-21	11	#													5分と同一個体			
					54	C ₁ -424-10	1	#														5分と同一個体		
					55	C ₁ -432-23	1	#															5分と同一個体	
					56	C ₁ -432-7	68	II																5分と同一個体

4 包含層出土の遺物

図番号	発掘区	遺物 番号	出土 層位	図版番号	備 考	図番号	発掘区	遺物 番号	出土 層位	図版番号	備 考
57	C ₁ -432-1	235	I		同一個体	111	C ₁ -432-25	12	II		
	C ₁ -432-2	500	II			112	B ₁ -430-11	2	I		
58	C ₁ -430-4	46-162	#			113	C ₁ -430-12	310	II		
59	C ₁ -430-24	59	II			114	C ₁ -430-21	121	I		
60	#	57	#			115	C ₁ -430-24	287	II		
61	#	60	#			116	C ₁ -430-12	125	#		
62	C ₁ -432-4	204 B	#			117	C ₁ -432-22	117	#		
N-38-63	C ₁ -430-1	394	I	図版N-31		118	C ₁ -430-12	125	#		
64	C ₁ -430-4	254	II			119	C ₁ -432-7	176	II		
65	C ₁ -432-21	1	攪乱			120	C ₁ -430-4	406 B	I		
66	C ₁ -430-21	74	II		121	C ₁ -430-12	252 A	II			
67	C ₁ -430-4	46-162 164	#		122	B ₁ -430-1	1	I			
68	C ₁ -432-18	182	I		123	C ₁ -430-4	376	II			
69	C ₁ -430-3	1	#		124	C ₁ -430-16	40	I			
70	C ₁ -432-12	48	II		125	C ₁ -432-22	171	#			
71	C ₁ -430-12	28	#		126	C ₁ -424-9	1	#			
72	C ₁ -432-19	1	I		127	C ₁ -432-22	23	II			
73	C ₁ -430-4	161	II		128	C ₁ -432-13	1	I			
74	C ₁ -424-4	1	I		129	C ₁ -430-12	79	II			
	C ₁ -424-10	1	#		130	C ₁ -432-23	115	I			
75	C ₁ -432-2	149	I		131	C ₁ -432-19	1	#			
76	C ₁ -432-23	1	I		132	C ₁ -432-22	52 B	II			
77	C ₁ -430-24	195-386 387	II		133	C ₁ -432-18	2	#			
78	C ₁ -432-23	1	I			C ₁ -432-22	71	#			
79	C ₁ -432-12	240	II		134	C ₁ -432-7	14	#			
80	C ₁ -430-13	193	#		135	C ₁ -430-12	153	#			
81	C ₁ -430-24	285-287	II		136	C ₁ -432-19	1	I			
82	C ₁ -432-2	215	#		137	C ₁ -432-8	106	III			
83	C ₁ -432-1	184	#		N-41-138	C ₁ -430-24	407	II	図版N-34		
84	C ₁ -430-3	1	I		139	C ₁ -432-9	185-187	#			
85	C ₁ -432-1	20	II		140	C ₁ -432-8	156-229	III			
86	C ₁ -430-4	190	#		141	C ₁ -432-2	4	II			
87	C ₁ -430-12	165	II		142	C ₁ -430-13	161	#			
88	C ₁ -430-7	68	I		143	C ₁ -430-12	277 B	#			
N-39-89	C ₁ -432-22	54	II	図版N-32	144	C ₁ -432-1	182	#			
	C ₁ -432-23	29	I		145	C ₁ -430-4	196	#			
90	C ₁ -432-21	1	攪乱		146	C ₁ -432-7	373	#			
91	C ₁ -434-11	4	I			C ₁ -432-18	110	#			
92	C ₁ -432-8	265	II		147	C ₁ -432-12	74	#			
93	C ₁ -430-24	221	#		148	C ₁ -430-4	195	#			
94	C ₁ -432-7	244	#		149	C ₁ -430-12	325	#			
95	C ₁ -430-4	178-319	#		150	C ₁ -432-2	493-504	#			
96	C ₁ -432-13	1	I		151	C ₁ -430-8	26	I			
97	C ₁ -430-24	148-153	II		152	C ₁ -430-12	252 A	II			
98	C ₁ -432-2	33	#		153	C ₁ -430-4	418	#			
99	C ₁ -430-4	273	#		154	C ₁ -430-12	252 A	II			
100	C ₁ -430-8	1	I		155	C ₁ -432-1	9	#			
101	#	#	#		156	C ₁ -432-1	159	#			
102	C ₁ -430-25	13	#		157	C ₁ -432-9	131-176	#			
103	C ₁ -430-1	204-233	II		N-42-158	C ₁ -432-1	20	#	図版N-35		
104	C ₁ -432-13	54-106	#		159	C ₁ -430-10	39	#			
105	C ₁ -432-7	258	#		160	C ₁ -432-22	803	I			
	C ₁ -432-13	56	#		161	C ₁ -430-24	218	II			
106	C ₁ -432-1	64	#		162	C ₁ -430-2	185-204	#			
N-40-107	C ₁ -432-23	29	I	図版N-33	163	C ₁ -430-4	433 B	#			
108	C ₁ -430-12	132	II		164	C ₁ -432-1	227	I			
109	C ₁ -432-19	29	I		165	C ₁ -430-12	34-37 180-204	II			
110	C ₁ -432-22	60 B	II		166	C ₁ -430-4	50	#			

図番号	発掘区	遺物番号	出土層位	図版番号	備考	図番号	発掘区	遺物番号	出土層位	図版番号	備考
167	C ₁ -430-8	26	I		同一個体	187	C ₁ -430-7	58	I		202と同一個体
168	C ₁ -432-4	37 ⁹⁹ 143	II			188	C ₁ -432-8	234	II		
169	C ₁ -432-18	95	#			189	C ₁ -432-9	77	II		
170	C ₁ -432-2	1	#			N-44-190	C ₁ -432-1	56	#	N-37	
171	C ₁ -432-7	227	#			191	C ₁ -432-23	.1	I		
172	C ₁ -432-4	120	#			192	C ₁ -450-16	40	#		
173	C ₁ -430-21	13-37	#			193	C ₁ -432-23	1	#		
N-43-174	C ₁ -432-2	358	#	N-36		194	C ₁ -430-7	58	#		
175	C ₁ -432-9	90	#			195	C ₁ -430-16	40	#		
176	C ₁ -430-12	187-192	#			196	C ₁ -432-23	1	#		
177	C ₁ -432-13	1	I			197	C ₁ -432-9	146-148	#		
178	C ₁ -432-23	1-2-3	#			198	C ₁ -434-2	679	II		
179	#	1-2	#			199	C ₁ -432-23	1	I		
180	C ₁ -432-23	2	#			200	C ₁ -430-2	236	II		
181	#	#	#			N-44-201	C ₁ -430-13	38	#		
182	C ₁ -430-16	40	#			202	C ₁ -432-23	1	I		
183	C ₁ -432-1	176-186	II			203	C ₁ -432-18	74	II		
184	C ₁ -432-1	259	I		204	C ₁ -432-4	262	I			
185	C ₁ -430-4	179B	II		205	#	#	#			
186	#	294	II		206	#	#	#			

表IV-11 包含層出土の掲載石器一覽

図番号	発掘区	遺物番号	層位	器種名	分類	長さ(mm) × 幅(mm) × 厚さ(mm)	重量(g)	石材	図版番号	備考
N-50-1	C ₁ -430-24	170	II	石鏃	I A4a	22.3 × 14.0 × 4.0	1.2	黒曜石	N-39	
2	C ₁ -430-12	58	II	石鏃	I A4a	28.4 × 20.3 × 3.6	2.3	黒曜石	#	
3	C ₁ -430-4	274	II	石鏃	I A4a	26.0 × 12.6 × 4.0	1.0	黒曜石	#	
4	C ₁ -430-4	201A	II	石鏃	I A4a	25.3 × 16.4 × 3.2	1.4	黒曜石	#	
5	C ₁ -432-2	320A	II	石鏃	I A4a	31.3 × 17.0 × 3.6	2.0	黒曜石	#	
6	C ₁ -432-2	27A	II	石鏃	I A4a	32.0 × 22.0 × 5.4	2.9	黒曜石	#	
7	C ₁ -430-4	48A	II	石鏃	I A4a	35.5 × 13.4 × 3.3	1.5	黒曜石	#	
8	C ₁ -432-8	271B	III	石鏃	I A4b	23.0 × 15.0 × 4.5	1.3	黒曜石	#	
9	C ₁ -430-12	6	II	石鏃	I A4b	27.6 × 16.6 × 3.0	1.4	黒曜石	#	
10	C ₁ -430-4	279	II	石鏃	I A4b	25.0 × 13.8 × 2.7	0.9	黒曜石	#	
11	C ₁ -430-12	10	II	石鏃	I A4b	27.0 × 17.2 × 3.7	1.7	黒曜石	#	
12	C ₁ -430-12	216	II	石鏃	I A4b	29.0 × 17.4 × 3.6	1.9	黒曜石	#	
13	C ₁ -430-12	307B	II	石鏃	I A4b	28.6 × 12.8 × 2.2	0.9	黒曜石	#	
14	C ₁ -430-12	215B	II	石鏃	I A4b	27.9 × 12.8 × 2.4	0.8	黒曜石	#	
15	C ₁ -430-12	43	II	石鏃	I A4b	29.0 × 13.7 × 3.5	1.5	黒曜石	#	
16	C ₁ -430-4	383A	II	石鏃	I A4b	30.4 × 15.5 × 2.8	1.4	黒曜石	#	
17	C ₁ -430-12	61A	II	石鏃	I A4b	34.5 × 17.0 × 4.0	2.2	黒曜石	#	
18	C ₁ -432-2	320B	II	石鏃	I A4b	35.4 × 16.6 × 3.6	2.3	黒曜石	#	
19	C ₁ -432-8	202A	III	石鏃	I A5a	16.0 × 8.5 × 2.0	0.3	黒曜石	#	
20	C ₁ -432-1	205A	II	石鏃	I A5a	20.3 × 13.8 × 2.8	0.7	黒曜石	#	
21	C ₁ -432-2	450	II	石鏃	I A5a	18.5 × 10.5 × 2.8	0.4	黒曜石	#	
22	C ₁ -432-2	88	II	石鏃	I A5a	22.8 × 13.0 × 3.5	0.9	黒曜石	#	
23	C ₁ -432-17	21	II	石鏃	I A5a	23.0 × 12.1 × 3.6	0.6	黒曜石	#	
24	C ₁ -430-2	4	I	石鏃	I A5a	29.6 × 14.1 × 3.3	0.8	黒曜石	#	
25	C ₁ -430-1	432	I	石鏃	I A5a	31.0 × 10.5 × 2.5	0.8	黒曜石	#	
26	C ₁ -430-5	21	II	石鏃	I A5a	41.5 × 15.5 × 3.2	1.5	黒曜石	#	
27	B ₁ -430-21	13	I	石鏃	I A5c	(18.8) × 11.0 × 3.5	(0.6)	黒曜石	#	
28	B ₁ -428-15	6	I	石鏃	I A5c	33.5 × 10.0 × 4.6	1.0	黒曜石	#	
29	C ₁ -430-10	129A	II	石鏃	I A5c	26.6 × 12.9 × 4.0	1.2	黒曜石	#	
30	B ₁ -430-12	1	I	石鏃	I A5c	45.7 × 19.8 × 5.5	4.1	黒曜石	#	
31	C ₁ -432-2	172A	II	石鏃	I A6a	20.4 × 9.4 × 2.0	0.4	黒曜石	#	
32	C ₁ -430-3	16	II	石鏃	I A6a	22.7 × 12.0 × 4.2	(1.0)	黒曜石	#	
33	C ₁ -430-4	321	II	石鏃	I A6b	30.3 × 16.5 × 4.3	1.5	黒曜石	#	
34	C ₁ -432-17	15A	II	石鏃	I A7a	18.2 × 8.1 × 1.8	0.3	黒曜石	#	

4 包含層出土の遺物

図番号	発掘区	遺物番号	層位	器種名	分類	長さ(mm)×幅(mm)×厚さ(mm)	重量(g)	石材	図版番号	備考
35	B ₁ -430-12	10	II	石鏃	I A7a	24.9 × 14.4 × 2.6	0.9	黒曜石	#	
36	C ₁ -430-24	199A	II	石鏃	I A7b	(27.5) × 12.8 × 2.8	(1.3)	黒曜石	#	
37	C ₁ -432-20	26	I	石鏃	I A7b	(33.2) × 12.2 × 5.8	(2.2)	黒曜石	#	
38	C ₁ -432-1	196A	II	石鏃	I A7b	20.4 × 13.9 × 2.2	0.6	黒曜石	#	
39	C ₁ -430-12	303	II	石鏃	I A7b	30.4 × 12.2 × 3.0	1.0	黒曜石	#	
40	B ₁ -428-18	2	I	石槍	I B1	49.2 × 22.3 × 8.0	6.9	黒曜石	#	IV-40
41	B ₁ -428-11	2	I	石槍	I B1	(52.6) × 23.7 × 6.6	(6.9)	黒曜石	#	
42	C ₁ -428-12	12	I	石槍	I B1	61.3 × 34.0 × 10.0	16.7	黒曜石	#	
43	C ₁ -432-9	25	II	石槍	I B1	(51.8) × 29.6 × 10.5	(14.6)	黒曜石	#	
IV-51-44	C ₁ -426-5	44-28	II	石槍	I B1	69.4 × 23.0 × 9.2	11.6	黒曜石	#	
45	B ₁ -430-12	60	I	石槍	I B1	(50.4) × 27.5 × 8.0	(9.6)	黒曜石	#	
46	C ₁ -430-13	206	I	石槍	I B1	64.1 × 26.5 × 6.0	8.8	黒曜石	#	
47	C ₁ -432-8	244B	III	石槍	I B1	(64.5) × 26.2 × 6.7	(13.1)	黒曜石	#	
48	C ₁ -432-12	12	II	石槍	I B2	55.8 × 19.1 × 5.5	4.82	黒曜石	#	
49	C ₁ -426-2	26	I	石槍	I B2	(54.3) × 21.0 × 5.5	(5.6)	黒曜石	#	
50	B ₁ -428-15	8	I	石槍	I B2	59.8 × (20.4) × 7.8	(6.7)	黒曜石	#	
51	B ₁ -430-21	3	I	石槍	I B2	64.6 × 25.2 × 8.6	10.9	黒曜石	#	
52	C ₁ -432-9	126	II	石鏃	II A1	70.5 × 8.1 × 6.8	3.9	黒曜石	#	
53	C ₁ -432-23	19	II	石鏃	II A2	25.3 × 7.5 × 4.4	1.0	黒曜石	#	
54	C ₁ -432-2	587	II	石鏃	II A2	(33.8) × 5.0 × 4.0	(0.8)	黒曜石	#	
55	C ₁ -432-2	471	II	石鏃	II A3	30.6 × 15.5 × 4.0	1.7	黒曜石	#	
56	C ₁ -432-22	326	I	石鏃	II A3	(41.5) × 35.0 × 6.4	(8.7)	黒曜石	#	
57	C ₁ -430-3	91	I	石鏃	II A3	(54.5) × 24.8 × 6.5	(8.7)	黒曜石	#	
58	C ₁ -432-16	22	II	つまみ付ナイフ	III A1	(35.5) × 18.8 × 4.8	(4.9)	頁岩	#	IV-41
59	C ₁ -430-16	22	II	つまみ付ナイフ	III A1	43.0 × 16.6 × 7.7	6.3	頁岩	#	
60	C ₁ -432-12	32	II	つまみ付ナイフ	III A1	42.0 × (16.8) × 4.9	(5.0)	メノウ質岩	#	
61	C ₁ -426-14	24	II	つまみ付ナイフ	III A1	51.8 × 31.8 × 7.8	16.6	頁岩	#	
62	C ₁ -432-22	85	II	つまみ付ナイフ	III A1	55.5 × 21.8 × 7.5	8.9	頁岩	#	
63	C ₁ -432-17	39	II	つまみ付ナイフ	III A1	55.0 × 20.8 × 8.7	10.8	メノウ質岩	#	
64	B ₁ -430-8	14	I	つまみ付ナイフ	III A1	61.8 × 30.5 × 6.5	13.6	頁岩	#	
65	C ₁ -432-22	191	I	つまみ付ナイフ	III A1	37.5 × 21.4 × 8.4	12.4	頁岩	#	
IV-52-66	C ₁ -432-2	684	II	つまみ付ナイフ	III A1	55.2 × 20.5 × 11.4	18.1	頁岩	#	
67	C ₁ -432-22	290	II	つまみ付ナイフ	III A1	(57.9) × 21.8 × 10.8	(15.2)	頁岩	#	
68	C ₁ -432-23	27	II	つまみ付ナイフ	III A1	77.8 × 20.5 × 5.5	13.1	頁岩	#	
69	C ₁ -432-19	4	II	つまみ付ナイフ	III A1	(81.4) × 19.6 × 18.6	(20.0)	メノウ質岩	#	
70	C ₁ -426-14	4	II	つまみ付ナイフ	III A1	65.7 × 22.5 × 12.5	24.8	頁岩	#	
71	C ₁ -430-3	6A	II	つまみ付ナイフ	III A2	(44.2) × (22.5) × 7.9	(10.4)	頁岩	#	
72	C ₁ -430-17	35	II	つまみ付ナイフ	III A2	(69.2) × 24.5 × 11.8	(20.6)	頁岩	#	
73	C ₁ -432-2	337	II	つまみ付ナイフ	III A1	(59.8) × 17.3 × 3.7	(4.4)	黒曜石	#	
74	C ₁ -430-23	1	II	つまみ付ナイフ	III A1	84.7 × 25.8 × 7.8	19.0	黒曜石	#	
75	C ₁ -432-23	34B	II	つまみ付ナイフ	III A1	(39.2) × 16.8 × 7.2	(5.4)	黒曜石	#	
76	C ₁ -430-4	7	II	つまみ付ナイフ	III A2	36.5 × 20.5 × 5.5	5.6	黒曜石	#	
77	C ₁ -426-9	1	II	つまみ付ナイフ	III A2	54.6 × 20.5 × 5.6	5.9	黒曜石	#	
78	C ₁ -430-13	22	II	つまみ付ナイフ	III A3	45.3 × 38.7 × 11.5	18.5	黒曜石	#	
79	C ₁ -432-17	47A	II	つまみ付ナイフ兼製品	III A8	(34.0) × 13.8 × 3.5	(1.9)	黒曜石	#	
80	C ₁ -432-3	17	II	つまみ付ナイフ兼製品	III A8	(51.2) × 17.5 × 3.5	(3.5)	黒曜石	#	
81	C ₁ -432-3	30	II	つまみ付ナイフ兼製品	III A8	57.8 × 40.5 × 7.5	14.2	黒曜石	#	
82	C ₁ -430-7	118	I	ナイフ	III B1	43.4 × 24.8 × 8.2	8.4	黒曜石	#	IV-42
83	C ₁ -432-17	5	I	ナイフ	III B1	53.6 × 19.8 × 5.5	5.6	黒曜石	#	
84	C ₁ -430-12	141	II	ナイフ	III B1	48.3 × 15.5 × 6.6	4.6	黒曜石	#	
85	C ₁ -432-8	244C	III	ナイフ	III B1	50.0 × 20.0 × 7.0	7.5	黒曜石	#	
86	C ₁ -430-24	255A	II	ナイフ	III B1	(53.8) × 24.4 × 6.0	(10.4)	黒曜石	#	
IV-53-87	C ₁ -430-12	146	II	ナイフ	III B1	63.6 × 24.0 × 8.8	12.6	黒曜石	#	鋸内刺
88	C ₁ -430-7	109	I	ナイフ	III B1	66.9 × 31.2 × 6.2	14.9	黒曜石	#	
89	C ₁ -432-22	23	II	ナイフ	III B1	77.4 × 21.0 × 7.0	11.5	黒曜石	#	

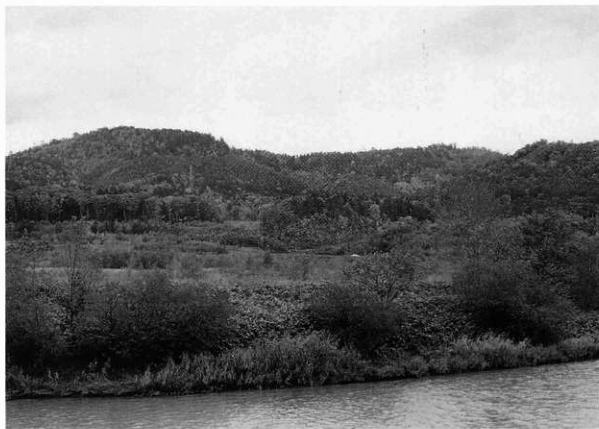
図番号	発掘区	遺物番号	層位	器種名	分類	長さ(mm)×幅(mm)×厚さ(mm)	重量(g)	石材	図版番号	備考
90	C ₁ -430-12	87	II	ナイフ	III B1	104.0 × 31.2 × 9.9	27.8	黒曜石	#	
91	C ₁ -430-12	184A	II	ナイフ	III B2	24.4 × 15.0 × 4.2	2.2	黒曜石	#	
92	C ₁ -430-7	52A	II	ナイフ	III B2	41.4 × 24.8 × 6.2	6.4	黒曜石	#	
93	C ₁ -432-2	90	II	ナイフ	III B2	18.1 × 17.6 × 6.0	3.2	黒曜石	#	
94	C ₁ -430-4	48B	II	ナイフ	III B2	40.2 × 25.0 × 7.5	7.7	黒曜石	#	
95	C ₁ -430-3	9	I	ナイフ	III B2	90.3 × 50.8 × 11.0	(52.9)	黒曜石	#	
96	C ₁ -430-1	419	II	ナイフ	III B2	(52.4) × (36.3) × 8.2	(13.7)	黒曜石	#	
97	C ₁ -432-2	58A	II	ナイフ	III B2	(50.0) × 32.5 × 4.2	(19.9)	黒曜石	#	
98	C ₁ -432-22	13	II	ナイフ	III B2	(62.3) × 30.6 × 8.7	(17.8)	黒曜石	#	
99	B ₁ -428-25	40	I	ナイフ	III B2	(51.3) × 21.5 × 5.3	(6.2)	頁岩	#	
100	B ₁ -428-25	27	I	ナイフ	III B2	(83.2) × (38.0) × 7.9	(22.6)	頁岩	#	
101	C ₁ -432-7	5A	II	スクレイパー	III C2	30.4 × 26.0 × 6.3	6.1	黒曜石	IV-43	
102	C ₁ -430-20	8A	II	スクレイパー	III C2	29.7 × 47.2 × 11.7	18.3	黒曜石	#	
103	C ₁ -430-2	61	II	スクレイパー	III C2	39.5 × 38.3 × 8.4	15.1	黒曜石	#	
104	C ₁ -432-8	214A	III	スクレイパー	III C2	54.7 × 28.6 × 8.0	16.6	黒曜石	#	
105	C ₁ -430-24	295A	II	スクレイパー	III C2	36.2 × 24.0 × 7.6	7.7	黒曜石	#	
106	C ₁ -432-9	113A	II	スクレイパー	III C3	39.4 × 29.8 × 10.3	14.2	黒曜石	#	
107	C ₁ -432-9	43	II	スクレイパー	III C3	(31.1) × 22.9 × 7.0	(5.3)	黒曜石	#	
IV-54-108	C ₁ -432-1	148	II	スクレイパー	III C3	36.9 × 28.4 × 12.2	15.5	黒曜石	#	
109	C ₁ -432-22	190	II	スクレイパー	III C3	(44.9) × 30.5 × 14.4	(19.3)	黒曜石	#	
110	C ₁ -432-7	159A	II	スクレイパー	III C3	61.6 × 29.7 × 10.9	19.2	黒曜石	#	
111	C ₁ -432-2	242	II	スクレイパー	III C4	49.6 × 16.4 × 6.0	5.4	黒曜石	#	
112	C ₁ -430-12	259	II	スクレイパー	III C4	(55.2) × 21.9 × 11.0	(18.8)	黒曜石	#	
113	C ₁ -430-2	220	II	スクレイパー	III C4	59.3 × 21.0 × 8.9	12.3	メノウ	#	
114	C ₁ -430-1	81	II	スクレイパー	III C4	73.4 × 31.4 × 11.5	31.0	黒曜石	#	
115	C ₁ -432-9	114A	II	スクレイパー	III C4	55.6 × 24.9 × 9.5	14.8	黒曜石	#	
116	C ₁ -430-21	2	II	スクレイパー	III C4	62.8 × 38.6 × 15.0	42.0	メノウ質頁岩	#	
117	C ₁ -432-1	23	II	スクレイパー	III C4	80.0 × 37.2 × 13.9	45.0	珪質頁岩	#	
118	C ₁ -432-2	125A	II	スクレイパー	III C4	46.5 × 32.4 × 8.2	15.0	黒曜石	#	
119	C ₁ -430-4	59	II	スクレイパー	III C4	(32.0) × 54.9 × 14.0	(29.5)	黒曜石	#	
120	C ₁ -432-8	260B	III	スクレイパー	III C4	46.8 × 26.4 × 9.5	13.9	黒曜石	#	
121	C ₁ -432-19	9A	III	スクレイパー	III C4	59.8 × 22.0 × 7.7	16.1	黒曜石	#	
122	B ₁ -430-22	8	I	スクレイパー	III C4	(71.5) × (52.7) × 11.0	(67.4)	玄武岩	IV-44	
IV-55-123	C ₁ -430-23	17	I	スクレイパー	III C4	66.0 × 42.5 × 11.7	44.3	玄武岩	#	
124	B ₁ -428-25	32	I	スクレイパー	III C4	61.7 × 37.5 × 7.4	20.4	黒曜石	#	
125	C ₁ -424-12	35	II	スクレイパー	III C4	68.3 × 54.5 × 10.4	33.3	黒曜石	#	
126	C ₁ -430-12	361	I	スクレイパー	III C4	50.6 × 96.4 × 12.0	60.1	黒曜石	#	
127	C ₁ -432-9	152	II	スクレイパー	III C5	45.4 × 30.9 × 12.9	17.5	黒曜石	#	
128	B ₁ -428-21	9	I	スクレイパー	III C6	41.2 × 35.5 × 6.9	11.1	黒曜石	#	
129	C ₁ -430-24	378A	II	スクレイパー	III C6	42.7 × 36.2 × 8.4	8.6	黒曜石	#	
130	C ₁ -430-24	416B	II	スクレイパー	III C6	46.9 × 22.6 × 7.8	8.0	黒曜石	#	
131	C ₁ -430-12	114A	II	スクレイパー	III C6	(49.2) × (35.3) × 12.0	(19.9)	黒曜石	#	
132	C ₁ -432-2	595	II	スクレイパー	III C6	87.8 × 56.3 × 11.4	43.2	黒曜石	#	
133	C ₁ -432-17	2	I	スクレイパー	III C6	39.0 × 26.0 × 4.0	6.3	黒曜石	#	
134	C ₁ -432-2	204	II	スクレイパー	III C7	79.0 × 16.4 × 8.1	12.3	黒曜石	#	
135	C ₁ -430-4	88	II	スクレイパー	III C7	(64.3) × (39.7) × 14.8	(38.8)	黒曜石	#	
136	C ₁ -432-22	202A	II	スクレイパー	III C7	37.0 × 34.6 × 6.4	11.6	黒曜石	#	
137	C ₁ -430-24	416A	II	スクレイパー	III C7	51.9 × 43.0 × 16.0	36.1	黒曜石	#	
IV-56-138	C ₁ -432-8	112A	II	スクレイパー	III C7	59.1 × 49.1 × 15.5	45.4	黒曜石	#	
139	C ₁ -432-18	143A	II	スクレイパー	III C7	94.2 × 54.4 × 15.7	66.4	黒曜石	IV-45	
140	C ₁ -430-2	34	II	スクレイパー	III C7	(55.5) × (19.8) × 4.8	(6.7)	黒曜石	#	
141	C ₁ -430-12	237A	II	スクレイパー	III C7	53.6 × 30.4 × 14.0	22.3	黒曜石	#	
142	B ₁ -426-8	2	I	スクレイパー	III C7	67.2 × 44.0 × 7.0	21.8	黒曜石	#	
143	C ₁ -432-4	11	II	スクレイパー	III C7	61.7 × 17.7 × 7.4	8.5	黒曜石	#	
144	C ₁ -432-8	243C	III	スクレイパー	III C7	42.5 × 27.0 × 9.2	11.6	黒曜石	#	

4 包含層出土の遺物

図番号	発掘区	遺物番号	層位	器種名	分類	長さ(mm)×幅(mm)×厚さ(mm)	重量(g)	石材	図版番号	備考
145	C ₁ -432-7	286	II	石核	ⅩA1	34.7 × 48.0 × 11.8	17.4	黒曜石		7
146	C ₁ -430-13	95	II	石核	ⅩA1	27.8 × 25.2 × 27.0	17.0	黒曜石		8
147	C ₁ -430-4	123	II	石核	ⅩA1	49.5 × 32.0 × 19.2	27.2	黒曜石		9
148	C ₁ -432-13	74	II	石核	ⅩA1	33.6 × 31.0 × 17.2	19.1	黒曜石		10
149	C ₁ -432-22	239	II	石核	ⅩA1	31.6 × 64.6 × 23.4	50.5	黒曜石		11
150	C ₁ -432-18	90A	II	異形石器	ⅩA3	10.2 × 36.0 × 4.4	1.8	黒曜石		12
151	C ₁ -430-4	369A	II	異形石器	ⅩA3	29.0 × (11.0) × 5.5	(2.0)	黒曜石		13
152	C ₁ -430-4	343A	II	異形石器	ⅩA3	31.0 × 14.8 × 4.6	2.3	黒曜石		14
153	C ₁ -430-4	281	II	異形石器	ⅩA3	(32.0) × 20.3 × 4.9	(3.5)	黒曜石		15
154	C ₁ -432-18	189	II	異形石器	ⅩA3	(30.0) × 15.0 × 3.2	(1.8)	黒曜石		16
155	C ₁ -432-20	47	I	石製品		22.5 × (20.8) × 3.8	(3.1)	カンラン岩		17
N-57-156	C ₁ -432-12	54	II	石斧	ⅣA1	124.2 × 61.7 × 17.2	201.2	片岩	N-46-1	
157	C ₁ -426-14	3	II	石斧	ⅣA1	175.0 × 57.9 × 18.2	255.9	片岩		2
158	C ₁ -432-1	13	II	石斧	ⅣA1	83.9 × 28.0 × 10.5	35.7	片岩		3
159	C ₁ -430-24	440	II	石斧	ⅣA1	80.2 × 36.4 × 9.5	49.1	片岩		4
160	C ₁ -432-22	201	I	石斧	ⅣA2	212.0 × 70.5 × 47.0	1,185.0	カンラン岩?		5 縦打痕あり
N-58-161	C ₁ -430-1	313	II	石斧	ⅣA2	80.0 × 30.5 × 12.6	57.1	片岩		6
162	C ₁ -430-19	21	I	石斧	ⅣA2	98.4 × 36.7 × 11.5	78.7	片岩		7
163	C ₁ -430-12	212	II	石斧	ⅣA2	134.4 × 48.6 × 17.5	167.8	緑色泥岩		8
164	C ₁ -426-2	28	I	石斧	ⅣA2	117.3 × 38.7 × 13.3	113.7	片岩		9
165	C ₁ -430-19	11	II	石斧	ⅣA2	74.8 × 44.7 × 18.4	103.2	泥岩		10
166	C ₁ -432-4	220	II	石斧	ⅣA2	178.0 × 68.0 × 46.3	915.0	カンラン岩?		11 縦打痕あり
N-59-167	C ₁ -428-4	1	I	石斧	ⅣA2	235.0 × 82.1 × 42.5	1,640.0	カンラン岩?		12 縦打痕あり
168	C ₁ -432-6	68	II	石のみ	ⅣB	89.5 × 20.3 × 8.0	23.9	片岩		13
169	C ₁ -430-7	7	I	擦切残片	ⅣC3	(51.5) × (46.7) × 15.6	(62.6)	片岩		14
170	C ₁ -432-7	7A	II	たたき石	ⅤA3	116.8 × 51.7 × 20.0	194.7	砂岩	N-47-1	
171	C ₁ -432-2	671	II	たたき石	ⅤA2	116.7 × 65.0 × 47.8	432.8	砂岩		2
172	C ₁ -432-7	7B	II	たたき石	ⅤA1	143.4 × 53.3 × 26.5	272.0	砂岩		3
173	C ₁ -430-21	49	II	たたき石	ⅤA2	182.0 × 54.3 × 23.0	349.0	砂岩		4
174	C ₁ -430-22	60	II	たたき石	ⅤA1	220.0 × 78.5 × 48.0	1,005.0	砂岩		5
N-60-175	C ₁ -430-1	412	II	すり石	ⅥA3	76.7 × 76.0 × 43.2	370.3	泥岩		6
176	C ₁ -432-11	8	I	すり石	ⅥA4	88.4 × 123.8 × 48.4	580.1	砂岩		7
177	C ₁ -432-3	32	II	すり石	ⅥA4	97.0 × 114.0 × 72.0	1,125.0	砂岩		8
178	C ₁ -430-21	56	II	すり石	ⅥA4	84.8 × 134.2 × 66.0	960.0	砂岩		9
179	C ₁ -432-16	17	II	すり石	ⅥA4	140.0 × 83.0 × 52.0	1,115.0	砂岩		10
180	C ₁ -432-1	140	II	砥石	ⅧB1	(39.1) × (32.6) × (14.2)	(13.5)	スコリア	N-48-1	
181	C ₁ -432-13	39	I	砥石	ⅧB1	(54.0) × (34.4) × (26.0)	(47.6)	スコリア		2
182	C ₁ -432-8	270B	III	砥石	ⅧB1	(43.5) × (29.5) × (14.0)	(8.0)	スコリア		3
183	C ₁ -432-8	143	III	砥石	ⅧB1	(55.7) × (48.6) × (23.5)	(53.7)	スコリア		4
184	C ₁ -430-1	348	II	砥石	ⅧB8	(122.0) × (75.3) × (46.5)	(463.5)	砂岩		5
185	C ₁ -430-1	387	II	砥石	ⅧB8	233.0 × (114.2) × (66.0)	(1,855.0)	泥岩		7
186	C ₁ -432-22	157	II	砥石	ⅧB8	(145.3) × (74.6) × (46.6)	(487.9)	砂岩		6
N-61-187	C ₁ -432-9	204	II	台石	ⅤB1	213.0 × 237.0 × (80.0)	(5,150.0)	砂岩	N-49-1	
188	C ₁ -432-8	156	III	石皿	ⅥA1	(262.0) × (176.0) × (124.6)	(7,000.0)	トロニム岩		2
189	C ₁ -432-8	134A	III	石皿	ⅥA1	(343.0) × 444.3 × 125.0	62,500.0	砂岩		3



1 遺跡遠景 (航空写真)



2 遺跡遠景 (空知川対岸から望む)

図版Ⅳ-2 調査状況



1 調査状況 (S→N)



2 調査状況 (SE→NW)



1 土層堆積状況 (SW→NE)



2 土層堆積状況 (SE→NW)

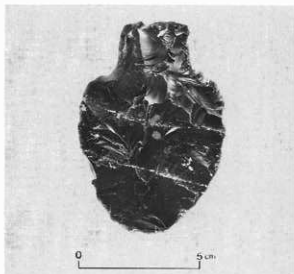
図版Ⅳ-4 P-1・2の調査



1 P-1のセクション (S→N)



2 P-1 (N→S)



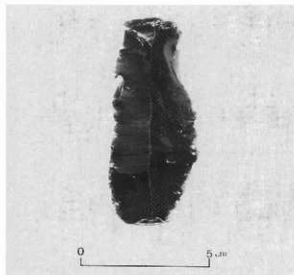
3 P-1の遺物



4 P-2のセクション (S→N)



5 P-2 (N→S)



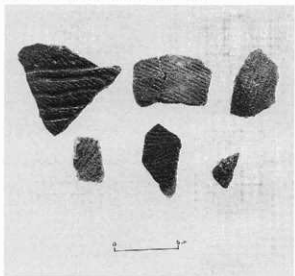
6 P-2の遺物



1 P-3のセクション (S→N)



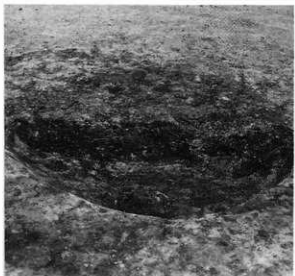
2 P-3 (S→N)



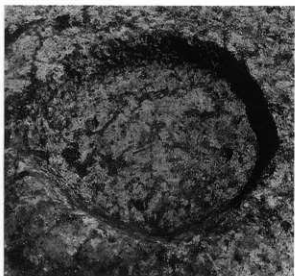
3 P-3の遺物 (土器)



4 P-3の遺物 (石器)



5 P-4のセクション (S→N)



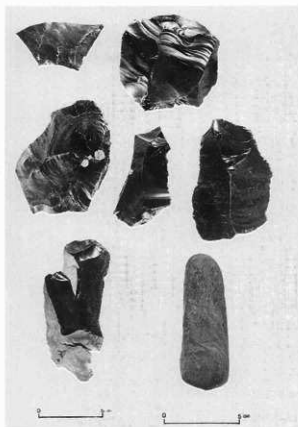
6 P-4の遺物出土状況 (S→N)



1 P-6の遺物出土状況 (E→W)



2 P-6のセクション (S→N)



3 P-6の遺物



1 P-5のセクション (S→N)



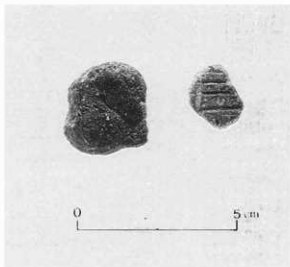
2 P-5の遺物出土状況 (S→N)



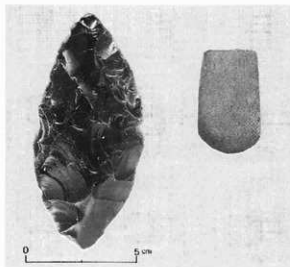
3 P-7のセクション (S→N)



4 P-7 (S→N)



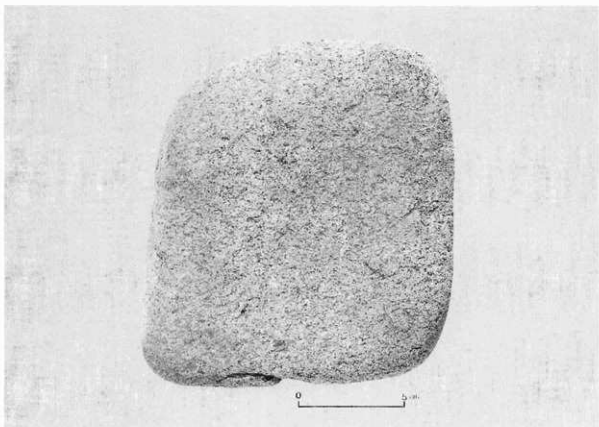
5 P-7の遺物 (土器)



6 P-7の遺物 (石器)



1 S-1の遺物出土状況 (E→W)



2 S-1の遺物



1 包含層の遺物出土状況 (S→N)



2 玉出土状況 (N→S)



3 土器出土状況 (E→W)



4 復元土器 (図Ⅳ-27-34)

図版Ⅳ-10 完掘状況



1 完掘状況 (S→N)



2 完掘状況 (W→E)



1 包含層の復元土器 (図Ⅳ-27-35)



2 包含層の復元土器 (図Ⅳ-33-2)



3 包含層の復元土器 (図Ⅳ-35-1)



4 包含層の復元土器 (図Ⅳ-35-2)



5 包含層の復元土器 (図Ⅳ-35-3)



6 包含層の復元土器 (図Ⅳ-35-4)



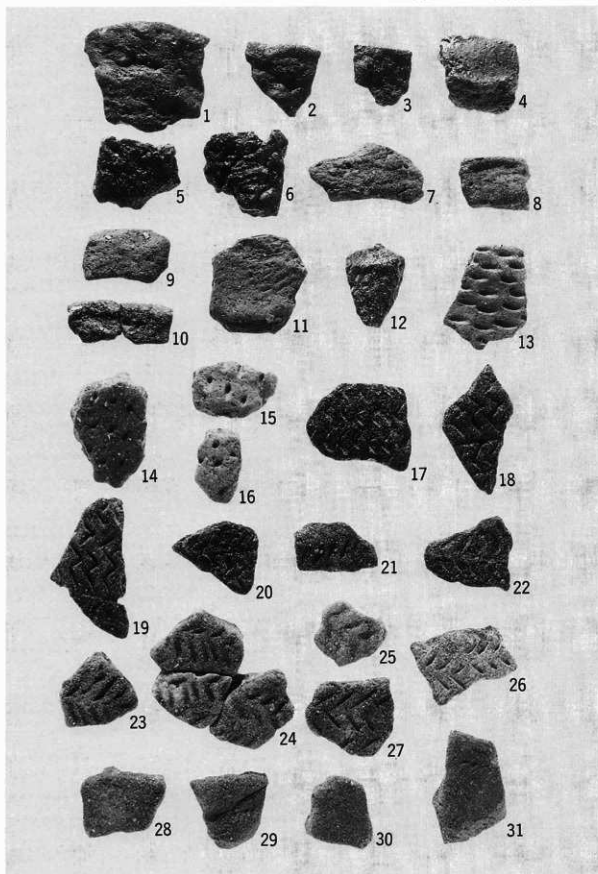
7 6の同一個体破片 (図Ⅳ-35-5・6)



1 包含層のⅣ群復元土器

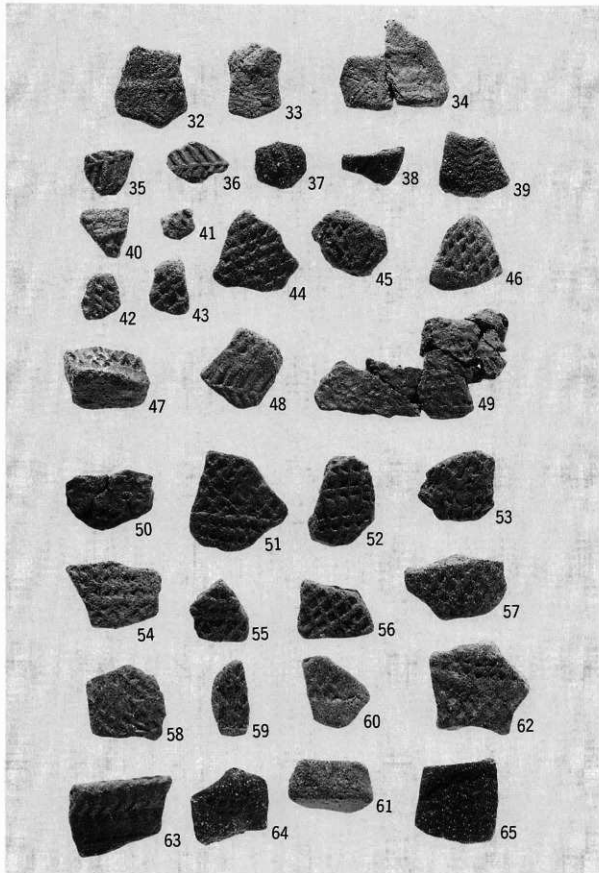


2 包含層のⅤ群復元土器

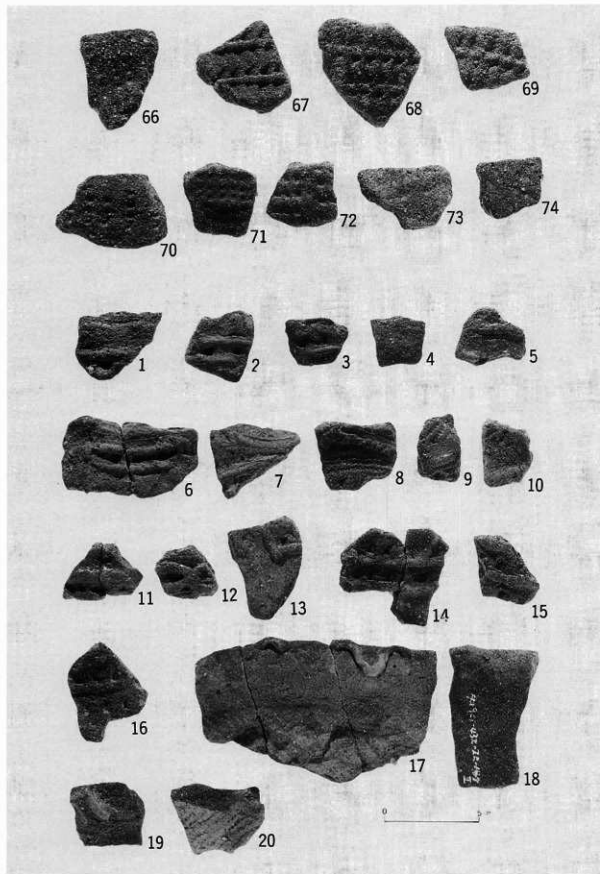


1 包含層の土器

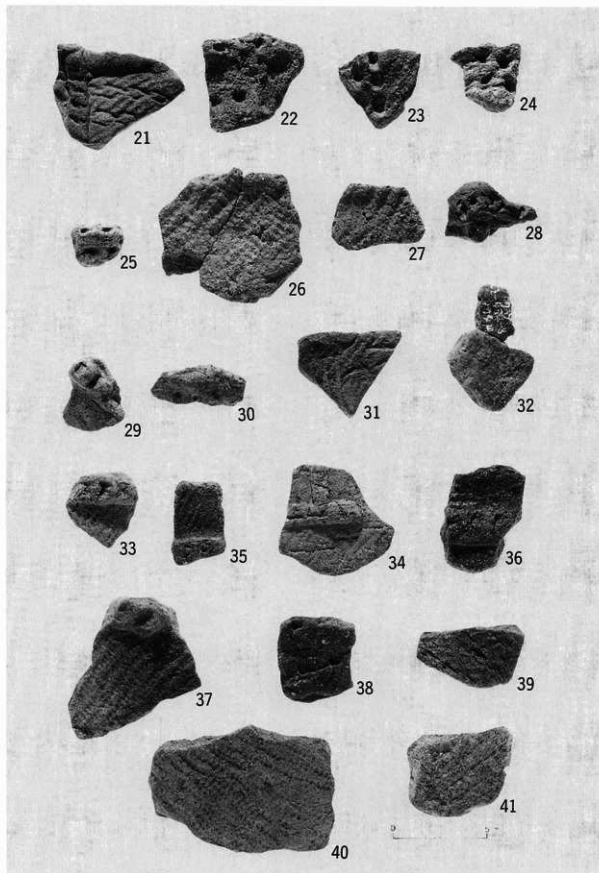
図版IV-14 包含層のII群土器



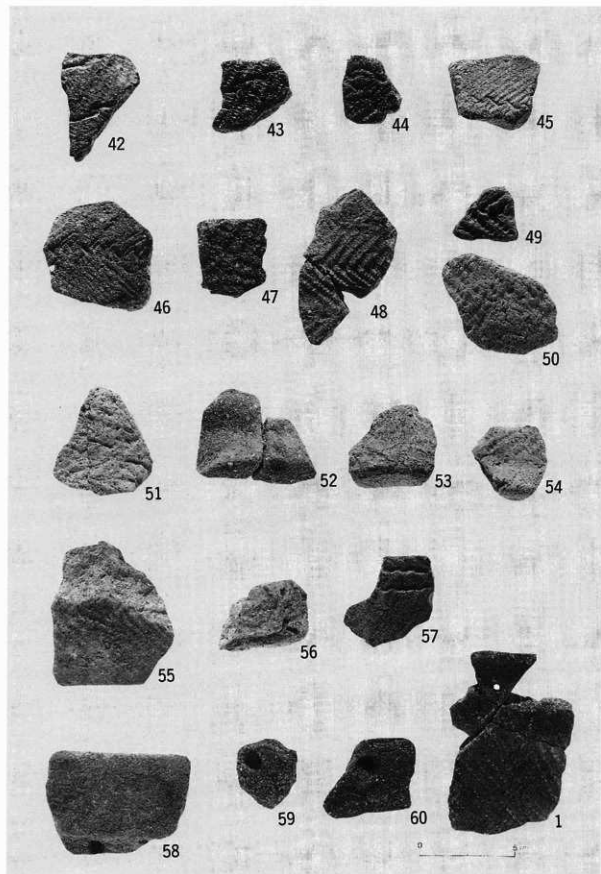
1 包含層の土器



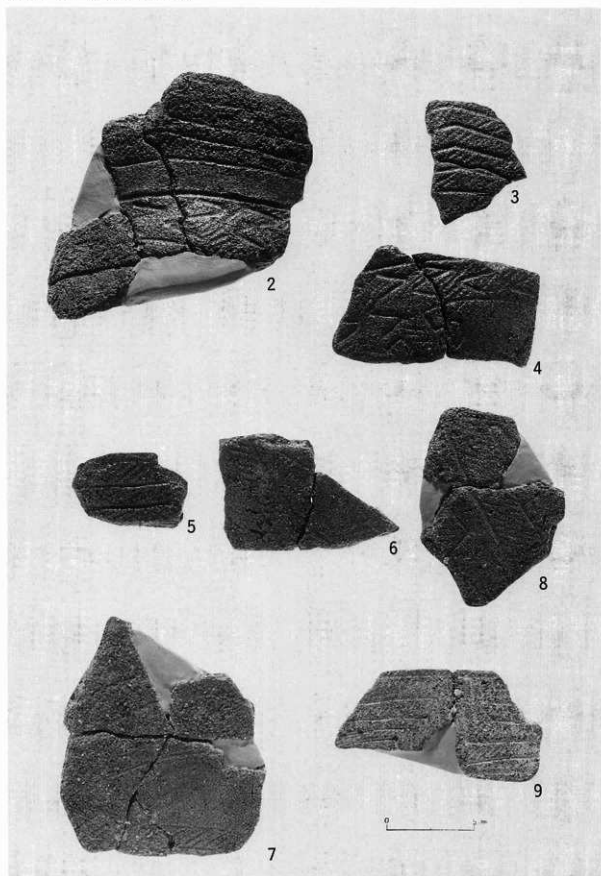
1 包含層の土器



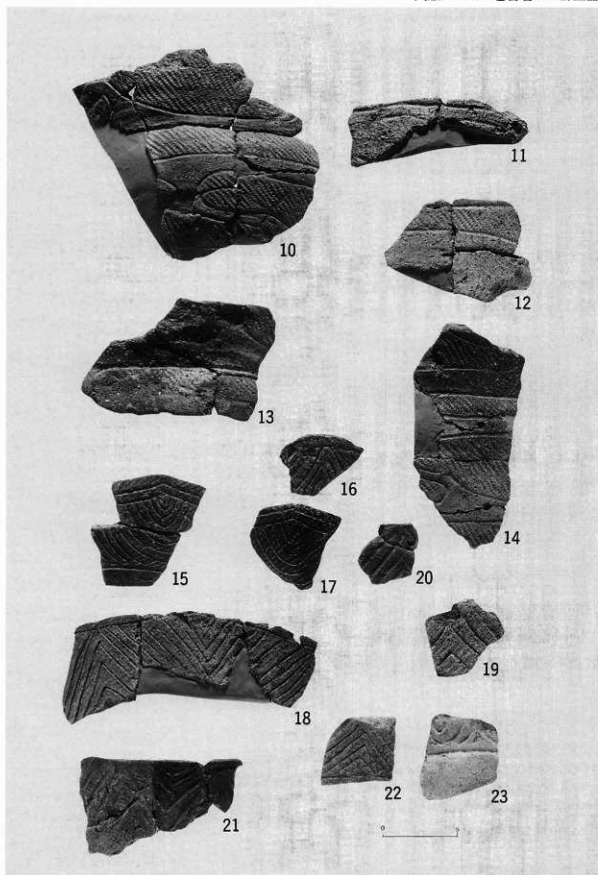
1 包含層の土器



1 包含層の土器

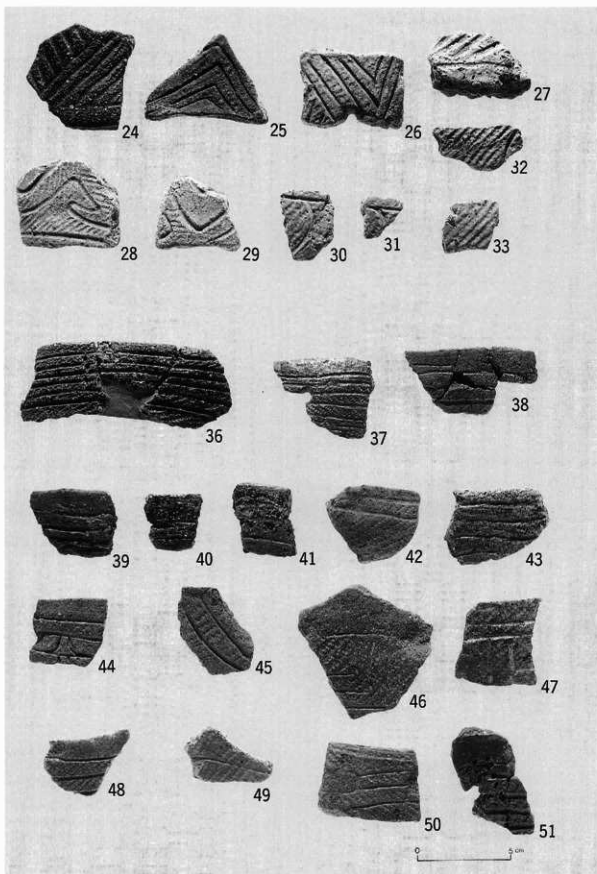


1 包含層の土器

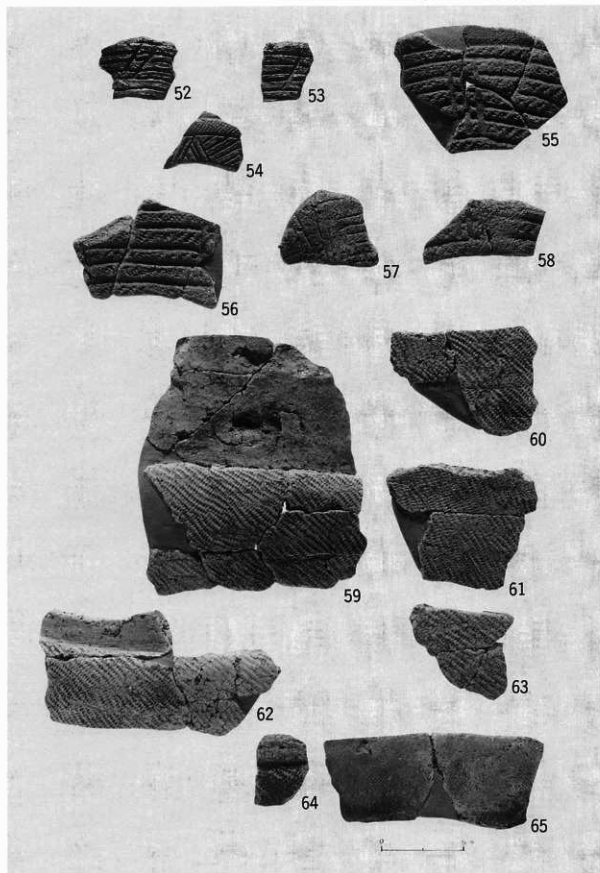


1 包含層の土器

図版Ⅳ-20 包含層のⅣ群土器

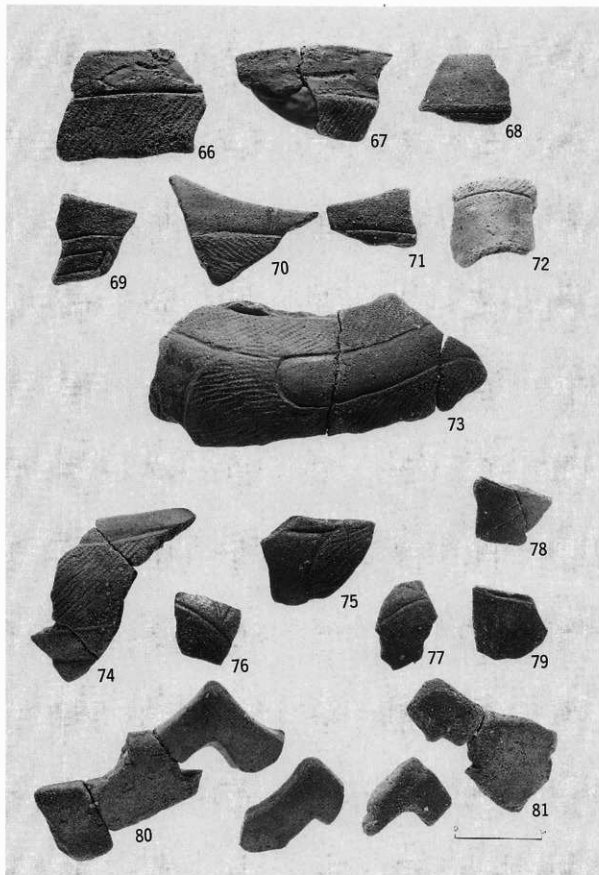


1 包含層の土器

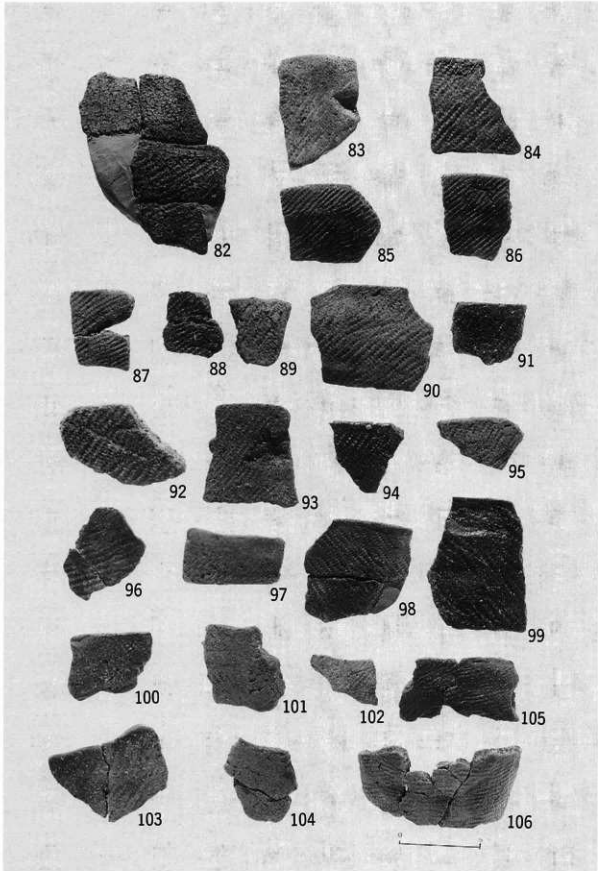


1 包含層の土器

図版Ⅳ-22 包含層のⅣ群土器



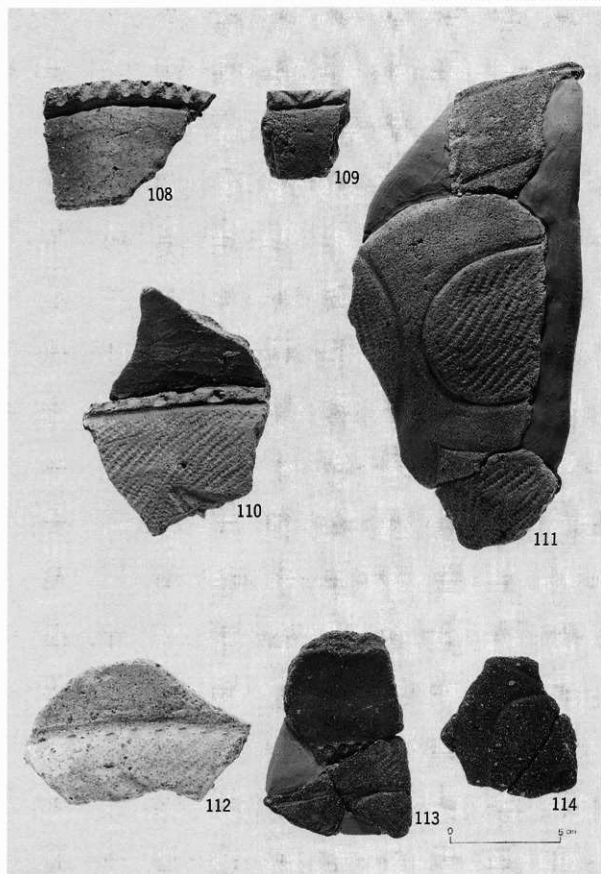
1 包含層の土器



1 包含層の土器

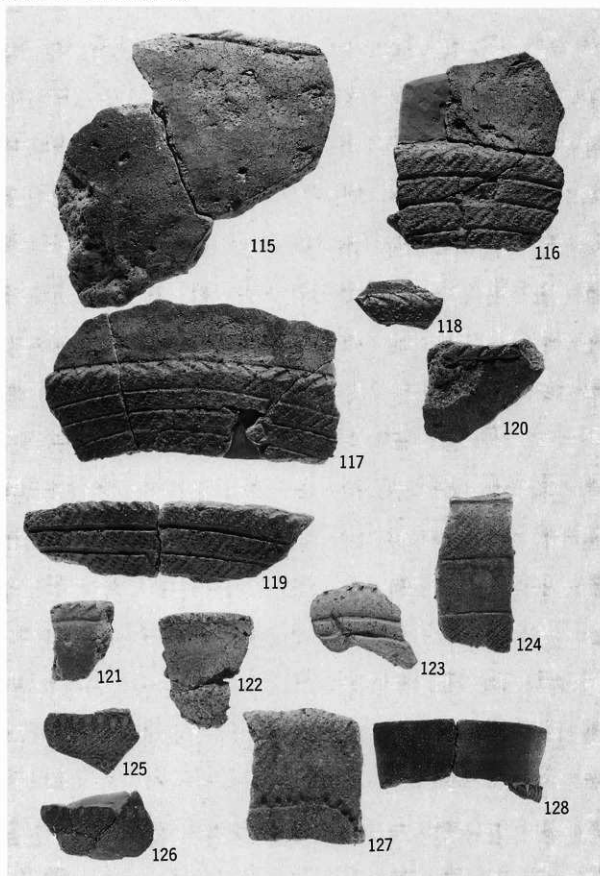


1 包含層の土器

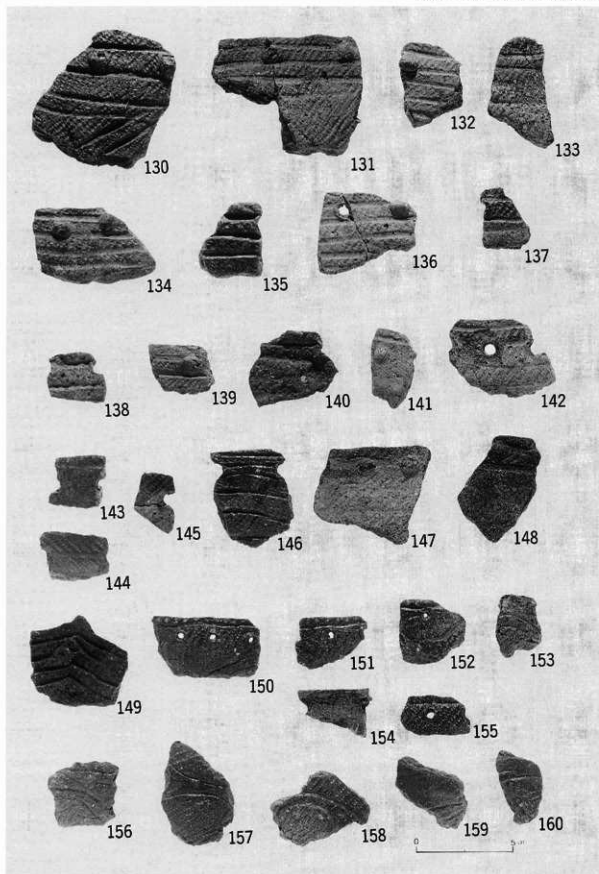


1 包含層の土器

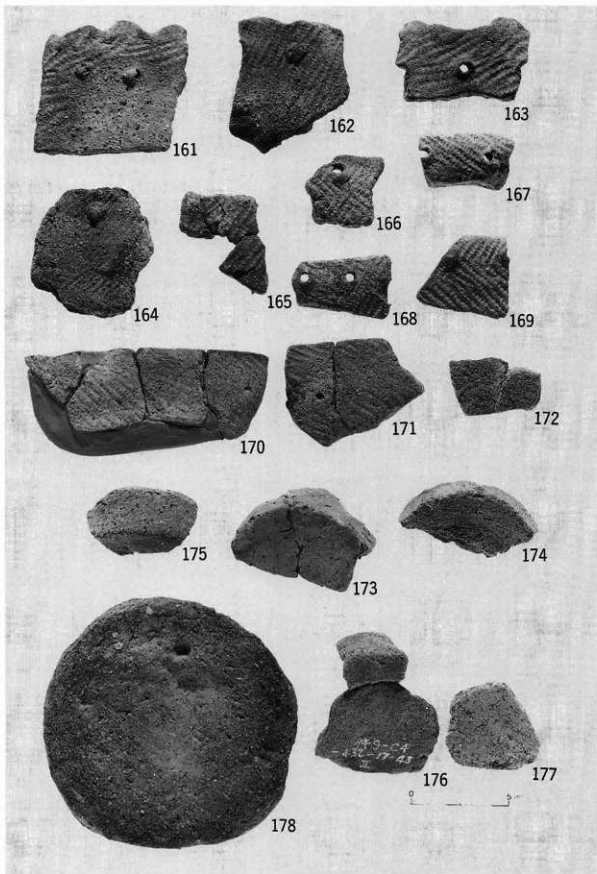
図版Ⅳ-26 包含層のⅣ群土器



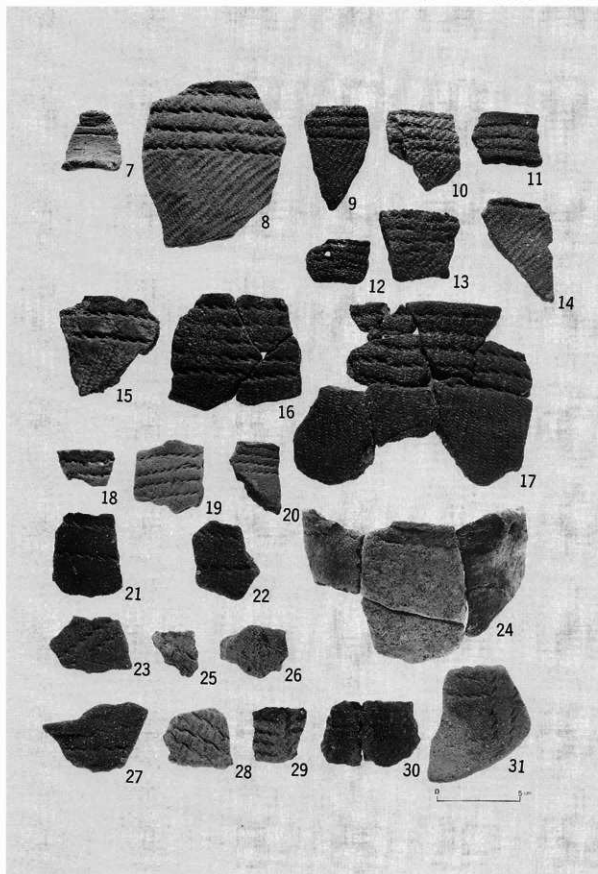
1 包含層の土器



1 包含層の土器

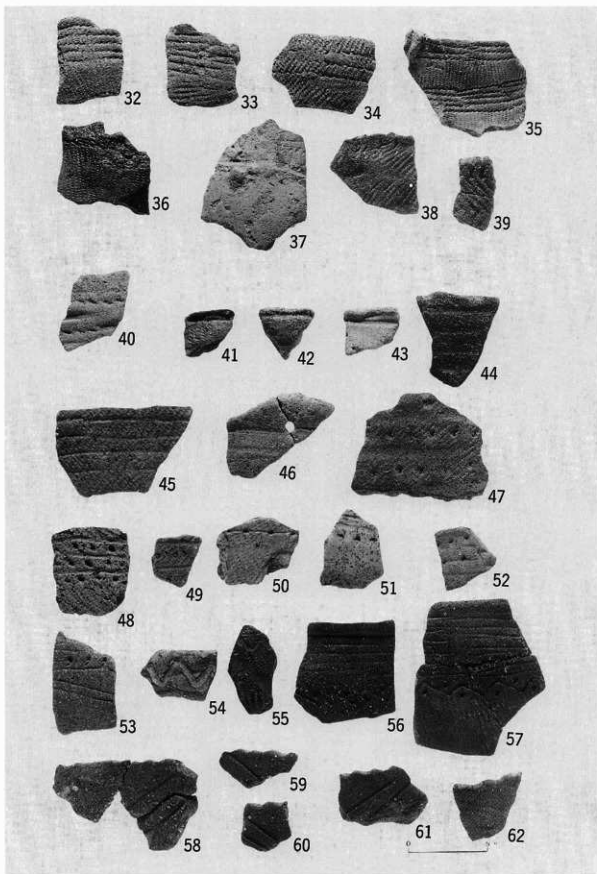


1 包含層の土器

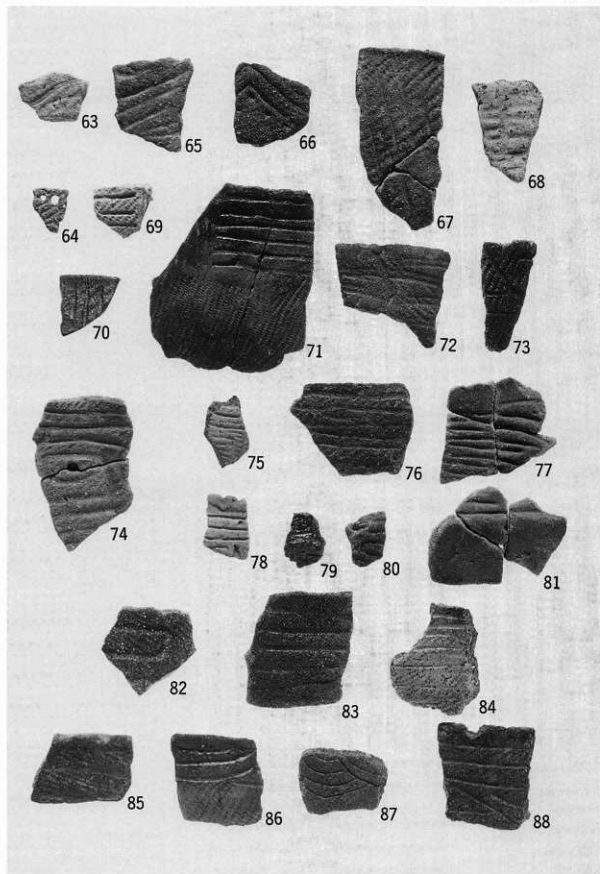


1 包含層の土器

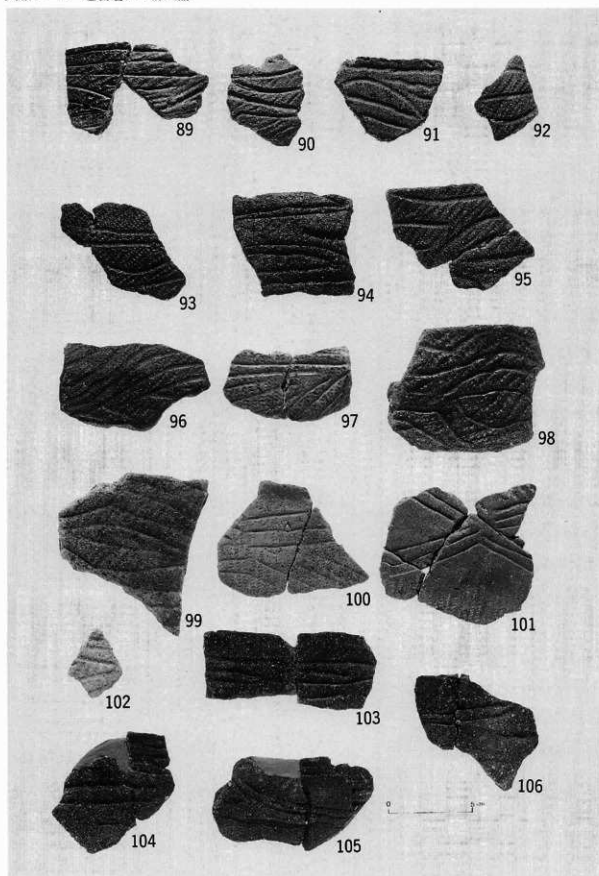
図版Ⅳ-30 包含層のⅤ・Ⅵ群土器



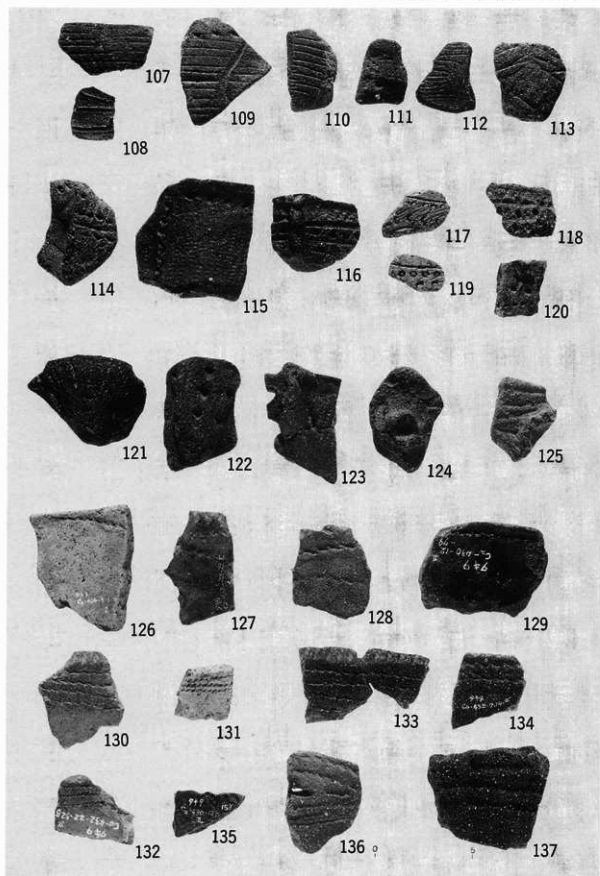
1 包含層の土器



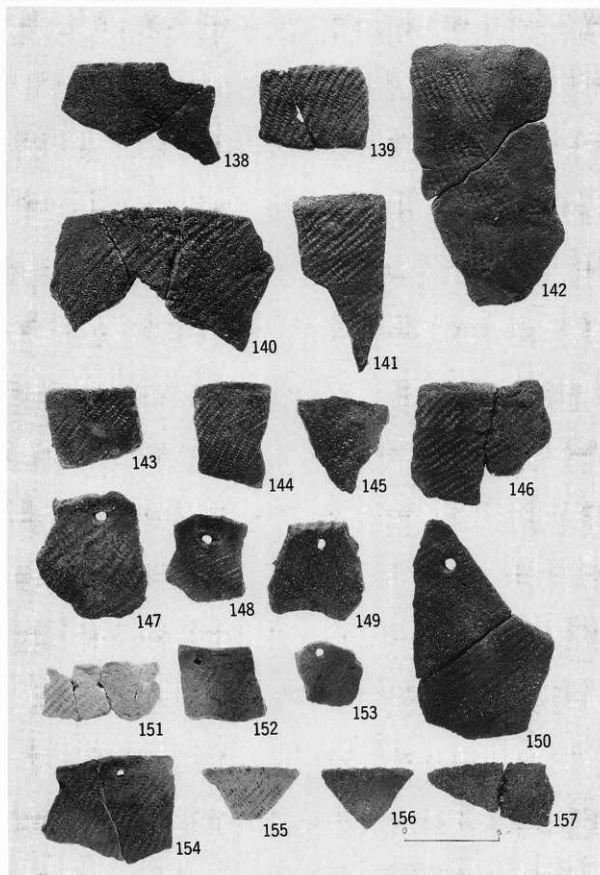
1 包含層の土器



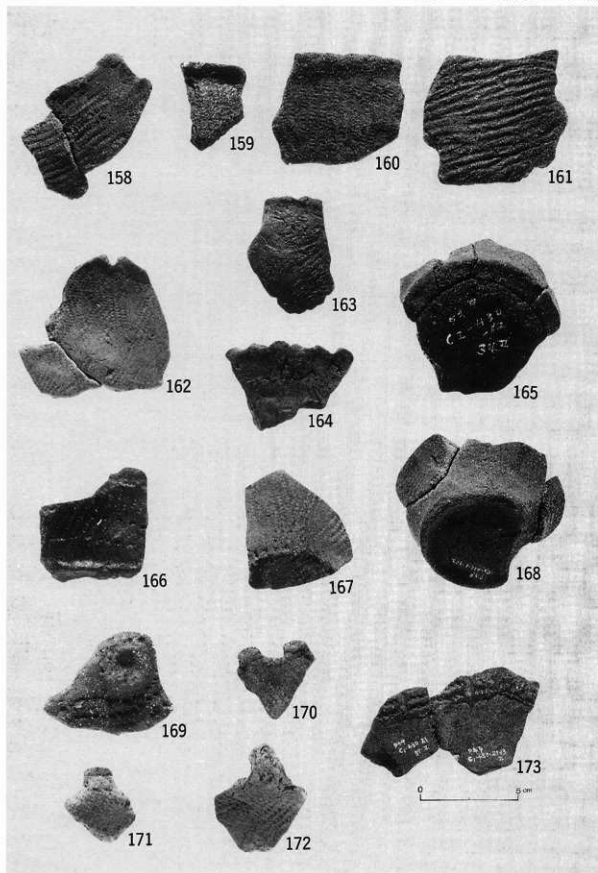
1 包含層の土器



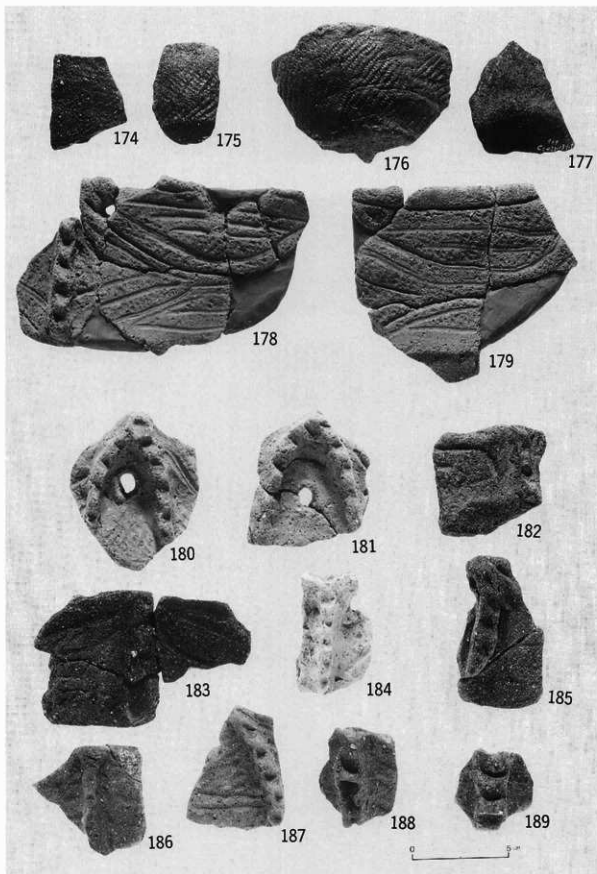
1 包含層の土器



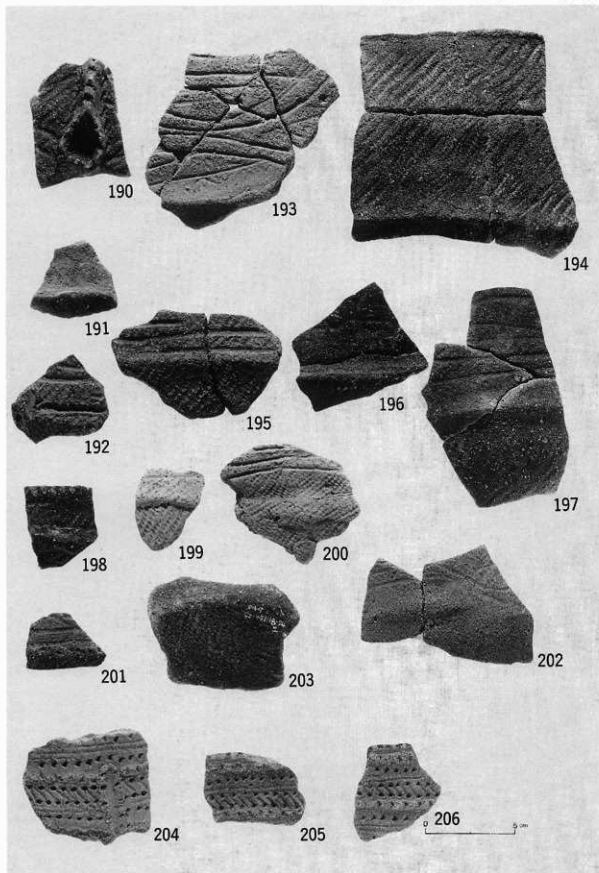
1 包含層の土器



1 包含層の土器



1 包含層の土器



1 包含層の土器



1 滑石混入土器



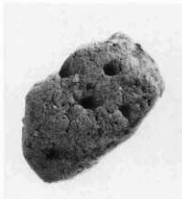
2 刺突文



3 刺突文



4 刺突文



5 刺突文



6 短刻線文



7 短刻線文



8 押型文 (矢羽根状)



9 押型文 (矢羽根状)



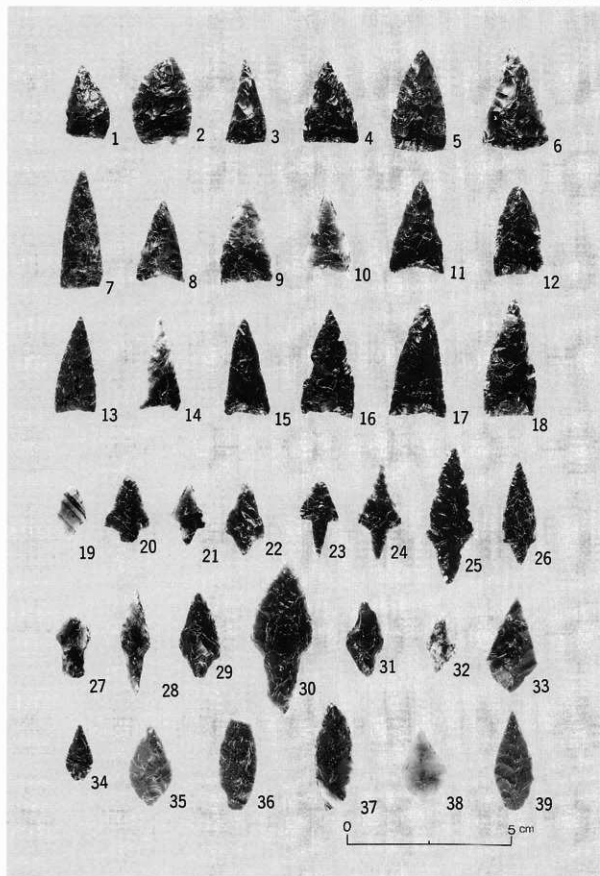
10 押型文(斜格子目+押引き文)



11 押引き文



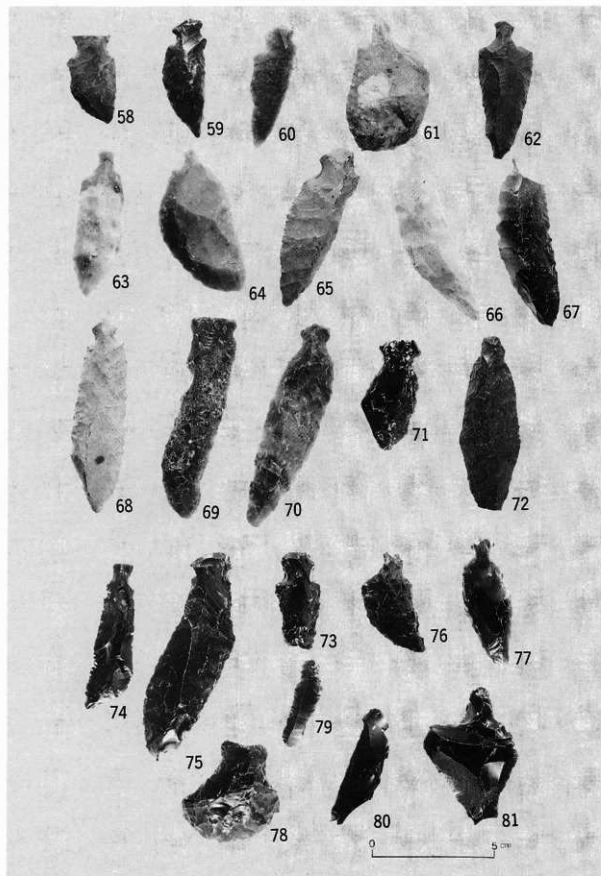
12 押引き文



1 包含層の石器 (石鐵)



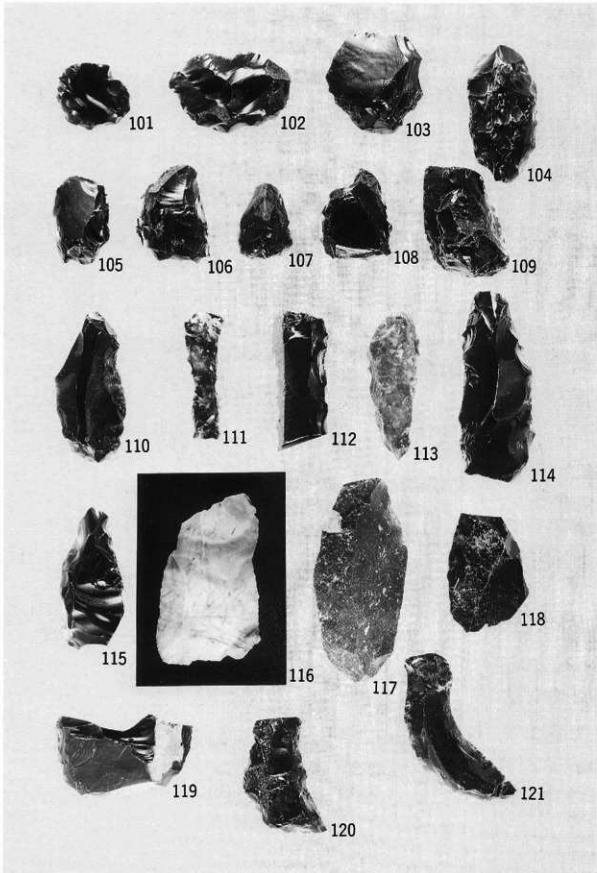
1 包含層の石器 (石槍・石鏃)



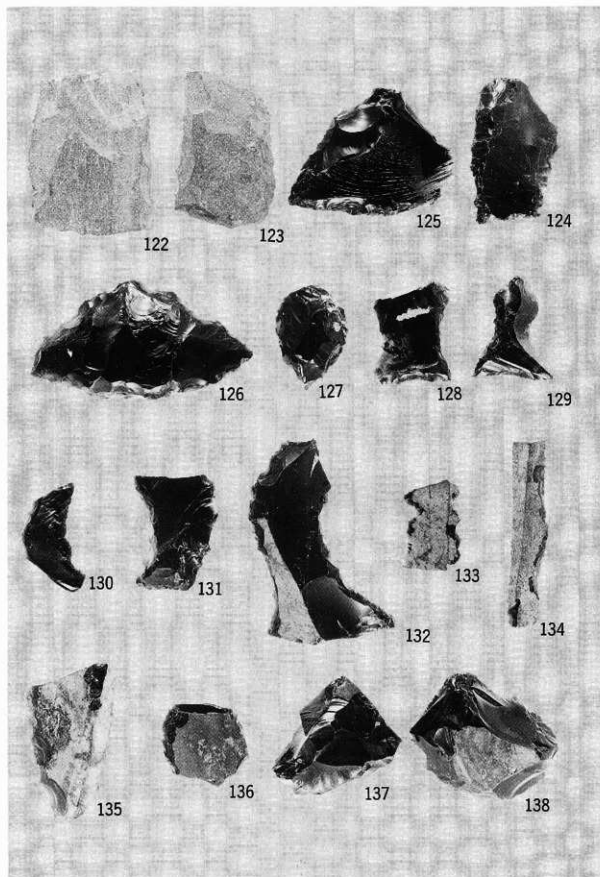
1 包含層の石器 (つまみ付きナイフ)



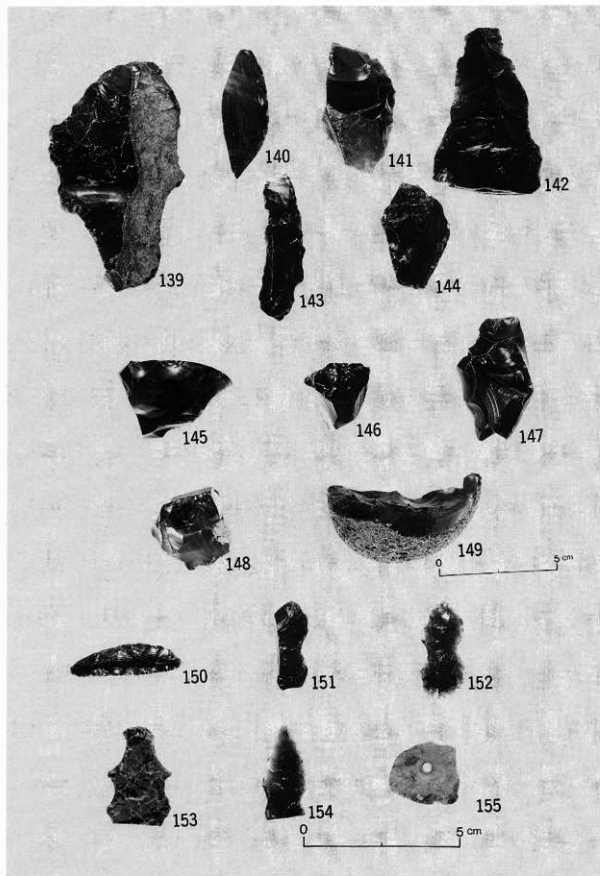
1 包含層の石器 (ナイフ・ナイフ類)



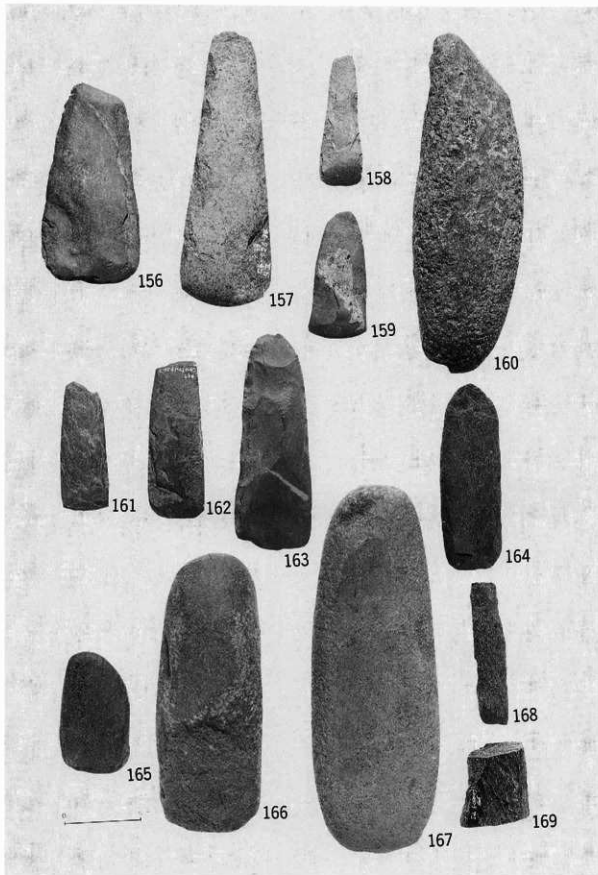
1 包含層の石器 (スクレイパー1)



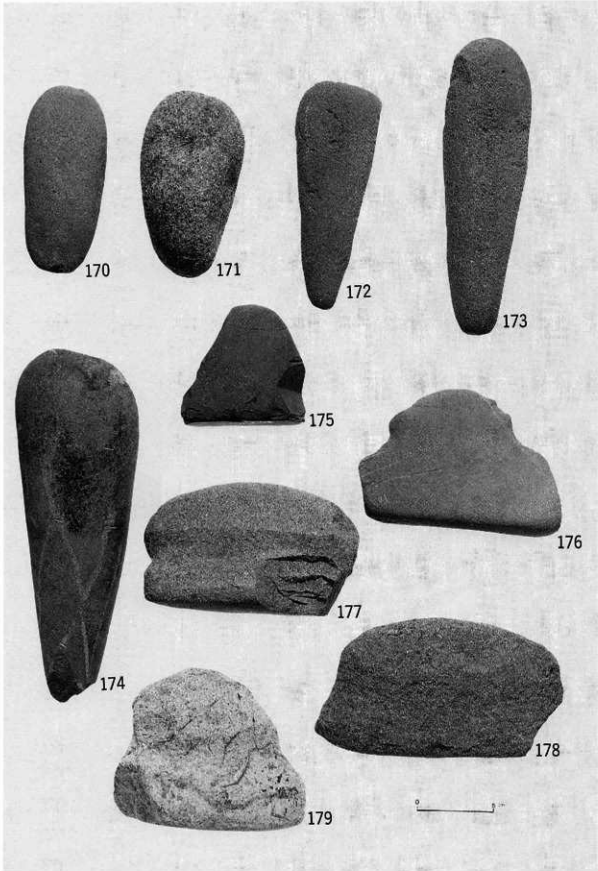
1 包含層の石器 (スクレイパー 2)



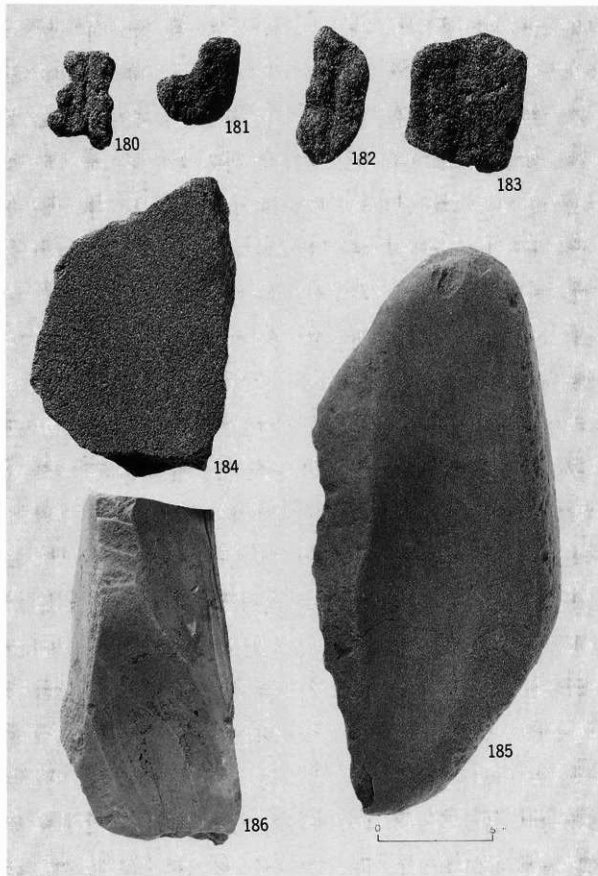
1 包含層の石器等 (スクレイパー3・石核・異形石器・玉)



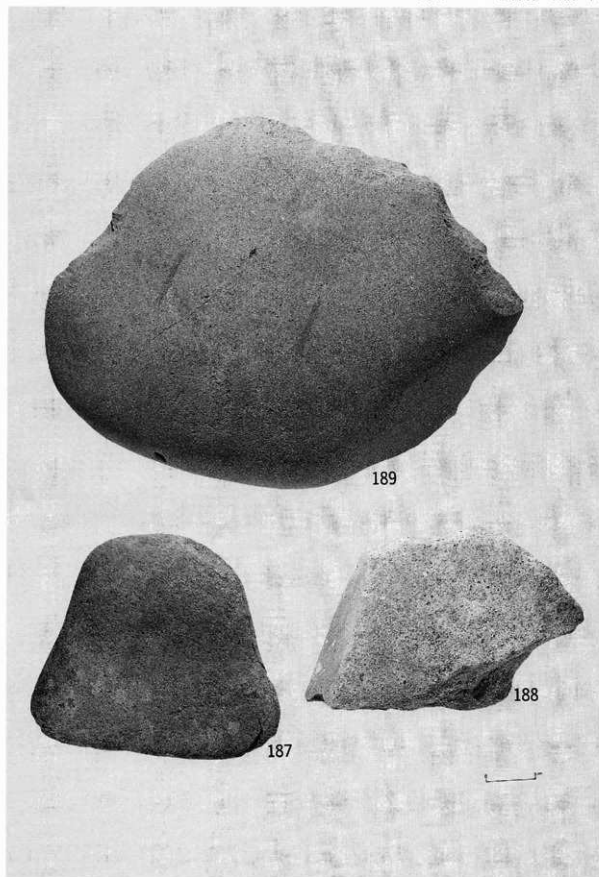
1 包含層の石器 (石斧)



1 包含層の石器 (たたき石・すり石)



1 包含層の石器 (砥石)



1 包含層の石器 (石皿・台石)

V 滝里 19 遺跡の調査

V 滝里19遺跡の調査

1 調査の概要

滝里遺跡群は当センターが平成元年より調査を行っているが、空知川上流部の調査は初めてである。上流部には空知川右岸、川沿いの河岸段丘上に富良野市寄りから、滝里26・2・18・19・17・16・3・20・29の各遺跡が点在する。

滝里19遺跡の調査面積は当初2,700m²であったが、河川の浸食による流失部分があり、最終的に調査面積は2,250m²となった。

遺跡は空知川右岸標高約146mの河岸段丘上、旧国道と空知川の間に広がる平坦面で川に面して立地している。現在国道38号線の付け替え道路は、遺跡付近で旧国道に接続されている。遺跡周辺は水田造成により土地改変がかなり進んでおり、ダム用地となる以前には、調査区のほぼ中央の排水溝を境に東側は水田、西側は畑として利用されていた。

調査は、包含層の残存状況を確認するため、南北に1本、東西に2本のトレンチを掘削し、調査区中央部に黒色土(Ⅱ層)が残存していることが確認された。東側は水田造成によって地山まで削平されていた。遺物包含層であるⅡ層は茶褐色土のⅡa層と暗褐色土のⅡb層に分層され、遺物は主にⅡa層から出土した。

遺跡全体の土層の堆積状況や遺物の分布を把握するため、調査区全体に25%調査を実施した。その結果、Ⅱ層が残存するのは、南北トレンチと排水溝で挟まれた、およそ7×75mの範囲で、川沿いの西側は耕作により漸移層(Ⅲ層)まで削平されていた。北側については攪乱が激しく、遺物がほとんど出土しないため、遺構確認調査区とした。北側を除く耕作土(Ⅰ層)は遺物が多く出土するため、すべて人力により発掘調査を行った(図V-3)。

調査の結果、検出した遺構は土壌が2基、焼土が1か所である。P-1、P-2ともに大型の礫や石皿が1点伴っている。周辺からは縄文時代晩期後半の土器片が出土しており、この時期のものと思われるが、詳細は不明である。

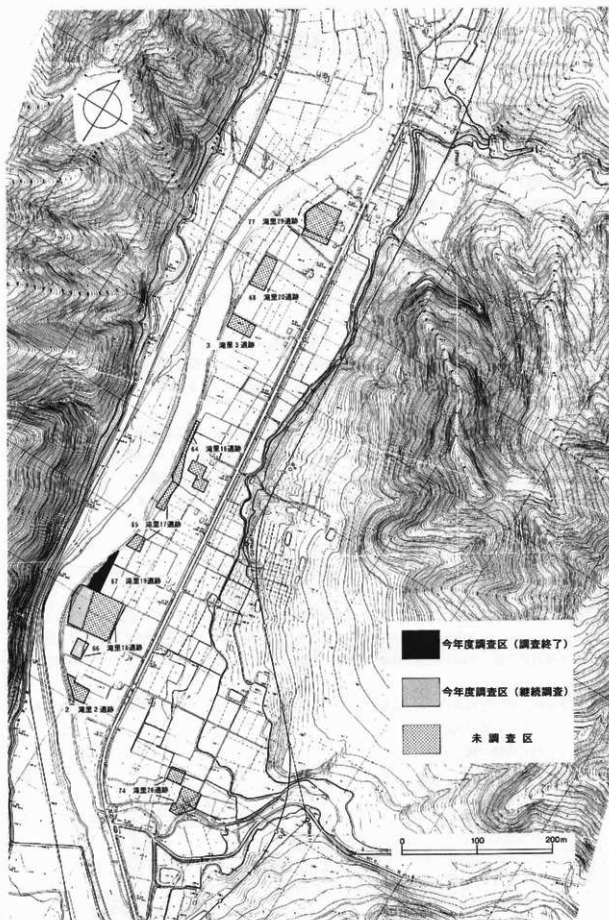
出土した遺物の総点数は、23,110点。このうち土器片は5,820点で、縄文時代晩期のものがほとんどである。このほかに、早期の東剣路Ⅳ式に相当するもの。前期末から中期初め頃と思われる、押し引き文土器や押型文土器。中期の円筒土器上層式や北筒式(トコロ6類)に相当するものが若干出土している。

石器は剥片・碎片を含み17,284点が出土している。石鏃、スクレイパーなどの剥片石器類が多い。ほかに、カンラン岩製の玉頸が1点出土している。(村田 大)

表V-1 出土遺物一覧

名称	点数	名称	点数	名称	点数	名称	点数
I群土器	69	石槍	77	台石	11(1)	剥片・破片(頁岩)	41
II群土器	37	石鏃	11	すり石	4	Rフレイク	184
III群土器	307	つまみ付きナイフ	59	石皿	4	礫・加工痕のある礫	9(1)
IV群土器	30	ナイフ	24	石鏃	1	楔形石器	1
V群土器	5,355	スクレイパー	293	砥石	7	異形石器	2
時期不明	22	石斧	60	石鏃	7	石製品	1
土製品・焼粘土	4	撥切残片	1	石槍	28	石器等計	17,285
土器等計	5,824	石片関係剥片・原材	116	原石	6	参考品(五十銭)	1
石鏃	373	たたき石	48	剥片・破片(黒曜石)	15,917	出土遺物総合計	23,110

1 調査の概要



図V-1 遺跡の位置図

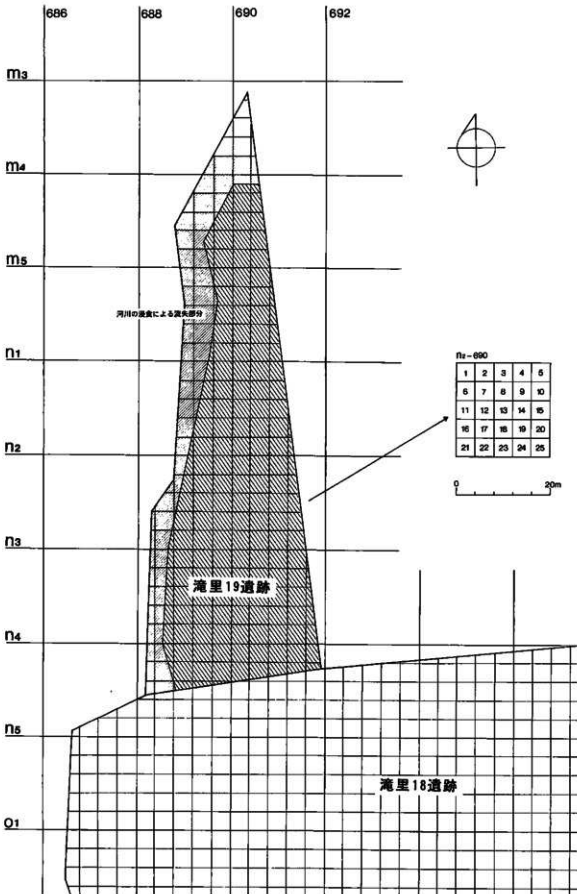
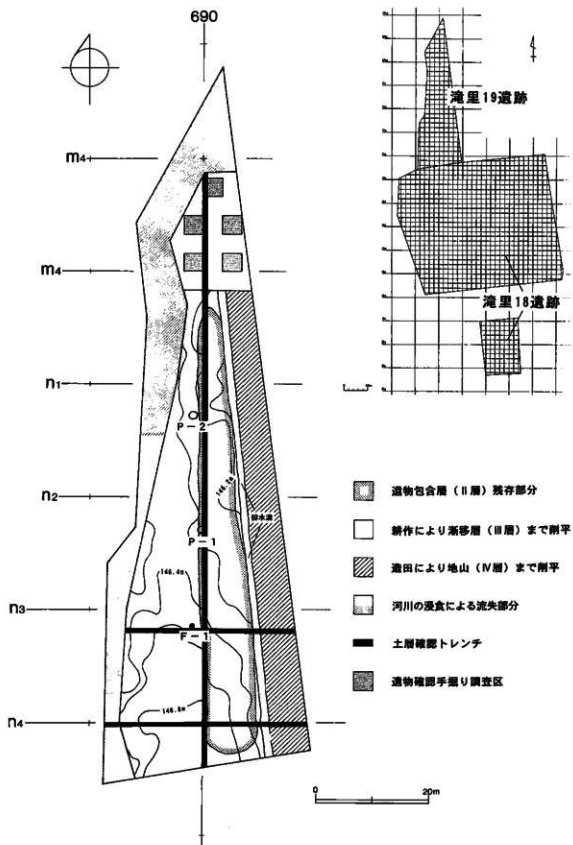


図 V-2 発掘区設定図



図V-3 最終面の地形と遺構位置図

2 基本層序

基本土層は以下のとおりである。また、本遺跡の地形的概観についてもここで若干触れる。

- I層：畑地の耕作土及び旧水田の客土からなる攪乱層。暗褐色土にローム粒がおびただしく混入している。重機による抜根後で、10～30cm程度の層厚があった。遺跡西側の畑地跡においては多くの遺物が出土していたが、東側にある旧水田の客土においてはほとんど遺物が出土しなかった。また畑地の耕作土に比べ、旧水田の客土のほうが土質がしまっている。遺物はいずれも人為的に移動したものである。
- II a層：茶褐色土層。もっとも密度の濃い遺物包含層である。大半は削平されており、自然堤防の凹地及び傾斜地において、わずかに残存するのみである。層厚は10cm程度。乾燥すると土が粒状に固まる傾向がある。
- II b層：暗褐色土層。遺物包含層である。自然堤防の傾斜地において帯状に残存しているのが確認された。層厚は10～20cm程度。
- III層：II b層からIV層にかけての漸移層。暗灰褐色を呈する。
- IV層：黄褐色土層。砂質であり、小礫がわずかに含まれる。旧水田に相当する部分は非常に堅い。遺跡で検出された土壌2基は、いずれもこの層を掘り込んだものである。

本遺跡は空知川右岸の平坦な自然堤防上に位置する。標高は147m前後である。遺跡の大部分は昭和30年代後半から40年代にかけて行われた農地造成によって削平され、調査区西側は空知川の浸食作用で包含層が流出していた。遺跡は畑地跡と東側の1段低い旧水田とからなり、その間には南北方面へ抜ける排水溝跡が検出された。遺物包含層は畑地跡に一部残存していたもので、旧水田においては全く確認されなかった。

(影浦 寛)

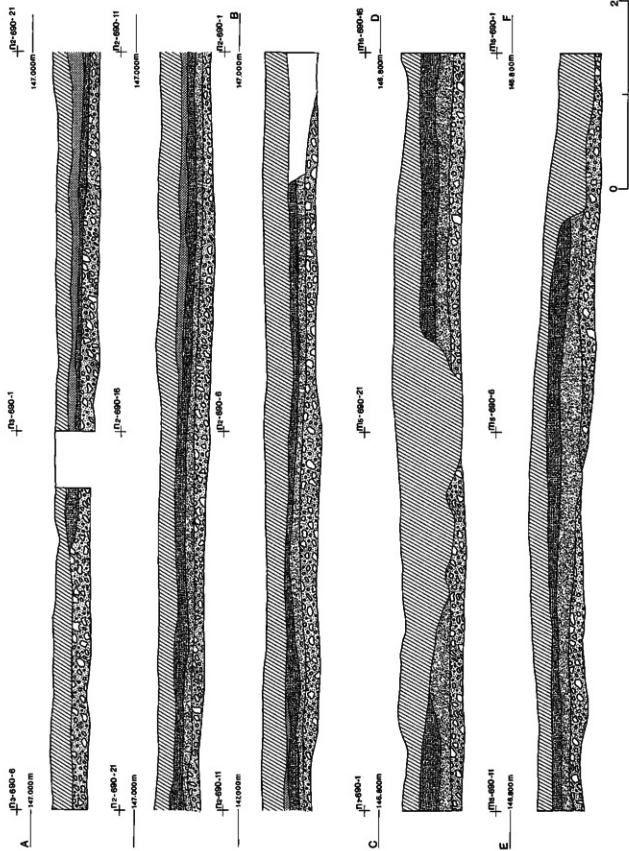


图 V-4 土层断面图 (1)

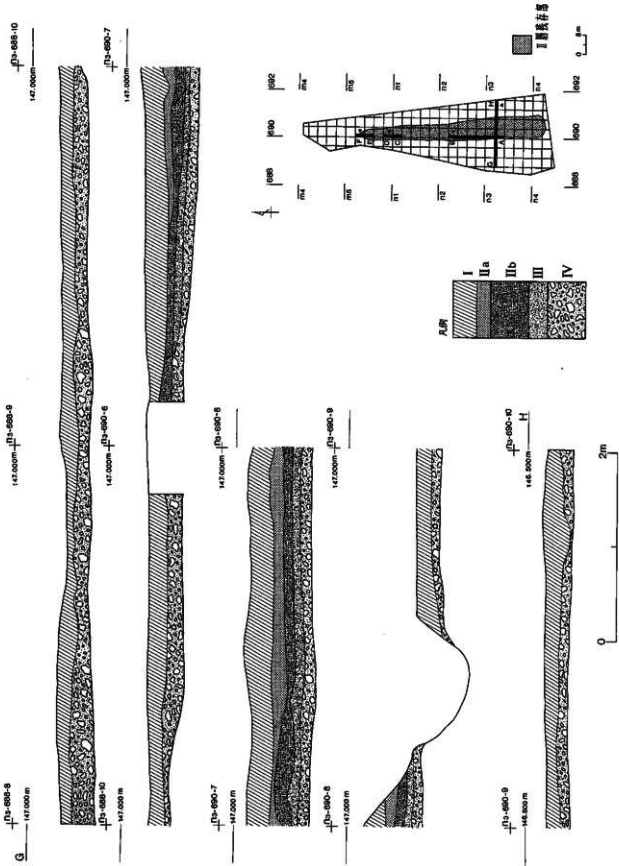


図 V-5 土層断面図 (2)

3 遺構と遺構出土の遺物

1) 土壌

P-1 (図V-6 図版V-4-1・2)

位置: n₂-688-10 規模: 1.16×0.82/0.96×0.64/0.28m

平面形: 楕円形 長軸方向: N-5'-E

出土遺物: 扁平礫1点

南北690ラインに設定した土層観察用のベルトを除去中、IV層上面で暗褐色土の落ち込みがあり、確認された。長軸方向は南北であり、ベルト西壁に沿って掘り下げたところ、約30cmの掘り込みを検出した。覆土は暗褐色土に径1cm前後のローム粒が著しく混入したもので、微量ではあるが、炭化物も含まれている。壁の立ち上がりはゆるやかで、墳底はほぼ平坦である。墳底部北側からは、重さ約15kgの扁平礫が1点出土した。使用痕は認められない。石材はトロニエム岩である。

時期: 周辺包含層の出土遺物から、縄文晩期のものと思われる。

(影浦 覚)

P-2 (図V-6 図版V-4-3・4)

位置: n₁-688-10 規模: 1.45×1.28/1.24×1.18/0.14m

平面形: ほぼ円形

出土遺物: 台石1点

I層除去後、IV層上面で暗褐色土の落ち込みがあり、確認された。南側を半載したところ、約15cmの掘り込みを検出した。覆土の堆積はP-1同様、暗褐色土にローム粒が混入したものである。しかし、その量はあまり多くはない。壁の立ち上がりはゆるやかであり、墳底は北側に向かって、わずかに傾斜している。墳底部から、重さ約8kgの扁平礫を素材とした台石が1点出土した。自然面と思われる面に比べ、著しく凹凸の認められる部位が一部に観察されたため台石と判断した。しかし、素材の風化が非常に著しいので、必ずしも使用痕として断定することはできない。石材も風化のため、肉眼鑑定では不明である。

時期: 周辺包含層の出土遺物から、縄文晩期のものと思われる。

(影浦 覚)

2) 焼土

F-1 (図V-6 図版V-4-5・6)

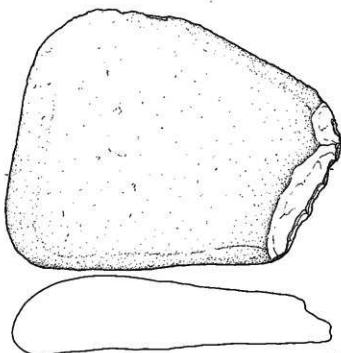
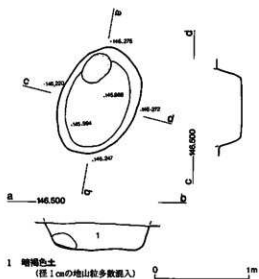
位置: n₃-688-10 規模: 0.65×0.45×0.09m

平面形: 楕円形

確認・調査: I層除去後、III層上面で暗赤褐色土の焼土を検出した。本体部分は削平されており、焼成を受けたIII層部分のみ残存していた。遺物は出土しなかった。時期は不明。

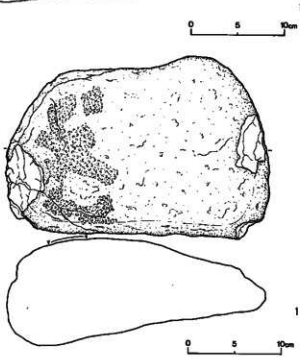
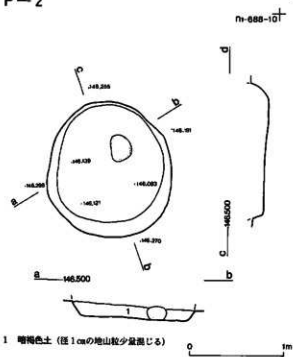
(村田 大)

P-1 ni-688-10†



1 暗褐色土
(径 1 cm の地山粒多数混入)

P-2



1 暗褐色土 (径 1 cm の地山粒少量混入)

F-1



0 1m

1 赤褐色土 (II層の焼成土)
2 暗赤褐色土 (III層の弱い焼成土)

図V-6 P-1・2、F-1と出土遺物

4 包含層出土の遺物

1) 土器 (図V-12~14 図版V-5~7)

包含層から出土した土器には、縄文時代早期 (I群)、前期 (II群)、中期 (III群)、後期 (IV群)、晩期 (V群) に属するものがある。出土総点数は5,820点。晩期のものが最も多く92%を占める。各時期を通じて、摩滅しているものや小破片が多く、文様の判別できたものは非常に少ない。

各時期の土器の分布については、各群の最初に簡単に記載する。

I群土器 (1~11)

I群土器は69点出土した。すべてb類に属し、東劔路IV式に相当する。調査区中央付近と南側に多く分布する (図V-10)。2条並列する摺糸文が施されるものが北側に分布し、羽状縄文や短縄文のものは南側から多く出土している。

1~3は短縄文が施されるもの。4~9は自縄自巻の原体で羽状を構成するもの。5~9は胎土に石英などの砂粒が混じり非常に脆い。10・11は同一個体で2条並列する摺糸文が羽状に施されている。

II群土器 (12~18)

II群土器は37点出土した。すべてb類に属するもので、押型文土器 (12・13・16) と押引文土器 (14・15・17・18) がある。これらの土器群は縄文時代前期末から中期初め頃のものと考えられている。

分布は調査区の南西側、川沿いに多い (図V-10)。

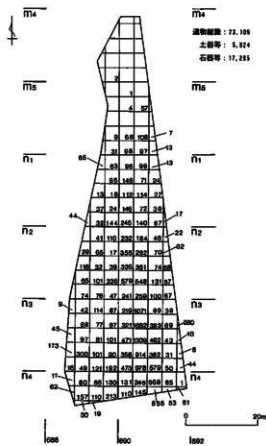
12・13は同一個体で、上下逆の山形文を組み合わせて文様を描いたもの。14・15は3種の原体による、連続押引で文様が描かれている。16は摩滅していて、判然としませんが、矢羽状の押型文と思われる。17・18は逆「3」字状の文様が、連続押引で施文されている。

III群土器 (19~28)

III群土器は307点出土した。19~22はa類。23~28はb類に属する。a類土器が、調査区中央付近に多く、b類土器は調査区南側に多い分布傾向が見受けられる。

19は口唇に棒状工具で粗く刻みがつけられている。20・21は同一個体で、器面はRL原体による斜行縄文が施される。22は馬蹄形圧痕文をもつもの。23は半截竹管状工具により、隆帯上に2個対の刺突文が施され、口唇上に円形の刺突が加えられる。24は摩滅して判然としませんが、口唇上に縄端圧痕がある。25は肥厚した口縁部直下に円形刺突文がめぐる。口唇断面は四角形である。26は貼付帯に縄圧痕が加えられ、半截竹管状工具による刺突文が施される。地文の縄文はLR原体の斜行縄文である。27は縄圧痕が加えられた貼付帯の直下に円形刺突文が施される。25~27は北筒式に相当する。28は地文の斜行縄文に2条の沈線が施されている。

IV群土器 (29・30)



図V-7 包含層出土の遺物分布

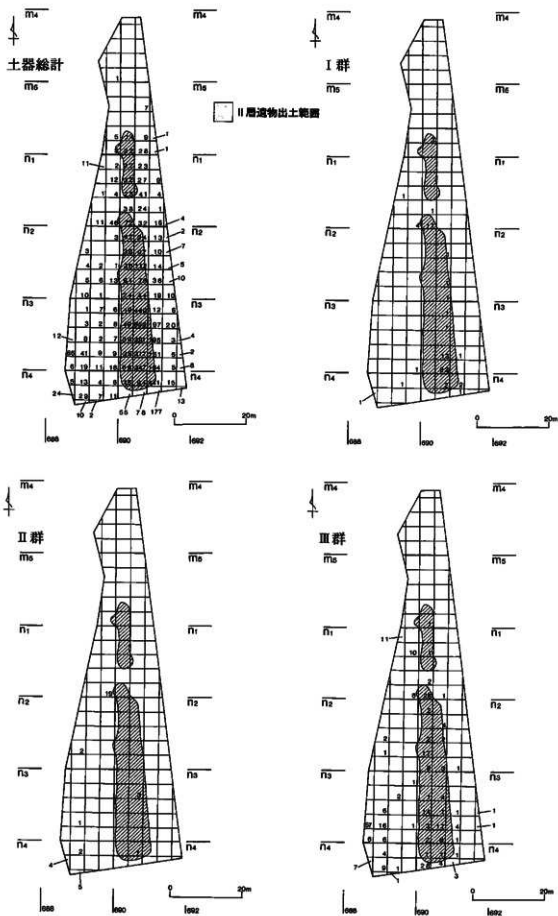
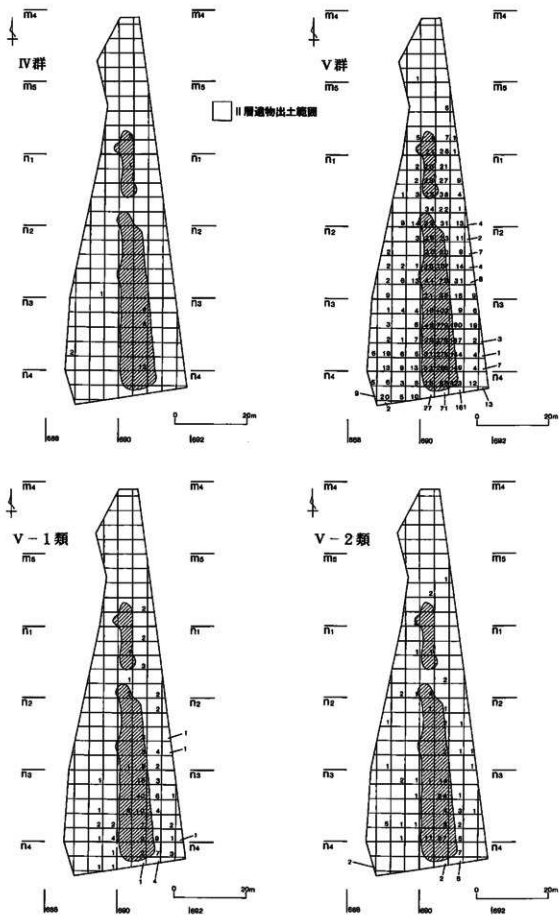


図 V-8 土器の分布 (1)

4 包含層出土の遺物



図V-9 土器の分布 (2)

Ⅳ群土器は30点出土した。分布は調査区南側に散見される。29・30は磨消縄文がみられる。

V群土器 (31~96)

V群土器は5,355点出土した。V群b類とc類に相当するものがある。摩滅しているものが多く、文様の判るものは非常に少ないため、すべての破片について、細分類は行えなかったが、土器の胎土に特徴的なものが2種類みられた。V-1類、V-2類とそれぞれ分け、それ以外を単にV群として扱った。1類・2類ともV群全体の3%前後の量である。1類は、胎土の粒子が細かく、明黄褐色を呈し、器厚は薄い。細い竹管状工具による円形刺突文や縦位の蛇行沈線文が施されるものに多く、V群c類に相当する。2類は、砂粒を多く含むが、堅く黒色を呈する。括弧文を描くものや浅鉢など、V群b類に相当する土器に多い。V群は、これまで滝里遺跡群から出土した土器と同様に、砂粒が混じり非常に脆い土器である。なお、掲載土器一覧表の分類は胎土についての分類を記載している。

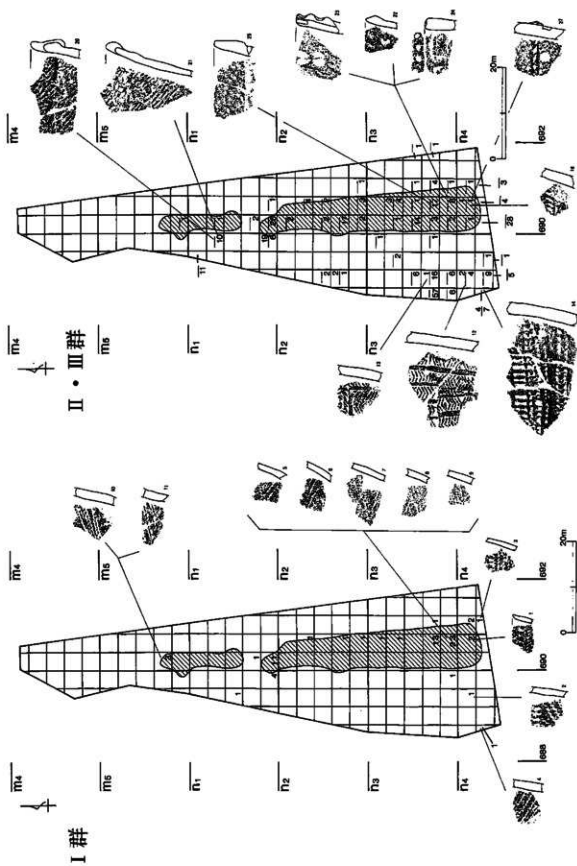
分布はⅡ層の遺物包含層が残る調査区中央部から南側に集中している(図V-9)。縄線文や括弧文で文様が描かれるものと浅鉢形土器はn₁-690区に多く、地文の縄文のみの個体は調査区南側からの出土が多い(図V-11)。

31~63は深鉢ないし鉢形土器と思われる。31~39は縄線文が施されたもので、37~39以外は無文地のものである。36のみR原体で、他はすべてL原体による縄線文である。35・39の口唇上には縄圧痕が加えられる。37・38は同一個体。LR原体による縄線文で、斜めに交差する文様で、体部の縄文は縦行である。40は横走する沈線に「ハ」字状の文様が描かれるもので、2個の突起をもち、口唇には棒状工具で粗い刻みがつけられている。41~43は括弧文もしくは崩れた括弧文で文様が描かれるもの。41・42は口唇部内面に短い刻みが施され、42は円形の刺突も加えられる。43・44の口唇上の圧痕は縄と思われるが摩滅して判然としない。44は口唇部直下に沈線が加えられ、貫通孔をもつもの。45・46は細い竹管状工具による刺突が巡るもので、46には蛇行沈線文が施される。47・48は口唇部に直下に貼付帯をもち、縄線文が施されるものである。47の口唇内面の刻みは篋状工具によるもので、48は縄圧痕と思われるが判然としない。49は縦行縄文の地文に斜めの縄線と縄端圧痕が施されるもので、口唇部が外反している。50~63は縄文のみのものである。54は縦行縄文で、ほかはすべてRL原体の斜行縄文のもの。50~55は口唇部が切り出し状で、口唇内面に縄圧痕が加えられるもの。50・55は貫通孔をもつ。56~62は口唇部が角形のもので、56~57は口唇内面の角に縄圧痕が施される。57は口唇部が無文で、やや外反している。58・59は口唇上に縄圧痕が施されるもの。60・61は棒状工具による刻みが加えられるもの。62は口唇上に斜めの縄圧痕が加えられる。63は鉢形土器の突起部と思われる。

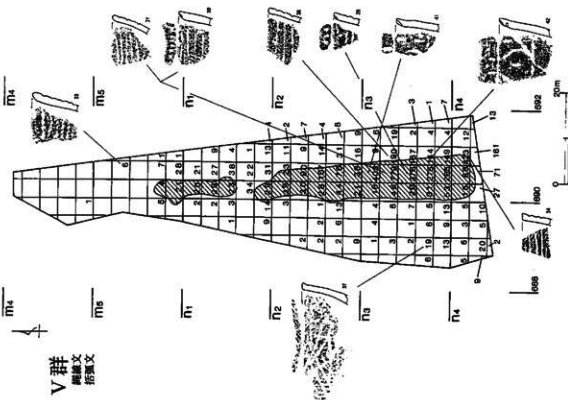
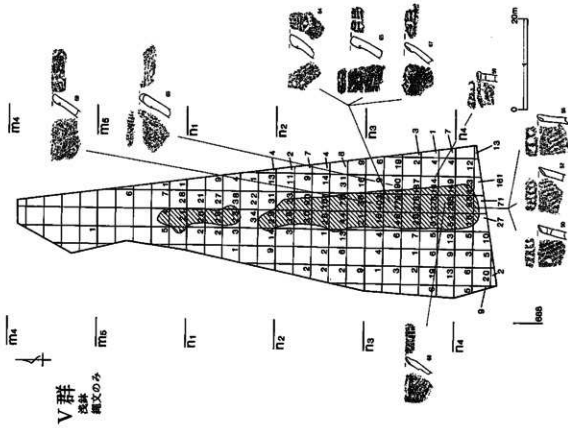
64~69は浅鉢。口唇部の断面形は、切り出し状のものと同角形のものがある。64~66は内面に横位の縄線と刺突が加えられるもの。65は縦に短い沈線が加えられる。66は突起をもつと思われる。67は内面が横位の縄線と短い沈線で文様が描かれるもの。68は縦の短縄文が施されている。69は内面に刺突のみが施されている。施文具は不明だが、刺突は三日月形の形状をなす。

70~93は胴部破片。70・71は縄線文が施されるもの。72~74は太い沈線で文様が描かれる。72・73は同一個体。75~79は括弧文のもの。76は地文が横位の条痕である。80~82は刺突文と蛇行沈線文で文様が描かれるもので、46と同一個体である。83~87は刺突文が施されるもので、85は縄端圧痕の可能性はあるが、はっきりしない。86は無文地に刺突が2列巡るもの。87は途切れた横位の沈線がみられる。88は体部の屈曲部に2条の沈線がめぐっている。89・90は細い沈線で菱形の文様を描き、刺突が加えられるもの。91~93は赤色顔料が残存している胴部破片。94~96は底部の破片で、いずれも平底である。95・96は底面に、縄端の圧痕が施されている。

(村田 大)

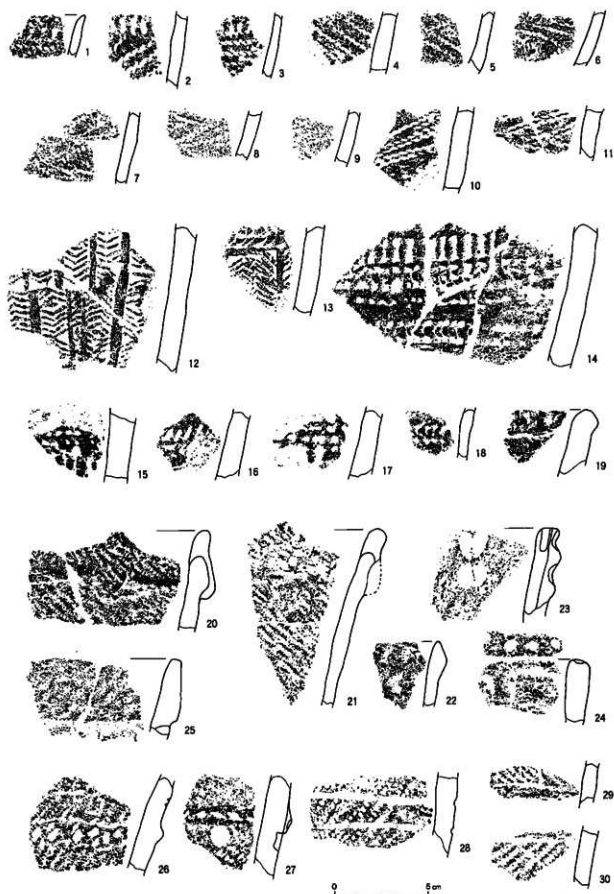


図V-10 I群・II群・III群土器の分布

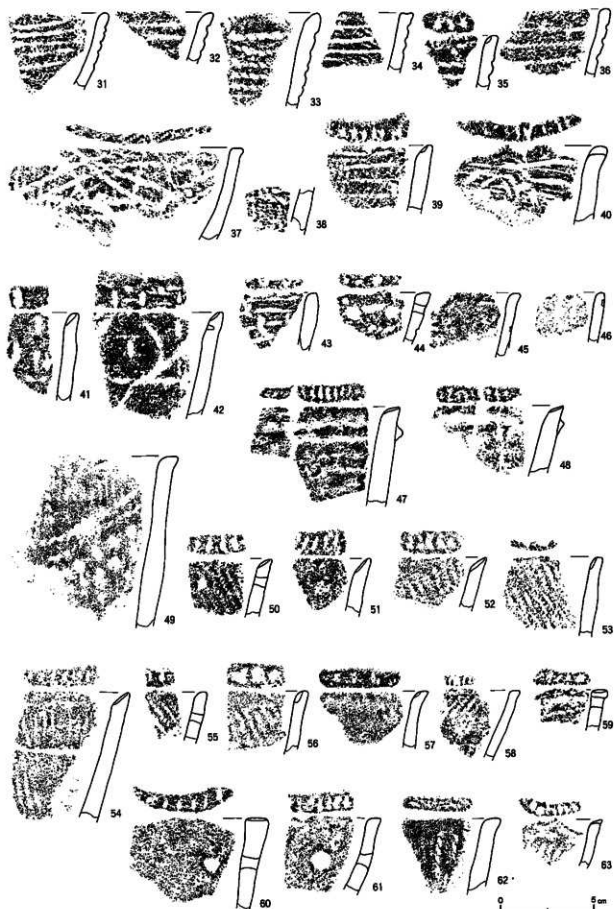


図V-11 V群土器の分布

4 包含層出土の遺物

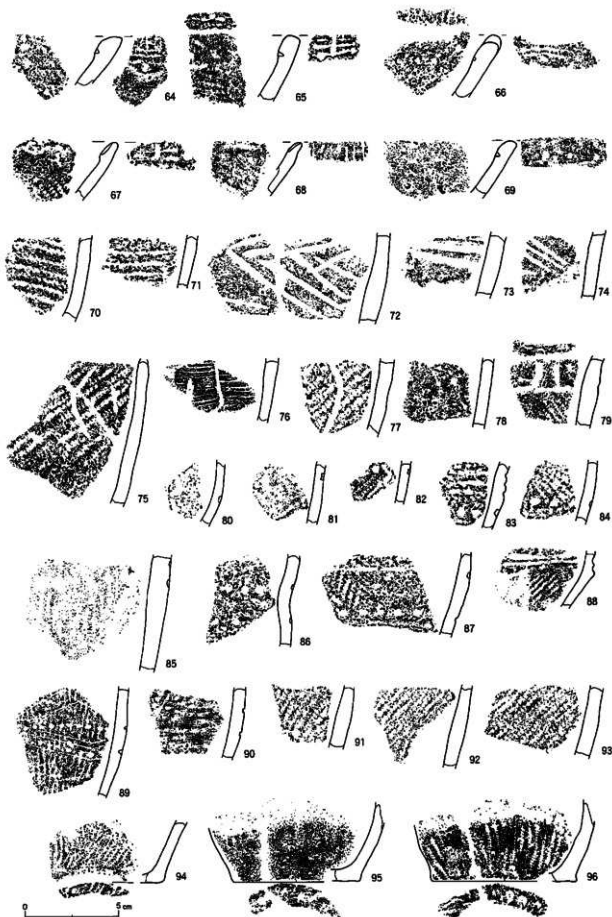


図V-12 包含層出土のI群・II群・III群・VI群土器



図V-13 包含層出土のV群土器 (1)

4 包含層出土の遺物



図V-14 包含層出土のV群土器 (2)

2) 石器・石製品 (図 V-7・15~23・図版 V-8~13)

I層から14,758点、II層から2,525点、総計17,283点が出土した。石核、原石、フレイク・チップ類、石製品を除くと、剥片石器類は1,024点、石斧類は61点、礫石器類は89点。石鏃、石槍、スクレイパーが多く出土した反面、すり石と石皿の出土が少ない。また、数こそ少ないが石錐が出土している。石鏃 (1~31)

破片・未成品を含め、373点が出土した。形態を分類できたものは278点で、有茎 (IA5) 183点、三角形 (IA4) 68点、木葉形 (IA7) 22点の順に多く、ほかに長身形 (IA2) 2点、五角形 (IA3b) 2点、菱形 (IA6) 1点が出土した。1は長身のもの。2は五角形。両面に一次剝離面を残し、基部がわずかに内湾する。3~8は三角形のもの。3、4、7、8は平基で28点出土。5、6は凹基で40点出土。9~25は有茎のもの。9~14、20、21は平基の有茎鏃で86点出土。15~19、22~25は凸基の有茎鏃で101点出土した。いずれもかえしの部分が不明瞭なものである。9~16は小型の有茎鏃。いずれも薄身で長さは2.5cm未満、重さは0.5g以下である。26は菱形。27~31は木葉形。29の両側縁はやや角張る。31は先端部にのみ微細な調整剝離を加えたもので、未成品の可能性はある。石材は20が頁岩、他は全て黒曜石である。

石槍 (32~37)

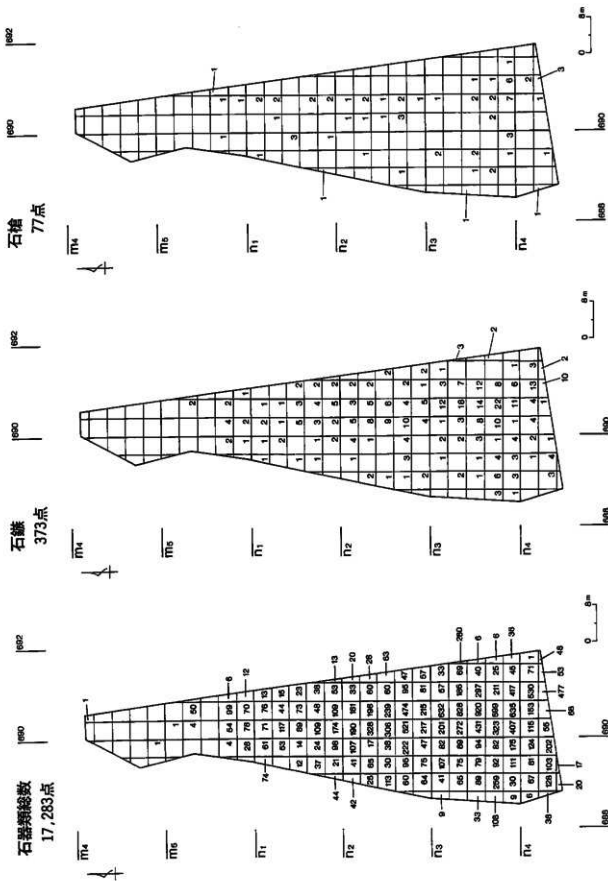
破片・未成品を含め、77点が出土した。形態を分類できたものは29点。その内訳は有茎 (IB1) 7点、菱形 (IB2) 7点、木葉形 (IB3) 15点。32~34は有茎。32、33は凸基で、かえしが不明瞭である。34は平基のもの。両側縁に左右対称の小さな欠損が認められ、全体的に粗い調整だが、先端部は鋭利に仕上げられている。35、36は菱形。35は左右非対称であり、先端と基部の側縁が欠損している。この欠損部には二次加工が施され、ナイフ的な刃部が形成されている。36は肉厚な剥片に両面調整を加えて刃部を作出したもの。先端が鋭利さに欠け、側面観は緩やかに反っている。37は木葉形。両面からの調整剝離により、薄い刃部が両側縁に平行して作出されている。全体がややねじれており、先端は鋭利さに欠ける。35~37にはナイフの可能性はある。石材は全て黒曜石である。

石鏃 (38~42)

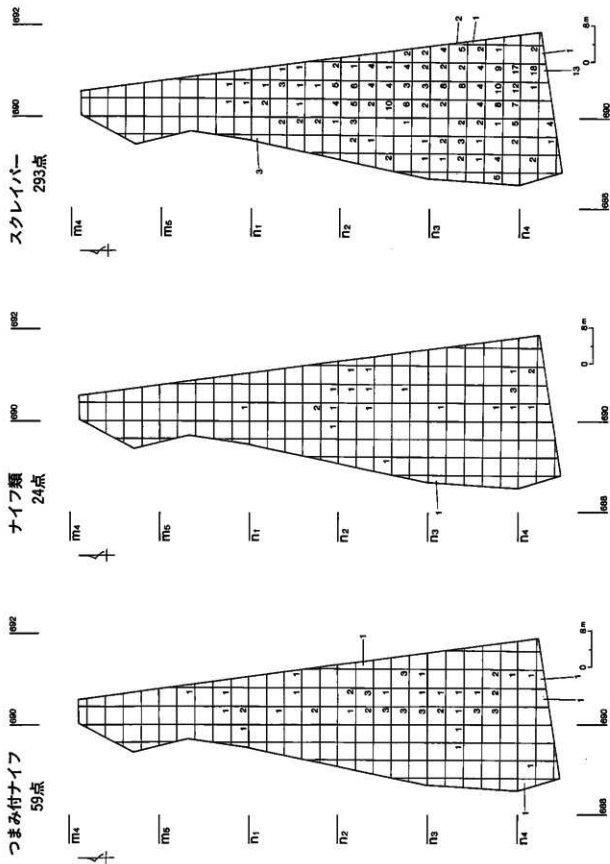
11点が出土した。内訳は棒状の石鏃 (IIA1) が3点、全体に二次加工が施されたもの (IIA2) が1点、素材である剥片の一部に機能部を作出したもの (IIA3) が7点である。38、39は棒状である。38は両面周縁加工のつまみを持つ。微細な剝離を斜めに加えて機能部先端を調整している。39は全面に粗い剝離を加えたもので、機能部がゆるやかにねじれたいびつな形である。40は肉厚な剥片の両側縁に二次加工を加えて機能部を作出したもの。横断面は台形状であり、機能部先端の稜線が丸みを帯びている。41、42は素材である剥片の一部に機能部を作出したものである。41は棒状原石の端部を加工して機能部を作り出している。42は縦長剥片の端部に機能部を作出したもので、全体的に薄身である。石材は38、40、42が頁岩で、39、41が黒曜石である。

つまみ付ナイフ (43~47)

破片・未成品を含め、59点が出土した。形態を分類できたものは47点。その内訳は縦形片面加工 (IIIA1) 44点、縦形両面加工 (IIIA2) 2点、横形 (IIIA3) 1点。頁岩製が32点ともっとも多く、黒曜石製の24点と、メノウ製の3点が多いが、頁岩製のものに関しては、全てが縦形の片面周縁加工であり、えぐりの不明瞭なものが多いという特徴が窺われた。43~45、47は片面加工。43、44は長さが約7cm、いずれも平面形が左右対称である。43は下端部が尖っている。44は背面に一次剝離痕を大きく残している。45は急角度の刃部を形成しているが、全体的には粗雑な調整加工である。46は両面加工。原石面を残している。47は片面加工であるが、再調整を繰り返した結果、刃部が後退し、



図V-15 石器の分布 (1)



図V-16 石器の分布 (2)

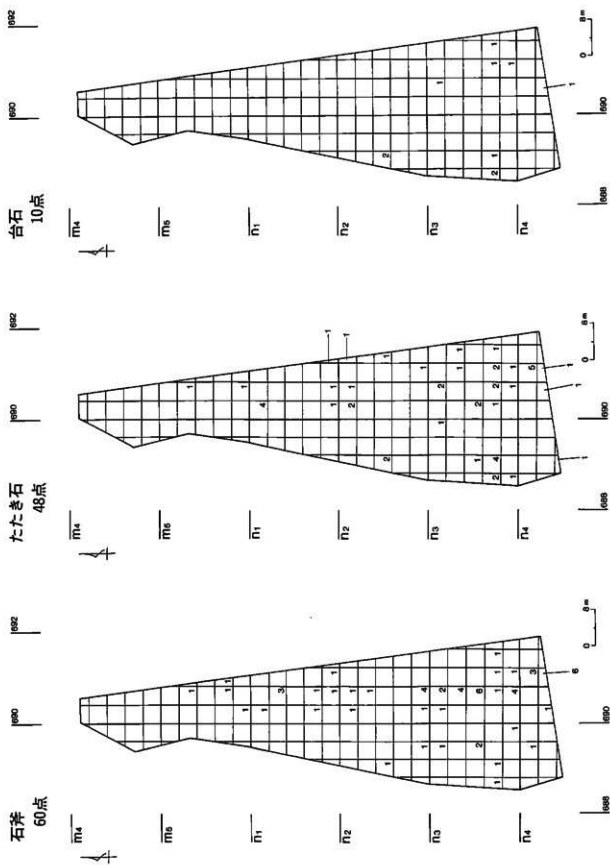


図 V-17 石器の分布 (3)

一端が尖るようになったもの。石材は43、44が頁岩で、45～47が黒曜石である。

ナイフ (48～51)

破片を含め、24点が出土した。形態を分類できたものは16点。内訳は柄のあるもの(ⅢB1)が10点、柄の無いもの(ⅢB2)が6点。48は側縁が平行な太い柄がある。片面周縁加工によって刃部を作出している。49～51は柄のないもの。49は両面全面加工。下部を欠損している。50は片面全面加工である。51は両面全面加工。全体にややねじれて、いびつである。石材は48が頁岩で、それ以外は黒曜石である。

スクレイパー (52～63)

破片を含め、293点が出土した。形態を分類できたものは192点。剥片の側縁に刃部があるもの(ⅢC4)85点、不定形のもの(ⅢC7)77点、円形のもの(ⅢC2)23点の順で多く、剥片の一端に急角度の刃部があるもの(ⅢC3)4点、えぐりがあるもの(ⅢC6)3点がほかにある。52～56は円形のもの。52、53、56は薄身の剥片に周縁加工を施したもので、刃部が全周しない。いずれも打面を残している。また、53の一部には原石面が残っている。54、55は片面全面加工によって刃部が全周するもの。いずれも肉厚の剥片を素材とし、急角度の刃部を形成している。57は厚みのある打面側を端部とし、急角度の刃部を作出したものである。58～61は側縁に刃部があるもの。58、59は両側縁に刃部を形成し、60、61は一侧縁のみ刃部を形成している。58は片面周縁加工。微細な調整剝離による刃部と、粗い調整剝離による刃部が平行してある。一侧縁は再調整によって内湾している。62、63は不定形。62は三叉状の剥片を素材とし、微細な調整剝離を加えたものである。63は厚みがある。石材は59が頁岩で、61が玄武岩。それ以外は全て黒曜石である。

楔形石器 (64) (XA2)

64は両面に、上下方向で対向する剝離が認められる。石材は黒曜石である。

石核 (65～67) (IXA1)

28点が出土。65は一部に原石面を残す。石材は全て黒曜石である。

異形石器 (68～69) (XA3)

68、69は、いずれも薄身で小型である。68は側縁が直線的。破砕痕が認められるため、突起状のものは対であったことが想定される。凹基三角形石鏃基部の可能性がある。69は微細な剝離を加えた端部が鋭利である。いずれも石鏃の可能性がある。石材は黒曜石である。

石製品 (70)

70は勾玉状のものである。孔は楕円形に穿孔されている。石材はカンラン岩である。

石斧 (71～78)

破損品・未成品を含め、60点が出土した。形態を分類できたのは35点。内訳は楕形3点、短冊形29点、乳棒形3点である。71、78は楕形(ⅣA1)、72～77は短冊形(ⅣA2)である。71、72は打ち欠き整形による剝離痕が認められる。73～77は刃部のみ残存のもの。いずれも両刃で、刃部形態は丸刃である。77は他の石斧の2倍近い幅がある。78は基部のみ残存のもの。石材は全て片岩である。

研磨石材 (79) (ⅣC1)

79は両面中央に幅1.2～1.4cmのすり切り痕がある。石材は泥岩である。

たたき石 (80～84)

破損品を含め、48点が出土した。形態を分類できたものは40点。80、81は棒状礫を素材としたもの(ⅤA1)。80は表裏面と側縁の一部に、81は表面と両端に、それぞれ敲打痕が認められる。82は扁平礫の面を使用(ⅤA3)。扁平礫の平坦面と側縁の一部に敲打痕が、側縁の一部に剝離痕がある。83は

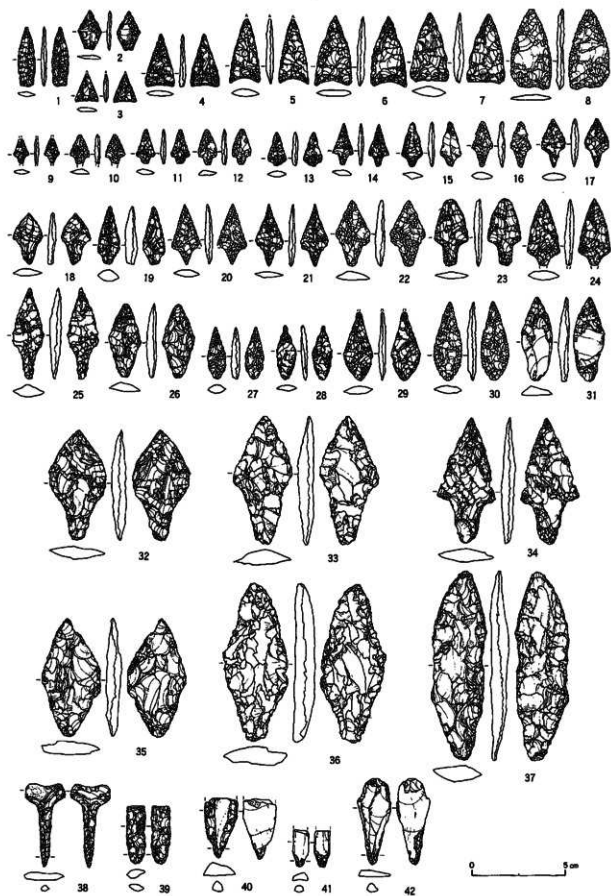


図 V-18 包含層出土の石器 (1)

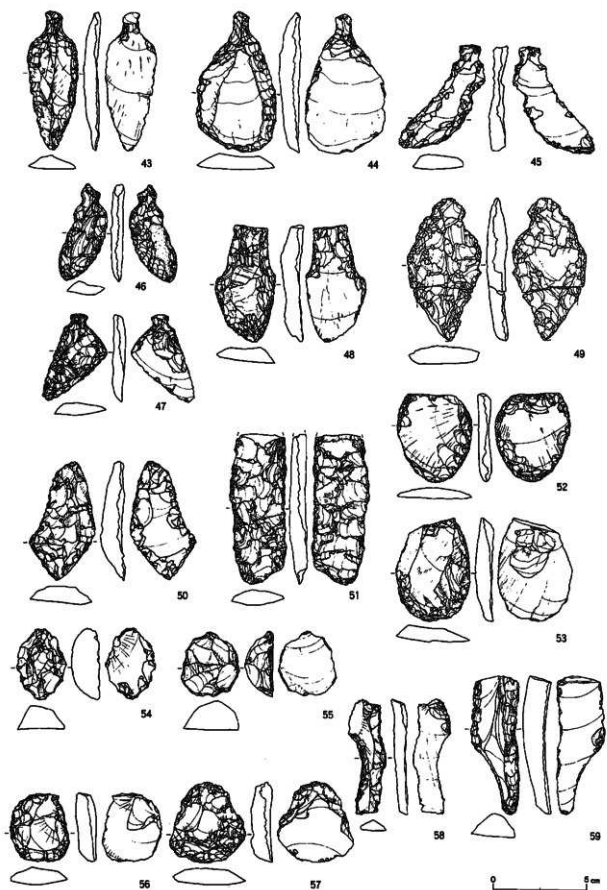
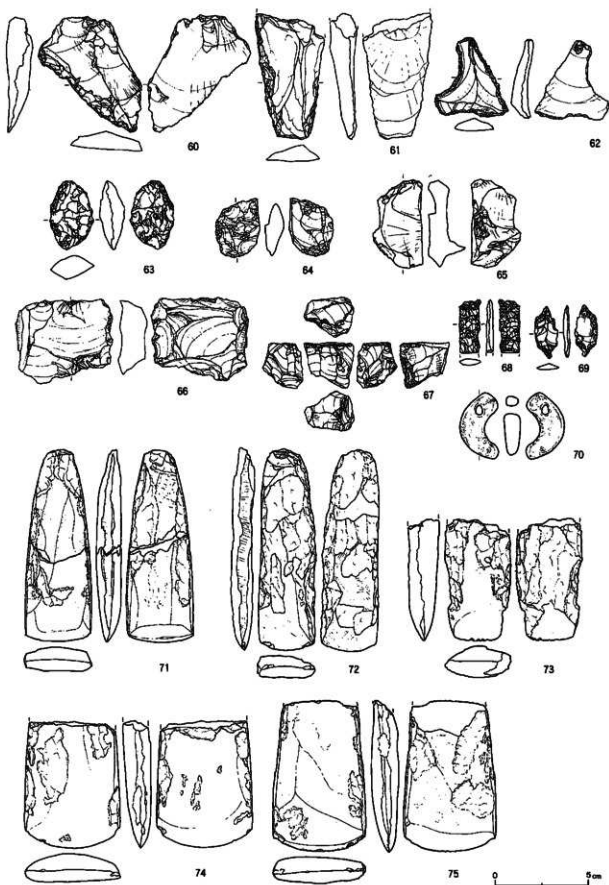


図 V-19 包含層出土の石器 (2)



図V-20 包含層出土の石器等 (3)

亜円礫を素材とするもの (VA 4)。全体は敲打により剝離が形成されている。表面に敲打痕があり、側縁部にはすり面が形成されている。たたき石としての機能のほか、すり石としての機能も想定される。84は小礫を素材としたもの。三面と一端に著しい敲打痕が認められる。ここではVA 4としたい。83、84とも、握るのに手頃な大きさである。石材は全て砂岩。

すり石 (85~87)

北海道式石冠の未成品 1 点を含め、4 点が出土した。完形品は断面三角形の礫をすったもの (VA 1) が 1 点、北海道式石冠 (VA 4) が 2 点。85はVA 1で、稜線の一つをすり面にしている。端部と三面に敲打痕が認められ、たたき石としての機能も想定される。86、87は北海道式石冠と称されるもの。いずれも敲打整形で全体の形状と握部を作出している。87はすり面に敲打痕が観察されるため、たたき石としても使用した可能性がある。石材は全て砂岩である。

石鏝 (88) (VA 8)

88の使用面は平均幅 6 mm で、断面が丸みを帯びる。石材は砂岩である。

砥石 (89~91)

7 点が出土した。89は矢柄研磨器様の石器 (VB 1)。2 条の溝が認められる。90は板状のもの (VB 2)。平滑な使用面には、方向性のある細かい擦痕が明瞭に観察される。91は大型で厚みがあるもの。使用面は緩やかに凹んでいる。石材は89がスコリア、90が泥岩、91は砂岩である。

石錘 (92~94)

破片 4 点を含め 7 点が出土した。92は打ち欠きが長軸の一端にしか認められないもの (VA 1) である。両面に浅い敲打痕が認められ、たたき石としても使用された可能性がある。93、94は打ち欠きが長軸の両端にあるもの (VA 2) である。94は一端を打ち欠き、もう一端を敲打でそれぞれ作出している。破片 4 点についても、長軸の端部にえぐりを持つものである。石材は全て砂岩。

台石 (95)

10 点が出土した。95は表面全体と裏面の一部に使用痕がある (VB 1)。石材は砂岩である。

石皿 (96、97)

4 点が出土した。全て平滑な使用面を持つもの (VB 2) である。97は使用面の周囲に浅い敲打痕が認められる。石材はいずれもトロニエム岩である。

加工痕のある礫 (98) (XB)

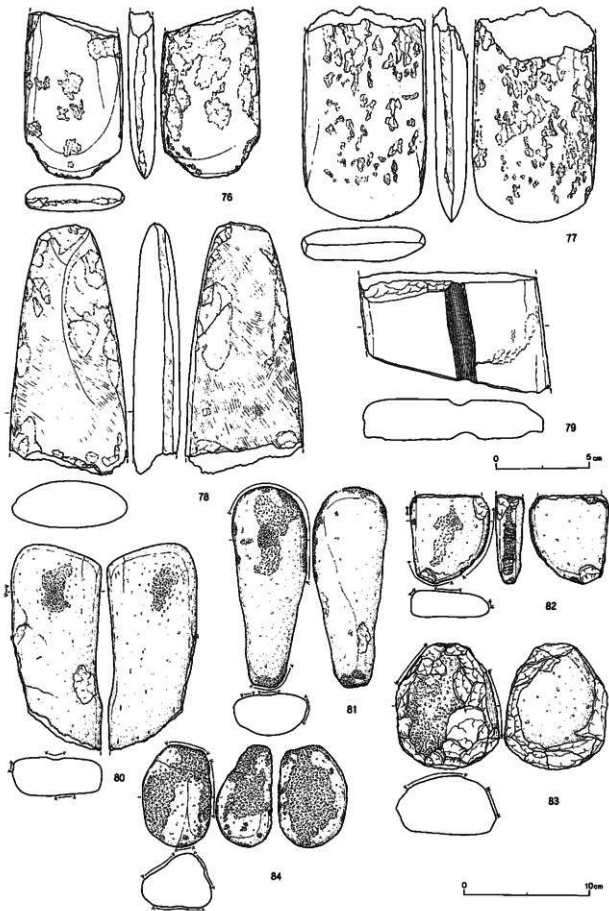
周縁に著しい剝離痕があり、打ち欠き整形の途中で破棄された石弁未成品の可能性が想定される。石材は緑色泥岩である。

棒状原石 (99・100) (XA 2)

いずれも黒曜石である。100は影しい顆粒が観察されるので、赤井川産である可能性が高い。

(影浦 覚)

4 包含層出土の遺物



図V-21 包含層出土の石器 (4)

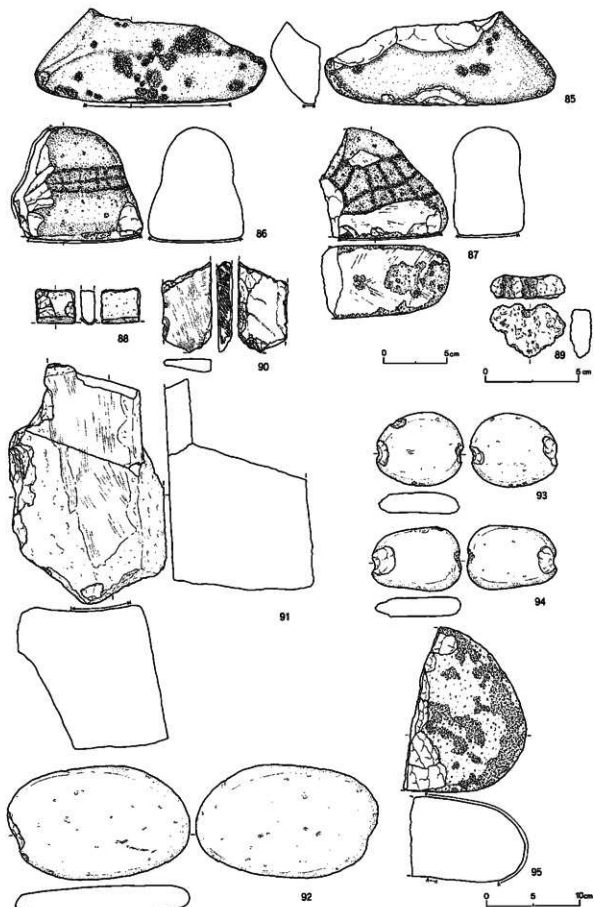
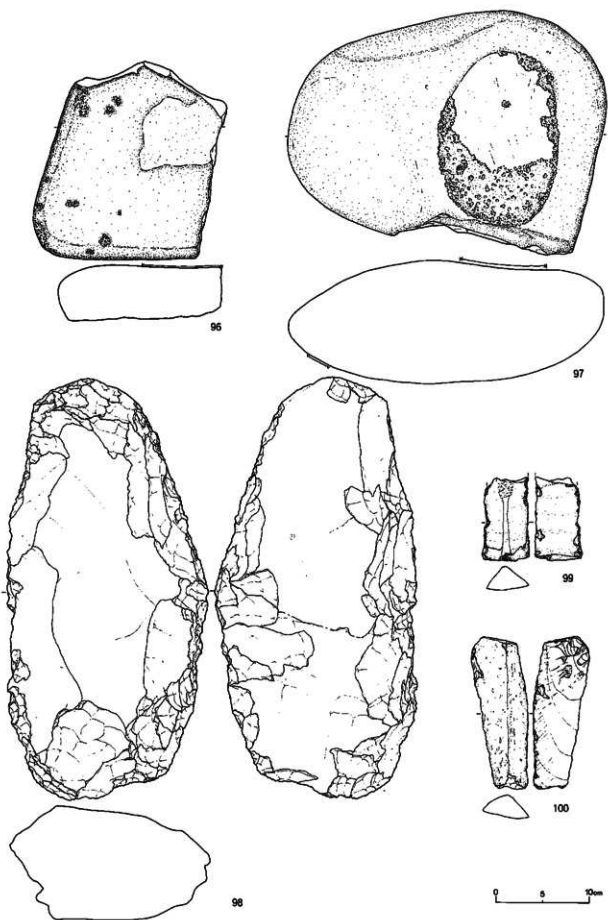


図 V-22 包舎層出土の石器 (5)



図V-23 包含層出土の石器等 (6)

表 V-2 遺構規模一覧

遺構名	位 置	規模 (横口:長軸×短軸/横底:長軸×短軸/深さ) m	平面形
P-1	n ₂ -688-10	1.16×0.82/0.96×0.64/0.28	楕円形
P-2	n ₂ -688-10	1.45×1.28/1.24×1.18/0.14	ほぼ円形
F-1	n ₂ -688-5	0.85×0.45×0.09	楕円形

表 V-3 遺構出土遺物一覧

探検番号	遺構名	遺物番号	遺物名	長さ (mm)×幅 (mm)×厚さ (mm)	重量 (g)	石 質	図版番号	備 考
V-6	P-1	1	礎	279.1×355.0×89.0	15,000	トロニエム岩	V-4-2	
#	P-2	1	台石	275.2×191.5×111.9	8,000	不明	V-4-4	

表 V-4 包含層出土土器一覧

時期	晩 期					不明	合計		
	早期	前期	中期	後期	晩 期				
分類	I 群	II 群	III 群	IV 群	V 群	V-1類	V-2類		
点数	69	37	307	30	5,019	179	157	22	5,820

表 V-5 包含層出土土器等一覧

名 称	分類記号	点 数	名 称	分類記号	点 数	名 称	分類記号	点 数
石 鏝	IA 2	2	ナイフ鏝	III B 1	10	台 石	VB 1	10
	IA 3 b	2		III B 2	6	すり石	VA 1	1
	IA 4 a	28		III B 8	8		VA 4	3
	IA 4 b	40	ナイフ鏝小計		24	すり石小計		4
	IA 5 a	82	スタレイバー	III C 2	23	石 皿	VB 2	4
	IA 5 b	2		III C 3	4	石 鏝	VA 8	1
	IA 5 c	99		III C 4	85	砥 石	VB 1	1
	IA 6 a	1		III C 6	3		VB 2	4
	IA 7 b	22		III C 7	77		VB 8	2
	IA 8	95		III C 8	101	砥石小計		7
石鏝小計		373	スタレイバー小計		293	石 鏝	VA 1	1
石 槍	IB 1	7	石 弁	VA 1	3		VA 2	2
	IB 2	7		VA 2	29		VA 8	4
	IB 3	15		VA 3	3	石鏝小計		7
	IB 8	48		VA 8	25	石 核	IX A 1	28
石鏝小計		77	石弁小計		60	原 石	IX A 2	6
石 鏝	II A 1	3	研磨石材	WC 1	1	削片・破片類	IX B	15,958
	II A 2	1	石弁原材	WC 2	1	R フレイク	IX A 1	184
	II A 3	7	石弁削片	WC 8	115	加工痕のある礫	IX B	8
石鏝小計		11	たたき石	VA 1	17	楔形石器	IX A 2	1
つまみ付ナイフ	III A 1	44		VA 2	14	異形石器	IX A 3	2
	III A 2	2		VA 3	7	石製品		1
	III A 3	1		VA 4	2	総合計		17,283
	III A 8	12		VA 8	8			
つまみ付ナイフ小計		59	たたき石小計		48			

* 表採遺物・遺構出土遺物は含まない。

4 包含層出土の遺物

表V-6 包含層出土掲載土器一覽

図番号	発掘区	遺物番号	出土層位	分類	図版番号	備考	図番号	発掘区	遺物番号	出土層位	分類	図版番号	備考
V-12-1	n ₁ -690-3	153	I層	I	V-5-1		49	n ₁ -690-3	32	II層	#	#	
2	n ₁ -688-4	1	#	#	#		50	n ₁ -690-3	68	#	#	#	
3	n ₁ -690-8	103	#	#	#		51	n ₁ -690-3	115	トレンチ	#	#	
4	n ₁ -688-7	2	トレンチ	#	#		52	n ₁ -690-3	70	II層	#	#	
5	n ₁ -690-22	149	II層	#	#		53	n ₁ -690-3	76	#	#	#	
6	n ₁ -690-22	30B	#	#	#		54	n ₁ -690-3	115	トレンチ	#	#	
7	n ₁ -690-22	30B	#	#	#		55	n ₁ -690-3	70	II層	#	#	
8	n ₁ -690-22	30B	#	#	#		56	n ₁ -690-3	68	#	#	#	
9	n ₁ -690-22	30B	#	#	#		57	n ₁ -690-3	153	I層	#	#	
10	m ₁ -690-16	4	#	#	#		58	n ₁ -690-2	75	II層	V-2	#	
11	m ₁ -690-16	4	#	#	#		59	n ₁ -690-18	24	#	#	#	
12	n ₁ -688-3	3	I層	II	#		60	n ₁ -690-3	153	I層	V	#	
13	n ₁ -688-18	1	#	#	#		61	n ₁ -690-23	7	II層	#	#	
14	n ₁ -688-7	1	#	#	#		62	n ₁ -690-3	115	トレンチ	#	#	
15	n ₁ -688-13	1	#	#	#		63	n ₁ -690-3	25	II層	V-2	#	
16	n ₁ -690-2	4	II層	#	#		V-14-64	n ₁ -690-7	24	#	V	V-7-1	
17	n ₁ -688-13	9	I層	#	#		65	n ₁ -690-7	38	#	#	#	
18	n ₁ -688-25	11	II層	#	#		66	n ₁ -690-8	2A	#	#	#	
19	n ₁ -688-12	1	I層	III	#		67	n ₁ -690-7	13	#	#	#	
20	n ₁ -688-10	1	#	#	#		68	n ₁ -690-22	44	#	#	#	
21	n ₁ -688-10	1	#	#	#		69	n ₁ -690-2		I層	#	#	
22	n ₁ -690-22	126	#	#	#		70	n ₁ -690-3	153	#	#	#	
23	n ₁ -690-22	3	#	#	#		71	n ₁ -690-7	71B	II層	#	#	
24	n ₁ -690-22	45	II層	#	#		72	n ₁ -690-8	103	I層	#	#	
25	n ₁ -690-17	138	I層	#	#		73	n ₁ -690-8	103	#	#	#	
26	n ₁ -688-23	7	#	#	#		74	n ₁ -690-7	26	#	#	#	
27	n ₁ -690-2	2	II層	#	#		75	n ₁ -690-2	47	I層	#	#	
28	n ₁ -688		I層	III	#		76	n ₁ -690-18	76	I層	V-1	#	
29	n ₁ -688-24	6	#	IV	#		77	n ₁ -690-7	142	#	#	#	
30	n ₁ -688-23	11	#	#	#		78	n ₁ -690-7	106	I層	#	V-7	
V-13-31	n ₁ -688-23	11	#	#	V-6-1		79	n ₁ -690-13	57	#	V	#	
32	n ₁ -690-7	67	II層	#	#		80	不明			#	#	
33	m ₁ -690-7	4	I層	V	#		81	n ₁ -690-7	142	I層	V-2	#	
34	m ₁ -690-3	115	トレンチ	#	#		82	不明			#	#	
35	n ₁ -690-12	59	I層	#	#		83	不明	71B	II層	V	#	
36	n ₁ -690-8	20	II層	#	#		84	不明			V-1	#	
37	n ₁ -688-18	1	I層	V-2	#		85	n ₁ -690-3	37	II層	V	#	
38	n ₁ -688-18	1	#	#	#		86	n ₁ -690-7	142	I層	V-1	#	
39	n ₁ -690-7	15	II層	V	#		87	n ₁ -690-7		#	V	#	
40	n ₁ -690-22	28A	#	#	#		88	n ₁ -690-17	9	II層	#	#	
41	n ₁ -690-7	44	#	#	#		89	n ₁ -690-8	6	#	#	#	
42	n ₁ -690-18	41	#	#	#		90	n ₁ -690-14	1	I層	#	#	
43	n ₁ -690-7	49	#	#	#		91	n ₁ -690-2	16	II層	#	#	
44	不明		#	#	#		92	n ₁ -690-7	74	#	#	#	
45	n ₁ -690-7	103	I層	#	#		93	n ₁ -690-7	51	#	#	#	
46	不明				V-3		94	n ₁ -690-2	27	#	V-1	#	
V-13-47	n ₁ -690-3	153	I層	V	V-6-1		95	n ₁ -690-2	14	#	V	#	
48	n ₁ -690-15	1	#	#	#		96	n ₁ -690-2	13	#	#	#	
								n ₁ -690-3	37	#	#	#	

表 V-7 包含層出土掲載石器等一覧

標記番号	発掘区	遺物番号	層位	器名	分類	長さ(mm)×幅(mm)×厚さ(mm)	重量(g)	石材	図版番号	備考
V-18-1	n ₁ -688-10	5	I	石鏃	IA 2	31.5 × 9.5 × 3.1	0.7	黒曜石	V-8-1	
2	n ₁ -690-1	29	I	石鏃	IA 3 b	21.0 × 12.5 × 2.5	0.4	黒曜石	#	トレンチ出土
3	n ₁ -690-16	36	I	石鏃	IA 4 a	14.1 × 13.0 × 3.0	0.2	黒曜石	#	
4	n ₁ -690-6	12	I	石鏃	IA 4 a	27.5 × 15.0 × 3.0	0.8	黒曜石	#	
5	n ₁ -690-22	49A	II	石鏃	IA 4 b	(33.5) × (15.0) × 4.1	(1.6)	黒曜石	#	
6	n ₁ -688-23	2	I	石鏃	IA 4 b	37.0 × 20.2 × 3.9	2.4	黒曜石	#	
7	n ₁ -688-8	4	I	石鏃	IA 4 a	36.8 × 20.5 × 6.1	2.7	黒曜石	#	
8	n ₁ -690-17	103A	II	石鏃	IA 4 a	42.5 × 21.5 × 3.9	2.8	黒曜石	#	
9	n ₁ -690-7	85A	II	石鏃	IA 5 a	(13.5) × (8.0) × 3.1	(0.2)	黒曜石	#	
10	n ₁ -690-16	29	I	石鏃	IA 5 a	(16.1) × 9.6 × 2.9	(0.3)	黒曜石	#	
11	n ₁ -690-13	4	II	石鏃	IA 5 a	18.3 × 10.2 × 3.2	0.3	黒曜石	#	
12	n ₁ -690-22	96	I	石鏃	IA 5 a	18.2 × 9.4 × 3.1	0.3	黒曜石	#	
13	n ₁ -690-16	33	I	石鏃	IA 5 a	17.1 × 10.1 × 2.7	0.3	黒曜石	#	
14	n ₁ -690-1	31	I	石鏃	IA 5 a	22.2 × 11.2 × 2.9	0.4	黒曜石	#	
15	n ₁ -690-23	77	I	石鏃	IA 5 c	23.5 × 11.5 × 3.8	0.5	黒曜石	#	
16	n ₁ -690-20	2	I	石鏃	IA 5 c	23.6 × 10.5 × 4.1	0.5	黒曜石	#	
17	n ₁ -690-13	29	II	石鏃	IA 5 c	25.2 × 12.5 × 3.6	0.8	黒曜石	#	
18	n ₁ -690-17	14A	II	石鏃	IA 5 c	27.5 × 16.2 × 3.9	1.1	黒曜石	#	
19	n ₁ -688-13	7	I	石鏃	IA 5 c	31.2 × 12.2 × 5.9	1.8	頁岩	#	
20	n ₁ -690-17	113B	II	石鏃	IA 5 a	32.3 × (15.1) × 4.0	(0.9)	黒曜石	#	
21	n ₁ -690-22	5	I	石鏃	IA 5 a	33.1 × 15.0 × 3.5	0.9	黒曜石	#	
22	n ₁ -690-16	13	II	石鏃	IA 5 c	33.9 × 18.1 × 4.5	1.8	黒曜石	#	
23	n ₁ -690-17	26A	II	石鏃	IA 5 c	35.5 × 18.4 × 4.1	2.0	黒曜石	#	
24	n ₁ -690-11	10	I	石鏃	IA 5 c	(35.1) × 17.5 × 5.6	(2.1)	黒曜石	#	
25	n ₁ -688-25	2	II	石鏃	IA 5 c	47.5 × 16.1 × 5.9	2.9	黒曜石	#	
26	n ₁ -690-12	17	I	石鏃	IA 6 a	39.1 × 18.1 × 5.0	2.4	黒曜石	#	
27	n ₁ -690-1	10	II	石鏃	IA 7 b	27.2 × 9.5 × 4.5	1.0	黒曜石	#	
28	n ₁ -690-1	10A	II	石鏃	IA 7 b	28.1 × 10.1 × 2.8	0.6	黒曜石	#	
29	n ₁ -690-11	32	I	石鏃	IA 7 b	36.1 × 15.9 × 4.0	1.5	黒曜石	#	
30	n ₁ -690-12	29	I	石鏃	IA 7 b	41.1 × 14.5 × 5.1	2.0	黒曜石	#	
31	表掘	21	I	石鏃	IA 7 b	44.5 × 17.2 × 5.5	2.9	黒曜石	#	
32	n ₁ -690-23	64	II	石槍	IB 1	57.7 × 30.0 × 6.5	8.8	黒曜石	#	
33	n ₁ -688-13	8	I	石槍	IB 1	67.2 × 31.1 × 9.1	10.7	黒曜石	#	
34	n ₁ -690-22	9	I	石槍	IB 1	66.0 × 30.5 × 8.0	8.4	黒曜石	#	
35	n ₁ -690-16	35	I	石槍	IB 2	61.8 × 31.0 × 7.1	10.9	黒曜石	#	
36	n ₁ -690-7	2	I	石槍	IB 2	82.9 × 33.8 × 12.0	25.9	黒曜石	#	
37	n ₁ -690-23	27A	II	石槍	IB 3	99.5 × 27.8 × 8.5	21.6	黒曜石	#	
38	n ₁ -688-18	18	I	石鏃	II A 1	44.1 × 20.4 × 4.8	2.3	頁岩	#	
39	n ₁ -688-4	5	I	石鏃	II A 1	(31.1) × (10.5) × (5.1)	(1.5)	黒曜石	#	
40	n ₁ -690-8	2	I	石鏃	II A 2	(31.8) × (16.8) × (7.2)	(3.8)	頁岩	#	
41	n ₁ -688-18	16	I	石鏃	II A 3	(18.9) × (7.8) × (5.1)	(0.8)	黒曜石	#	
42	n ₁ -688-24	6	I	石鏃	II A 3	44.9 × 17.5 × 4.0	3.0	頁岩	#	
V-19-43	n ₁ -690-7	19	I	つまみ付ナイフ	III A 1	73.0 × 26.3 × 7.9	13.4	頁岩	V-9-1	
44	n ₁ -690-16	37	I	つまみ付ナイフ	III A 1	73.2 × 41.9 × 10.8	29.4	頁岩	#	
45	n ₁ -690-12	3	I	つまみ付ナイフ	III A 1	66.9 × 20.7 × 7.1	11.6	黒曜石	#	
46	n ₁ -690-6	8	I	つまみ付ナイフ	III A 2	51.7 × 25.1 × 5.1	6.0	黒曜石	#	
47	n ₁ -688-3	5	I	つまみ付ナイフ	III A 1	47.0 × 38.1 × 7.1	7.7	黒曜石	#	
48	n ₁ -690-1	4	II	ナイフ類	III B 1	60.0 × 31.2 × 12.2	19.1	頁岩	#	
49	n ₁ -690-3	4	I	ナイフ類	III B 2	75.2 × 39.1 × 11.0	27.3	黒曜石	#	
50	n ₁ -690-21	34	II	ナイフ類	III B 2	62.5 × 35.0 × 13.9	16.6	黒曜石	#	
51	n ₁ -690-23	85	I	ナイフ類	III B 2	78.1 × 29.0 × 7.2	22.5	黒曜石	#	
52	n ₁ -690-12	64	I	スクレイパー	III C 2	46.7 × 38.9 × 7.1	13.7	黒曜石	#	
53	n ₁ -690-18	83	I	スクレイパー	III C 2	52.9 × 39.8 × 9.9	18.2	黒曜石	#	
54	n ₁ -690-16	40	I	スクレイパー	III C 2	37.0 × 27.2 × 14.7	12.3	黒曜石	#	
55	n ₁ -688-17	15	I	スクレイパー	III C 2	33.2 × 31.5 × 14.9	14.3	黒曜石	#	

4 包含層出土の遺物

発掘番号	発掘区	遺物番号	層位	器種名	分類	長さ(mm)×幅(mm)×厚さ(mm)	重量(g)	石材	図版番号	備考
V-19-56	n ₂ -690-17	53A	II	スクレイパー	III C 2	37.0 × 31.2 × 11.0	12.5	黒曜石	V-9-1	
57	n ₂ -690-11	12	II	スクレイパー	III C 3	42.4 × 39.9 × 10.5	18.0	黒曜石	#	
58	n ₂ -690-18	21A	II	スクレイパー	III C 4	61.2 × 20.2 × 7.9	5.9	黒曜石	#	
59	n ₂ -688-25	10	I	スクレイパー	III C 4	74.0 × 26.0 × 12.6	21.1	頁岩	#	
V-20-60	n ₂ -690-3	83A	II	スクレイパー	III C 4	61.9 × 54.0 × 13.8	31.7	黒曜石	V-10-1	
61	n ₂ -690-23	51	II	スクレイパー	III C 4	67.1 × 38.1 × 13.3	27.9	玄武岩	#	
62	n ₂ -688-13	6	I	スクレイパー	III C 7	42.0 × 39.0 × 8.1	7.9	黒曜石	#	
63	n ₂ -690-12	3A	II	スクレイパー	III C 7	35.8 × 24.0 × 13.1	8.1	黒曜石	#	
64	n ₂ -688-25	5	I	楔形石器	IX A 2	31.1 × 23.2 × 10.0	7.2	黒曜石	#	
65	n ₂ -690-13	53	I	石核	IX A 1	46.1 × 26.4 × 20.7	16.6	黒曜石	#	
66	n ₂ -690-8	80	I	石核	IX A 1	45.4 × 51.0 × 14.0	37.8	黒曜石	#	
67	n ₂ -690-3	18A	II	石核	IX A 1	24.2 × 26.5 × 21.0	11.4	黒曜石	#	
68	n ₂ -690-13	128	I	異形石器	IX A 3	(28.0) × (10.8) × (3.7)	(1.3)	黒曜石	#	
69	m ₂ -690-2	5	I	異形石器	IX A 3	27.7 × 12.5 × 3.5	0.7	黒曜石	#	
70	n ₂ -690-23	12	II	石製品		35.1 × — × —		7.2	燧石	#
71	n ₂ -690-22	23	I	石片	IV A 1	101.0 × 35.1 × 13.4	75.3	片岩	#	
72	n ₂ -690-17	62	II	石片	IV A 2	105.5 × 29.0 × 10.1	60.1	片岩	#	
73	n ₂ -690-2	118	I	石片	IV A 2	(63.1) × (34.8) × (16.1)	(55.2)	片岩	#	
74	n ₂ -690-8	33	I	石片	IV A 2	(68.2) × (51.0) × (14.0)	(86.2)	片岩	#	
75	n ₂ -690-1	24	I	石片	IV A 2	(81.0) × (48.9) × (14.5)	(91.5)	片岩	#	
V-21-76	n ₂ -690-8	72	I	石片	IV A 2	(88.9) × (52.1) × (15.5)	(121.3)	片岩	V-11-1	
77	n ₂ -690-2	33	I	石片	IV A 2	(113.2) × (65.8) × (17.9)	(247.1)	片岩	#	
78	n ₂ -690-7	135	I	石片	IV A 1	(132.1) × (62.0) × (24.6)	(290.8)	片岩	#	
79	n ₂ -690-22	76	II	研磨石材	IV C 1	(63.1) × (99.8) × (21.7)	(219.6)	泥岩	#	
80	n ₂ -688-17	21	I	たたき石	V A 1	152.1 × 71.0 × 30.0	560.7	砂岩	#	
81	n ₂ -690-22	12	II	たたき石	V A 1	157.0 × 57.9 × 33.0	404.9	砂岩	#	
82	n ₂ -690-3	23	II	たたき石	V A 3	70.1 × 63.2 × 21.0	144.1	砂岩	#	
83	n ₂ -690-21	53	I	たたき石	V A 4	98.0 × 79.0 × 45.0	510.5	砂岩	#	
84	n ₂ -688-18	34	I	たたき石	V A 4	80.0 × 54.7 × 44.2	237.9	砂岩	#	
V-22-85	n ₂ -688-17	20	I	すり石	VI A 1	(182.0) × (71.0) × (39.0)	(542.3)	砂岩	V-12-1	
86	n ₂ -688-4	6	I	すり石	VI A 4	(88.2) × (97.0) × (74.9)	(850.0)	砂岩	#	
87	n ₂ -688-8	7	I	すり石	VI A 4	(86.2) × (99.9) × (57.0)	(700.0)	砂岩	#	
88	n ₂ -690-17	118	II	石鏃	VII A 8	(28.2) × (32.0) × (11.0)	(15.1)	砂岩	#	
89	n ₂ -690-22	77	II	砥石	VII B 1	28.1 × 40.0 × 11.6	8.4	スコリア	#	
90	n ₂ -690-2	34	I	砥石	VII B 2	(71.1) × (39.0) × (12.2)	(39.2)	泥岩	#	
91	n ₂ -688-13	12	I	砥石	VII B 8	(189.1) × (124.4) × (110.5)	(2399.8)	砂岩	#	
92	n ₂ -690-6	42	I	石鏃	VII A 1	89.5 × 145.0 × 20.5	434.4	砂岩	#	
93	n ₂ -690-21	36	I	石鏃	VII A 2	50.9 × 69.0 × 17.1	95.0	砂岩	#	
94	n ₂ -688-24	1	I	石鏃	VII A 2	71.0 × 50.2 × 15.0	84.4	砂岩	#	
95	n ₂ -688-17	23	I	台石	VII B 1	175.2 × 122.1 × 85.1	2,487.8	砂岩	#	
V-23-96	n ₂ -690-22	1	I	石皿	VII B 2	208.9 × 185.3 × 58.0	4,500.0	上白土 ニ正 土層	V-13-1	
97	n ₂ -690-23	16	I	石皿	VII B 2	261.2 × 338.3 × 130.2	14,500.0		#	
98	n ₂ -690-8	28	II	加工痕のある礫	IX B	223.0 × 107.2 × 60.1	1,899.8	泥岩	#	
99	n ₂ -690-8	84	I	棒状礫石	IX A 2	44.1 × 26.0 × 12.8	16.0	黒曜石	#	
100	n ₂ -688-20	3	II	棒状礫石	IX A 2	81.1 × 30.0 × 13.3	25.7	黒曜石	#	



1 遺跡遠景 (北東から)



2 土層確認トレンチ設定状況 (北から)



3 トレンチ調査状況(1)



4 トレンチ調査状況(2)

図版 V-2 調査状況、基本土層



1 25%調査状況（北から）



2 基本土層



3 遺物出土状況（南から）



1 土器出土状況（南西から）



2 玉類出土状況（東から）



3 調査状況（北から）



4 完掘（北から）

図版 V-4 遺構の調査



1 P-1 遺物出土状況 (南から)



2 P-1 出土の遺物



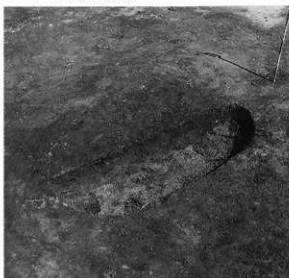
3 P-2 遺物出土状況 (南から)



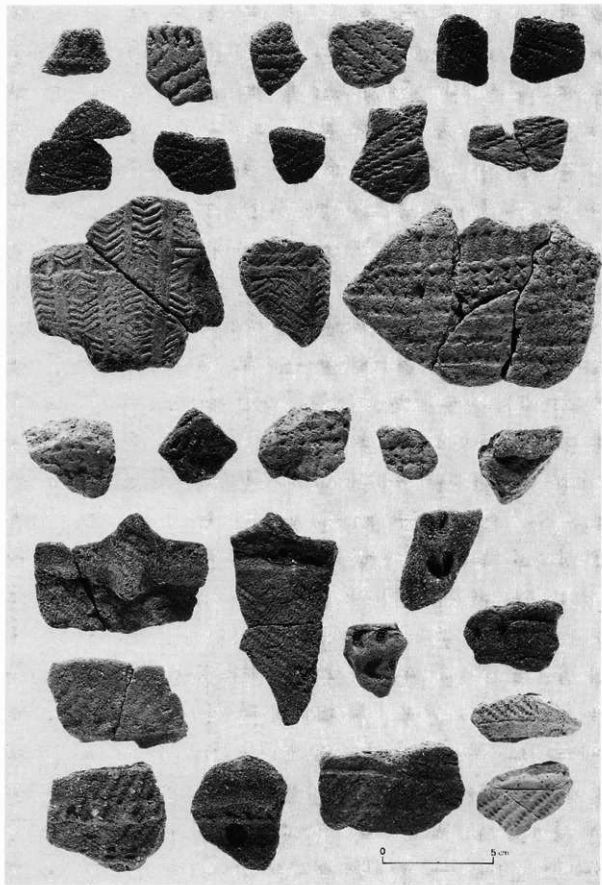
4 P-2 出土の遺物



5 F-1 検出 (南から)

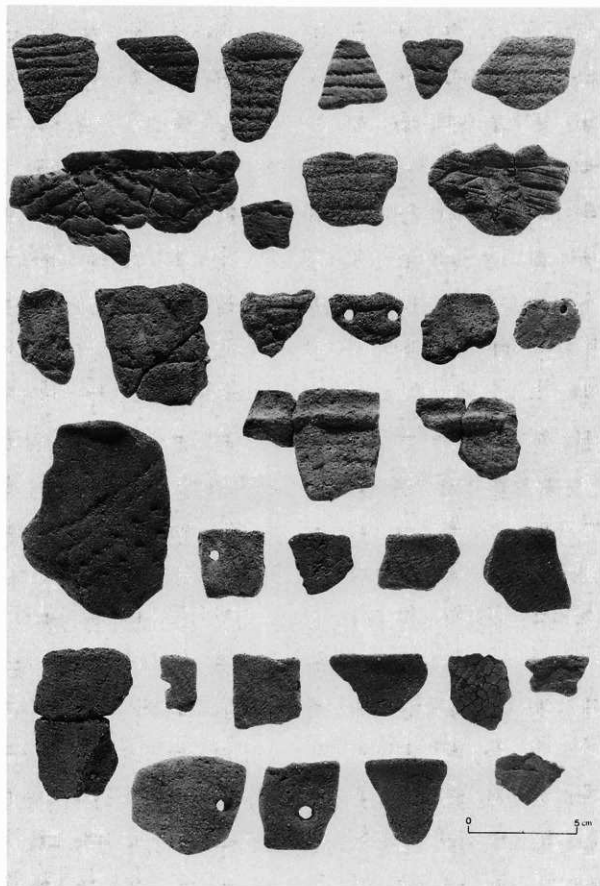


6 F-1 セクション (南から)

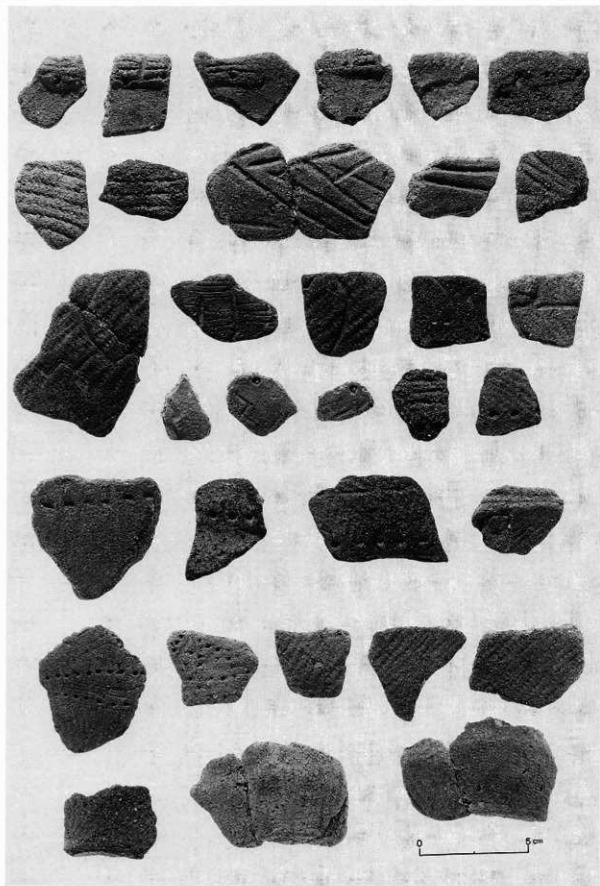


1 包含層のI・II・III・IV群土器

図版V-6 包含層のV群土器 (1)

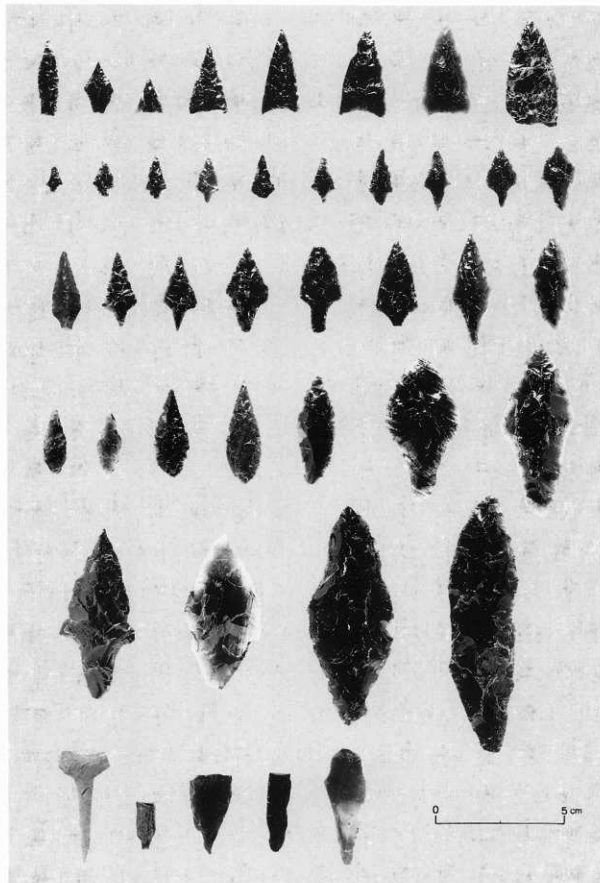


1 包含層のV群土器 (深鉢、口縁部破片)

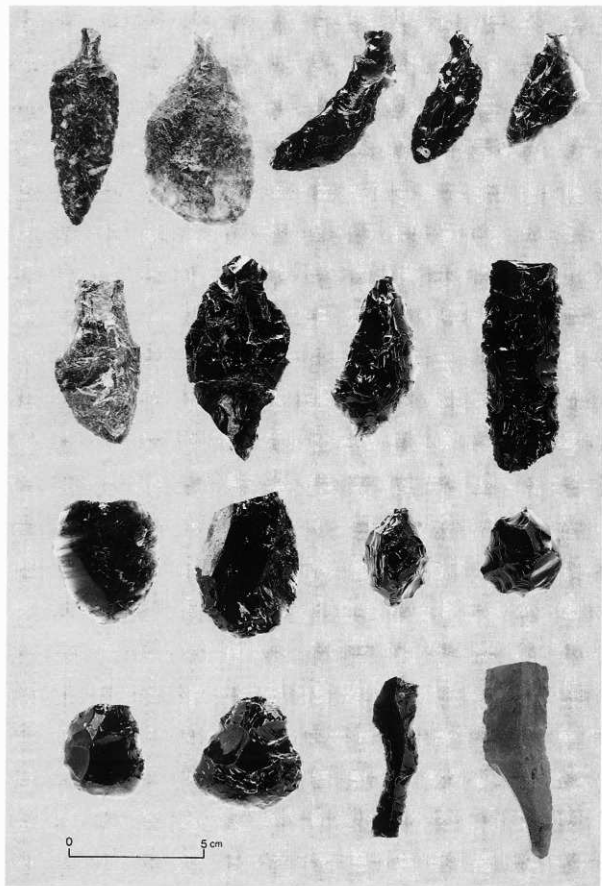


1 包含層のV群土器 (浅鉢、胴部・底部破片)

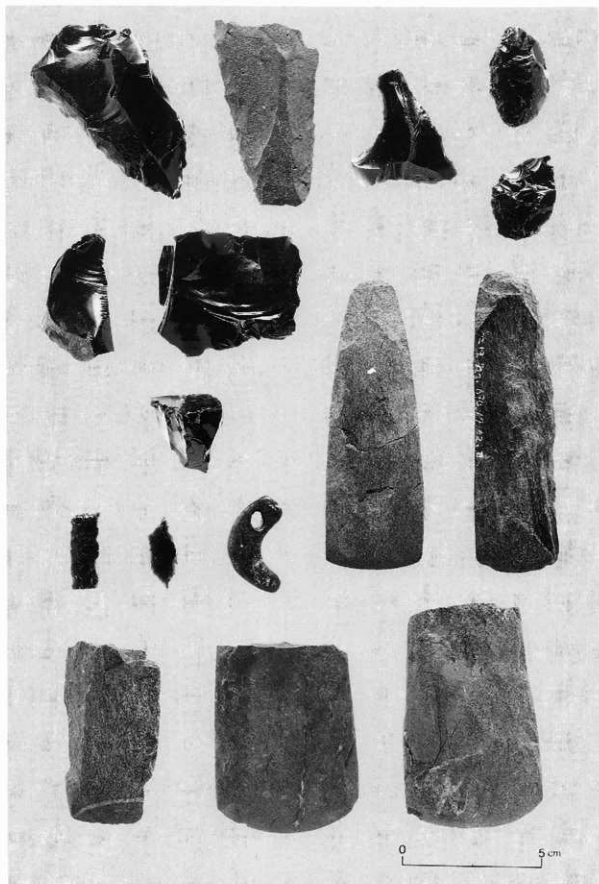
図版V-8 包含層の石器 (1)



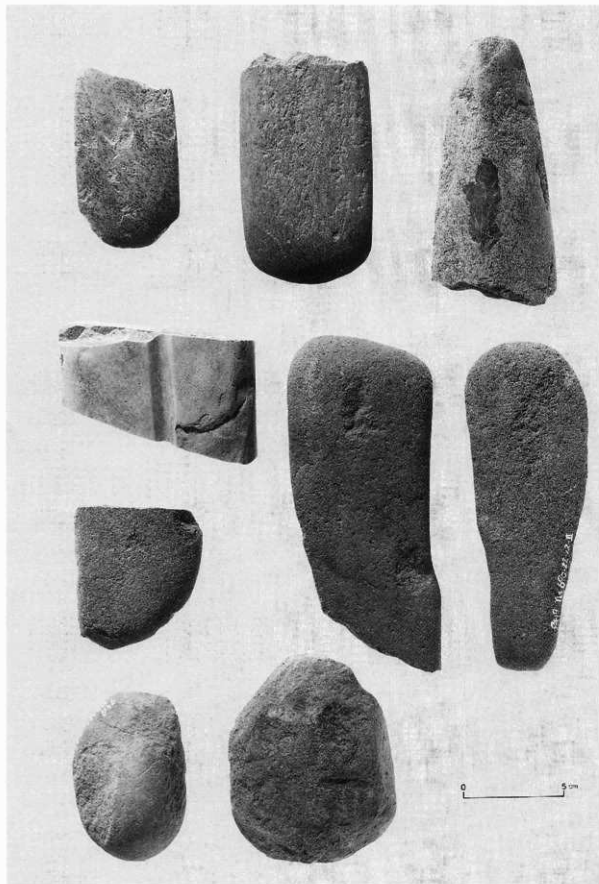
1 包含層の石器 (石鏃、石槍、石錐)



1 包含層の石器 (つまみ付きナイフ、スクレイパー)

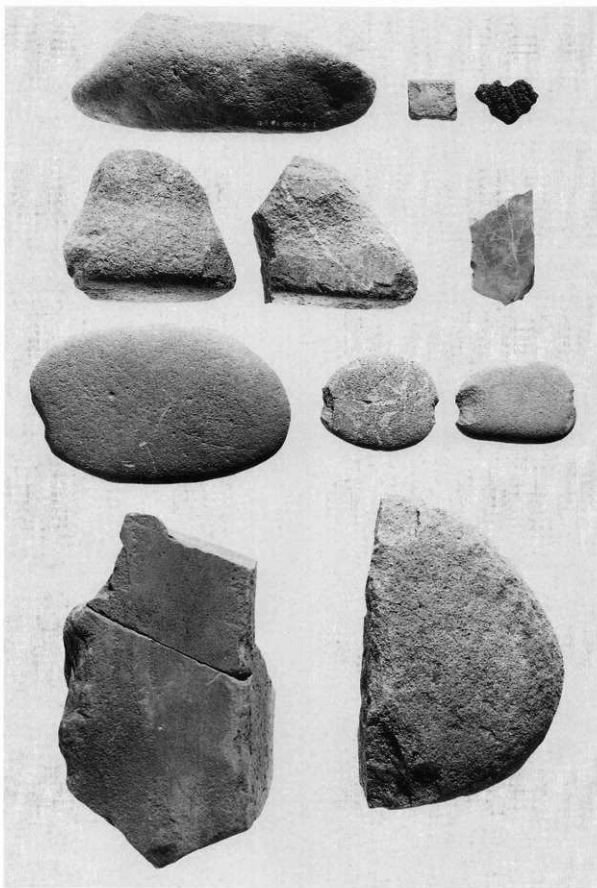


1 包含層の石器 (スクレイパー、玉類、異形石器、石斧)

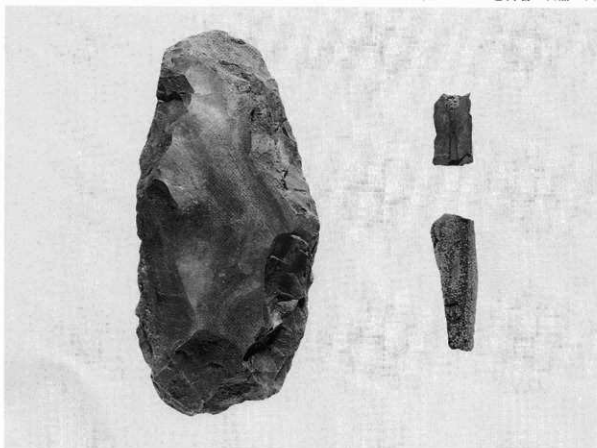


1 包含層の石器 (石斧、たたき石)

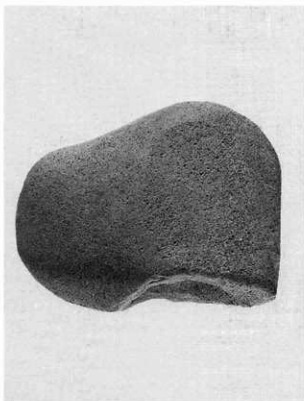
図版 V—12 包含層の石器 (5)



1 包含層の石器 (北海道式石冠、砥石)



1 包含層の石器等 (加工痕のある礫・棒状原石)



2 包含層の石器 (石皿)



3 包含層の石器 (石皿)

VI 自然科学的分析

1 滝里9遺跡出土の黒曜石製遺物の原産地分析および 黒曜石製遺物の非破壊分析による水和層の測定

藁科 哲男 (京都大学原子炉実験所)

はじめに

石器石材の産地を自然科学的な手法を用いて、客観的に、かつ定量的に推定し、古代の交流、交易および文化圏、交易圏を探ると言う目的で、蛍光X線分析法によりサヌカイトおよび黒曜石遺物の石材産地推定を行なっている^{1,2)}。

黒曜石、サヌカイトなどの主成分組成は、原産地ごとに大きな差はみられないが、不純物として含有される微量成分組成には異同があると考えられるため、微量成分を中心に元素分析を行ない、これを産地を特定する指標とした。分類の指標とする元素組成を遺物について求め、あらかじめ、各原産地ごとに数十個の原石を分析して求めておいた各原石群の元素組成の平均値、分散などと遺物のそれと対比して産地を推定する。この際多変量解析の手法を用いて、各産地に帰属される確率を求めて産地を同定する。

蛍光X線分析法は試料を破壊せずに分析することができて、かつ、試料調整が単純、測定の操作も簡単である。石器のような古代人の日用品で多数の試料を分析しなければ遺跡の正しい性格が分からないという場合にはことさら有利な分析法である。今回分析を行なった試料は、芦別市滝里9遺跡の縄文時代の合計53個の黒曜石製遺物の産地分析および非破壊分析による黒曜石遺物の水和層厚さの結果が得られたので報告する。

黒曜石原石の分析

黒曜石原石の風化面を打ち欠き新鮮面を出し、塊状の試料を作りエネルギー分散型蛍光X線分析装置によって元素分析を行なう。主に分析した元素はK、Ca、Ti、Mn、Fe、Rb、Sr、Y、Zr、Nbの各元素である。塊状試料の形状差による分析値への影響を打ち消すために元素量の比を取り、それをもって産地を特定する指標とした。黒曜石はCa/K、Ti/K、Mn/Zr、Fe/Zr、Rb/Zr、Sr/Zr、Y/Zr、Nb/Zrの比量を用いる。

黒曜石の原産地は北海道、東北、北陸、東関東、中信高原、伊豆箱根、伊豆七島の神津島、山陰、九州の各地に黒曜石の原産地は分布する。調査を終えた原産地を図VI-1に示す。黒曜石原産地のほとんどすべてがつくされている。元素組成の上から、これら原石を分類すると表VI-9・10・11に示すように99個の原石群に分かれる。

ここでは北海道地域および一部の東北地域の産地について記述すると、白滝地域の原産地は、北海道紋別郡白滝村に位置し、鹿砦北方2kmの採石場の露頭、鹿砦東方約2kmの幌加沢地点、また白土沢などより転搬として黒曜石が採取できる。この露頭からの黒曜石原石は白滝第一群にまわり、白土沢の転搬は白滝第二群にまわる。幌加沢よりの転搬の中で、70%は幌加沢群にまわるが、この群は白滝第二群と一致し、元素組成から両群を区別できない。さらに、幌加沢産原石の30%は白滝第一群と一致する。置戸産原石は、北海道常呂郡置戸町の清水の沢林道より採取され、この原石の元素組成

は置戸群にまとまる。この原産地は、常呂川に通じる流域にあり、この常呂川流域で黒曜石の円礫が採取されるが現在まだ調査していない。十勝三股産原石は、北海道河東郡上士幌町の十勝三股の十三ノ沢の谷筋および沢の中より原石が採取され、この原石の元素組成は十勝三股群にまとまる。この十勝三股産原石は十三の沢から音更川さらに十勝川に流れた可能性があり、十勝川から採取される黒曜石円礫の組成は、十勝三股産の原石の組成と相互に近似している。また、上士幌町のサンケオルベ川より採取される黒曜石円礫の組成も十勝三股産原石の組成と相互に近似している。これら組成の近似した原石の原産地は区別できず、遺物石材の産地分析でたとえ、この遺物の原産地が十勝三股群に同定されたとしても、これら十勝三股、音更川、十勝川、サンケオルベ川の複数の地点を考えなければならぬ。しかし、この複数の産地をまとめて、十勝地域としても、古代の地域間の交流を考察する場合、問題はないと考えられる。また、清水町、新得町、鹿追町にかけて広がる美蔓台地から産出する黒曜石から2個の美蔓原石群が作られた。この原石は産地近傍の遺跡で使用されている。名寄市の智南地域、智恵文川および忠烈布貯水池から上名寄にかけて黒曜石の円礫が採集される。これらを組成で分類すると88%は名寄第一群に、また12%は名寄第二群にそれぞれなる。旭川市の近文台、嵐山遺跡付近および雨文台北部などから採集される黒曜石の円礫は、20%が近文台第一群、69%が近文台第二群、11%が近文台第三群それぞれ分類された。また、滝川市江別乙で採集される親指大の黒曜石の礫は、組成で分類すると約79%が滝川群にまとまり、21%が近文台第二、三群に組成が一致する。滝川群に一致する組成の原石は、北竜市恵袋別川培本社からも採取される。秩父別町の雨竜川に開析された平野を見下す丘陵中腹の緩斜面から小円礫の黒曜石原石が採取される。産出状況とか礫状は滝川産黒曜石と同じで、秩父別第一群は滝川第一群に組成が一致し、第二群も滝川第二群に一致しさらに近文台第二群にも一致する。赤井川産原石は、北海道余市郡赤井川村の土木沢上流域およびこの付近の山腹より採取できる。ここの原石には、少球果の列が何層にも重なり石器の原材料として良質とはいえないものが多く、稀に球果の見られない、またあっても非常に少ない握り拳半分大の良質な原石が少数みられた。これら原石の元素組成は赤井川群にまとまる。豊泉産原石は豊浦町から産出し使用圏は道南地方に広がり、一部は青森県に伝播している。出来島群は青森県西津軽郡木造町七里長浜の海岸部より採取された円礫の原石で作られた群で、この出来島群と相互に似た組成の原石は、岩木山の西側を流れ鯉ヶ沢地区に流入する中村川の上流で1点採取され、また、青森市の鶴ヶ坂および西津軽郡森田村鶴ばみ地区より採取されている。深浦群は青森県西津軽郡深浦町の海岸とか同町の六角沢およびこの沢筋に位置する露頭より採取された原石で作られた群である。深浦群と相互に似た群は青森市戸門地区より産出する黒曜石で作られた戸門第二群である。戸門第一群は赤井川産原石と弁別は可能であるが両産地の原石の組成は比較的似ている。戸門産黒曜石の産出量は非常に少なく、また大きさも石鏃が作れる程度である。

結果と考察

遺跡から出土した石器、石片は風化しているが、黒曜石製のものは風化に対して安定で、表面に薄い水和層が形成されているにすぎないため、表面の泥を水洗するだけで完全な非破壊分析が可能であると考えられる。産地分析で水和層の影響は、軽い元素の分析ほど大きいと考えられるが、影響はほとんど見られない。Ca/K、Ti/Kの両軽元素比量を除いて産地分析を行なった場合、また除かずに産地分析を行った場合同定される原産地に差はない。他の元素比量についても風化の影響を完全に否定することができないので、得られた確率の数値にはやゝ不確実さを伴うが、遺物の石材産地の判定を誤るようなことはない。今回分析した滝里9遺跡の遺物の結果を表VI-1に示した。

石器の分析結果から石材産地を同定するためには数理統計の手法を用いて原石群との比較をする。説明を簡単にするため Rb/Zr の一変量だけを考えたと、表 VI-1 の試料番号 48444 番の遺物では Rb/Zr の値は 1.156 で、十勝三股群の [平均値] ± [標準偏差値] は、 1.097 ± 0.055 である。遺物と原石群の差を標準偏差値 (σ) を基準にして考えると遺物は原石群から 1.0σ 離れている。ところで十勝三股原産地から 100ヶの原石を採ってきて分析すると、平均値から $\pm 1.0\sigma$ のずれより大きいものが 32 個ある。すなわち、この遺物が、十勝三股島群の原石から作られていたと仮定しても、 1.0σ 以上離れる確率は 32% であると言える。だから、十勝三股群の平均値から 1.0σ しか離れていないときには、この遺物が十勝三股群の原石から作られたものでないとは、到底言い切れない。ところがこの遺物を置戸群に比較すると、置戸群の平均値からの隔たりは、約 9σ である。これを確率の言葉で表現すると、置戸群の原石を採ってきて分析したとき、平均値から 9σ 以上離れている確率は、十億分の一であると言える。このように、十億個に一個しかないような原石をたまたま採取して、この遺物が作られたとは考えられないから、この遺物は、置戸群の原石から作られたものではないと断定できる。これらのことを簡単にまとめて言うと、「この遺物は十勝三股群に 32%、置戸群に千万分の一の確率でそれぞれ帰属される」。各遺物の遺物について、この判断を表 VI-9・10・11 のすべての原石群について行ない、低い確率で帰属された原産地を消していくと残るのは、十勝三股群だけとなり、十勝産地の石材が使用されていると判定される。実際は Rb/Zr といった唯一の変量だけでなく、前述した 5ヶの変量で取り扱うので変量間の相関を考慮しなければならない。例えば A 原産地の A 群で、Ca 元素と Rb 元素との間に相関があり、Ca の量を計れば Rb の量は分析しなくても分かるようなときは、A 群の石材で作られた遺物であれば、A 群と比較したとき、Ca 量が一致すれば当然 Rb 量も一致するはずである。したがって、もし Rb 量だけが少しずれている場合には、この試料は A 群に属していないと言わなければならない。このことを数量的に導き出せるようにしたのが相関を考慮した多変量統計の手法であるマハラノビスの距離を求めて行なうホテリングの T^2 検定である。これによって、それぞれの群に帰属する確率を求めて産地を同定する⁴⁾。産地の同定結果は 1 個の遺物に対して、黒曜石製では 99 個の推定確率結果が得られている。今回産地分析を行った遺物の産地推定結果については低い確率で帰属された原産地の推定確率は紙面の都合上記入を省略し、高い確率で同定された産地のみ結果を表 VI-2・3・4 に記入した。原石群を作った原石試料は直径 3cm 以上であるが、多数の試料を処理するために、小さな遺物試料の分析に多くの時間をかけられない事情があり、短時間で測定を打ち切る。このため、得られた遺物の測定値には、大きな誤差範囲が含まれ、ときには、原石群の元素組成のパラツキの範囲を越え大きくなる。したがって、小さな遺物の産地推定を行なったときに、判定の信頼限界としている 0.1% に達しない確率を示す場合が比較的多くみられる。この場合には、原石産地(確率)の欄の確率値に替えて、マハラノビスの距離 D^2 の値を記した。この遺物については、記入された D^2 の値が原石群の中で最も小さな D^2 値で、この値が小さい程、遺物の元素組成はその原石群の組成と似ていると言えるため、推定確率は低いが、そこの原石産地と考えては間違いないと判断されたものである。赤井川および十勝産原石を使用した遺物の判定は複雑である。これは青森市戸門地区より産出する黒曜石の組成は、青森県の深浦群に似る戸門第二群と北海道の赤井川および十勝三股群に似る組成の戸門第一群で構成されているために、統計処理により同定される原石群が戸門原産地と赤井川または十勝産地、またこれら 3ヶ所の原産地に同時に同定される場合がしばしば見られる。戸門産地の原石が使用されたか否かは、一遺跡で多数の遺物を分析し戸門第 1 群と第 2 群に同定される頻度を求め、これを戸門産地における第 1 群 (50%) と第 2 群 (50%) の産出頻度と比較し戸門産地の原石である可能性を推定する。今回分析した遺物のなかに全く戸門第 2 群に帰属される遺物が見

られないことから戸門産地からの原石は使用されなかったと推測できる。分析した滝里9遺跡の縄文時代層位別出土の黒曜石製遺物の各原産地別の使用頻度を見ると第Ⅲ層では白滝産が3個(75%)、不明が1個(25%)で、第Ⅱ層は白滝産が15個(65%)、近文台産が3個(13%)、十勝および赤井川産がそれぞれ2個(9%)、置戸産が1個(4%)で、北海道各地の黒曜石原材が使用され広い交易、交流を示す層位であることが判明した。また、第Ⅰ層では白滝産が10個(67%)、十勝産が5個(33%)、近文台産が1個(7%)、不明が1個(7%)であった。北海道各地の黒曜石原材が使用され広い交易、交流を示す層位であることが判明した。覆土Ⅰ層では白滝産が6個(67%)、十勝産が2個(22%)、不明が1個(11%)で、覆土Ⅱ層では十勝産が1個(50%)、不明が1個(50%)であった。産地が特定できなかった不明の遺物は風化層が厚く産地が本来の産地に帰属できなかった遺物と推測し、特に未発見の原石が使用された可能性は推測しなかった。以上の結果を表VI-5に整理して示した。

非破壊分析による黒曜石製遺物の水和層測定

分析は黒曜石の表面に顕微鏡を通して光を照射したときに、黒曜石の表面で反射する光と、水和層で反射する光りで生じるの干渉波の波長から水和層の厚さを求める方法。光りの反射を利用するため、遺物の表面のにできた使用痕および埋土中にできた摩耗傷などが水和層測定の障害になり測定できない場合が多々ある。また、水和層と新鮮面との境界面での反射光が非常に弱いので、境界面が明確に発達した部分を探して測定しなければならない。従って、傷のない場所を顕微鏡下で探して分析を行うため、試料によっては1個に三時間以上かかることもある。今回、分析一試料について3ヶ所以上を分析し、分析値の最大、中間、最小値を選んで表VI-4に記した。

水和層厚さを経過年代に換算するには、水和層を分析した黒曜石の経過年代を炭素-14法、フィッシュトラック法で求めた絶対年代から、水和速度を求めて行う。この水和速度は黒曜石の埋土中に受ける温度によって異なるため、黒曜石が環境から受けた温度を正確に求めなければ、正確な年代の換算はできない。従って、滝里9遺跡の遺物が経過した年代の間に受けた温度を仮に年間平均温度を9°Cで発掘されるまで毎年同じ温度と推定したときの水和速度は白滝産黒曜石では1.8 ($\mu^2/1000$ 年)とすると、⁹⁾

水和層厚さ3.15 μ mの推定換算年代は、

$$\text{推定換算年代(千年)} = \frac{\text{測定水和層厚}(\mu\text{ m}) \times \text{測定水和層厚}(\mu\text{ m})}{\text{水和速度}(\mu^2/1000\text{年})}$$

$$5.512(\text{千年}) = 3.15 \times 3.15 / 1.8$$

となり推定換算年代は5512年になる。今回は、滝里9遺跡の黒曜石が受けた年間平均温度を推測する手段を持たないために、水和層厚さのみを記した。また、水和層厚さを旧石器の石器様式で校正すれば、様式の分からない石器でも水和層厚さから何時の時期の石器か判定でき、縄文時代であれば水和層厚さを土器編年で校正すれば、土器を伴わない遺跡であっても黒曜石の水和層から時代が特定できる。完全な非破壊分析で旧石器様式毎に、また時代時期が特定できる土器に伴う黒曜石製遺物の水和層を測定し、北海道地方における石器、土器様式と水和層の関係のデータ積み上げることは、古代の各時代における地域間交流を明らかにする重要な資料が与えられると思われる。

表IV-1 滝里9遺跡出土黒曜石製造物の元素比分析結果

分析号	元 素 比									
	Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K
48444	0.228	0.081	0.067	2.294	1.156	0.451	0.414	0.000	0.018	0.268
48445	0.080	0.023	0.061	2.076	1.348	0.236	0.310	0.000	0.006	0.110
48446	0.162	0.062	0.073	2.705	1.339	0.286	0.338	0.000	0.015	0.254
48447	0.261	0.080	0.059	2.117	1.024	0.431	0.333	0.045	0.017	0.274
48448	0.099	0.034	0.060	2.415	1.374	0.275	0.278	0.064	0.008	0.142
48449	0.295	0.086	0.050	1.884	0.978	0.406	0.286	0.055	0.019	0.287
48450	0.187	0.060	0.053	2.621	1.396	0.282	0.332	0.036	0.016	0.246
48451	0.188	0.060	0.073	2.543	1.268	0.279	0.311	0.000	0.015	0.233
48452	0.250	0.070	0.083	2.256	0.969	0.449	0.303	0.000	0.016	0.251
48453	0.191	0.065	0.073	2.577	1.259	0.263	0.334	0.088	0.017	0.245
48454	0.364	0.073	0.065	2.911	0.604	0.963	0.183	0.000	0.011	0.152
48455	0.163	0.045	0.063	2.029	1.061	0.409	0.289	0.000	0.012	0.174
48456	0.184	0.065	0.080	2.558	1.318	0.278	0.292	0.000	0.014	0.240
48457	0.184	0.069	0.064	2.611	1.343	0.267	0.329	0.000	0.018	0.249
48458	0.255	0.072	0.055	1.890	1.023	0.420	0.237	0.027	0.015	0.266
48459	0.317	0.137	0.026	1.691	0.829	0.466	0.177	0.033	0.016	0.279
48460	0.168	0.064	0.084	2.632	1.403	0.316	0.291	0.035	0.014	0.248
48461	0.248	0.073	0.058	2.226	1.081	0.473	0.310	0.000	0.018	0.264
48462	0.183	0.064	0.091	2.552	1.228	0.278	0.344	0.000	0.016	0.248
48463	0.160	0.063	0.067	2.666	1.383	0.286	0.323	0.056	0.017	0.248
48464	0.190	0.066	0.080	2.401	1.270	0.260	0.310	0.055	0.014	0.238
48465	0.180	0.064	0.056	2.488	1.310	0.293	0.280	0.072	0.013	0.229
48466	0.268	0.073	0.082	2.136	1.100	0.448	0.348	0.000	0.018	0.272
48467	0.189	0.061	0.073	2.482	1.300	0.271	0.313	0.031	0.015	0.240
48468	0.183	0.059	0.073	2.465	1.351	0.275	0.307	0.048	0.015	0.243
48469	0.245	0.075	0.064	2.223	1.185	0.401	0.341	0.120	0.017	0.267
48470	0.803	0.173	0.078	2.945	0.627	0.907	0.152	0.000	0.023	0.303
48471	0.509	0.140	0.058	2.529	0.813	0.722	0.205	0.000	0.020	0.304
48472	0.159	0.064	0.077	2.545	1.284	0.294	0.323	0.074	0.017	0.244
48473	0.194	0.054	0.053	2.486	1.367	0.282	0.348	0.066	0.016	0.239
48474	0.248	0.067	0.080	2.118	1.013	0.439	0.268	0.000	0.017	0.249
48475	0.801	0.172	0.063	3.018	0.663	0.930	0.131	0.000	0.021	0.307
48476	0.189	0.061	0.087	2.571	1.312	0.258	0.345	0.038	0.014	0.241
48477	0.169	0.066	0.074	2.493	1.350	0.266	0.343	0.059	0.016	0.251
48478	0.173	0.065	0.084	2.560	1.313	0.264	0.346	0.080	0.015	0.239
48479	0.181	0.069	0.085	2.700	1.392	0.305	0.310	0.041	0.017	0.249
48480	0.166	0.063	0.066	2.511	1.229	0.256	0.365	0.000	0.014	0.249
48481	0.168	0.067	0.088	2.664	1.456	0.334	0.359	0.038	0.016	0.241
48482	0.162	0.065	0.081	2.614	1.291	0.301	0.332	0.051	0.018	0.252
48483	0.193	0.062	0.080	2.604	1.375	0.290	0.346	0.043	0.015	0.242
48484	0.185	0.073	0.072	2.429	1.288	0.272	0.317	0.040	0.015	0.242
48485	0.187	0.064	0.076	2.863	1.437	0.299	0.395	0.084	0.015	0.242
48486	0.256	0.087	0.071	2.026	1.056	0.410	0.297	0.000	0.018	0.272
48487	0.187	0.065	0.073	2.592	1.299	0.277	0.312	0.000	0.015	0.241
48488	0.811	0.157	0.081	3.171	0.651	0.964	0.130	0.000	0.021	0.305
48489	0.181	0.062	0.063	2.589	1.353	0.292	0.319	0.071	0.017	0.245
48490	0.793	0.175	0.069	2.932	0.608	0.924	0.152	0.000	0.024	0.298
48491	0.128	0.055	0.081	2.428	1.245	0.279	0.288	0.058	0.014	0.213
48492	0.252	0.078	0.060	2.163	1.069	0.419	0.296	0.000	0.015	0.256
48493	0.269	0.078	0.057	2.058	1.015	0.403	0.337	0.040	0.019	0.269
48494	0.191	0.060	0.068	2.740	1.348	0.285	0.310	0.000	0.017	0.261
48495	0.195	0.065	0.082	2.868	1.387	0.310	0.344	0.000	0.015	0.260
48496	0.186	0.066	0.068	2.729	1.353	0.279	0.330	0.037	0.000	0.237
JG-1	0.768	0.228	0.077	3.674	1.002	1.320	0.261	0.058	0.016	0.226

JG-1: 標準試料-Ando, A., Kurasawa, H., Ohmori, T. & Takeda, E. 1974 compilation of data on the GJS geochemical reference samples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt. *Geochemical Journal*, Vol. 8 175-192 (1974)

表IV-2 滝里9遺跡出土の黒曜石製遺物の原産地推定結果(1)

(北海道芦別市滝里町)

分析番号	遺物番号, 出土区, 層	遺物	原産地(確率)	判定	時代時期(伴出土物様式)	遺物品名(備考)
48444	1-2, P-2	覆土層	十勝三股(0.2%)	十勝	縄文時代	フレイク
48445	2-4, //	//	風化層厚い, 焼け?	//	//	//
48446	3-14, P-3	覆土層	白滝第1群(32%)	白滝	//	//
48447	4-55, //	//	十勝三股(72%), 戸門第1群(1%)	十勝	//	//
48448	5-56, //	//	風化層厚い, 焼け?	//	//	//
48449	6-4, P-6	//	十勝三股(1%)	十勝	//	//
48450	7-9, //	//	白滝第1群(12%)	白滝	//	//
48451	8-4, P-7	//	白滝第1群(14%)	赤井川	//	石鏃
48452	9-125, C ₂ -430-1, II層		赤井川(29%), 戸門第1群(4%)	白滝	//	//
48453	10-140, C ₁ -430-22, //		白滝第1群(81%)	白滝	//	//
48454	11-188, C ₂ -432-22, I層		風化層厚い, 焼け?	//	//	//
48455	12-271A, C ₂ -432-8, III層		風化層厚い, 焼け?	//	//	//
48456	13-154A, C ₂ -432-9, II層		白滝第1群(12%)	白滝	//	//
48457	14-333, C ₂ -430-12, //		白滝第1群(3%)	//	//	//
48458	15-7, C ₁ -634-4, I層		十勝三股(D ² =47)	十勝	//	スクレイパー
48459	16-69, C ₂ -432-1, II層		釧路(11%)	釧路	//	//
48460	17-2, C ₂ -430-7, I層		白滝第1群(12%)	白滝	//	//
48461	18-181, C ₂ -432-22, //		十勝三股(10%), 戸門第1群(22%)	十勝	//	//
48462	19-2, C ₁ -432-25, II層		白滝第1群(10%)	白滝	//	//
48463	20-224, C ₂ -432-8, III層		白滝第1群(82%)	//	//	//
48464	21-26, C ₁ -432-14, II層		白滝第1群(38%)	//	//	//
48465	22-5, C ₁ -430-25, I層		白滝第1群(15%)	//	//	//
48466	23-46, C ₁ -430-17, //		十勝三股(13%), 戸門第1群(6%)	十勝	//	//
48467	24-42, B ₁ -428-25, //		白滝第1群(50%)	白滝	//	//
48468	25-10, C ₁ -430-5, //		白滝第1群(30%)	白滝	//	石核
48469	26-4, C ₁ -430-5, //		十勝三股(5%)	十勝	//	//
48470	27-10, C ₁ -432-23, II層		近文台第1群(1%)	近文台	//	//

表IV-3 滝里9遺跡出土の黒曜石製造物の原産地推定結果(2)

(北海道芦別市滝里町)

分析 番号	遺物 番号, 出土区, 層	原 石 産 地 (確 率)	判 定	時代時期 (伴出土器種式)	遺物品名 (備考)
48471	29-12, C ₁ -432-23, I層	美瑛第1群 (20%), 美瑛第2群 (5%)	美瑛	縄文時代	石 核
48472	29-381, C ₂ -430-1, II層	白滝第1群 (73%)	白滝	"	原 石
48473	30-268, C ₁ -432-2, "	白滝第1群 (6%)	"	"	フレイク
48474	31-55, C ₁ -432-23, "	赤井川 (17%), 戸門第1群 (3%)	赤井川	"	"
48475	32-5, C ₁ -432-19, "	近文台第1群 (0.5%), 美瑛第2群 (0.1%)	近文台	"	"
48476	33-7, C ₁ -424-12, "	白滝第1群 (66%)	白滝	"	"
48477	34-132C, C ₂ -430-13, "	白滝第1群 (40%)	"	"	"
48478	35-118, C ₁ -432-8, III層	白滝第1群 (88%)	"	"	"
48479	36-8, C ₁ -434-4, I層	白滝第1群 (28%)	"	"	"
48480	37-11, C ₁ -432-17, II層	白滝第1群 (13%)	"	"	"
48481	38-85, C ₂ -432-9, "	白滝第1群 (5%)	"	"	"
48482	39-163, C ₂ -432-8, III層	白滝第1群 (66%)	"	"	"
48483	40-7, B ₂ -430-22, I層	白滝第1群 (70%)	"	"	"
48484	41-245, C ₁ -432-2, II層	白滝第1群 (6%)	"	"	"
48485	42-60, C ₁ -432-18, "	白滝第1群 (34%)	"	"	"
48486	43-1, C ₁ -428-5, I層	十勝三股 (2%)	十勝	"	"
48487	44-38, C ₁ -432-13, "	白滝第1群 (21%)	白滝	"	"
48488	45-43, C ₁ -432-12, II層	近文台第1群 (13%)	近文台	"	"
48489	46-71, C ₁ -430-22, "	白滝第1群 (77%)	白滝	"	"
48490	47-38, C ₂ -432-13, I層	近文台第1群 (0.9%)	近文台	"	"
48491	48-104, C ₁ -430-24, II層	白滝第1群 (0.2%)	白滝	"	"
48492	49-182, C ₁ -430-22, "	十勝三股 (33%), 戸門第1群 (5%)	十勝	"	"
48493	50-351, C ₂ -430-1, "	十勝三股 (40%), 戸門第1群 (1%)	"	"	"

表IV-4 滝里9遺跡出土の黒曜石製造物の原産地推定結果

(北海道芦別市滝里町)

分析番号	遺物遺物番号, 出土区, 層	原産地(産率)	判定	遺物3ヶ所水和層厚さ(μm)			(備考)
				2.82	3.01	3.14	
48494	51-12, P-6, 覆土I層	白滝第1群(12%)	白滝	2.82	3.01	3.14	
48495	52-13, #, #	白滝第1群(8%)	#	2.93	3.26	3.41	
48496	53-11, #, #	白滝第1群(58%)	#	3.15	3.43	3.58	

表IV-5 滝里9遺跡出土層位別黒曜石製造物の原産地別頻度分布

(北海道芦別市)

縄文時代時期	原産地				個数(%)
	十勝	白滝	近文台	赤井川	
III層		3(75%)			1(25%)
II層	2(9%)	15(65%)	3(13%)	2(9%)	1(4%)
I層	5(33%)	10(67%)	1(7%)	1(7%)	1(7%)
覆土I層	2(22%)	6(67%)			1(11%)
覆土II層	1(50%)				1(50%)

2 滝里19遺跡出土の黒曜石製遺物の原産地分析

藁科 哲男 (京都大学原子炉実験所)

はじめに

石器石材の産地を自然科学的な手法を用いて、客観的に、かつ定量的に推定し、古代の交流、交易および文化圏、交易圏を探ると言う目的で、蛍光X線分析法によりサヌカイトおよび黒曜石遺物の石材産地推定を行なっている^{1,2,3)}。

黒曜石、サヌカイトなどの主成分組成は、原産地ごとに大きな差はみられないが、不純物として含有される微量成分組成には異同があると考えられるため、微量成分を中心に元素分析を行ない、これを産地を特定する指標とした。分類の指標とする元素組成を遺物について求め、あらかじめ、各原産地ごとに数十個の原石を分析して求めておいた各原石群の元素組成の平均値、分散などと遺物のそれを対比して産地を推定する。この際多変量解析の手法を用いて、各産地に帰属される確率を求めて産地を同定する。

蛍光X線分析法は試料を破壊せずに分析することができて、かつ、試料調整が単純、測定の手操作も簡単である。石器のような古代人の日用品で多数の試料を分析しなければ遺跡の正しい性格が分からないという場合にはことさら有利な分析法である。今回分析を行なった試料は、芦別市滝里19遺跡の縄文時代の合計30個の黒曜石製遺物の産地分析の結果が得られたので報告する。

黒曜石原石の分析

黒曜石原石の風化面を打ち欠き新鮮面を出し、塊状の試料を作りエネルギー分散型蛍光X線分析装置によって元素分析を行なう。主に分析した元素はK、Ca、Ti、Mn、Fe、Rb、Sr、Y、Zr、Nbの各元素である。塊状試料の形状差による分析値への影響を打ち消すために元素量の比を取り、それでもって産地を特定する指標とした。黒曜石はCa/K、Ti/K、Mn/Zr、Fe/Zr、Rb/Zr、Sr/Zr、Y/Zr、Nb/Zrの比量を用いる。

黒曜石の原産地は北海道、東北、北陸、東関東、中信高原、伊豆箱根、伊豆七島の神津島、山陰、九州の各地に黒曜石の原産地は分布する。調査を終えた原産地を図VI-1に示す。黒曜石原産地のほとんどすべてがつくされている。元素組成の上から、これら原石を分類すると表VI-9・10・11に示すように99個の原石群に分かれる。

ここでは北海道地域および一部の東北地域の産地について記述すると、白滝地域の原産地は、北海道紋別郡白滝村に位置し、鹿若北方2 kmの採石場の露頭、鹿若東方約2 kmの幌加沢地点、また白土沢などより転搬として黒曜石が採取できる。この露頭からの黒曜石原石は白滝第一群にまとも、白土沢の転搬は白滝第二群にまとも。幌加沢よりの転搬の中で、70%は幌加沢群にまともだが、この群は白滝第二群と一致し、元素組成から両群を区別できない。さらに、幌加沢産原石の30%は白滝第一群に一致する。置戸産原石は、北海道常呂郡置戸町の清水の沢林道より採取され、この原石の元素組成は置戸群にまとも。この原産地は、常呂川に通じる流域にあり、この常呂川流域で黒曜石の円礫が採取されるが現在まだ調査していない。十勝三股産原石は、北海道河東郡上士幌町の十勝三股の十三ノ沢の谷筋および沢の中より原石が採取され、この原石の元素組成は十勝三股群にまとも。この十勝三股産原石は十三の沢から音更川さらに十勝川に流れた可能性があり、十勝川から採取される黒曜石円礫の組成は、十勝三股産の原石の組成と相互に近似している。また、上士幌町のサンケオ

ルベ川より採取される黒曜石円礫の組成も十勝三股産原石の組成と相互に近似している。これら組成の近似した原石の原産地は区別できず、遺物石材の産地分析でたとえ、この遺物の原石産地が十勝三股群に同定されたとしても、これら十勝三股、音更川、十勝川、サンケオルベ川の複数の地点を考慮しなければならない。しかし、この複数の産地をまとめて、十勝地域としても、古代の地域間の交流を考察する場合、問題はないと考えられる。また、清水町、新得町、鹿追町にかけて広がる美瑛台地から産出する黒曜石から2個の美瑛原石群が作られた。この原石は産地近傍の遺跡で使用されている。名寄市の智南地域、智恵文川および忠烈布貯水池から上名寄にかけて黒曜石の円礫が採集される。これらを組成で分類すると88%は名寄第一群に、また12%は名寄第二群にそれぞれなる。旭川市の近文台、嵐山遺跡付近および両文台北部などから採集される黒曜石の円礫は、20%が近文台第一群、69%が近文台第二群、11%が近文台第三群それぞれ分類された。また、滝川市江別乙で採集される親指大の黒曜石の礫は、組成で分類すると約79%が滝川群にまとまり、21%が近文台第二、三群に組成が一致する。滝川群に一致する組成の原石は、北竜市恵袋別川増本社からも採取される。秩父別町の雨竜川に開折された平野を見下す丘陵中腹の緩斜面から小円礫の黒曜石原石が採取される。産出状況とか礫状は滝川産黒曜石と同じで、秩父別第一群は滝川第一群に組成が一致し、第二群も滝川第二群に一致しさらに近文台第二群にも一致する。赤井川産原石は、北海道余市郡赤井川村の土木沢上流域およびこの付近の山腹より採取できる。この原石には、少球果の列が何層にも重なり石器の原材として良質とはいえないものが多く、稀に球果の見られない、またあっても非常に少ない握り拳半分大の良質な原石が少数みられた。これら原石の元素組成は赤井川群にまとまる。豊泉産原石は豊浦町から産出し使用圏は道南地方に広がり、一部は青森県に伝播している。出来島群は青森県西津軽郡木造町七星長浜の海岸部より採取された円礫の原石で作られた群で、この出来島群と相互に似た組成の原石は、岩木山の西側を流れ鎌ヶ沢地区に流入する中村川の上流で1点採取され、また、青森市の鶴ヶ坂および西津軽郡森田村鶴ばみ地区より採取されている。深浦群は青森県西津軽郡深浦町の海岸とか同町の六角沢およびこの沢筋に位置する露頭より採取された原石で作られた群である。深浦群と相互に似た群は青森市戸門地区より産出する黒曜石で作られた戸門第二群である。戸門第一群は赤井川産原石と弁別は可能であるが両産地の原石の組成は比較的似ている。戸門産黒曜石の産出量は非常に少なく、また大きさも石籤が作れる程度である。

結果と考察

遺跡から出土した石器、石片は風化しているが、黒曜石製のものは風化に対して安定で、表面に薄い水和層が形成されているにすぎないため、表面の泥を水洗するだけで完全な非破壊分析が可能であると考えられる。産地分析で水和層の影響は、軽い元素の分析ほど大きいと考えられるが、影響はほとんど見られない。Ca/K、Ti/Kの両軽元素比量を除いて産地分析を行なった場合、また除かずに産地分析を行った場合同定される原産地に差はない。他の元素比量についても風化の影響を完全に否定することができないので、得られた確率の数値にはやゝ不確実さを伴うが、遺物の石材産地の判定を誤るようなことはない。今回分析した滝里19遺跡の遺物の結果を表VI-6に示した。

石器の分析結果から石材産地を同定するためには数理統計の手法を用いて原石群との比較をする。説明を簡単にするため Rb/Zr の一変量だけを考えると、表VI-6の試料番号48498番の遺物では Rb/Zr の値は1.113で、十勝三股群の [平均値] ± [標準偏差値] は、 1.097 ± 0.055 である。遺物と原石群の差を標準偏差値 (σ) を基準にして考えると遺物は原石群から 0.3σ 離れている。ところで十勝三股原産地から100ヶの原石を採ってきて分析すると、平均値から $\pm 0.3\sigma$ のずれより大きいものが76

個ある。すなわち、この遺物が、十勝三股島群の原石から作られていたと仮定しても、 0.3σ 以上離れる確率は76%であると言える。だから、十勝三股群の平均値から 0.3σ しか離れていないときには、この遺物が十勝三股群の原石から作られたものでないとは、到底言い切れない。ところがこの遺物を置戸群に比較すると、置戸群の平均値からの隔たりは、約 9σ である。これを確率の言葉で表現すると、置戸群の原石を採ってきて分析したとき、平均値から 9σ 以上離れている確率は、十億分の一であると言える。このように、十億個に一個しかないような原石をたまたま採取して、この遺物が作られたとは考えられないから、この遺物は、置戸群の原石から作られたものではないと断定できる。これらのことを簡単にまとめて言うと、「この遺物は十勝三股群に76%、置戸群に千万分の1%の確率でそれぞれ帰属される」。各遺跡の遺物について、この判断を表VI-9・10・11のすべての原石群について行ない、低い確率で帰属された原産地を消していくと残るのは、十勝三股群だけとなり、十勝産地の石材が使用されていると判定される。実際はRb/Zrといった唯一の変量だけでなく、前述した5ヶの変量で取り扱うので変量間の相関を考慮しなければならない。例えばA原産地のA群で、Ca元素とRb元素との間に相関があり、Caの量を計ればRbの量は分析しなくても分かるようなときは、A群の石材で作られた遺物であれば、A群と比較したとき、Ca量が一致すれば当然Rb量も一致するはずである。したがって、もしRb量だけが少しづれている場合には、この試料はA群に属していないと言わなければならない。このことを数的に導き出せるようにしたのが相関を考慮した多変量統計の手法であるマハラノビスの距離を求めて行なうホテリングの T^2 検定である。これによって、それぞれの群に帰属する確率を求めて産地を同定する⁴³⁾。産地の同定結果は1個の遺物に対して、黒曜石製では99個の推定確率結果が得られている。今回産地分析を行った遺物の産地推定結果については低い確率で帰属された原産地の推定確率は紙面の都合上記入を省略し、高い確率で同定された産地のみの結果を表VI-7に記入した。原石群を作った原石試料は直径3 cm以上であるが、多数の試料を処理するために、小さな遺物試料の分析に多くの時間をかけられない事情があり、短時間で測定を打ち切る。このため、得られた遺物の測定値には、大きな誤差範囲が含まれ、ときには、原石群の元素組成のバラツキの範囲を越え大きくなる。したがって、小さな遺物の産地推定を行なったときに、判定の信頼限界としている0.1%に達しない確率を示す場合が比較的多くみられる。この場合には、原石産地(確率)の欄の確率値に替えて、マハラノビスの距離 D^2 の値を記した。この遺物については、記入された D^2 の値が原石群の中で最も小さな D^2 値で、この値が小さい程、遺物の元素組成はその原石群の組成と似ていると言えるため、推定確率は低いが、そこの原石産地と考えてほゞ間違いないと判断されたものである。赤井川および十勝産原石を使用した遺物の判定は複雑である。これは青森市戸門地区より産出する黒曜石の組成は、青森県の深浦群に似る戸門第二群と北海道の赤井川および十勝三股群に似る組成の戸門第一群で構成されているために、統計処理により同定される原石群が戸門原産地と赤井川または十勝産地、またこれら3ヶ所の原産地に同時に同定される場合がしばしば見られる。戸門産地の原石が使用されたか否かは、一遺跡で多数の遺物を分析し戸門第一群と第二群に同定される頻度を求め、これを戸門産地における第一群(50%)と第二群(50%)の産出頻度と比較し戸門産地の原石である可能性を推定する。今回分析した遺物のなかに全く戸門第二群に帰属される遺物が見られないことから戸門産地からの原石は使用されなかったと推測できる。分析した滝里19遺跡の縄文時代層別出土の黒曜石製遺物の各原産地別の使用頻度を見ると第II層は十勝産が3個(50%)、白滝産が2個(33%)、赤井川産が1個(17%)で、第I層では白滝産が12個(50%)、十勝産が7個(29%)、赤井川、置戸産がそれぞれ2個(8%)で、美葦産が1個(4%)であった。これらの結果を表VI-8に示した。

表 VI-6 滝里19遺跡出土黒曜石製造物の元素比分析結果

分析 番号	元 素 比									
	Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K
48497	0.176	0.068	0.088	2.599	1.400	0.299	0.302	0.024	0.015	0.236
48498	0.258	0.078	0.069	2.079	1.113	0.434	0.280	0.031	0.020	0.272
48499	0.258	0.086	0.058	2.087	1.079	0.405	0.349	0.000	0.017	0.263
48500	0.170	0.062	0.080	2.743	1.364	0.237	0.277	0.000	0.017	0.251
48501	0.247	0.079	0.061	2.193	1.129	0.438	0.313	0.103	0.018	0.271
48502	0.540	0.112	0.056	2.291	0.600	0.620	0.163	0.042	0.019	0.285
48503	0.184	0.066	0.102	2.645	1.329	0.283	0.338	0.000	0.016	0.245
48504	0.187	0.063	0.062	2.541	1.305	0.253	0.329	0.041	0.016	0.249
48505	0.171	0.065	0.065	2.310	1.241	0.269	0.339	0.000	0.014	0.247
48506	0.247	0.074	0.081	2.032	0.856	0.423	0.276	0.000	0.015	0.250
48507	0.261	0.076	0.074	2.079	0.933	0.422	0.262	0.000	0.016	0.251
48508	0.259	0.073	0.067	1.936	0.973	0.423	0.237	0.000	0.014	0.244
48509	0.175	0.060	0.065	2.488	1.257	0.268	0.298	0.027	0.017	0.232
48510	0.303	0.128	0.038	1.663	0.839	0.445	0.155	0.000	0.017	0.284
48511	0.148	0.028	0.069	2.631	1.743	0.115	0.445	0.079	0.016	0.232
48512	0.179	0.064	0.064	2.727	1.415	0.297	0.317	0.000	0.014	0.244
48513	0.260	0.073	0.089	2.302	1.130	0.456	0.315	0.000	0.018	0.269
48514	0.257	0.076	0.065	2.389	1.184	0.464	0.346	0.048	0.018	0.276
48515	0.163	0.064	0.075	2.802	1.345	0.305	0.338	0.031	0.015	0.253
48516	0.256	0.080	0.055	2.015	1.064	0.399	0.319	0.027	0.018	0.269
48517	0.258	0.079	0.058	2.076	1.113	0.448	0.351	0.080	0.020	0.263
48518	0.188	0.065	0.076	2.391	1.299	0.291	0.295	0.046	0.013	0.238
48519	0.261	0.082	0.042	2.025	1.058	0.404	0.295	0.000	0.016	0.266
48520	0.189	0.067	0.062	2.430	1.294	0.279	0.335	0.000	0.016	0.242
48521	0.183	0.060	0.088	2.717	1.417	0.298	0.339	0.000	0.017	0.257
48522	0.260	0.081	0.062	2.056	1.152	0.438	0.342	0.039	0.016	0.261
48523	0.181	0.063	0.073	2.465	1.310	0.267	0.356	0.055	0.017	0.251
48524	0.229	0.063	0.057	2.124	1.219	0.419	0.329	0.045	0.015	0.231
48525	0.176	0.065	0.080	2.546	1.279	0.279	0.284	0.000	0.015	0.250
48526	0.318	0.128	0.039	1.701	0.835	0.464	0.185	0.023	0.020	0.278
JG-1	0.768	0.228	0.077	3.674	1.002	1.320	0.261	0.058	0.016	0.226

JG-1: 標準試料-Ando, A., Kurasawa, H., Ohmori, T. & Takeda, E. 1974 compilation of data on the GJS geochemical reference samples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt. *Geochemical Journal*, Vol. 8 175-192 (1974)

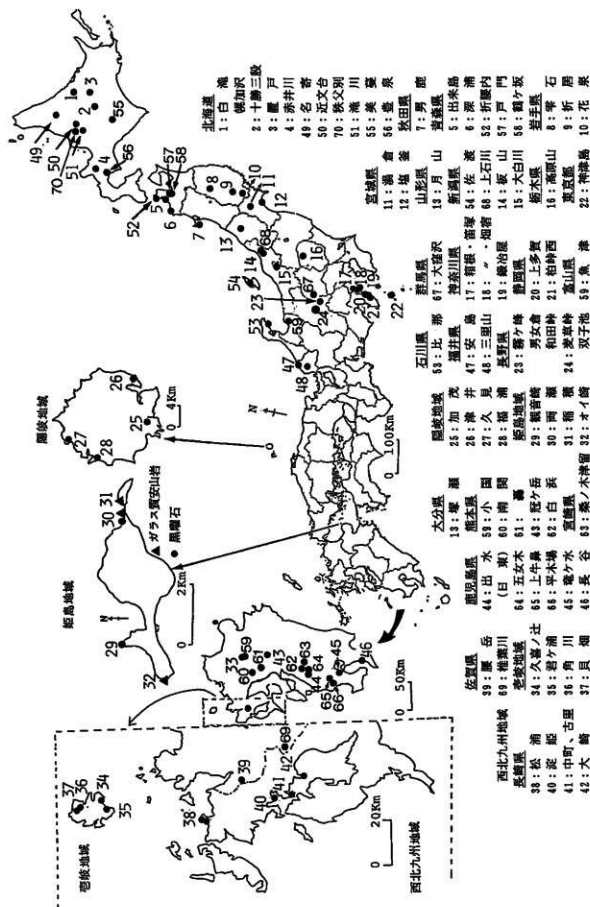
表 VI-8 滝里19遺跡出土層位別黒曜石製造物の原石産地別頻度分布 (北海道芦別市)

縄文時代時期	層	原 石 産 地 個 数 (%)				
		十 勝	白 滝	赤 井 川	美 瑛	釧 戸
II	層	3(50%)	2(33%)	1(17%)		
I	層	7(29%)	12(50%)	2(8%)	1(4%)	1(4%)

表VI-7 滝屋19遺跡出土の黒曜石製遺物の原材産地推定結果

(北海道芦別市滝屋町)

分析番号	遺物番号	遺物	原産地(産率)	判定	時代時期 (出土器様式)	遺物品名 (備考)
48497	1-7, n ₁ -690-7, I層	白滝第1群 (11%)	白滝	縄文時代	フレイク	
48498	2-6, n ₁ -690-22, II層	十勝三股 (17%), 戸門第1群 (14%)	十勝	〃	〃	
48499	3-2, n ₁ -690-17, II層	白滝三股 (4%)	〃	〃	〃	
48500	4-42, n ₁ -690-21, I層	白滝第1群 (4%)	白滝	〃	〃	
48501	5-3, n ₁ -688-9, II層	十勝三股 (20%), 戸門第1群 (2%)	十勝	〃	〃	
48502	6-20, n ₁ -688-20, II層	美瑛第1群 (4%)	美瑛	〃	〃	
48503	7-35, n ₁ -690-1, II層	白滝第1群 (17%)	白滝	〃	〃	
48504	8-42, n ₁ -690-11, II層	白滝第1群 (49%)	〃	〃	〃	
48505	9-6, n ₁ -690-14, II層	白滝第1群 (5%)	〃	〃	〃	
48506	10-49, n ₁ -690-17, II層	赤井川 (7%)	赤井川	〃	〃	
48507	11-1B, n ₁ -690-21, II層	赤井川 (10%)	〃	〃	〃	
48508	12-37, n ₁ -688-12, II層	赤井川 (0.3%)	〃	〃	〃	
48509	13-2, n ₁ -688-12, II層	白滝第1群 (35%)	白滝	〃	〃	
48510	14-17, n ₁ -688-17, II層	蘆戸 (3%)	蘆戸	〃	〃	
48511	15-52, n ₁ -690-2, II層	徳加沢 (2%)	白滝	〃	〃	
48512	16-110, n ₁ -688-1, II層	白滝第1群 (4%)	〃	〃	〃	
48513	17-132, n ₁ -690-7, II層	十勝三股 (35%), 戸門第1群 (16%), 赤井川 (6%)	十勝	〃	〃	
48514	18-12, n ₁ -690-11, II層	十勝三股 (62%), 戸門第1群 (7%)	〃	〃	〃	
48515	19-18, n ₁ -688-3, II層	白滝第1群 (50%)	白滝	〃	〃	
48516	20-36, n ₁ -688-3, II層	十勝三股 (17%)	十勝	〃	〃	
48517	21-50, n ₁ -688-3, II層	十勝三股 (5%), 戸門第1群 (1%)	〃	〃	〃	
48518	22-54, n ₁ -690-13, II層	白滝第1群 (18%)	白滝	〃	〃	
48519	23-52, n ₁ -690-18, II層	十勝三股 (4%)	十勝	〃	〃	
48520	24-132, n ₁ -690-22, I層	白滝第1群 (5%)	白滝	〃	〃	
48521	25-97, n ₁ -690-23, II層	白滝第1群 (20%)	〃	〃	〃	
48522	26-12, n ₁ -688-3, II層	十勝三股 (2%)	十勝	〃	〃	
48523	27-8, n ₁ -688-8, II層	白滝第1群 (76%)	白滝	〃	〃	
48524	28-8, n ₁ -688-9, I層	戸門第1群 (7%), 十勝三股 (1%)	十勝	〃	〃	
48525	29-6, n ₁ -688-10, II層	白滝第1群 (10%)	白滝	〃	〃	
48526	30-12, n ₁ -688-10, II層	蘆戸 (59%)	蘆戸	〃	〃	



図VI-1 黒曜石原産地

表VI-9 各黑曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差 (1)

原産地	分析個数	Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K
原産地名		$\bar{X} \pm \sigma$	$\bar{X} \pm \sigma$	$\bar{X} \pm \sigma$	$\bar{X} \pm \sigma$	$\bar{X} \pm \sigma$	$\bar{X} \pm \sigma$	$\bar{X} \pm \sigma$	$\bar{X} \pm \sigma$	$\bar{X} \pm \sigma$	$\bar{X} \pm \sigma$
北海道	名寄第一	0.478±0.011	0.121±0.005	0.035±0.007	2.011±0.063	0.614±0.032	0.574±0.022	0.120±0.017	0.024±0.016	0.033±0.002	0.451±0.010
	名寄第二	0.315±0.011	0.061±0.003	0.023±0.005	1.798±0.070	0.682±0.043	0.284±0.017	0.230±0.018	0.039±0.020	0.029±0.002	0.474±0.010
	白滝第一	0.173±0.014	0.061±0.003	0.079±0.013	2.714±0.142	1.340±0.059	0.363±0.019	0.341±0.030	0.073±0.020	0.028±0.002	0.301±0.010
	磯加沢	0.139±0.009	0.023±0.001	0.099±0.015	2.975±0.162	1.794±0.077	0.107±0.016	0.104±0.037	0.103±0.027	0.027±0.002	0.369±0.007
	白滝第二	0.138±0.004	0.021±0.002	0.102±0.015	3.049±0.181	1.855±0.088	0.097±0.010	0.492±0.039	0.107±0.019	0.067±0.002	0.368±0.006
	近文台第一	0.819±0.013	0.165±0.006	0.081±0.010	3.286±0.131	0.941±0.030	0.941±0.030	0.039±0.016	0.059±0.002	0.059±0.002	0.457±0.008
	近文台第二	0.517±0.011	0.099±0.005	0.067±0.009	2.773±0.097	0.812±0.037	0.818±0.034	0.197±0.024	0.041±0.019	0.035±0.002	0.442±0.009
	名寄第三	0.514±0.012	0.098±0.005	0.066±0.014	2.765±0.125	0.814±0.068	0.915±0.042	0.199±0.039	0.078±0.020	0.034±0.002	0.443±0.011
	秋分湖第一	0.249±0.017	0.122±0.006	0.078±0.011	1.614±0.068	0.995±0.037	0.458±0.023	0.233±0.024	0.029±0.021	0.022±0.004	0.334±0.013
	秋分湖第二	0.506±0.016	0.098±0.005	0.070±0.010	2.750±0.099	0.805±0.042	0.808±0.032	0.197±0.026	0.027±0.016	0.027±0.003	0.371±0.010
青森県	折戸第一	0.253±0.018	0.122±0.006	0.077±0.009	1.613±0.090	1.807±0.045	0.469±0.025	0.153±0.026	0.038±0.018	0.025±0.003	0.370±0.023
	折戸第二	0.510±0.015	0.098±0.005	0.068±0.009	2.740±0.072	1.062±0.019	1.062±0.019	0.192±0.026	0.032±0.023	0.030±0.004	0.393±0.031
	藍十郎三股	0.326±0.008	0.128±0.005	0.045±0.008	1.813±0.062	0.894±0.034	0.894±0.034	0.454±0.020	0.179±0.023	0.030±0.002	0.412±0.010
	美里第一	0.256±0.018	0.074±0.005	0.068±0.010	2.281±0.087	1.097±0.055	0.434±0.023	0.334±0.029	0.064±0.025	0.029±0.002	0.396±0.013
	美里第二	0.499±0.020	0.124±0.007	0.052±0.010	2.635±0.181	0.802±0.061	0.707±0.044	0.199±0.029	0.039±0.023	0.053±0.002	0.442±0.015
	森井川	0.593±0.036	0.144±0.012	0.056±0.010	3.028±0.251	1.762±0.104	0.764±0.051	0.197±0.026	0.038±0.022	0.034±0.002	0.449±0.009
	豊	0.254±0.029	0.070±0.004	0.086±0.010	2.213±0.104	0.969±0.060	0.428±0.021	0.249±0.024	0.058±0.023	0.027±0.002	0.371±0.009
	豊	0.473±0.019	0.148±0.007	0.060±0.015	1.764±0.072	0.438±0.027	0.697±0.028	0.157±0.020	0.028±0.017	0.032±0.002	0.469±0.013
	豊	0.190±0.015	0.075±0.003	0.040±0.008	1.575±0.066	1.241±0.046	0.318±0.014	0.141±0.033	0.076±0.021	0.024±0.002	0.348±0.010
	豊	0.346±0.022	0.132±0.007	0.231±0.019	2.268±0.085	0.865±0.044	1.106±0.056	0.399±0.038	0.179±0.031	0.038±0.003	0.499±0.013
秋田県	折戸第一	0.080±0.008	0.097±0.011	0.013±0.002	0.697±0.021	1.228±0.008	0.02±0.002	0.064±0.007	0.035±0.004	0.026±0.002	0.379±0.010
	折戸第二	0.250±0.024	0.069±0.003	0.068±0.012	2.388±0.257	1.168±0.062	0.521±0.063	0.277±0.065	0.076±0.025	0.026±0.002	0.382±0.015
	鶴ヶ坂	0.084±0.006	0.104±0.004	0.013±0.002	0.691±0.021	1.223±0.006	0.002±0.002	0.069±0.010	0.033±0.005	0.025±0.002	0.369±0.007
	鶴ヶ坂	0.344±0.017	0.132±0.007	0.232±0.023	2.261±0.143	0.865±0.052	1.081±0.060	0.300±0.039	0.186±0.037	0.037±0.002	0.496±0.018
岩手県	男鹿	0.293±0.007	0.087±0.004	0.223±0.015	1.637±0.072	1.512±0.082	0.920±0.054	0.287±0.042	0.125±0.031	0.027±0.002	0.362±0.006
	華	0.636±0.033	0.187±0.012	0.052±0.007	1.764±0.061	0.305±0.016	0.431±0.021	0.209±0.016	0.045±0.014	0.041±0.003	0.594±0.014
山形県	折戸	0.615±0.055	0.180±0.016	0.058±0.007	1.751±0.062	0.306±0.033	0.421±0.051	0.229±0.079	0.045±0.011	0.041±0.005	0.594±0.055
	花	0.596±0.046	0.177±0.018	0.059±0.008	1.742±0.072	0.314±0.019	0.420±0.025	0.220±0.016	0.044±0.013	0.041±0.003	0.586±0.030
新潟県	月山	0.285±0.021	0.123±0.007	0.182±0.016	1.906±0.096	0.966±0.069	1.022±0.071	0.276±0.036	0.119±0.033	0.053±0.002	0.443±0.014
	佐渡第一	0.228±0.013	0.078±0.006	0.020±0.005	1.492±0.079	0.821±0.047	0.288±0.018	0.142±0.018	0.049±0.017	0.024±0.004	0.338±0.013
	上	0.263±0.032	0.097±0.018	0.020±0.006	1.717±0.106	0.326±0.029	0.091±0.022	0.046±0.015	0.016±0.002	0.016±0.002	0.338±0.009
	石川	0.312±0.008	0.072±0.003	0.063±0.008	1.900±0.070	0.988±0.050	0.788±0.034	0.186±0.024	0.035±0.024	0.018±0.003	0.263±0.006
宮城県	上板川	0.232±0.011	0.068±0.003	0.169±0.017	2.178±0.110	1.371±0.098	0.772±0.046	0.374±0.047	0.154±0.034	0.027±0.002	0.359±0.009
	大白川	0.569±0.012	0.142±0.007	0.033±0.005	1.608±0.049	0.251±0.012	0.332±0.011	0.150±0.015	0.033±0.011	0.036±0.003	0.491±0.014
岩手県	湯	2.174±0.068	0.349±0.017	0.057±0.005	2.544±0.149	0.116±0.009	0.658±0.024	0.138±0.015	0.020±0.013	0.073±0.003	0.956±0.040
	塩	4.828±0.395	1.630±0.104	0.178±0.017	11.362±1.150	0.168±0.018	1.298±0.063	0.150±0.016	0.037±0.018	0.077±0.002	0.720±0.032

表VI-11 各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差 (3)

原産地	原石群名	個数	Ca/K X±σ	Ti/K X/σ	Mn/Zr X±σ	Fe/Zr X±σ	Rb/Zr X±σ	Sr/Zr X±σ	Y/Zr X±σ	Nb/Zr X±σ	Al/K X±σ	Si/K X±σ
佐賀県	藤原	26	0.214±0.015	0.029±0.001	0.076±0.012	2.694±0.110	1.666±0.085	0.441±0.030	0.293±0.039	0.257±0.029	0.027±0.002	0.356±0.008
	藤原	37	0.407±0.010	0.073±0.003	0.094±0.013	2.712±0.124	1.269±0.088	1.994±0.105	0.133±0.037	0.238±0.040	0.020±0.004	0.281±0.006
	久喜ノ辻	59	0.185±0.012	0.066±0.002	0.034±0.003	1.197±0.030	0.403±0.012	0.065±0.004	0.114±0.012	0.326±0.008	0.024±0.002	0.294±0.006
	若ヶ瀬	28	0.161±0.011	0.064±0.002	0.030±0.003	1.209±0.030	0.405±0.008	0.065±0.004	0.119±0.016	0.322±0.010	0.025±0.002	0.284±0.006
	若ヶ瀬	29	0.138±0.010	0.037±0.002	0.056±0.007	1.741±0.083	1.880±0.076	0.012±0.012	0.300±0.038	0.652±0.036	0.027±0.002	0.359±0.010
長崎県	松ノ川	23	0.218±0.010	0.029±0.002	0.085±0.013	2.692±0.125	1.674±0.064	0.439±0.027	0.284±0.047	0.286±0.028	0.027±0.002	0.358±0.012
	〃	17	0.176±0.016	0.029±0.004	0.063±0.022	2.364±0.389	1.607±0.245	0.308±0.074	0.277±0.056	0.210±0.050	0.026±0.002	0.361±0.010
	〃	16	0.245±0.019	0.060±0.006	0.045±0.012	1.975±0.240	1.607±0.099	0.421±0.081	0.130±0.030	0.145±0.023	0.025±0.002	0.358±0.013
	〃	22	0.287±0.019	0.067±0.004	0.044±0.007	1.906±0.106	0.765±0.074	0.484±0.034	0.115±0.023	0.117±0.018	0.028±0.001	0.367±0.007
	〃	44	0.329±0.014	0.080±0.005	0.049±0.007	1.894±0.085	0.539±0.022	0.403±0.035	0.077±0.018	0.117±0.014	0.029±0.002	0.374±0.009
熊本県	中町第一	25	0.248±0.017	0.058±0.006	0.057±0.007	1.884±0.085	0.823±0.092	0.463±0.026	0.112±0.021	0.132±0.017	0.026±0.002	0.373±0.007
	〃	47	0.327±0.030	0.090±0.017	0.048±0.007	1.822±0.074	0.653±0.068	0.468±0.030	0.090±0.030	0.093±0.023	0.027±0.002	0.358±0.012
	〃	17	0.192±0.020	0.027±0.003	0.080±0.016	2.699±0.215	1.780±0.164	0.413±0.065	0.312±0.056	0.259±0.040	0.027±0.002	0.358±0.008
	〃	22	0.414±0.012	0.073±0.006	0.109±0.015	2.898±0.204	1.221±0.094	1.951±0.124	0.133±0.047	0.261±0.034	0.031±0.002	0.383±0.010
	〃	19	0.257±0.035	0.062±0.009	0.054±0.009	1.939±0.131	0.812±0.113	0.436±0.052	0.101±0.029	0.145±0.037	0.028±0.002	0.364±0.011
熊本県	大	25	0.161±0.011	0.051±0.002	0.037±0.006	1.718±0.056	0.948±0.030	0.179±0.018	0.191±0.026	0.137±0.019	0.024±0.002	0.340±0.006
	小	30	0.317±0.023	0.127±0.005	0.063±0.007	1.441±0.070	0.611±0.032	0.703±0.044	0.175±0.023	0.097±0.017	0.023±0.002	0.320±0.007
	南	44	0.261±0.016	0.024±0.003	0.034±0.003	0.788±0.033	0.326±0.012	0.278±0.015	0.069±0.012	0.031±0.009	0.021±0.002	0.243±0.008
	冠ヶ岳	21	0.258±0.009	0.024±0.006	0.033±0.005	0.794±0.078	0.329±0.017	0.275±0.010	0.066±0.011	0.033±0.009	0.020±0.003	0.243±0.008
	白	40	0.197±0.020	0.104±0.008	0.025±0.006	1.405±0.073	1.048±0.087	0.748±0.028	0.163±0.023	0.033±0.017	0.019±0.001	0.273±0.007
宮崎県	森ノ木第一	47	0.207±0.015	0.094±0.006	0.070±0.009	1.521±0.075	1.080±0.048	0.418±0.020	0.266±0.034	0.063±0.024	0.020±0.003	0.314±0.011
	〃	33	0.261±0.015	0.094±0.006	0.066±0.010	1.743±0.095	1.242±0.060	0.753±0.039	0.205±0.029	0.047±0.036	0.022±0.002	0.323±0.019
鹿児島県	日五木	42	0.262±0.018	0.143±0.006	0.022±0.004	1.178±0.040	0.712±0.028	0.408±0.025	0.100±0.018	0.029±0.013	0.019±0.001	0.275±0.006
	平牛場	31	0.266±0.021	0.140±0.006	0.019±0.003	1.170±0.064	0.705±0.027	0.405±0.021	0.108±0.015	0.028±0.013	0.019±0.001	0.275±0.006
	平牛場	44	1.629±0.098	0.804±0.037	0.053±0.006	3.342±0.215	1.188±0.113	1.265±0.056	0.090±0.009	0.022±0.009	0.026±0.002	0.391±0.011
	森ヶ水	34	1.944±0.054	0.912±0.028	0.062±0.005	3.975±0.182	1.864±0.111	1.106±0.049	0.083±0.010	0.021±0.010	0.038±0.003	0.408±0.010
	長	28	0.514±0.032	0.167±0.008	0.063±0.008	1.524±0.079	0.619±0.038	0.719±0.054	0.115±0.019	0.082±0.016	0.037±0.003	0.523±0.008
鹿児島県	長谷	30	0.553±0.032	0.137±0.006	0.065±0.010	1.815±0.062	0.644±0.028	0.553±0.029	0.146±0.021	0.066±0.020	0.037±0.003	0.524±0.012
	JG-1*	127	0.755±0.010	0.202±0.005	0.076±0.011	3.759±0.111	0.993±0.036	1.331±0.046	0.251±0.027	0.105±0.017	0.028±0.002	0.342±0.004

X: 平均値, σ: 標準偏差, *: ガラス塚山群

a): Ando, A., Kurawawa, H., Ohmori, T. & Takeda, E. (1974). 1974 compilation of data on the GJS geochemical reference samples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt. Geochemical Journal Vol. 8, 175-192.

2 滝里 19 遺跡出土の黒曜石製遺物の原材産地分析

参考文献

- 1) 藁科哲男・東村武信 (1975)、蛍光X線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定 (II)。考古学と自然科学、8 : 61-69
- 2) 藁科哲男・東村武信・鎌木義昌 (1977)、(1978)、蛍光X線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定 (III)。(IV)。考古学と自然科学、10,11 : 53-81 : 33-47
- 3) 藁科哲男・東村武信 (1983)、石器原材の産地分析。考古学と自然科学、16 : 59-89
- 4) 東村武信 (1976)、産地推定における統計的手法。考古学と自然科学、9 : 77-90
- 5) 東村武信 (1990)、考古学と物理化学。学生社
- 6) 近堂祐弘 (1986)、北海道における黒曜石年代測定法について。北海道考古学、22 : 1-15

Ⅶ ま と め

滝里9遺跡、滝里19遺跡の遺構、遺物の一部について簡単にまとめることとする。

滝里9遺跡

(1) 土壌について

土壌は7基検出された。いずれも上部が削平されており、墳底部付近のみが径1m前後の円形、楕円形の浅い落ち込みとして確認された。このうち太い柄部のあるナイフ(P-1)、有茎の石鏃・石鏃未製品と多量の剝片(P-3)、大型の剝片(P-6)、ナイフ、石斧(P-7)などが出土した土壌は、これまでの滝里遺跡群の調査結果から縄文晩期後半の墓墳の可能性のあるものである。遺跡は南側の旧国道下に続いており、同じく晩期を主体とする滝里33遺跡と同時期で一連のものと認識できる。

(2) II群土器、V群土器について

II群(前期)ではI類は胎土に滑石が混入した土器片である。この種の土器については滝里38・39遺跡の調査で初めて注意され報告者により特徴、類例がまとめられている(皆川1991)。今回出土した資料には縄文のあるものが2点(図Ⅳ-17-10・11)、無文で口縁部に貼付帯のあるもの(図Ⅳ-17-4)、口唇部に圧痕のあるもの(図Ⅳ-17-3)、以外は無文の破片である。従来知られていた色調が①；黒色を呈するものに加え、②；茶褐色やぶい赤褐色を呈するものがある。肉眼の観察であるが、①では土器の内面まで黒色を呈し混入する粒が大きい。②では粒が小さく、また破片が多く混じる特徴がある。いずれも見た目よりも軽く繊維は混入しない。図Ⅳ-17-1の土器とほぼ大きさ、厚みのある晩期の土器片と重さを比較したところ3割強ほどの違いがあった。指で弾じくと乾いた木片のようで独特のヌメリがある。器形の判るものは無いが、上記の口縁部に貼付帯があるもの(4)は、土器の内面の傾きから判断すると尖底に近いほどの角度をもつとみられる。

これらの土器の一部は“網走式土器”と称されている無文土器に類似する。空知・上川管内に限ってみると深川市納内6丁目付近遺跡(熊谷1989)、旭川市末広7遺跡(瀬川1991)に類例がみられる。編年的には後述する刺突文土器、押型文平底土器との関係で論じられることが多く、前期後半頃に位置づけられる可能性があるものである(大沼1986、熊谷1989)。滝里遺跡群におけるその後の調査では、滝里33遺跡で前期に属する隆帯のあるものや斜行縄文の土器、後期の入江式相当のものに混入している例が報告されている(葛西1993)。また今年度調査した滝里安井遺跡(未報告)ではやや太めの沈線文を施した前期とみられる土器片に混入が認められた。同様に平成8年度調査が行われた滝川市朝日町1遺跡と千歳市キウス5遺跡B地区に出土例がある。いずれも前期前葉の静内中野式、春日町式に併行する時期のものである。滝川市朝日町1遺跡では前期の土器が多数出土し、90%近くの土器片の胎土に滑石が混入していた。粒の大きいものでは径1cm程もあり角張らない丸い結晶のものが多く、色調は殆どが赤褐色を呈するもので、黒褐色を呈するものや“見た目よりも軽いもの”は1割ほどしかない。色調は滝里9遺跡出土の②の土器に類似するという⁽²⁾。千歳市キウス5遺跡ではV層から、滑石のほかに繊維、径3、4mmの小砂利が混入する土器が出土している。色調は黒褐色で、共に出土した同時期のものが明褐色であると比べ対照的である。ただしヌメリが少ない(中田ほか1997)。“色調”“比重の軽さ”“ヌメリの有無”等は単に滑石の混入だけが原因とは考えられず、使用する粘土、製作法等の副次的要因を示唆しているとみられる。現在までのところ、胎土に滑石を混入させる土器片は前期前半の縄文尖底土器の時期の頃からみられ後期前葉までの各時期に存在するようである。類似の資料は芦別周辺をはじめ網走管内、日高管内まで分布するという(長谷山1997)。

2・4・5類土器は刺突文、押型文、押し引文のもので、刺突文、押し引文土器は“シュブノツナイ式”と称される土器に含まれる。これらの土器群は網走式と共に相互に関連づけられ編年の位置が論じられている資料であるが、今回は断片的資料が多いため、前期後半のものとして大きく捉えた。刺突文(2類)には棒状工具で横方向、上から下方向に長めに施文するものと、円形刺突文のものがある。3類は短刻線文のものである。やや長めの刺突文状のもの(図IV-17-24~27)は、2類に含まれるものかもしれない。また深い刻み目で連続の山形文様が施文されたもの(図IV-17-17~21)は押型文による文様を模倣しているかのようである。山形文様の上下の区画の沈線文は押型文の原体の端部の回転圧痕を連想させる。押型文土器(4類)のうち口縁部をやや肥厚させ矢羽状押型文が施されたもの(図IV-17-18-29~34)は、一見すると羽状縄文と見間違ふほどで、文様モチーフから円筒土器上層式との関連性が伺われる。押し引文土器(5類)の原体は、篋状施文具によるものと櫛齒状施文具によるものがある。前者では両端に稜のある幅が2cmに充たない原体を使用している。施文具の形状、施文具端部の稜の形状、器面と工具の施文角度等により独特の文様がつけられている。後者では押し引いた痕跡が明瞭ではなく、これらは刺突文の範疇に含まれるかもしれない。また押型文と押し引文が同一個体に施文される例があり両者には時間的に近接した関係があることがわかる。

V群土器は本遺跡の主体となるもので晩期末葉のママチ3類以降に相当するC類のものが大部分を占め、ごく僅かに類土器がある。器形のわかるものでは深鉢、浅鉢、鉢がある。深鉢では口縁部がほぼ直立するものとやや開き気味のものがみられる。口唇断面は角形、切り出し形を呈し、口唇内側に施文されるものがある。文様は平行沈線文、鋸齒状・蛇行する沈線文、弧線文、変形工字文等の多様な文様で構成され、縄線文、刺突文を組み合わせるもの、縄文のみのものもある。鉢には胴部が「く」の字に張り出す器形のものがみられる。浅鉢は器面に縄文が施文され、口唇部、口縁部内面には刻みや貼り付けがある。また舟形土器と見られる破片も少数ある。

(3) 石器について

定形的石器は非常に少ないが、土器との関係が対応される縄文晩期のものが主体である。剥片石器では石鏃が最も多く、形状の判るものでは無茎のもの(260点)が有茎のもの(154点)を上回る。次いで多いスクレイパーはほとんどが不定形のものである。礫石器は非常に少ないが、石斧、たたき石の類がやや多い。特に目を引くのはスコリア製の矢柄研磨器様の砥石である。掌に納まる位の大きさと幅5~10mm程のV字状、U字状の溝があるもので、未使用のものも多く出土した。滝里10遺跡の土壌(P-7)、富良野市無頭川遺跡(杉浦1996)の土壌から多数の出土例がある。いずれも晩期後葉とみられる墓墳に伴うもので、この時期に特徴的な石器である。また同時期とみられるものにカンラン岩製の大型で厚みのある石斧がある。背面、腹面の一部を除きほぼ全面が敲打により整形されているもので、先端のごく一部のみを研磨し刃部を作出するという顕著な特徴がある。

滝里19遺跡

遺構、遺物数共に稀薄である。大型の台石、礫を伴う土壌が2基検出された。土器はV群に属するものが主体を占めるが小片のため、器形の判るものは無い。一部の破片について胎土の違いで分類した。またI群b類の東銅路IV式に相当するものが少量出土した。滝里4遺跡、滝里11遺跡に次ぎ3例目である。II群土器には滝里9遺跡出土のものと同様の押し型文、押し引文土器が僅かにある。石器の組成は晩期を主体とすることから滝里9遺跡とほぼ同じであるが、石鏃では無茎のもの(68点)と有茎のもの(183点)の比率が逆転している。両遺跡の時間的な差を示すものであろうか、興味深い。また早期の土器に対応されると見られる石鏃が出土している。

(遠藤香澄)

(注) 西脇刈名夫氏の御教授による。

引用・参考文献

- 芦別市編 1994 『新芦別市史』
芦別市 1993 『芦別大図鑑』
阿部三郎 1958 「シュブノツナイ式土器（櫛目文土器）について」『アイヌモシリ』第2巻
伊藤兼平ほか編 1994 『空知の文学』空知地方史研究協議会
岩谷朝吉 1959 「シュブノツナイ式土器の新出土地について」『ウタリ』北海道学芸大学考古学研究会連絡紙第2巻第8号（No. 29）
上野秀一・加藤邦雄・高橋和樹ほか 1976 『T210遺跡』札幌市文化財調査報告書X
氏江敏文・鈴木邦輝ほか 1988 『日進33遺跡』名寄市教育委員会
遠藤香澄 1989 「美沢3遺跡出土の早期の土器にみられる文様について」『美沢川流域の遺跡群Ⅱ』
北海道埋蔵文化財センター調査報告書第58集
遠藤香澄 1991 「湧別町長野遺跡の追加資料」『北海道考古学』第27輯
遠藤香澄・田中哲郎・澤田健 1995 『滝里遺跡群V』北海道埋蔵文化財センター調査報告書第94集
遠藤香澄・田中哲郎・坂本尚史 1996 『滝里遺跡群VI』北海道埋蔵文化財センター調査報告書第98集
大沼忠春 1986 「北海道の押型文土器」『考古学ジャーナル』No. 267
葛西智義ほか 1993 『滝里遺跡群Ⅲ』北海道埋蔵文化財センター調査報告書第80集
上富良野町教育委員会編 1973 『上富良野町の遺跡』
金盛典夫ほか 1981 『須藤遺跡・内藤遺跡発掘調査報告書』斜里町教育委員会
久保 泰・山岸英夫ほか 1983 『白坂』松前町教育委員会
熊谷仁志 1988 『深川市納内3遺跡』北海道埋蔵文化財センター調査報告書第60集
熊谷仁志 1990 「シカの管状骨で施文された縄文土器」『考古学雑誌』第76巻第1号
熊谷仁志 1991 「シュブノツナイ式土器に関する一考察」『北海道考古学』第27輯
熊谷仁志・藤井浩ほか 1996 『ユカンボシC9遺跡』北海道埋蔵文化財センター調査報告書第100集
河野広道 1957 「先史時代編」『網走市史』（上巻）網走市
越田賢一郎・村田 大ほか 1996 『石倉貝塚』北海道埋蔵文化財センター調査報告書第109集
斉藤 傑 1981 『東神楽町沢田の沢遺跡発掘報告』東神楽町教育委員会
斉藤 傑・瀬川加代子 1984 『忠和2遺跡』旭川市教育委員会
斉藤 傑 1985 『永山4遺跡』旭川市教育委員会
北海道開発協会建設調査部編 1986 『滝里ダムふるさと誌』北海道開発局・石狩川開発建設部
佐川俊一・田中哲郎・澤田健 1994 『滝里遺跡群Ⅳ』北海道埋蔵文化財センター調査報告書第85集
佐藤忠雄 1960 『多寄』士別市教育委員会
佐藤忠雄 1966 『幌倉沼の墳墓』東川町教育委員会
佐藤忠雄・佐藤訓敏・佐藤芳子ほか 1986 『相生』音更町教育委員会
佐藤忠雄 1987 『本幸1』中富良野町教育委員会
杉浦重信・工藤義衛 1986 『鳥沼遺跡』富良野市教育委員会
杉浦重信・工藤義衛 1986 『三の山2遺跡』富良野市教育委員会
杉浦重信 1986 『東麓郷1・2遺跡』富良野市教育委員会
杉浦重信編 1986 『富良野市埋蔵文化財保護の手引』（改訂版）富良野市教育委員会
杉浦重信ほか 1988 『無頭川遺跡』富良野市教育委員会

- 杉浦重信 1989 『西達布2遺跡』富良野市教育委員会
- 杉浦重信 1989 『西達布4遺跡』富良野市教育委員会
- 杉浦重信 1991 『西達布9遺跡』富良野市教育委員会
- 杉浦重信 1992 『無頭川遺跡』富良野市教育委員会
- 杉浦重信 1995 『春日町遺跡』富良野市教育委員会
- 杉浦重信 1996 『無頭川遺跡』富良野市教育委員会
- 杉浦重信 1996 『富良野市埋蔵文化財保護の手引』(改訂版) 富良野市教育委員会
- 瀬川拓郎・川内谷修ほか 1988 『錦町2遺跡』旭川市教育委員会
- 瀬川拓郎・川内谷修ほか 1989 『萩ヶ丘遺跡』旭川市教育委員会
- 瀬川拓郎・友田哲弘 1991 『末広7遺跡』旭川市教育委員会
- 仙庭伸久ほか 1994 『N316遺跡』札幌市文化財調査報告書XLV
- 其田良雄 1977 『富良野市鳥沼遺跡』
- 高橋稀一 1968 『鳥沼遺跡の発掘』『緑町遺跡の発掘』『富良野市史第1巻』所収
- 高橋正勝ほか 1981 『元江別遺跡群』江別市教育委員会
- 高橋正勝編 1982 『萩ヶ岡遺跡』江別市教育委員会
- 稲市幸生 1983 『ママチ遺跡』(北海道埋蔵文化財センター調査報告書第9集)
- 友田哲弘 1995 『神居古潭7遺跡』旭川市教育委員会
- 中田裕香ほか 1987 『ママチ遺跡Ⅲ』(北海道埋蔵文化財センター調査報告書第36集)
- 中田裕香ほか 1992 『滝里遺跡群Ⅱ』(北海道埋蔵文化財センター調査報告書第74集)
- 中田裕香ほか 1997 『キウス5遺跡(4)』(北海道埋蔵文化財センター調査報告書第116集)
- 中富良野町編 1967 『中富良野町史』
- 西田 茂ほか 1982 『東山5遺跡』(北海道埋蔵文化財センター調査報告書第4集)
- 西田茂・和泉田毅ほか 1989 『納内6丁目付近遺跡』(北海道埋蔵文化財センター調査報告書第55集)
- 西田 茂・中田裕香 1989 『最近の発掘調査から—1980年代に発掘調査された空知地方の遺跡について—』『空知地方史研究』〈空知の考古学特集〉第23号 空知地方史研究協議会
- 野村崇編 1969 『空知の文化財』第1集(埋蔵文化財編) 空知地方史研究協議会
- 野村 崇・北沢実 1987 『芦別市野花南熊の沢遺跡』芦別市教育委員会
- 野村 崇・本堂寿一・遠藤龍敏 1977 『石狩川中流域の先史遺跡』『空知文化財シリーズ』第6集 空知地方史研究協議会
- 長谷山隆博・畠山英二 1994 『旭2遺跡』芦別市教育委員会
- 長谷山隆博・畠山英二 1996 『上芦別1遺跡』芦別市教育委員会
- 長谷山隆博 1997 『滑石と土器』『北の発掘最前線』132 北海道新聞社。28付(夕刊)
- 北海道開発局・石狩川開発建設部 1983 『滝里ダム建設事業環境影響評価報告書』(資料)
- 藤本 強・宇田川洋・武田 修 1982 『岐阜第二遺跡』常呂町教育委員会
- 皆川洋一ほか 1991 『滝里遺跡群Ⅰ』(北海道埋蔵文化財センター調査報告書第71集)

報告書抄録

ふりがな	たきさといせきぐん ぬべしたきさと いせき 19いせき							
書名	滝里遺跡群Ⅶ 芦別市滝里9遺跡・19遺跡							
副書名	石狩川水系滝里ダム建設事業用地内埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	北海道埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第110集							
編著者名	遠藤香澄・村田 大・愛場和人・影浦 覚・酒井秀治							
編集機関	北海道埋蔵文化財センター							
所在地	〒064 北海道札幌市中央区南26条西11丁目					TEL011-561-3131		
発行年月日	西暦1997年3月25日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コ ー ド 市町村 遺跡番号		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
滝里9	北海道芦別市 滝里町277-8	01216	E-04-12	43度 26分 53秒	142度 18分 13秒	19960508 ～19961028	11,950㎡	ダム建設に伴う事前調査
滝里19	北海道芦別市 滝里町453-4	01216	E-04-67	43度 24分 56秒	142度 20分 7秒	19960508 ～19961028	2,250㎡	ダム建設に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
滝里9	遺物 散布地	縄文時代 前期 中期 後期 晩期	土壌 集石		縄文土器 25,124点 石器等 71,134点 (うちフレイク 68,620点)			
滝里19	遺物 散布地	縄文時代 早期 前期 中期 後期 晩期	土壌 焼土		縄文土器 5,820点 石器等 17,285点 (うちフレイク 16,105点)			

北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第110集

滝里遺跡群 VII

芦別市滝里9遺跡・滝里19遺跡

—石狩川水系滝里ダム建設事業用地内埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成9年3月25日

編集・発行 財団法人 北海道埋蔵文化財センター

〒064 札幌市中央区南26条西11丁目

☎ 011 (561) 3131

印刷 興国印刷株式会社

〒063 札幌市西区西町南13丁目1番40号

☎ 011(661)2221
